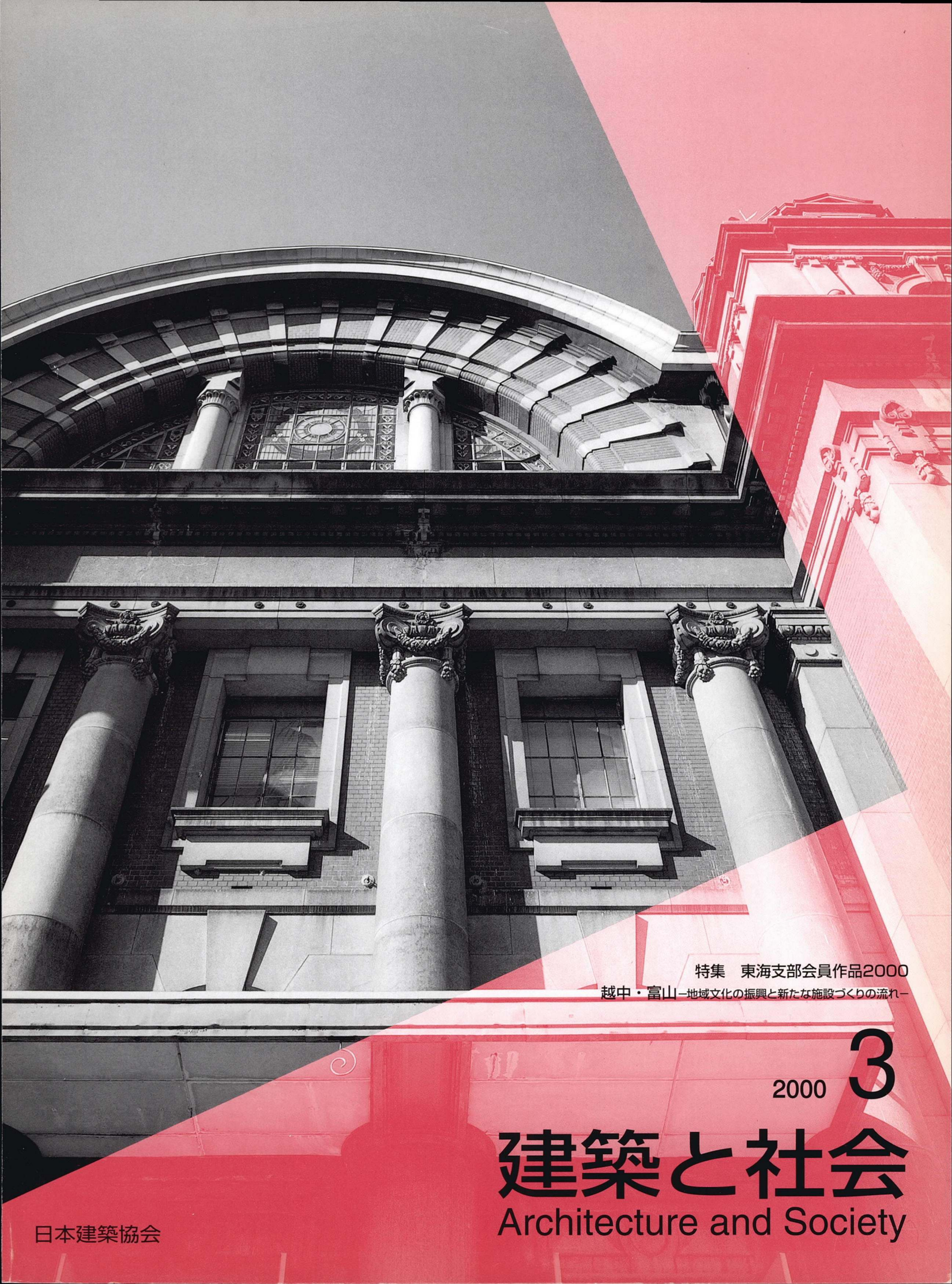


特集　東海支部会員作品2000

越中・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ―

2000 3

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈳日本建築協会事務局（TEL06－6348－0635、FAX06－6348－0634）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

A5判・130頁～160頁　発行:学芸出版社　本体価格¥1,200～¥1,400

1 茶室の話　岡田孝男
3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
5 すまいの語録　茶谷正洋
7 構造計画とやさしい力学1　須賀好富
8 建具の知識と意匠　山片三郎
9 エレベータ・エスカレータ 立体駐車場　木村利雄
10 構造計画とやさしい力学2　須賀好富
13 医院・診療所の計画と設計　池田有隣・船越暉由
14 設計のコンピューター手法　飯塚英雄
16 石垣と石積壁　窪田祐
17 基礎と地盤の手ほどき　中堀和英
18 ショッピングセンターの計画　西脇顕正
19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
21 住宅の家具　光藤俊夫
23 設備技術者のための建築再入門　光安義光
24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
26 建物と地震災害　竹内吉弘・島田耕一
28 建築金物の知識　立野一郎
30 住宅三備心得帳　平田純一
31 住宅のエレクトロニクス　監修　小林郁
32 建築塗装の手引き　児島修二
33 建築式典の実際　若林嘉津雄
34 建築設計と高齢者・身障者　吉田あこ
36 日本壁　山田幸一
37 身近な耐震設計法　前川陽一
38 住宅の照明　監修　大島博
39 建築を志す人びとへ　日本建築協会出版委員会
特装本 火災安全学入門　岡田光正

選書シリーズは、在庫図書を掲載

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ

四六判2色刷り　発行:学芸出版社　本体価格¥1,600～¥2,500

TQCから見た建設業　荒木陸彦
躯体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
現場マンのアイデア発想　合原一夫
建築基準法の実際　矢吹茂郎
ニュー組積建築のすすめ　福島孝之　他
建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
工業化住宅・考 これからのプレハブ住宅　松村秀一
鉄骨工事の現場学　石田満裔
建築紛争の実際　岡本辰義
仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
ゼロ災への道 建設現場の安全管理活動　表　一郎
木造住宅のしくみ 在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
新版 建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
木づくりの常識非常識　上村　武
建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
都市計画法読みこなすコツ　高木任之

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版

B5判　発行:学芸出版社　本体価格¥2,800～¥3,800

構造コストと経済設計　須賀好富
新・建築と設備の接点　宮脇　毅・南部　武
建築設備の健康診断　牧野　茂
外壁構法チェックリスト　飯塚五郎蔵
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
建築・都市・住宅・土木ー情報アクセスブック　菊岡倶也
建築デザインのための構造計画　須賀好富
場所打ち杭の設計と施工　阪口　理
建築と緑　瀧　光夫
入門・建築積算　生島道春
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会

昭和生まれ　関西の建築家50　1987年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念

講演記録集 **話のはなし**　1997年

B6判5分冊　企画:日本建築協会建築クラブ　1セット5,000円（消費税別）

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款

A4判のみ取り扱い

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項
1部¥230（消費税含）送料 実費

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会　1988年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集　1992年

A4判　企画・発行：日本建築協会　定価2,000円

日本建築協会創立80周年記念出版

建築を志す人びとへ

A5判　日本建築協会出版委員会編著　本体価格1,800円

読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』

読者アンケートにご回答下さい

日本建築協会誌「建築と社会」では、新世紀の幕開けとなる2001年初頭より、本誌掲載の建築作品、論文、記事を対象に本会会員の投票による顕彰制度、読者と選ぶ『建築と社会賞』を実施します。

本賞は、「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい、社会性、環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文、記事などを顕彰するものです。なお、その選考方法は、会員参加を考え、会員読者の投票による第一次選考及び、編集委員会で定めた選考委員会での第二次選考を経て決定いたします。

〔選考対象〕

読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』は、2000年1月号～12月号の本誌「建築と社会」の「作品作風頁」「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」に掲載された建築作品及び、「特集頁」「シリーズ頁」「実務の頁」「投稿欄」・その他頁に掲載された論文、記事の中から選考する。

〔選考・スケジュール〕

●第一次選考

「建築と社会」2000年1月号～12月号の各号に読者アンケート用紙(FAX送付用)を掲載し、会員読者から送付いただく。また、2000年12月号には会員読者の投票用ハガキを綴じ込み、双方に準拠し第一次選考を行う。12月号には、選考要項、選考委員名などを掲載する。

●第二次選考

「建築と社会」編集委員会で定めた本賞選考委員会で、第一次選考を通過した作品、論文、記事などを該当者より提出された審査資料に基づいて選考する。

●発表

入賞者は、本人に通知するとともに、「建築と社会」2001年4月号で発表。同年4月に開催される編集委員会総会で表彰予定。

〔表彰内容〕

作品　　1～3点
論文・記事　1～3点

各入選作品・論文・記事に対し、賞状、記念品を贈呈する。

3月号については、下欄の読者アンケート用紙をご利用下さい

切り取り線

「建築と社会」読者アンケート

2000年3月号

「建築と社会」では、読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。今月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXでご送付下さい。
なお、このご意見は、読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』の1次選考に反映されます。

□とくによいと思われた作品

よいと思われた理由

□とくによいと思われた記事

よいと思われた理由

□その他、本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

送付先：
㈱日本建築協会
「建築と社会」

FAX 06-6348-0634

お名前 _____

勤務先 _____　TEL _____

講演会
設計者のための写真術 パートⅡ
吉村行雄
設計に役立つ写真の撮り方

（再掲）

前回の好評により再度、吉村行雄氏をお招きいたします。傑れた建築写真の「なぞ」の一端でも解けたら、こんなうれしいことはありません。多分「わたしも明日からさっそくそのテクニックを……」となることでしょう。多数のご参加をお待ちしております。

（事業委員・酒井重治）

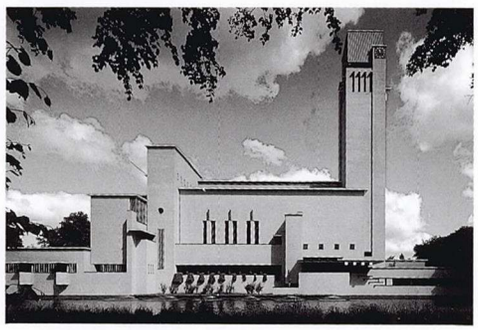
昨年９月の講演では、「写真の見方・撮り方・使い方」について、建築と写真の概論的なお話をさせていただきました。おかげ様で予想外の関心をお寄せいただき、感謝しております。

今回はパートⅡとして、最も反響が多く寄せられた「写真の撮り方」にポイントを絞り、設計者の皆さんに役に立つ撮影のヒント・ノウハウをお話したいと思います。国内外を旅行し、名建築に出会ったとき、その感動をどう撮るか、アングルは、必要な機材は、フィルムは、露出は、等々……。

また、設計資料にするための撮影のポイントや、プレゼンテーションに使える写真を普段から撮るための心がけなど、設計ツールとしての写真の効果的な活用法をお話したいと思います。

実例として、ヨーロッパの名建築や都市などのスライドをご覧いただく予定です。

（吉村行雄）





吉村行雄（よしむら　ゆきお）
1946年大阪市生まれ
1971　武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
　　竹中工務店入社（本店設計部）
現在　総本店広報課長
　　一級建築士、建築写真家
受賞
1968　新建築住宅設計競技二位
1994　全国のカタログポスター展で写真集が通産省生活産業局長賞
写真活動
1971年より設計業務に携わる傍ら、建築写真撮影を行う。1984年より総本店広報のPR誌・社報等にて建築写真活動。国内各地で個展・グループ展、1998年にニューヨークで写真展を開催。

日　時　2000年 3 月29日(水)
　　18:30―20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　吉村行雄
　　一級建築士、建築写真家
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般1,500円＊税込
申　込　３月22日(水)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　①催し名
　　：講演会･設計者のための写真術
　②氏名
　③個人会員、団体会員、一般の別
　④職場･学校名
　⑤参加証郵送先
　⑥連絡先電話番号
　をお知らせ願います。
　＊参加証を３月23日(木)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会情報小委員会
　　担当主査：酒井重治

出版委員会企画
第22回<プロのノウハウ>講座
環境と共生する建築 25のキーワード

（再掲）



大西正宜氏（おおにし　まさのり）
1981年　大阪大学工学部建築工学科卒業
現　在　大阪府立今宮工業高等学校
　　定時制課程教諭
●主な著書
『初めての建築環境』
『一級建築士　合格ゼミ100ポイント』
（以上共著、学芸出版社）

地球環境問題に関する何らかの記事が連日業界新聞に報道されています。

一口に地球環境と言ってもその扱う題材はダイオキシンや産業廃棄物等産業活動の副産物にかかわる話題から、クリーンエネルギーのようなエネルギー問題に至るまで大変幅広い裾野を持ってきていますが、いずれを採り上げてもわれわれの生活や健康と結びついている、あるいは結びつくであろうという点では共通しています。

産業界では環境管理の国際規格ISO14001の認証取得も急速に進み、われわれ建設業も例外ではなくなってきています。建築は人が暮らす環境を決定してしまう大きな影響力を持っており、中に住む人々はもちろんのこと、建築物が周辺に与える影響も大きいものがあります。なかでも、建物建設中に排出される廃棄物、建物使用期間中に消費するエネルギーや排出するCO_2は代表的な環境負荷であり、環境負荷を低減させる活動は全産業の中でも最も効果が大きいものと言えましょう。いかに省エネを図り、建物の長寿命化を図るか等という環境負荷問題の帰するところは、建築計画、構造、設備、施工、改修、解体等建築物のライフサイクル全体に及ぶ話であることに気が付きます。

今回発刊された「環境と共生する建築25のキーワード」はそういった幅広い問題を収集し、それぞれについてどこに着眼すれば良いかを簡潔に指摘しています。入門書として活用できるのはもちろんのこと、具体的な問題解決に直面しても、その糸口を見つけるガイドブックとして十分活用できる絶好の書物です。この機会にぜひ講習会にご参加いただき、限られた資源の中でどのような技術を強くしていったら良いのか、今出来ることは何なのか、建築にかかわる環境問題を共に考えていく糸口を掴んでいただきたいと願っています。　　出版委員会委員　中川　徹

日　時　2000年 3 月24日(金)
　　18:00―20:00
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　大西正宜／大阪府立今宮工業高等学校定時制課程教諭
定　員　30人
受講料　会員 1,800円、一般 2,000円
　　（消費税を含む）
テキスト　『環境と共生する建築25のキーワード』
　　テキスト代　特価 2,400円
　　（消費税を含む）
　　＊当日、持参される方は不要。
申　込　本会事業課へハガキ、FAX、電話でお願いします。
　①催し名（「プロのノウハウ講座22」）
　②氏名
　③個人･団体会員、一般の別
　④職場名･学校名
　⑤受講票の送付先・電話番号
　をお知らせ下さい。
　先着順で受講票をお送りします。
申込先　〒530-0001
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　㈳日本建築協会事業課
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634

建築と社会 3 2000
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第81集／通巻936号

今月の表紙

表紙デザイン／笹村欽也
建築写真／河合止揚

●大阪市中央公会堂
設計／辰野片岡建築事務所
施工／清水組
竣工／1918年　大阪市北区中之島

■正面に立ちこの建物を見上げると、川を隔てた高層建築群も消え去り、大阪の空だけを背景に、建設当初と同じ姿が浮かび上がる。この建物にまつわるドラマの主人公たちが見た光景が、時を超え眼前に広がる。建築と人間と時間のすべてが語りかけてくる迫力が、この建物にはあるように思える。
創建当時への復元改修工事が進められている。完成が待ち遠しい。（笹村）

■特集予告
4月号／こころを癒す環境デザイン
5月号／測る
6月号／スケルトン&インフィル

編集委員会（平成11年度）

■副会長
金多　潔
薬袋　公明
■編集理事
荒巻　恭士
井上　豊
小島　雄
佐野　吉彦
竹中　統一
立野　一郎
真塚　達夫
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊縫　憲幸
梅村　宏尚
小浦　久子
※鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
松川　敏正
松田奈緒子
横関　真紀
吉村　英祐
★建築計画系
上杉　秀隆
江副　敏史
大村　昌聡
※荻窪　伸彦
菅野　忠司
笹村　欽也
佐藤不二男
塚本　史郎
刃金　国雄
服部　光宏
山本　匡
★インテリア・住宅系
※石川　佳子
加藤　力
北浦かほる
小梶　吉隆
小島　保人
中田　誠
中村　孝之
中村　雅人
西田　和子
畑　康之
ベリー史子
水谷　美香
□構造分科会
岩永　速典
※大氏　正嗣
金田　興熙
河野　隆史
木下　隆嗣
岸本　一蔵
佐治　明志
園田　隆一
田中　剛
田辺　太一
陶器　浩一
松村　和夫

□設備分科会
梶井　宏修
河津　隆之
近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
野口　太郎
堀内　一夫
桝井　貴廣
村上幸三郎
※谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
十倉　毅
植田　実
※小椎八重猛
太刀川丈爾
能美　敏男
野口　幸忠
福井　茂和
□法令分科会
池口　和雄
亀谷　周二
黒木　省二
椎名　辰之
田村　俊郎
※浜野　幸雄
■作品作風小委員会
赤木　隆
朝倉　一晃
川上比奈子
倉渕奈千子
杉本　浩
寺岡　宏治
中村　文紀
藤城　義丈
△前川　治彦
牧野　雅一
増田　敦彦
増田　俊哉
山田　俊紀
吉田　健二
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
高岡　伸一
髙田　光雄
高橋　麗子
△塚口　明洋
辻川ひとみ
土田　伸二
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
△岩井　武夫
小幡　義明
加納伸太郎
家森　康彰
勝　一弘
小山　昭
斉藤　治久
武田　修示
平松　勉
前田　衛
渡邊　浩文

◎委員長 △副委員長 ※幹事

印刷　2000年2月25日
発行　2000年3月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データネット株式会社
定価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集● **東海支部会員作品2000**

文化フォーラム春日井／名古屋空港新国際線旅客ターミナルビル／ふれあいドーム岡崎／三重県立こころの医療センター／志段味ヒューマンサイエンスパーク先端技術連携リサーチセンター／愛知県赤十字血液センター／瀬戸市立品野台小学校／嬉野町生涯学習センター／医療法人豊田会老人保健施設　ハビリス一ツ木／高齢者福祉施設　カリヨンの郷／愛知労済新会館"アビタン"／ニッセイ岐阜ビル／ファイザー製薬中央研究所第4研究棟／三菱倉庫名古屋ダイヤビルディング3号館／朝日新聞西春工場／ホリディ・スクエアアミューズメントビル／杉風荘
Tokai Sketch Book　52

特集● **越中・富山—地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ**

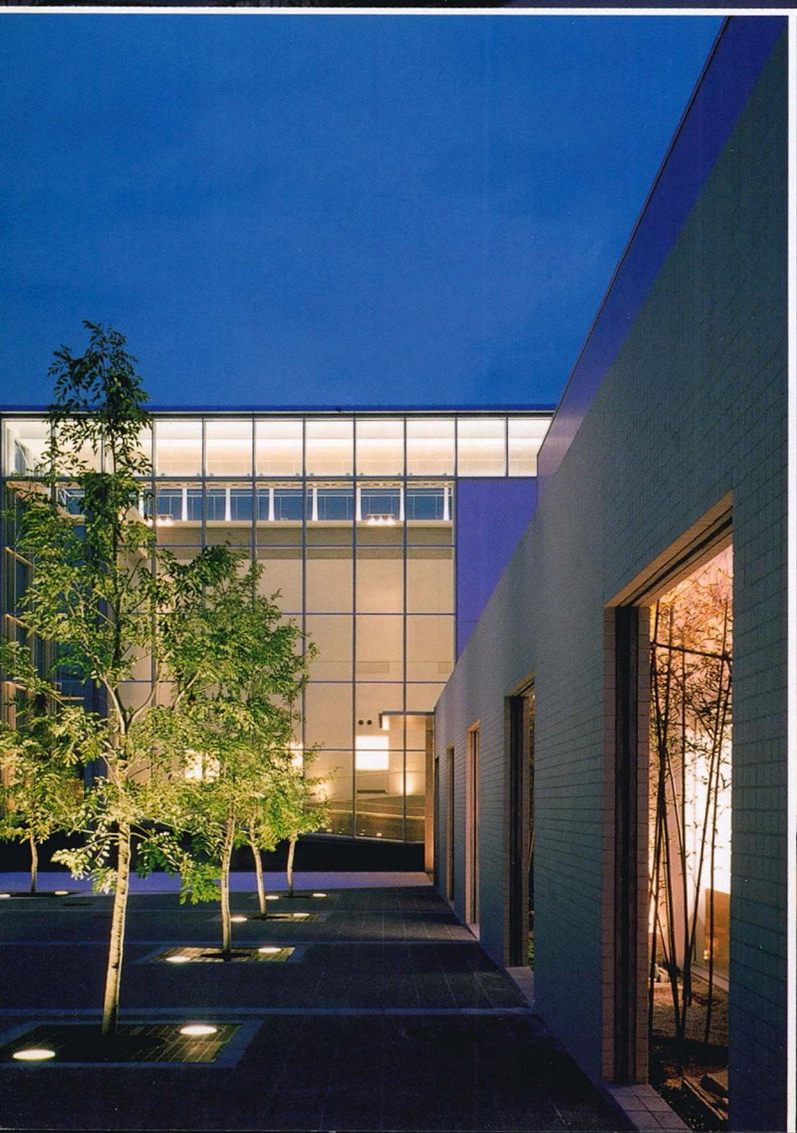
[序文] 富山の伝統的な生活文化●奥野達夫　54
[地域文化振興のための施設づくり] 受け継がれるものと新しい施設づくりの流れ●柏樹正樹　58
小杉町文化ホール「ラポール」●寺岡伸清　60
氷見市海浜植物園●船場健治　62
富山市のまちづくり●佐野仁郎　63
[施設づくりと海外の建築家] まれびと—外国人建築家—がもたらしたもの●坂林根則　64
協力設計者から見た海外建築家●松元親司　66
[施設利用と地域文化・経済の発展] 地域の文化の発展向上に—大島町絵本館●絵本館エンジェルス会員　68
鱒すし「源」●北野俊二　69
[地域の作品紹介と施設の運営・管理] 新湊市博物館●内井昭蔵　70
変化と開放感のある、個性派博物館—新湊市博物館●竹内伸一　72
季節観光から通年観光へ—ほたるいかミュージアム●小森　忠　73
ほたるいかミュージアム●トム・ヘネガン　74
大沢野町健康福祉センター●ワークステーション　76
健康づくりの拠点として—大沢野町健康福祉センター●山本貫英　78
人と出会う街、チューリップと出会う街—チューリップ四季彩館●野村　猛　79
チューリップ四季彩館●粟生　明　80
大島町絵本館＋ふれあいパーク●長谷川逸子　82
感じる、つくる、伝える—大島町絵本館●岡本昭彦　84

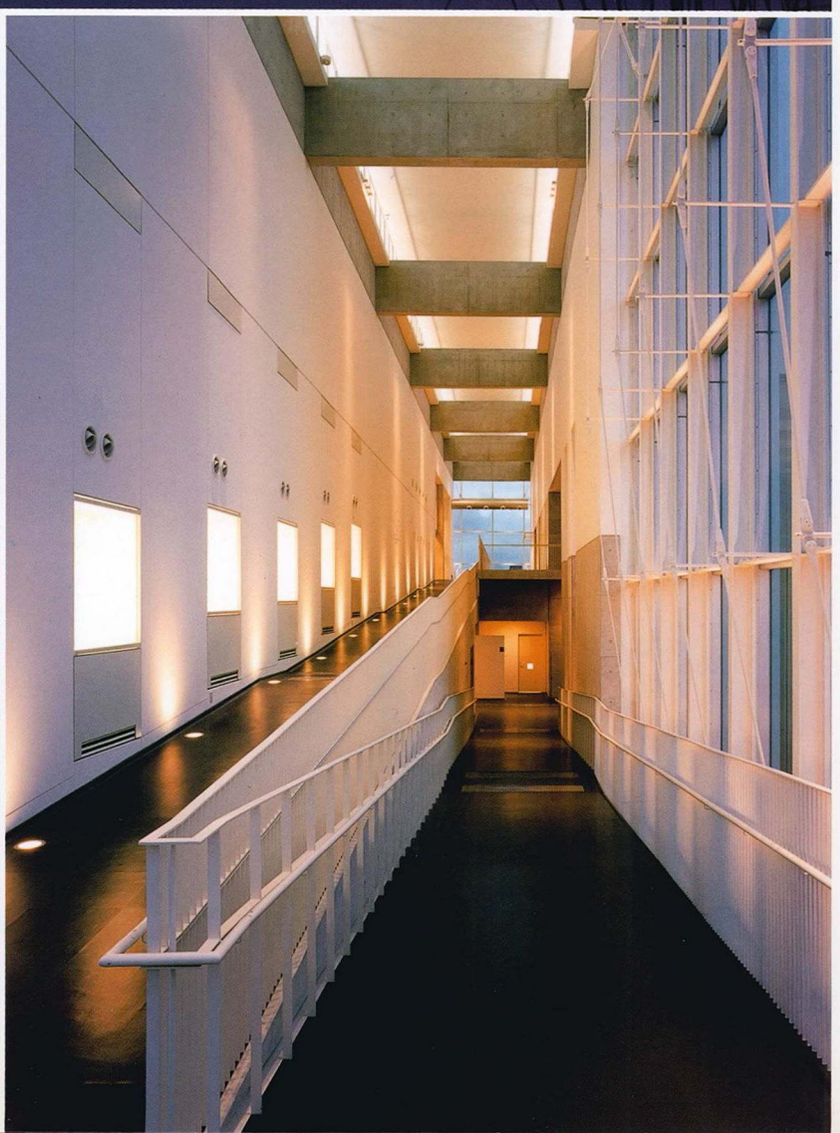
会告　読者と選ぶ第1回「建築と社会賞」読者アンケートにご回答下さい.設計者のための写真術パートⅡ吉村行雄—設計に役立つ写真の撮り方.第22回＜プロのノウハウ講座＞環境と共生する建築25のキーワード.　1

作品作風
明石市立西部市民会館・西部図書館　4
八尾市立屋内プール　6
フジコー本社工場　8
あべちか　10

gallery　佛眼寺鐘楼堂（栗林賢次）●倉渕奈千子　12
建築の眼　二千年の初仕事●宮崎興二　料理とは●中山詳三　着メロ空間●遠藤秀平　表象α●桑田和明　14
being　総括　We are being●加藤俊明・北村恭一・本多友常　86
W　座談会—福祉関係者に聞く（施設編）●塚口明洋　88
Book Station　短評4題●稲木裕子・大谷由紀子・塚口明洋　90
法令コーナー　神戸市近隣住環境計画制度●竹田衛吾　91
構造の頁　建築からみた地盤●本田周二　92
設備の頁　河川水を利用した地域冷暖房—OAPタワーズでの実績—●堀　俊博　93
基礎講座A　楽しいアイデアを出そう●山田　修　94
基礎講座B　環境問題とこれからの消火設備●由上雅章　95
REPORT　ニウヨークの街を引き廻し●福田泰造　97
information　ル・コルビュジエ　ペサックの住宅群:標準／反復／量産.宮島達男展「MEGA　DEATH: shout! shout! count!」.友田多恵子「紙の軌跡」展〜大阪府立現代美術センター〜.ロボコン・スーパー中学校.吹田市で中間検査制度実施.SDコース5月開講.JDFフォーラム「21世紀のデザインを考える」.シンポジウム「住宅における生活スケジュールとエネルギー消費」.セミナー「木と住まい〜木が育む文化の魅力〜」.展覧会とフォーラム〜東京デザインセンター〜.耐震に関する公開講演会.西日本トータルリビングショー.ワールドアートブックバザール.河合止揚写真展.　99
月間の動き　平成11年12月分　102







作品

設計監理■
明石市建築部営繕課・東畑建築事務所

施工■
日本国土開発・大昌建設共同企業体

明石市立西部市民会館 西部図書館

魚住は、明石市の西部に位置し、播磨地方特有のため池が点在する田園風景をかろうじて留めている地域である。本施設は、市西部地域の文化拠点となるべく500席の劇場型多演目ホールと開架5万冊の図書館機能を有する複合文化施設として計画された。建設用地は、ため池のひとつ「皿池」の一部を埋め立てて確保され、周辺は、既にため池を利用した親水公園が整備されており、その公園との調和が設計条件となっていた。

敷地の性格を決定づけているため池は、四季折々に表情をかえる豊かな田園風景の一部をなしている。一方で、そこに住み農業を営んでいる人々にとっては、生活の糧に直結した厳しい管理下の環境である。そのような強化された自然に対して、溶け込むことよりもむしろ屹然とすることが重要であると考えた。

計画は、スクエアなエントランスロビー及びリニアなガラスのスロープを中心として、図書館ゾーンとホールゾーンに分かれている。ホールホワイエを持ち上げ、その下に車路を横断させることで来訪者の歩車分離を実現した。開架閲覧室上部にプロムナードを設け、ホールのエピローグ空間として機能させるとともに、アプローチプラザからロビー、スロープそしてプロムナードへと図書館を取り巻く立体的な回遊性を創り出した。

エントランスロビーではその天蓋全面をストライプ状のトップライトとし、光のコントラストを強調し、それに続くスロープ部は全長に渡りハイサイドライトを設け、柔らかな光の小径となることを意図した。光と影の織りなす綾によって空間が心地よい身体性を獲得することを目論んでいる。さらにそれらは様々に異なる使用の自律性を高めながら、有機的に繋ぎ止める機能をもつ。

（中村文紀／東畑建築事務所）



1階平面図　1：1600

所 在 地 ――明石市魚住町中尾字皿池702-3
敷地面積 ――7,529.01㎡
建築面積 ――3,176.78㎡
延床面積 ――4,330.89㎡
構造規模 ――RC（一部S・SRC）、3F
工　　期 ――1997年12月～1999年8月
最 寄 駅 ――JR神戸線・魚住駅
撮　　影 ――藤　義則（エスエス大阪）

左頁上：中尾親水公園よりのぞむ、下左側：アプローチ、下右側：スロープ
右頁上から親水プロムナード／エントランスロビー／ホール内部
下左側：図書館内部、下右側：図書館開口部





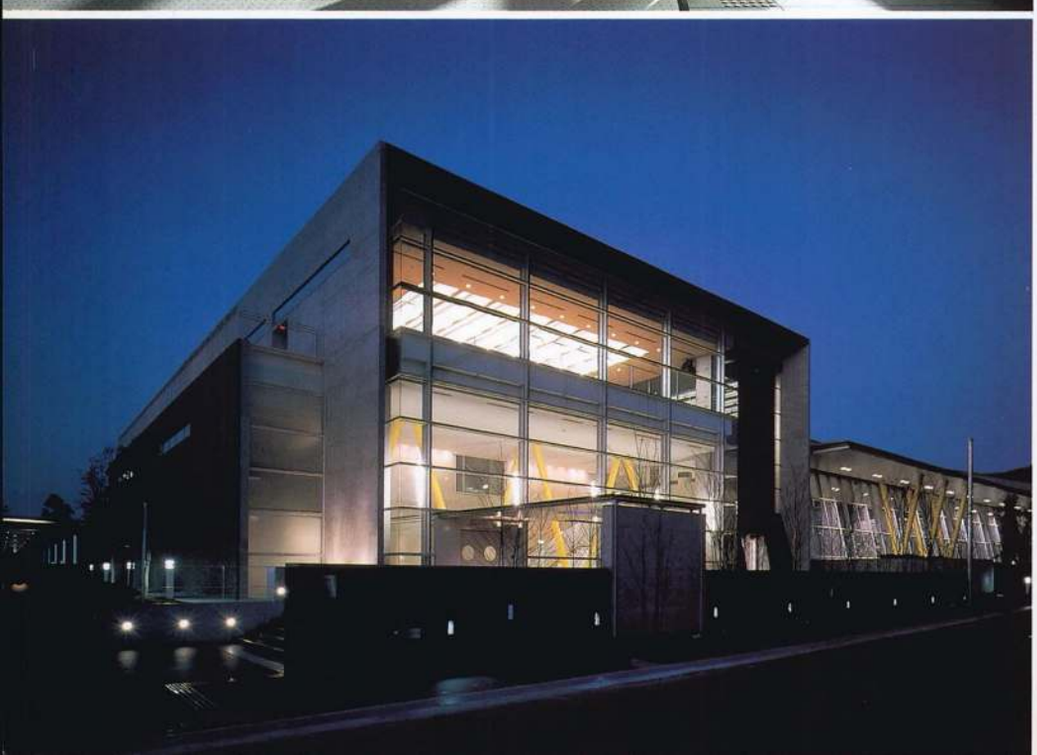












作品
作風

設計監理■
八尾市建築総務課
昭和設計

施工■
錢高・辻本共同企業体

八尾市立屋内プール

本施設は、大阪市環境事業局八尾工場東側用地に、焼却場から発生する余熱の有効利用と、地域住民のアメニティ向上を図るため、温水プールを中心とする施設として建設された。

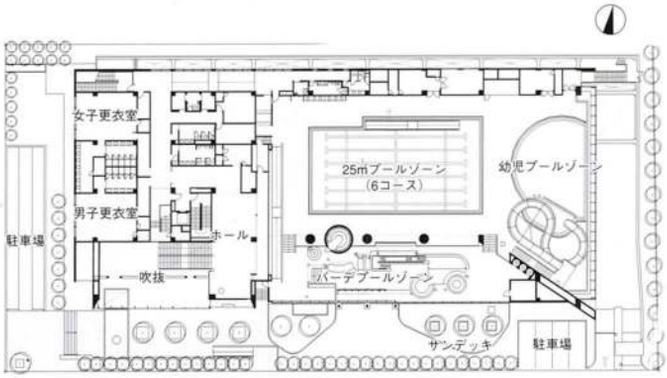
施設内容としては、全年齢層の市民が年間を通して利用できるオールエイジ・オールシーズンの考えをもとに、余熱蒸気を最大限に活用した屋内温水型の25mプール、幼児プール（スライダー付）、各種健康浴を目的としたバーデプールを設置し、トレーニング室、健康増進室のフィットネス施設を併設することで、総合的な健康増進スポーツ施設としている。

また、基本的な施設構成を、内部／外部とも人々のアクティビティが感じ取れる配置・造形をおこない、施設内の活気を誘導因子として焼却場周辺の地域の活性化も推進するような計画を図っている。

＜内部＞―施設見学者のためのギャラリーを含む2階ホールを中心として、1階のエントランスホール、2階の各種プールゾーン、3階のフィットネスゾーン、休憩ゾーンを配置し、各々のゾーンから互いに視線の交錯する場を形成して、人々の活動する雰囲気・エネルギーが感じ取れるよう配慮している。

＜外部＞―外部空間においても、前面道路に面する南面にサンデッキや各ゾーンの開口部を大きくとるガラス面を設け、施設のアクティビティが地域に開かれることによって、地域環境を向上していこうと意図している。

（小林広英・中井貴之／昭和設計）



2階平面図　1：800

所 在 地 ―― 大阪府八尾市上尾町7丁目1番17
敷地面積 ――4,708.89㎡
建築面積 ――2,926.60㎡
延床面積 ――6,270.56㎡
構造規模 ――RC（一部S・SRC）、3F、B1F
工　　期 ――1998年3月～1999年10月
最 寄 駅 ―― 近鉄大阪線・河内山本駅
撮　　影 ――松村芳治

左頁左上からエントランス広場／1階エントランスホール／外観（南西より見る）
左頁右上から2階ホール／2階廊下、右頁上から25mプール・幼児プール／バーデプール／3階トレーニング室／外観（南東より見る）







フジコー


フジコー







作品風

設計監理■
WAW・渡部建築事務所

施工■
（建築工事）清水建設　神戸支店
（機械設備）朝日工業社
（電気設備）きんでん

フジコー本社工場

当計画は伊丹市空港線拡幅に伴う土地収用を機に、フジコー伊丹工場の南工場及び北工場をスクラップアンドビルトによって理想的な再配置を行ったものである。

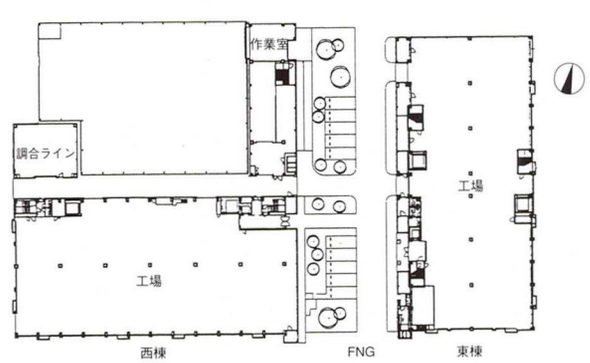
この工場はフェルトという永い歴史を持つ素材を最新のハイテク技術により、生活・文化・環境などあらゆる分野を目指して開発し、生産を行っている。特にフジコーは「地球にやさしく」というコンセプトを未来に向けての企業理念としており、この企業イメージをどのように市街と共生させていくかを考えながら計画した。

既存南工場の構内道路の延長線上に主要な軸線を設け、新旧工場の歴史を継承すると共に、この軸線上に幅20mのFNG（フジコーノースガーデンと呼称）を整備し、これを中心に北工場の全体配置を行った。１・２階に工場部門を、３階に本社・厚生部門を配し階別によるゾーニングとした。

また、伊丹市景観条例にならって「白い酒蔵」のアイデンティティにより、軽快な金属と白い壁のマスで建物全体を表現し、このモチーフの繰り返しで工場と本社という異質な機能を一体化すると共に、住宅地域化が進む周辺環境に合わせたスケールとリズムで町並みとの融合を試みた。

さらに、FNGの環境づくりの手法として、伊丹の特徴的な景観である「西国街道」に見られる町並み（厨子）を応用し、圧迫感を和らげると共に市木（楠）と市花（ツツジ）による緑化に努め工場全体の環境を整えた。

（渡部慶一／WAW・渡部建築事務所）



１階平面図　１：1500

所 在 地 ——兵庫県伊丹市行基町1-5
敷地面積 ——　8,314.00㎡
建築面積 ——　4,851.36㎡（既存棟1,152.64㎡含む）
延床面積 ——11,110.41㎡
構造規模 ——S、3F、B1F
工　　期 ——1997年６月～1999年９月
最 寄 駅 ——阪急電鉄伊丹線・伊丹駅
撮　　影 ——花城辰男（写トリエ・時空）

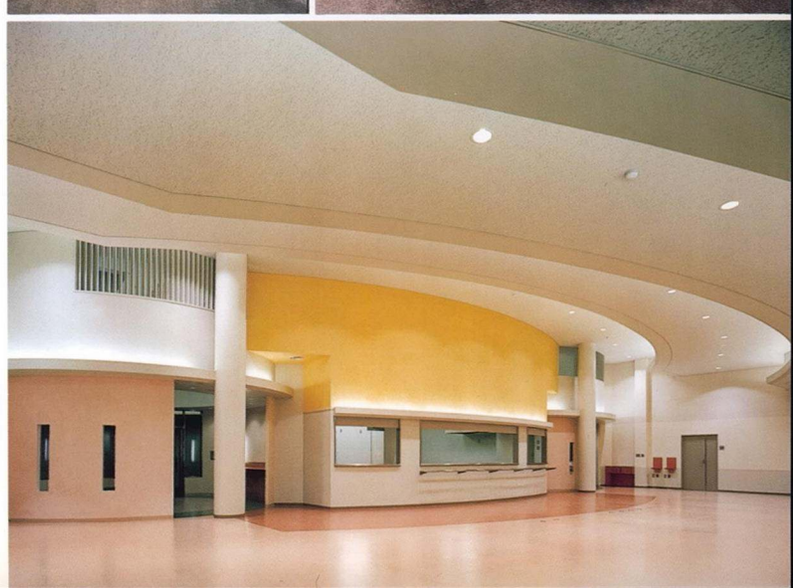
左頁上：全景、下左側：南側外観／メインエントランス
下右側：正面ゲート／FNG（フジコーノースガーデン）周り
右頁上から西棟1階工場／役員会議室
下左側：役員ロビー、下右側：役員室、右頁下：食堂











葉巻型、演出天井



パールガーデン、噴水が不思議な動きをする

作品風

設計監理■
大建設計

施工■
奥村組

あべちか

あべちかは昭和43年に開業し、当時は大変な賑わいを見せていた。以来30年という年月が経ち、デザインの陳腐化や設備能力の限界という問題に直面し、天王寺地区の大型商業施設の相次ぐ開業などとも重なり、今回の全面改装が計画された。

当地下街は、スタンダードとなっているモール型地下街と異なり、不規則な大きさの通路に店舗が複雑に貼りついた特殊な平面形をもっており、作業も夜間が主体となるため、大変神経を使う工事となった。

今回の改装テーマは、幾度となく思案された結果、来街者に対し潤いや安らぎを素直に与えられるものとして“自然”（光・水・緑）が選定された。テーマとしてはありがちなものになったが、シンプルな語感とは逆に、地下空間においては全てを人工的につくり出す必要があり、どの程度具体性をだすべきかという点で難しいテーマとなった。

工事はA·Bの２工区に分けられ、それぞれに改装の目玉となる“しかけ”が施されている。A工区では天井面約35mにわたり青空を描写し、間接調光により朝から夕焼け、それに夜空では光ファイバー約5,500本を使い星座や流れ星を演出するなど、一日の空の変化を表情豊かにうつしだしている。B工区では広場（通路）のほぼ中央に円形の水盤をつくり、不思議な動きをする演出噴水を中心に、周囲にはハーブなどの植物をふんだんに植え、欧風の小庭をイメージさせる空間をつくりだしている。また、植物には地上からの光ファイバーシステムで取込んだ自然光を与え、美しい状態が保てるようになっている。これらを取り巻く通路全体の仕上は、白やベージュを基調としたアースマテリアルを使用し、明るく清潔な印象を与えている。

それぞれのテーマはかなりの具体性をもって完成し、結果として地下街で青空や緑を楽しめるという単純な発想がうけ、グランドオープン以来、来街者も順調に増えている。　（中島信一／大建設計）



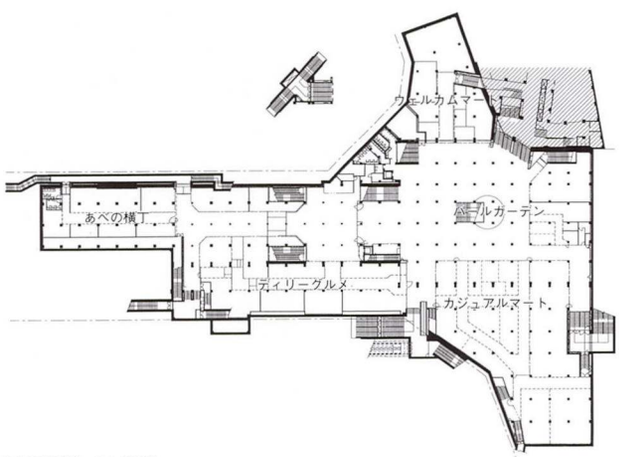
間接照明と光ファイバーによる星空の演出



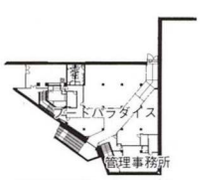
北側広場



通路中央部、円型天井



B1F平面図　1：2000



B2F平面図　1：2000

所在地 ——大阪市天王寺区堀越町アベノ地下街
延床面積 ——9,141.00㎡
構造規模 ——SRC、1F、B2F
工　期 ——1998年10月～1999年11月
最寄駅 ——地下鉄谷町線・天王寺駅
撮　影 ——加藤文彦（伸和）

gallery

佛眼寺鐘楼堂

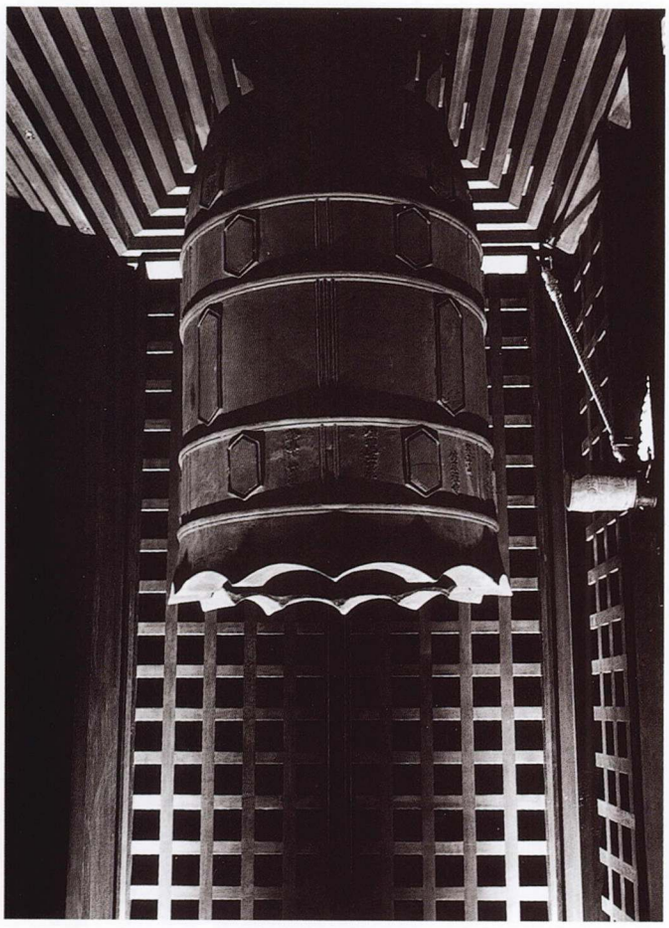
設計
栗林賢次

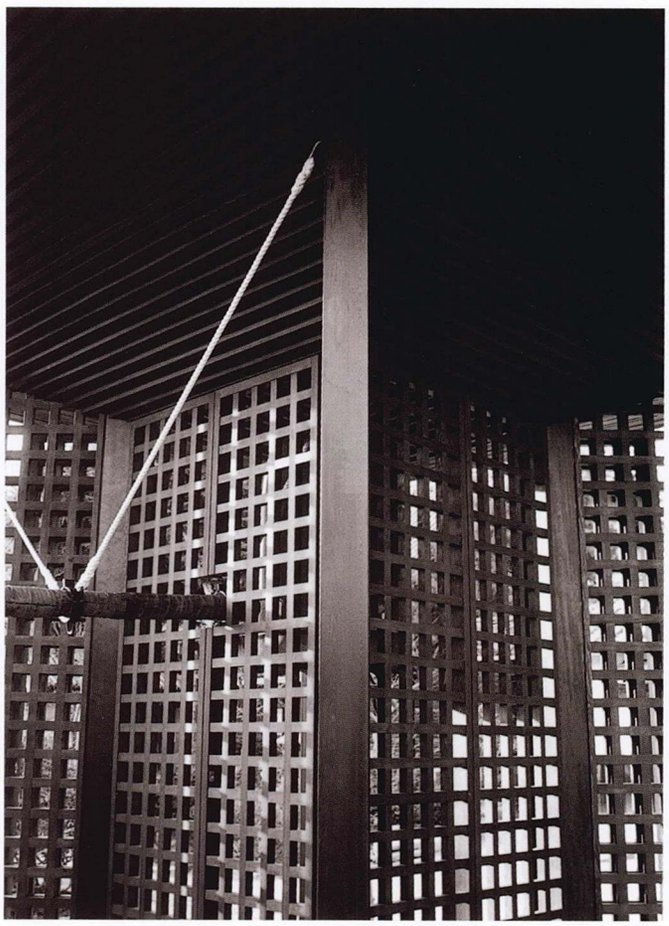
江戸時代より親しまれてきた先代の鐘楼堂は阪神大震災でダメージを受け、その３年後、倒壊してしまった。
しかし、その建替えにはコスト、耐震性、梵鐘（豊中市指定有形文化財）の防犯と鑑賞面の両立、耐久性とメンテナンスの考慮、そして何より伝統的仏閣や周辺との調和等、現代的ともいえる問題が山積みであった。四次元立方体を基にした骨格と格子の出会いはこのような諸問題を解決し、200年来根付いた音の風景を継承しながら、新しい音の構築体としての存在を可能にしている。

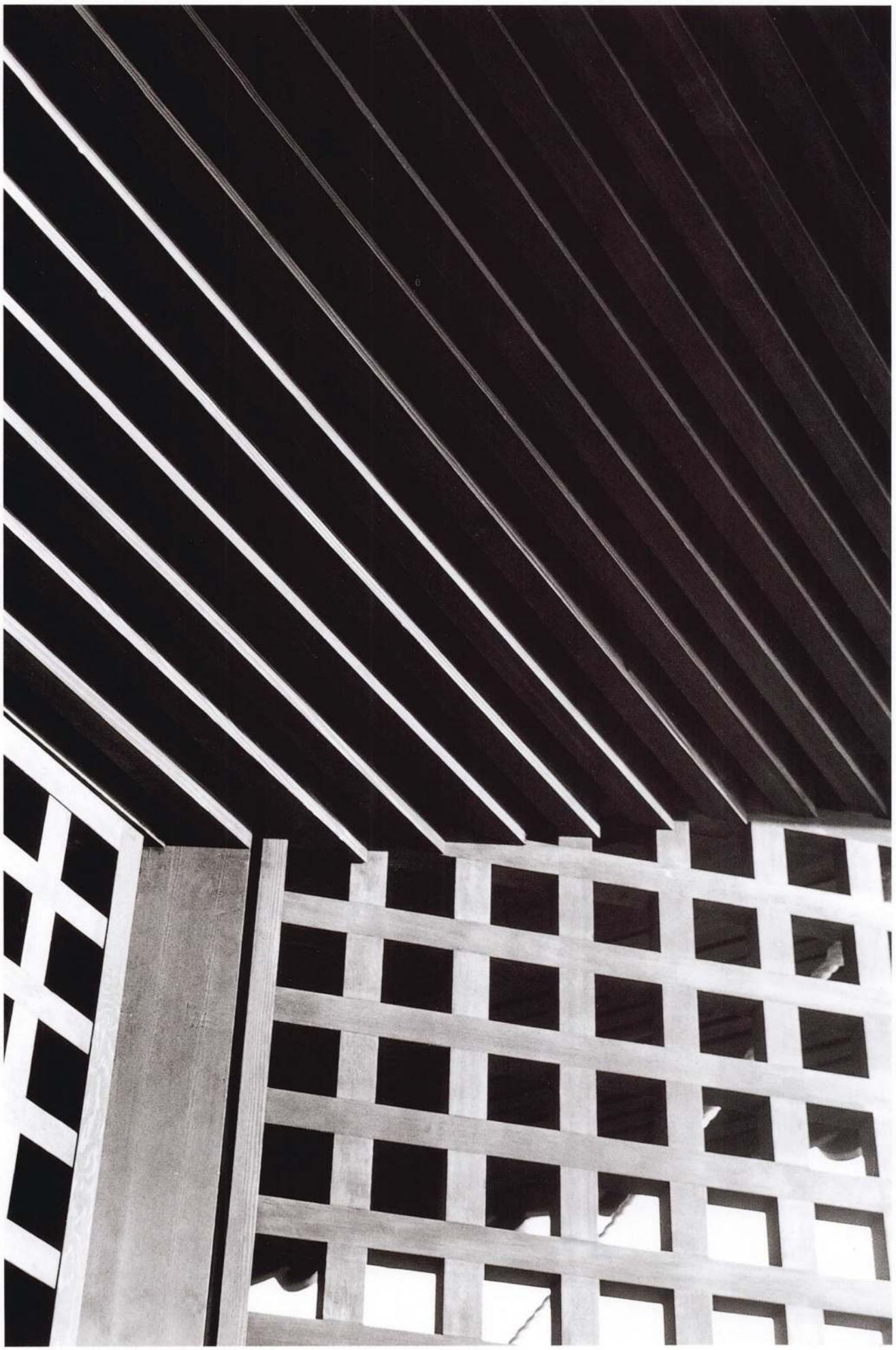
栗林賢次（くりばやし けんじ）
1960　長崎生まれ
1984　福岡大学工学部建築学科卒業
1986　ハマノデザイン
1992　栗林賢次建築研究所設立

企画編集—倉渕奈千子（作品作風小委員会）









二千年の初仕事

宮崎　興二

筆者は今、京都東福寺の裏山の、出店や広告や立看板など一切ない歴史的風土特別保存地区に住んでいる。ゴミゴミした町中から離れたここなら不道徳な行いも少なく風流な景色も楽しめるだろうと期待して、数年前引っ越してきたのである。

そして東福寺の境内を通勤道にしているうちに変なことに気づいた。あれするな、これするな、という看板や張紙が、人影もない中、これでもかこれでもかと、5、6歩ごとに出てくる。それを見ながら、なんという不粋な寺め、と腹が立ち、せめてわが家のまわりでは張紙など許すまい、と心に決めた。ところが、やがて、自宅前に紙屑や空缶や犬のフンが転がり始め、不法駐車が続き、ついには牛乳や新聞が抜取られだした。やむを得ず東福寺のまねをして、あれするな、これするな、と張紙を出した。すると事件はなくなる。が張紙をはずすとまたやられる。

そんな中、二千年が近づき、さすがにそれに圧倒されたか、年末には張紙を出すのも忘れるほど事件はなくなった。もう大丈夫とばかり張紙の代わりにシメ縄を張り、心を新たにして迎えた一月一日の朝一番、楽しみの二千年記念の朝刊を取り出そうとして、新聞受けの中に手を入れてびっくりした。何もなかった。

このときほど、陰では何でもする日本人に生まれたことを悔やんだことはない。すぐ、シメ縄の上に、新聞取るなと大きく書いた張紙を貼ったのが、筆者の二千年の最初の仕事であった。

京都大学人間・環境学研究科教授

レシピからセンスへ

中山　詳三

「お、これは作れそうや」新聞の家庭欄で美味しそうな料理を見つけると、早速挑戦してみる。「今日のはどうや？」『イケテル！』『ほんまにおいしい！』

しかし最初からこうは行かなかった。レシピに忠実に、肉300g・砂糖大さじ1・醤油小さじ2とか、材料も調味料も計っていた。困ったのは重さでも量でもない表示である。玉ネギ2個・塩少々の類である。「何で○○gと書いてくれへんのや！」「少々ってどれだけ？」　また、材料の無駄使いもよくやった。「アサツキのみじん切りを散らして…。でもこの残りどうしよう、勿体ないけど捨てよか。代わりにネギのみじん切り晒したんでもよかったんかな」　そしてレシピに忠実すぎる失敗も。「もうよさそうやけどレシピの時間通りもうちょっと煮込もか」やはり結果は散々。こうして失敗を重ねるうちに少しずつ分かってきた。料理とは詰まるところ創意工夫とセンスなんだと。始めは少し控え目に味付けさえすれば、後は自分の眼と舌があるではないか。センスの不足は努力でカバーして腕を磨き、いつかはあり合わせの材料で魅力ある献立を組み立て、料理できるようになることを目指せるようになった。

女性の方がボケにくいのはこうした創意工夫を毎日重ねているからかもしれないと、おまけもチョッピリ期待しながら…

京都府土木建築部営繕課長

着メロ空間

遠藤　秀平

予告なしにかかってくるのが電話の特徴であるが、最近いたる所で耳にする着メロが気になっている。アニメから最新のヒット曲まで様々であるが、なぜか不思議な感覚に捕らわれてしまう。その空間に質的な変化が起きているようで気になってしまうのは建築に関わるものの野次馬根性的な習性か。

その空間は個人と非個人が融合し、なおかつその内面が透けてしまっているような様を示している。電話は一対一の個人的なものに変わりないのであるが、複数多数の共有空間においては周知された着信音の告知には安心感さえ覚える。着メロは既知の曲ではあるが個人的な好みにより選択されたことが明らかである。また最近ではオリジナルの作曲も可能であるらしいが、その好みの影響は左遷をもひきおこすらしい？

共有空間で私的な内面を見せられることに抵抗感のあった日本人の意識もある種の転換期に来ているのかも知れない。会話形式の変化が空間意識をどのように変えていくのかインターネットの威力と共に気になるケイタイである。

遠藤秀平建築研究所

表象α

桑田　和明

セカンドハウスの実態調査の名目で、2人の仲間と小浜市の山手「門前」という村を訪ねる機会があった。朝まだきの京都東山を北に抜け、大原をすぎて滋賀県花折峠を越えると、比叡連峰西山麓367号線が、朽木村まで渓流沿いをなだらかに下っている。やがてぶつかる若狭街道を更に北進して福井県に入ったところに、「熊川」という歴史保存の集落があった。街並みは、伝統的な佇まいを残しながらも現在の生活の匂いを感じさせる。若狭から「京」への鯖街道の中継地として栄えたという「熊川宿」は、快晴の早朝、やや美しすぎる感じだった。

調査の問いかけに応じてくれた仲間が小浜に着いてから案内してくれたのは、谷あいの山村である。谷の行き止まりにほどちかい所の「風音」という喫茶店のマスターが、最終案内者だった。若い者の村離れで増えてきた空家の探索は無事終了したが、この白鬚のマスターの人生にいたく驚かされる。喧騒な都会生活に嫌気がさしていたときに、地元から木工の職場に勧誘され、廃校を買って定住するつもりになっていたら話がダメになる。やむなく喫茶店を開業しているというのだ。分校舎は自力で店舗と住宅に改造され、小さな元グランドに小さなステージが設けられていた。これからは、こんな暮らしの表現が増えていくのだろう。

松村組品質環境管理本部長

日本建築協会東海支部会員作品特集

東海支部会員作品2000

文化フォーラム春日井
名古屋空港新国際線旅客ターミナルビル
ふれあいドーム岡崎
三重県立こころの医療センター
志段味ヒューマンサイエンスパーク先端技術連携リサーチセンター
愛知県赤十字血液センター
瀬戸市立品野台小学校
嬉野町生涯学習センター
医療法人豊田会老人保健施設　ハビリスーツ木
高齢者福祉施設　カリヨンの郷
愛知労済新会館“アビタン”
ニッセイ岐阜ビル
ファイザー製薬中央研究所 第4研究棟
三菱倉庫名古屋ダイヤビルディング3号館
朝日新聞西春工場
ホリディ・スクエアアミューズメントビル
杉風荘

本特集企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会
委員長　小宮三辰
特集記事担当副委員長　林　金之
作品作風担当副委員長　植田　明
デザイン広告担当副委員長　池畠佳紀
特集記事担当委員　松本壮一郎
作品作風担当委員　谷　淳之介
委員　磯村正雄　今津芳清　尾崎武寛　後藤利秋　篠原佳則　鈴木慶智　仙田　篤　寺本英一　中村嘉男　中村哲士
野崎　勉　福田泰造　細田泰彦　松元親司　武藤謙人　森田富士男　盛田輝勇　山本敦子　芳山明人（50音順）

▲航空写真　西側上空より※

▼外観　西出入口廻り



外観西面▼



外観北面▼



文化フォーラム春日井

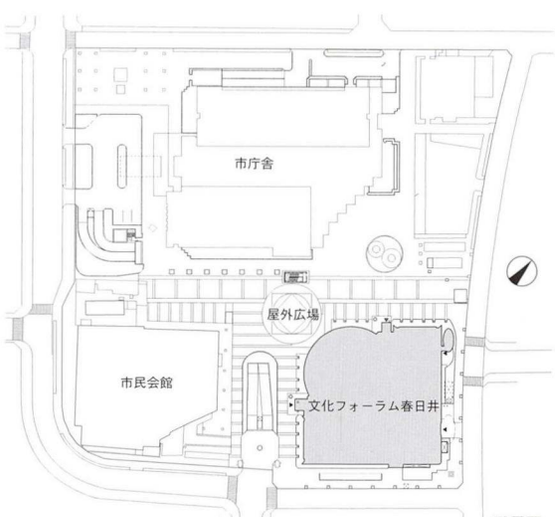
設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　佐藤･土屋･イリヤ特定建設工事共同企業体

春日井市は愛知県の北東部に位置し、高蔵寺ニュータウンなど良好な居住環境を形成している。また、市内を貫くJR中央線と国道19号線により隣接する名古屋市への利便性の高い通勤圏として発展している。古くは書聖小野道風の生誕地としても知られ、「書のまち春日井」をアピールし文化行政にも力を入れている。

文化フォーラム春日井が目指したものは、文化振興に積極的なこの都市に、バリアフリーな環境のなかで、誰もが気軽に多様なメディアに触れられ、自発的な交流の場を市民が創造することである。そこで、市庁舎と市民会館と一体になった敷地全体を「文化フォーラム」として位置付け、もともと市民のお祭りを開催してきた屋外広場の一部を交流アトリウムに取り込むかたちで新図書館と文芸館から成る複合施設を整備した。

ここには、３つの「出会い」と「交流」の場が用意されている。他の施設に囲まれた第一の屋外広場は1階にある第二の交流アトリウムに設けられた間口約９ｍ、高さ５ｍの大型開口で一体利用が可能である。そして、このアトリウムには昇降式ステージやスクリーン、舞台照明を用意し、これを囲むように視聴覚ホールとギャラリーを配して機能の相互補完による多彩なイベント対応にも配慮している。また、屋外との一体感と省エネという相反する機能を曲面ガラスによるDPGダブルスキン工法とエアフロー設備、自然通風機能によりその解決を図っている。このアトリウムを貫通する露出型エレベーターにより、交流アトリウムの真上に図書館の屋外読書空間として開放された第三のスカイフォーラムと呼ぶ空中庭園へ行くことができる。二重防水により保護された空中庭園は、高木も植栽できる人工土壌と木製デッキの二重床によりメンテナンスに考慮し、屋上散水噴霧装置を設けて気化熱の有効利用による熱負荷低減にも配慮している。

（大島弘資／安井建築設計事務所）



配置図

施　工
空調設備／日立プラ･カケン特定建設工事共同企業体
電気設備／千歳･春日井電気特定建設工事共同企業体
給排水衛生／一工･東海設備特定建設工事共同企業体
視聴覚設備／松下電器産業
アルミカーテンウォール／三協アルミニウム工業
D.P.G工法／旭硝子ビル建材エンジニアリング
外装金属パネル／大向商会
内装金属パネル／成田、ホリウチカナモノ
屋根／元旦ビューティ工業
図書館家具／天童木工
電動移動書架／岡村製作所
舞台装置／カヤバ工業
収蔵・保存庫／クマヒラ


▲航空写真　南側上空より※


▲外観　夜景

外観南面▼

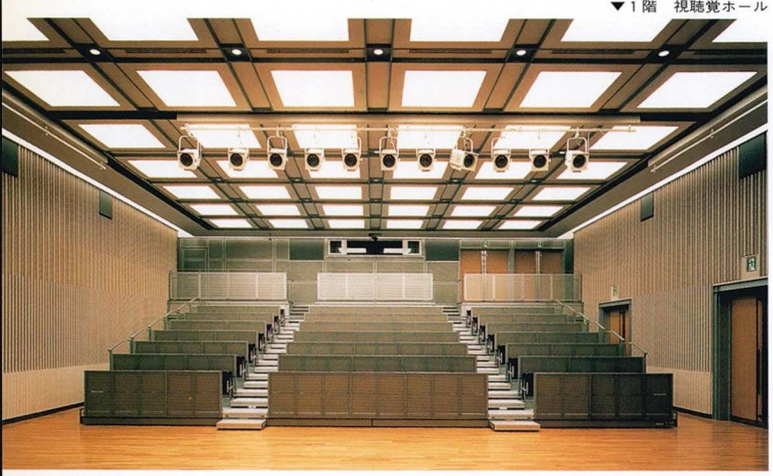


▲交流アトリウム

▼交流アトリウムのディテール



▼1階　視聴覚ホール

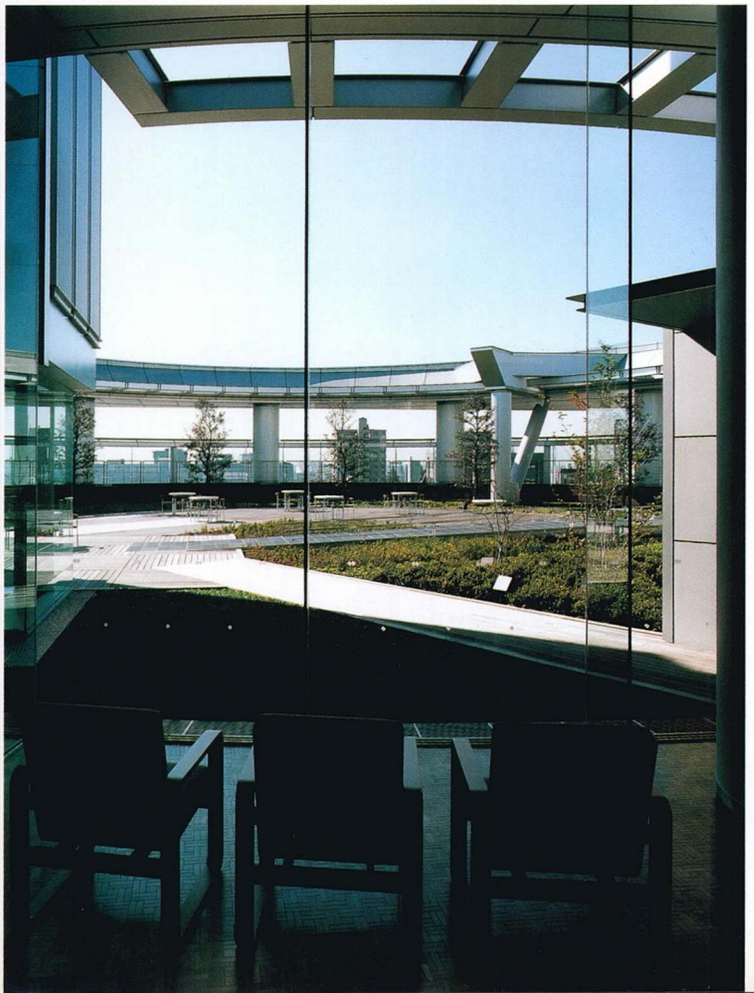


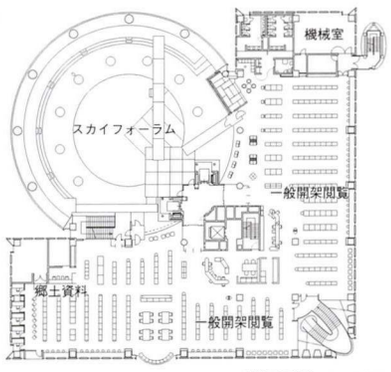
▼3階　児童閲覧室



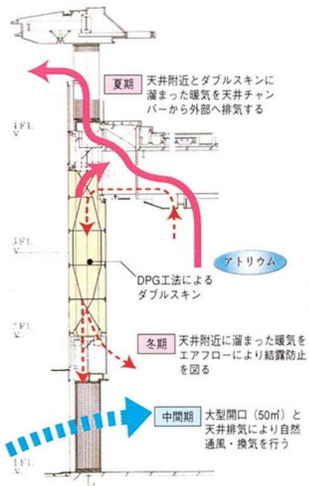
▲4階　スカイフォーラム（空中庭園）

▼4階　閲覧室よりスカイフォーラムを見る

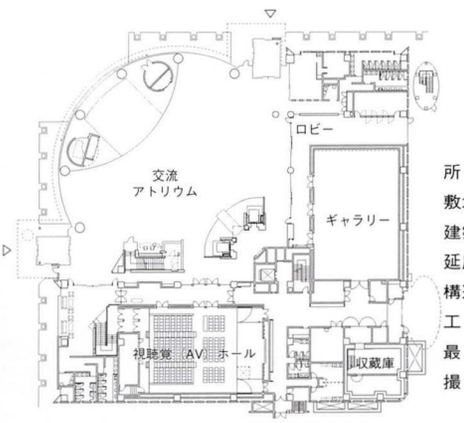




4階平面図　1：1200



スカイフォーラム
屋上庭園によるアトリウムの省エネ化



1階平面図　1：1200

所在地	愛知県春日井市鳥居松町5-44
敷地面積	28,749㎡
建築面積	3,784.32㎡
延床面積	19,692.22㎡
構造規模	SRC、一部S、B2F、4F、P1F
工期	1997年7月～1999年8月
最寄駅	JR中央線春日井駅
撮影	ナトリ光房※ 加藤敏明

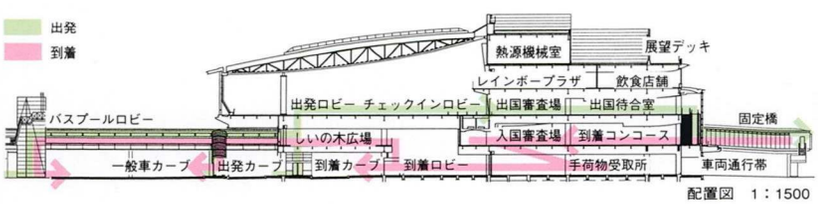


北西外観

名古屋空港新国際線旅客ターミナルビル

設計監理　日建設計・梓設計・ヘルムース オバタ カッサバウム　インク共同企業体
施　　工　大成・矢作・東急・戸田・シャール・竹中・日航建設共同企業体

所 在 地　愛知県西春日井郡豊山町大字豊場ほか
敷地面積　2,091,874.40㎡
建築面積　　21,327.78㎡
延床面積　　59,602.14㎡
構造規模　S、B1F、5F、P1F
工　　期　1997年５月～1999年２月
最 寄 駅　名鉄西春駅よりバス
撮　　影　センターフォト



配置図　1：1500

新国際線旅客ターミナルビルは、既設国際線ビルの南に完成し、1999年４月から供用を開始しました。既設部撤去、改修を経て2000年４月には、延べ床面積約70,000㎡、年間450万人対応の国際線ターミナルビルに生まれ変わる予定である。

地上５階建てで、到着系施設を、１・２階に配置し、チェックイン・出国審査などの出発系施設を３階ワンフロアに全て設け、出発・到着旅客の動線の完全分離を実現している。４階には「レインボープラザ」（イベントスペース）、物販・飲食店舗を集約的に配置し、旅客にとってわかりやすく、利用しやすい施設構成としている。また、名古屋空港の旅客特性とも言える多数の団体旅客に対応するため、待合いスペースとして、２階に「しいの木広場」を配置している。

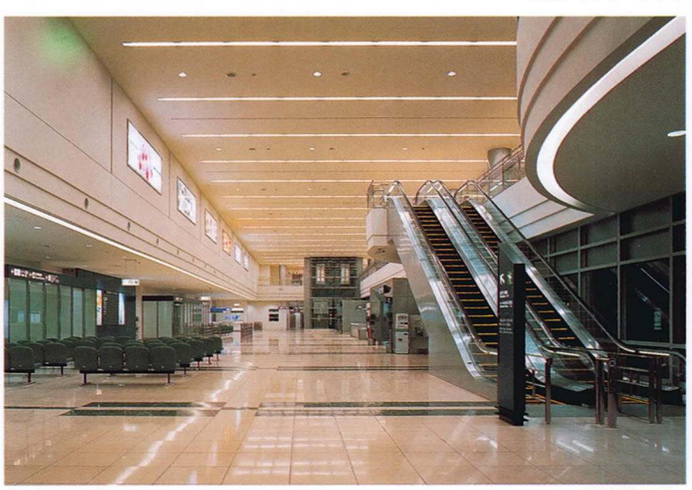
名古屋空港としてのアイデンティティは、空港本来の機能を形にした外観と、適度な高さののびやかな内部空間により表現している。特に、３階出発ロビーは、軽快なアルミパンチング曲面パネル天井と、高さ６ｍ長さ150ｍにも及ぶMJG構法のガラスカーテンウォールにより、地域産業の「自動車」・「航空機」などの「ハイテクノロジー」・「高精度」を表現し、木製パネルウォールにより「安らぎ感」を与え、中部の産業と自然が織りなす原風景をかたちにしたものである。また、３階出国待合室では、航空機の翼をイメージさせる天井により、旅への「期待感」を表現している。

（高山順行、冨田彰次／日建設計）

3階出発ロビー



5階レインボープラザ



1階到着ロビー



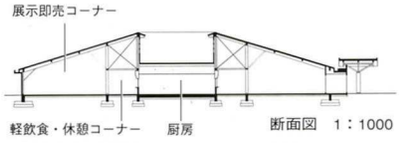
3階出国待合室から搭乗橋へ

外観正面

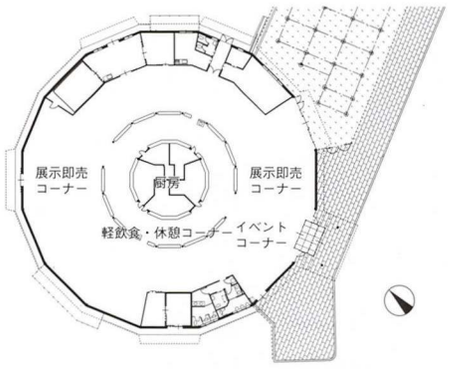
ふれあいドーム岡崎

設計　岡崎市建築部建築住宅課
　　伊藤建築設計事務所
監理　岡崎市建築部建築住宅課
施工　建築　中根・山崎JV
　　電気　三州電気
　　機械　鈴木管工

所在地　岡崎市下青野町字天神
敷地面積　6,990.00㎡
建築面積　1,279.67㎡
延床面積　1,243.36㎡
構造規模　W、1F
工　期　1999年７月～2000年２月
最寄駅　JR東海道線岡崎駅
撮　影　加藤敏明



断面図　1：1000



1階平面図　1：1000



外観正面近景


夕景



内観

徳川家康の生誕の地、そして錆石と八丁味噌で知られる岡崎市の南部に建てられた市場である。地域の生産者と消費者の交流拠点として、平成８年に北部にオープンした第一農遊館が非常に好評で、このほどこの地に第２館目としてオープンする。農産物等展示即売コーナー、軽飲食･休憩コーナー、特産物コーナー、情報イベントコーナー等を備えており、様々な使い方が想定されている。

古くから農村に伝えられる相互協力制度の「結（ゆい）･講（こう）」、そして物流（市場）である「座（ざ）」をシンボライズとした円形ドーム型とし、その形状や人と人とが交流することから、愛称は「ふれあいドーム岡崎」と決められた。

構造は、集成材と鉄筋ブレースによるハイブリット構造で、高い天井とトップサイドライトから落ちてくる自然光と相まって、店内は青空市場かバザールといった「開かれた交易の場」としての雰囲気をかもし出している。

来館はほとんどが車によるもので、前面に125台の駐車場と植木・苗木の外売場を配し、解りやすい配置となっている。

今後この施設が、第一農遊館同様、地域の人々から愛され、様々な交流の場としてその寿命をまっとうするよう祈っています。

（小田義彦／伊藤建築設計事務所）



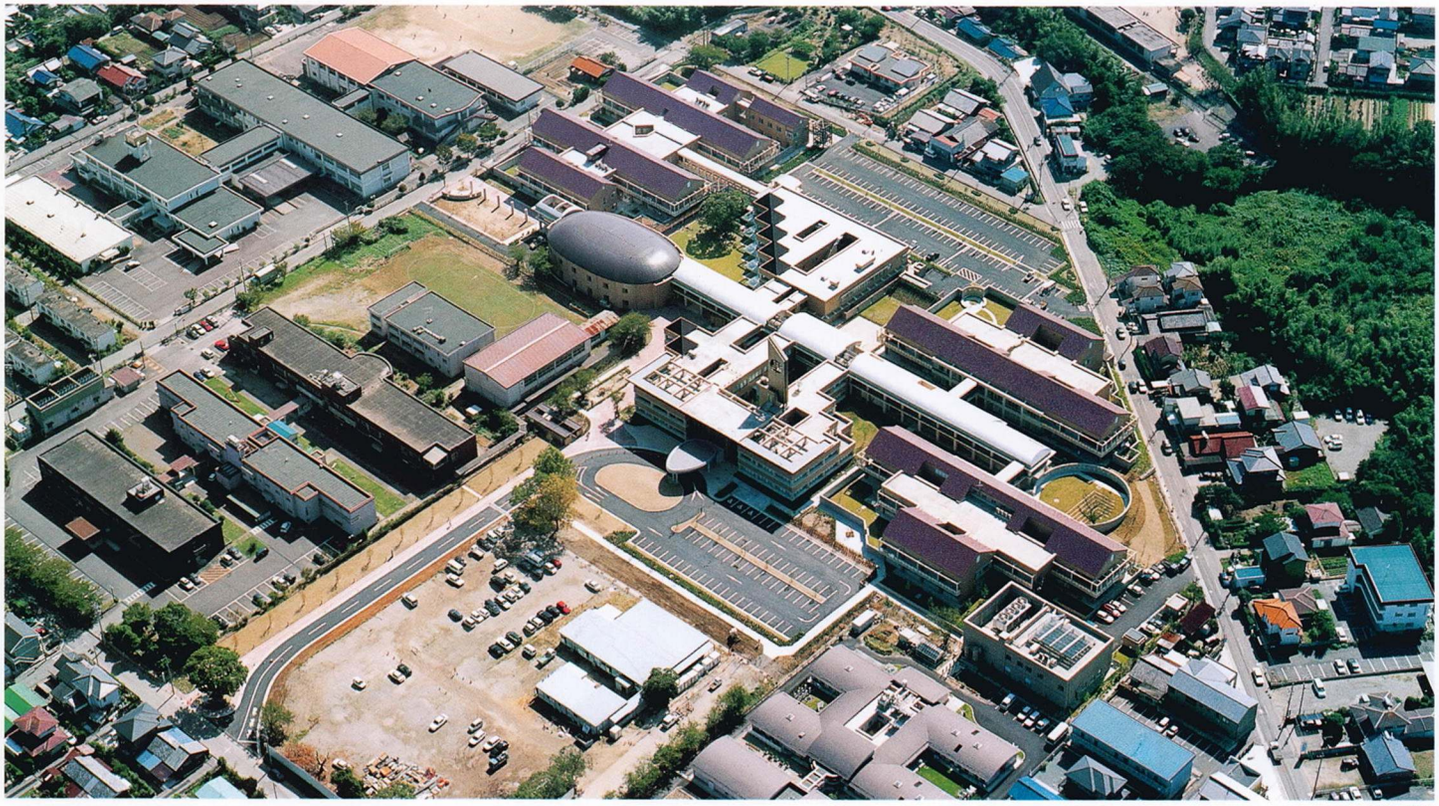
配置図　1：2000



内部ディテール

三重県立こころの医療センター

設計監理　三重県総務局管財営繕課営繕室、安井建築設計事務所
施　　工　熊谷・佐藤・東海土建特定建設工事共同企業体（建築工事）



航空写真



水平線を強調した管理診療棟　正面外観



コミュニティー広場と中央作業棟



勾配屋根をかけた北病棟　南西面外観



ゆるやかな曲面のレクセンターとシンボルタワー

三重県立こころの医療センターは、三重県における精神医療の基幹病院として、旧称高茶屋病院を現地建替により再整備したものである。今、精神病院は収容型の施設から通所・短期入院型の施設となることが求められている。これからの精神医療にふさわしい安らぎのある空間を実現するために、ヒーリング・アーキテクチュアをテーマに掲げ、「機能的な建物配置」「段階的な空間構成」「自然にふれあえる空間」「地域に開かれた施設」を意図し、患者の家族を含めた癒しの場として提案している。

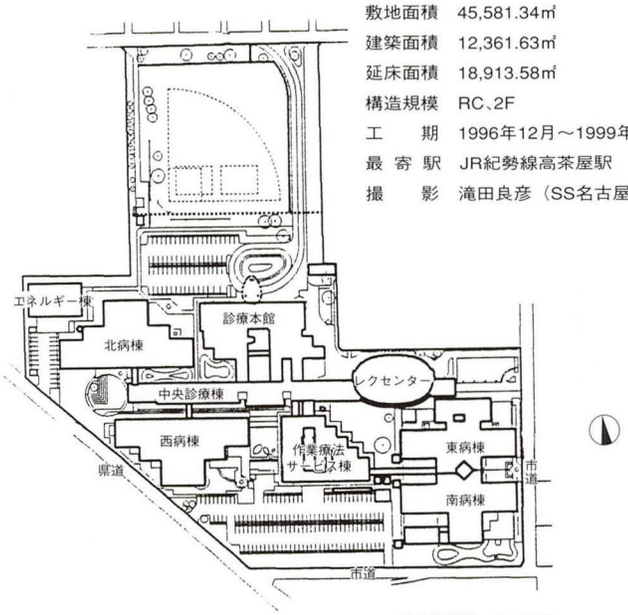
病院全体の計画は2階建の建物群とし、ヒューマンスケールな擬似的な街として計画し、誰にでも感覚的にわかるようユニバーサルな空間構成とサインを心がけた。東西に貫く中央診療棟と建替前から植生する大木のあるコミュニティ広場を中心に各建物を配置した。

建物外観はその機能により決定した。病棟は集団生活する家として切妻の瓦屋根とした。この建物群の玄関にあたる管理診療棟は、水平線を強調した大庇、ランドマークとしてのシンボルタワーを設け、街の公共施設を意識している。作業療法・サービス棟はコミュニティ広場に面し、特徴的な屋根と雁行する平面形状により広場を優しく包みこんでいる。管理診療棟の脇からコミュニティ広場、レクセンターの曲面の壁に沿って東の入口までストリートを設け、広場を開放的にしている。

建物内部は、各々の利用者等のイメージからキーカラーを選定し色彩計画を行い、中庭を多く取り開放的な雰囲気を創りだし、自然を感じながら安心できる空間としている。

（篠原佳則／安井建築設計事務所）

所 在 地　三重県津市城山１丁目12-1
敷地面積　45,581.34㎡
建築面積　12,361.63㎡
延床面積　18,913.58㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1996年12月～1999年10月
最 寄 駅　JR紀勢線高茶屋駅
撮　　影　滝田良彦（SS名古屋）



全体配置図　1：4000



エントランスホール



病棟専用庭



東病棟２階廊下



西病棟１階廊下

▲北西面外観夜景

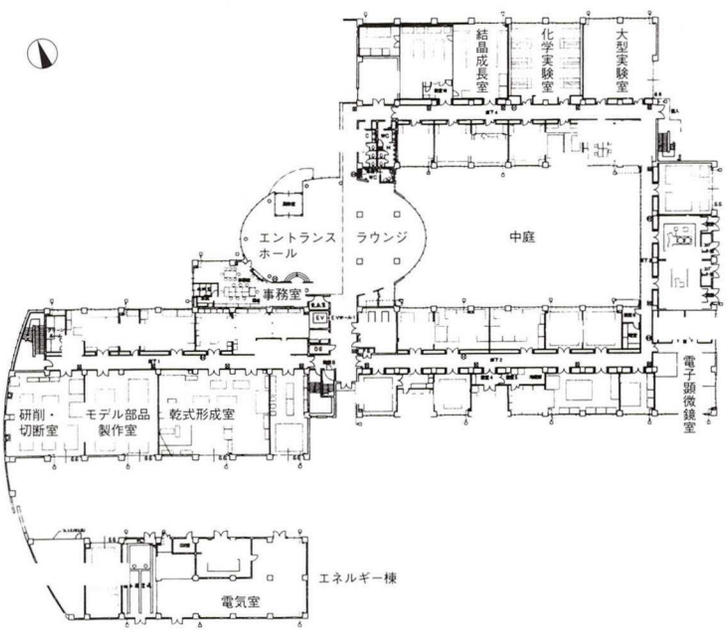
中庭　中央１階がラウンジ、２階が食堂▼

志段味ヒューマンサイエンスパーク
先端技術連携リサーチセンター

設計　名古屋市建築局営繕部営繕課
　　山下設計中部支社
監理　名古屋市建築局営繕部営繕課
施工　奥村組・イリヤ建設特別共同企業体

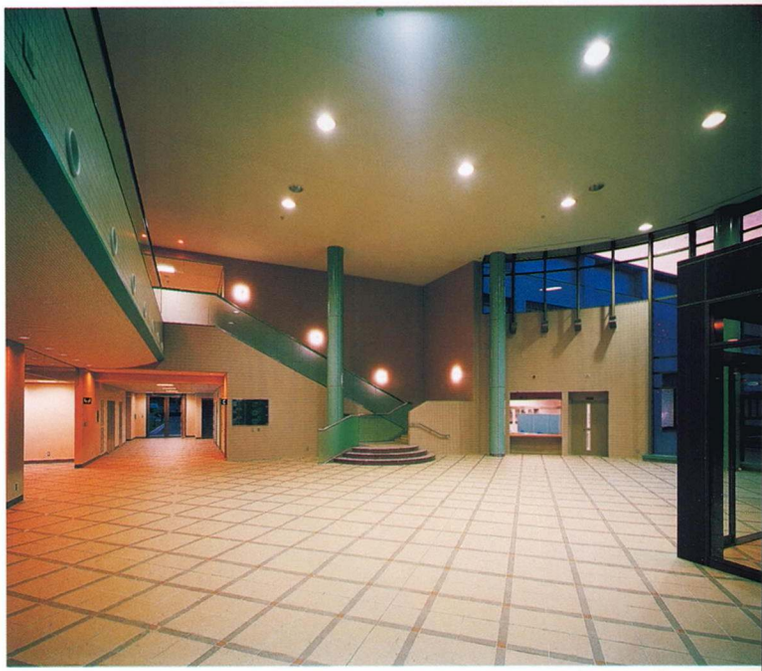
志段味ヒューマンサイエンスパーク事業は、名古屋市新基本計画の重点プロジェクトとして位置付けられ、名古屋市守山区志段味地区に豊かな自然を生かした計画的、総合的なまちづくりを進めるなかで、先端科学技術と新たな産業を創造する「新産業創造ゾーン」として、地域の産業発展や新たな産業の創造に向け、民間企業、大学、公的研究機関などの産学官の連携を強化し、先端技術に関する研究開発を推進していくための施設として新築されることとなった。施設は共同研究棟とエネルギー棟で構成され、共同研究棟は中央に吹抜のエントランス、中庭を囲み各種実験研究室、分析データ処理室、情報関連室及び製作成形室等を配し、吹抜のエントランス寄り1階にラウンジ、2階に食堂を設け、利用者の憩いの場として提供し、研究開発にふさわしい施設づくりをすすめた。

（名古屋市建築局営繕部営繕課、山下設計中部支社）



1階平面図　1：10000

所在地　名古屋市守山区大字志段味字穴ヶ洞2268番
敷地面積　25,258.00㎡
建築面積　4,246.16㎡
延床面積　6,499.62㎡
構造規模　RC（一部PC）、3F
工　期　1998年3月～1999年3月
最寄駅　名古屋市営バス消防学校前
撮　影　稲垣　修（SS名古屋）



エントランスホール



1階化学実験室



1階乾式形成室

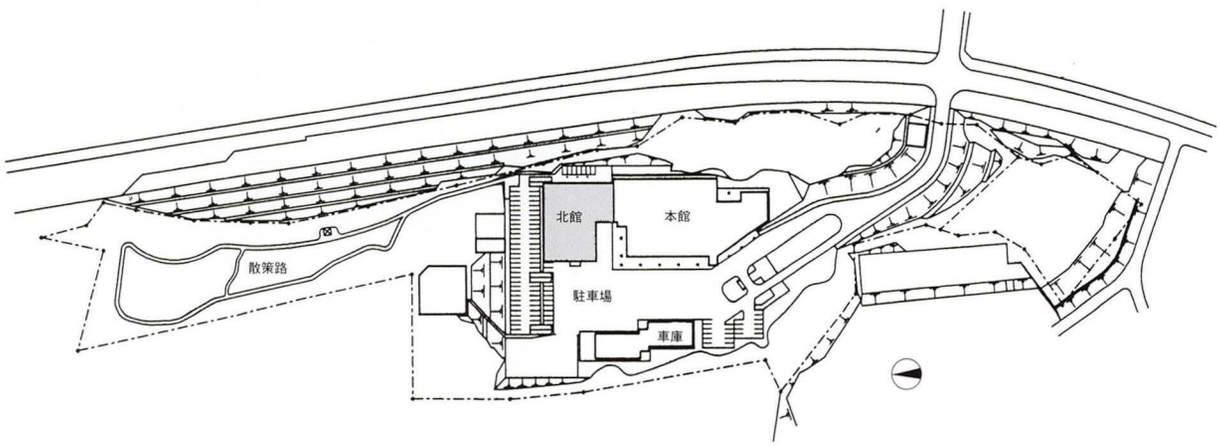


航空写真

愛知県赤十字血液センター北館

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　鴻池組名古屋支店

所 在 地　瀬戸市南山口町539-3
敷地面積　46,199.73㎡
建築面積　1,361.47㎡
延床面積　4,084.41㎡
構造規模　S、3F
工　　期　1998年11月～1999年10月
最 寄 駅　名鉄バス南山口町停留所
撮　　影　SS名古屋



配置図　1：4000

南東面外観

愛知県赤十字血液センターは、1987年に建設されたものであるが、竣工後12年が経過し、事業内容の変化と多様化による施設狭隘化の問題を解決するために今回北館の増築を行った。

その目的とする処は新しい検査技術の導入やGMPに対応するための構造設備の変更、自己血輸血協力、放射線照射血の供給など安全性の高い輸血用血液確保と全献血者の検体保管と採血から供給に至る各種記録類の10年保存への対応である。

具体的には北館では県内各血液センターの各部門における運営の効率化を目的とし、資材類及び書類の集中管理、保管検体の集中管理、感染症検査項目の増加に対応するスペースを確保している。

更に、当センターが将来中部８県13血液センターの検査センターとして運用された場合を想定して４階部分の増築を予定した構造としている。

また、北館を本館に接してL型に配置することで、高低差がある北側の職員駐車場をそのまま利用し、かつ本館、北館間の物品輸送に係る動線を短くしている。そして、北館の１階部分を駐車場とし献血車両、搬出入車両の円滑な通行等、本館と一体となった駐車場利用が可能となっている。

（渡辺國雄・前田芳弘／伊藤建築設計事務所）



▲品質管理作業室

クーリングコンテナ室▼





瀬戸市立品野台小学校

設計監理　日建設計
施　　工　熊谷組・信和建設JV

所 在 地　愛知県瀬戸市上品野1234番地
敷地面積　31,044.14㎡
建築面積　 5,649.49㎡
延床面積　 5,642.46㎡
構造規模　RC、S、1F
工　　期　1997年10月～1999年２月
最 寄 駅　名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅
撮　　影　SS名古屋



配置図・１階平面図

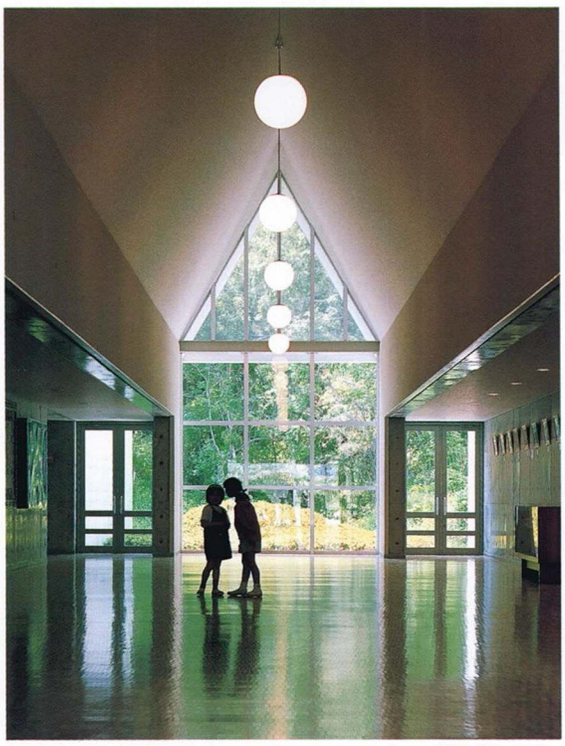
品野台小は、瀬戸市の北部にあり児童約200名と職員10数名の学校である。道路計画による校舎移転を機に「開かれた学校」づくりのプロポーザルが公募され、提案が実現した。設計から竣工まで、行政や教職員のほか児童・父母とも協働しながら学校づくりが進められ、1999年４月に開校した。

校舎は、緑の山に沿い全て平屋建で計画し、一般教室ゾーンと特別教室ゾーンが、それぞれホールを囲む配置とした。児童の個性を伸ばし、「教わる」より「学ぶ」ことを身につけるオープン教育の場となるよう、教室はワークスペースから多目的スペースまで開かれ、職員室も一体となって、いきいきと学校生活が育まれている。更に特別教室は、地域開放が容易にできるよう配慮し、利用しやすいゾーンに配置した。

校舎は、自然光や通風を活かす鋸屋根、ライトシェルフの反射光を得る高天井の教室、太陽光発電や雨水利用など、自然を活かすエコスクールである。

校庭には、山の沢水が流れる「せせらぎ」と、自然そのままのビオトープをつくり、環境に生きる植物や生物にふれながら、自然と親しむことができる学校とした。

（南石周作・若林　亮／日建設計）



玄関／ギャラリー



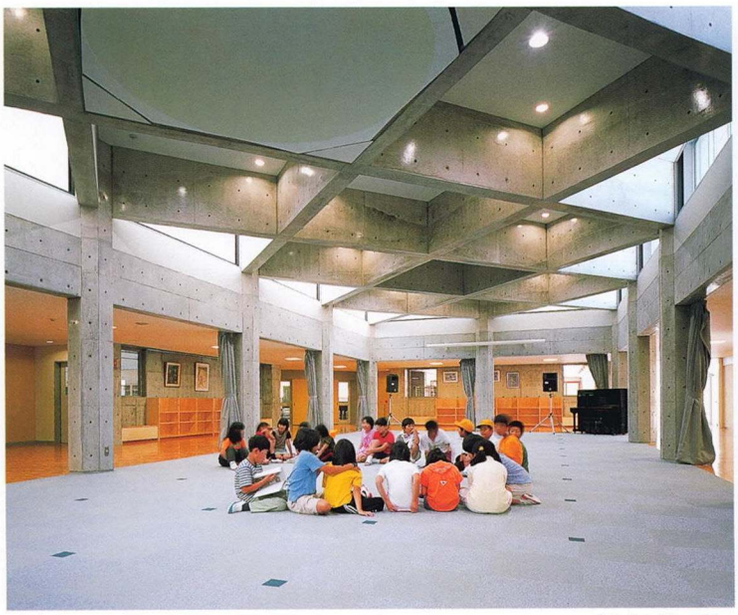
多目的ひろば／ランチスペース



教室



教室



ふれあいギャラリー



図書・メディアルーム

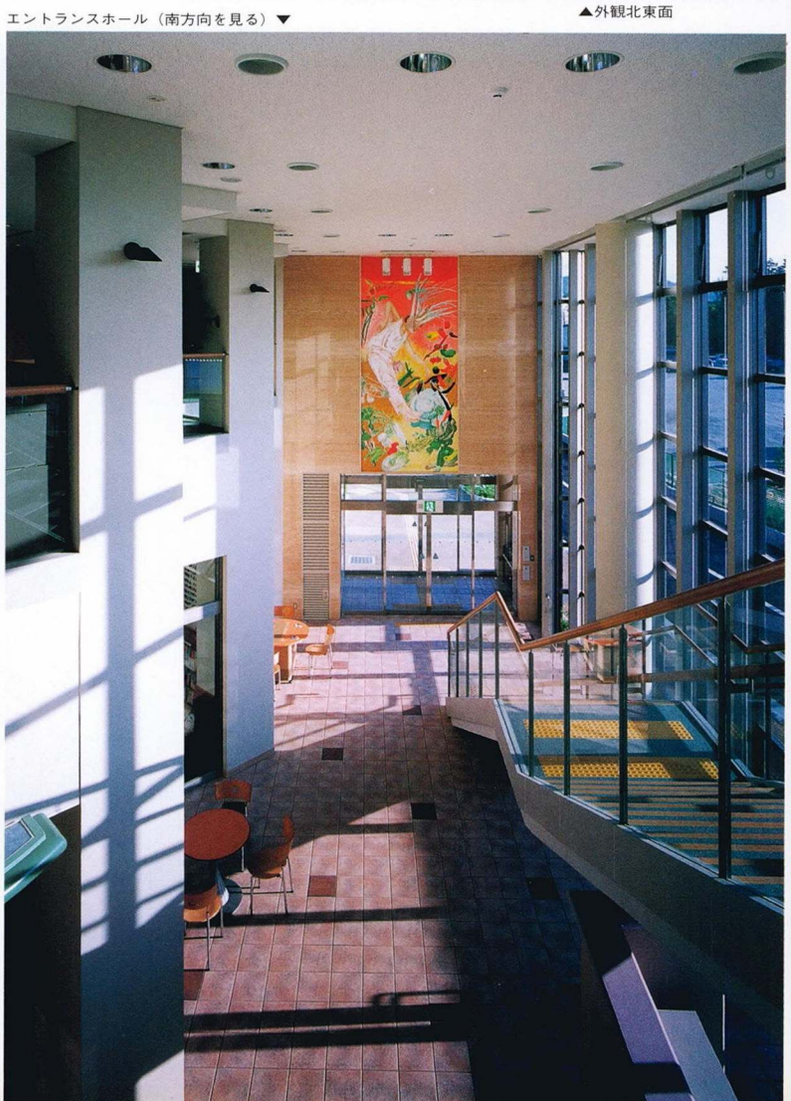


▲外観北東面

エントランスホール（北方向を見る）▼



エントランスホール（南方向を見る）▼



嬉野町生涯学習センター

設計監理　東畑建築事務所名古屋事務所
施　　工　大日本土木

町役場やふるさと会館等が点在し、政治、文化の中心に位置する敷地に建つこのセンターは、図書館と中央研修センターを併設し嬉野町の新たな交流の場となっています。

三重県の中ほどに位置する嬉野町は、東は伊勢湾、西から南にかけて標高千メートルに近い布引山地、高見山地をひかえ、その山裾から肥沃な平野が広がっています。今は亡き東畑謙三氏生誕の地であり、農業の盛んな地域です。また、日本最古の墨書土器を初め、歴史上重要な鴟尾（しび）等数々出土したことで脚光を浴び、弥生時代から脈々と受け継がれる文化の遺産を目の当たりにすることが出来ます。

したがって、外装にはこれらの土をイメージさせる落ち着いた色合いの素材を用い、１階は割肌調タイル張、２階は土壁調吹付としています。また、ボリュームをおさえたボールトの屋根や分節された壁面は、周辺の町並みや緑に優しく溶け込んでいます。

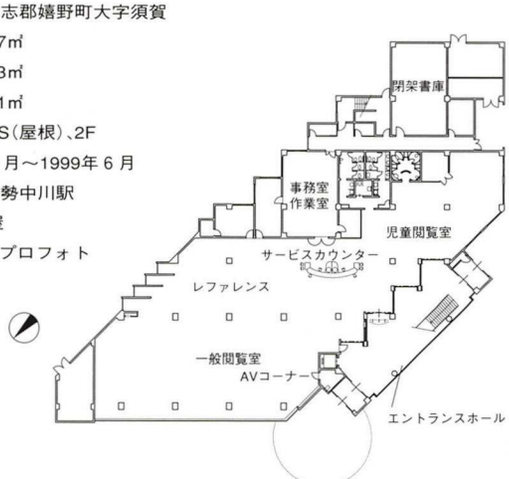
この施設の特徴として、図書館と中央研修センターという異なる機能を独立したエントランスホールの吹抜空間で一体化し、通り抜けの出来る２つの出入口を設けることで、誰もが自由に気軽に立ち寄れる場所としています。また、このエントランスホールの出入口上部には、縦4.5m幅2.0mの２面のフレスコ画が描かれており、魅力ある豊かな空間を演出しています。

１階の図書館にはCDコーナーやAVコーナーの他に、将来対応として個人が持ち込んだワープロ等を使用できるキャレルコーナーも備えており、また２階の中央研修センターでは地域の様々なサークル活動の拠点となるよう大会議室をはじめスタジオや和室等幅広く使用が可能となっています。

外に向かって開かれた大小の窓からは、周囲に点在する既存の杉林が目に飛び込んできます。同時に四季折々の風情を楽しめ、周辺の環境を保ちながら穏やかに自然との一体化を図っています。

（松元親司・松本　亮／東畑建築事務所）

所 在 地　三重県一志郡嬉野町大字須賀
敷地面積　9,258.517㎡
建築面積　1,837.033㎡
延床面積　2,839.711㎡
構造規模　RC、一部S（屋根）、2F
工　　期　1998年３月～1999年６月
最 寄 駅　近鉄線伊勢中川駅
撮　　影　SS名古屋
　　コイズミプロフォト



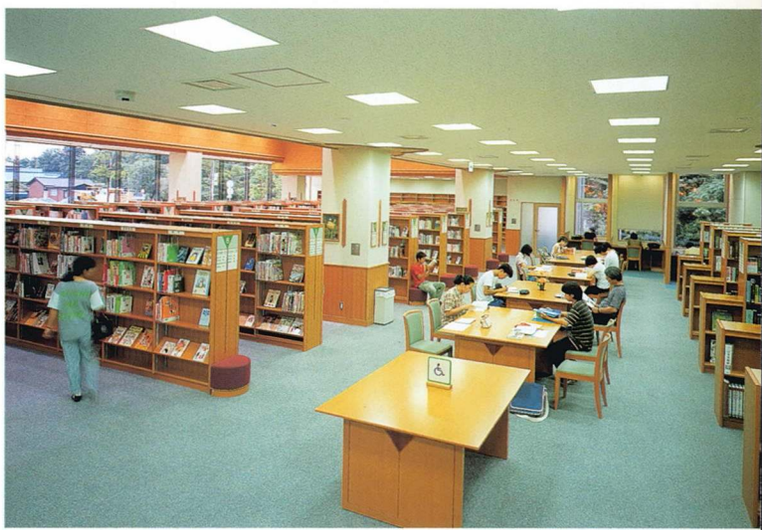
１階平面図　１：1000



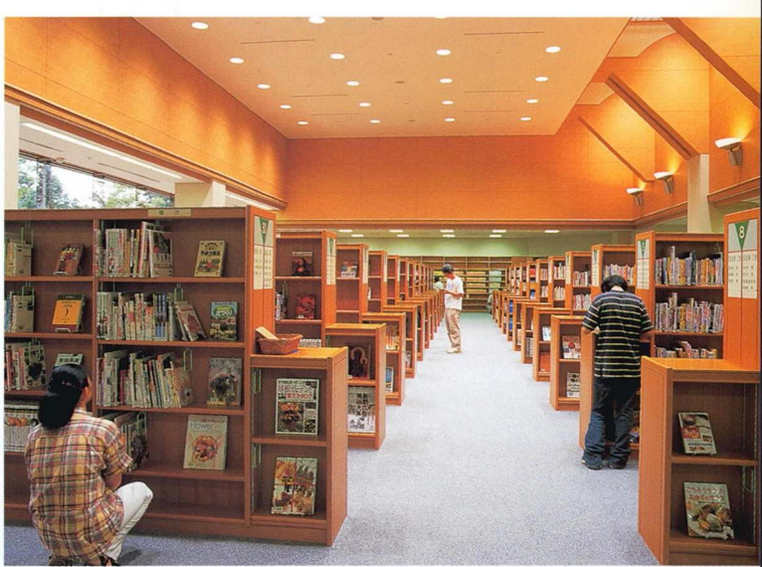
外観南西面



２階展示ホール



図書館・レファレンス



▲図書館・一般閲覧室

図書館・児童閲覧室▼





正面外観

医療法人豊田会老人保健施設

ハビリス 一ツ木

設計施工　竹中工務店

「ハビリス 一ツ木」は、トヨタグループ主要７社と刈谷市により設立された医療法人豊田会の市内で初めての老人保健施設である。

敷地は刈谷市一ツ木地区の社会福祉ゾーンの一角に位置している。前面に建つ、刈谷市福祉センターとの機能連携や地域との密接な関わりが求められ、都市近郊型老健施設として「公共空間といかに密接に関わるか」が設計の最重要テーマとなった。

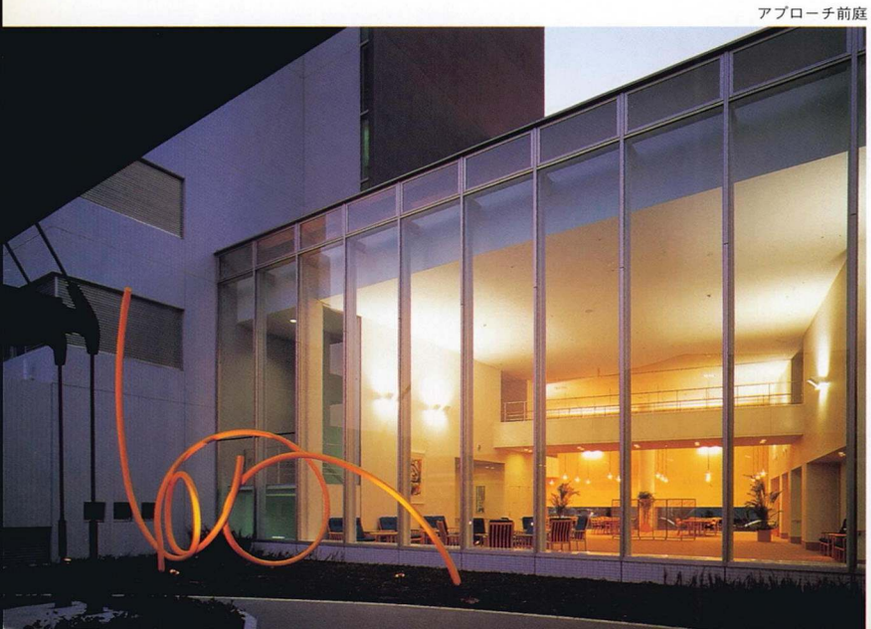
建物は、片廊下構成による療養室棟を南北２棟に分節し、その中央部１階を食堂、ロビー等のパブリック空間で結んでいる。また、前庭に配置したアートワークは、人々の眼を楽しませるだけでなく、公私の領域を融合する重要な役割を果たしている。

外部アプローチに面したロビーのガラススクリーンを通して、豊富な外光を取り込むのと同時に、施設利用者と地域の人々との視線が交錯する。ロビーと連続する食堂では、ペンダント照明により天井高のある吹抜空間に住宅的スケールを与え、また、高さを抑えた地窓からは時の変化や四季の移ろいを身近に感じ取ることが可能な、高齢者の視線を考慮した内外の空間のつながりを意図している。この食堂の地窓は、西日を遮光するのと同時に、西側の23号線バイパスの高架が視界へダイレクトに入ってくるのを抑える機能も併せ持っている。

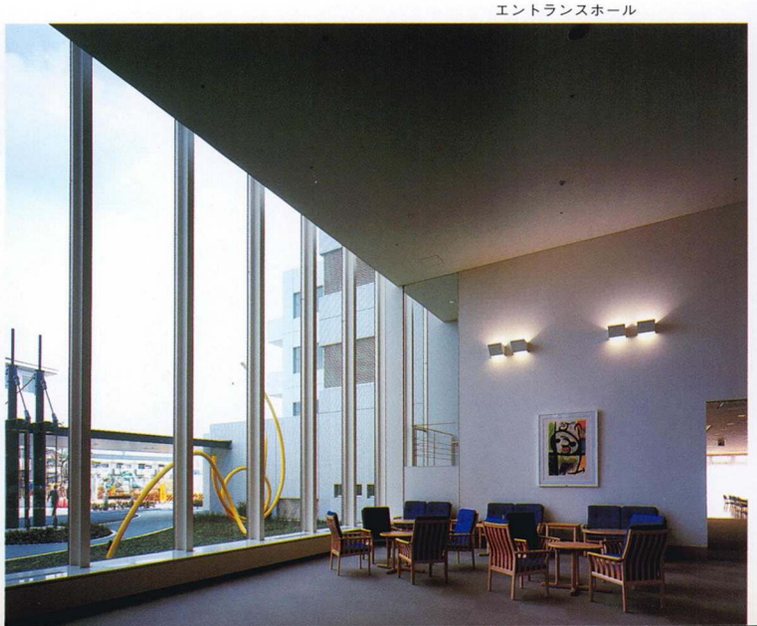
外壁の一部には左官風の仕上材を採用し、タイル貼り部分との対比を狙うと同時に、手作りの痕跡を残し、温もりある表現を試みている。

（望月孝信／竹中工務店設計部）

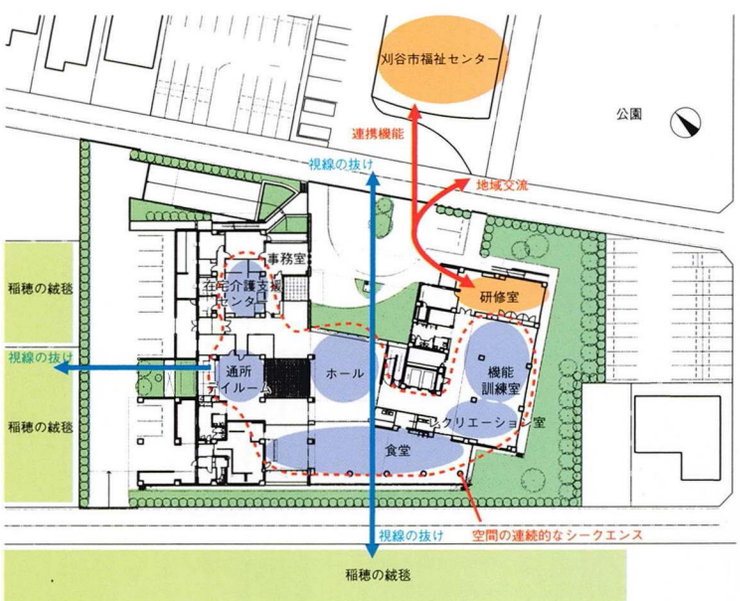
アプローチ前庭



エントランスホール



南面全景（国道23号バイパス側より）



配置図・1階平面図　1：1200

所 在 地　愛知県刈谷市一ツ木町三本木21番地
敷地面積　4,359.00㎡
建築面積　2,032.95㎡
延床面積　7,275.50㎡
構造規模　RC、S、B1F、5F、P1F
工　　期　1997年9月～1998年12月
最 寄 駅　名鉄名古屋本線一ツ木駅
撮　　影　加藤敏明



食堂から望む稲穂の絨毯▶

全景



◀北面外観

高齢者福祉施設
カリヨンの郷

設計監理　東畑建築事務所名古屋事務所
施　　工　鴻池組名古屋支店

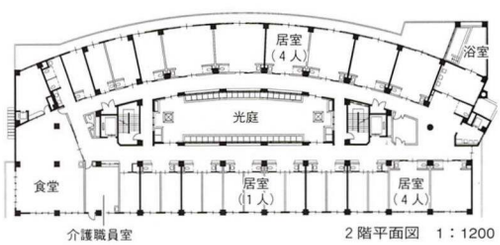
所 在 地　愛知県海部郡蟹江町大字今字伊勢苗代1-1
敷地面積　2,997.50㎡
建築面積　1,795.58㎡
延床面積　5,504.80㎡
構造規模　RC、4F
工　　期　1998年９月～1999年８月
最 寄 駅　JR関西線蟹江駅
撮　　影　SS名古屋

本建物は特養（80名）、ショートステイ（20名）、ケアハウス（15名）、デイサービス（23名）、在宅介護支援センターの５つの施設を同一建物内に複合させた高齢者福祉施設である。規模の割に狭隘な敷地の中で、「終の住処」である特養の居住性確保、特養とケアの似て異なる入所者の折り合いをどう解決するか、が計画段階からのテーマであった。

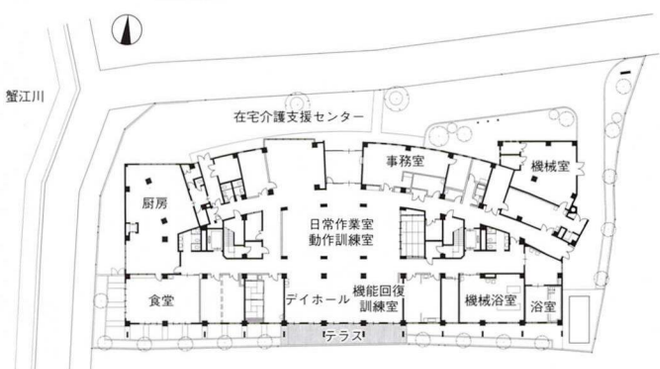
共用施設を１階に集中させ、２、３階に特養の居室群、４階にケア居室を配置し、居室階は狭いながらも光庭を確保し回遊性を持たせ、明るく風通しの良い空間とした。光庭の１階部分には、施設上、機能回復訓練室等の諸室が配置されているが、間仕切りのない広間空間として設定し、施設内外のコミュニティホールとしても機能するよう意図している。分散配置したエレベーターは、１階の片方を二方向開閉とし、特養とケアの動線を状況に応じて分離する機能を持たせている。南側を走るJR関西線、屋上庭園から一望できる東名阪道と蟹江の街、食堂の目前を流れる蟹江川、決して隔離するのではなく、街と、地域の人々と共に歩める施設をめざした。

設立趣旨の中に「…一人ひとりが、かけがえのない人間として、その尊厳を主張し、他を受け入れ、手を取り合いながら、命の豊かさを実感できる施設として誕生しました。」とある。完成後、訪れてみるとクライアントの熱意はそのまま若い介護スタッフにも引き継がれていた。ハードの至らなさを補っても余りあるその情景は、入居者間の折り合いを心配した我々の思いが杞憂であったことを実感させた。年月と共に、街と、人と、建物の関係がさらに深まり、「カリヨンの鐘」が響き続けることを期待している。

（瓦田伸幸、高木耕一／東畑建築事務所）



２階平面図　１：1200



１階平面図　１：1200

▼光庭





コミュニティホール



▲廊下

南面外観▼



愛知労済新会館“アビタン”

設計監理　日建設計
施　　工　熊谷組名古屋支店

所 在 地　名古屋市熱田区金山町1-12-7
敷地面積　785.97㎡
建築面積　680.11㎡
延床面積　5,209.61㎡
構造規模　S（地下SRC）、B2F、7F、P1F
工　　期　1998年３月～1999年５月
最 寄 駅　金山総合駅
撮　　影　滝田良彦（SS名古屋）



愛知労済新会館“アビタン”は、全労済からの愛知県内における共済事業を受け持つ「愛知県労働者共済生活協同組合」の本部ビルである。敷地は金山総合駅の南東に位置し、名古屋の中心、栄へとつながる南大津通りに面した場所である。

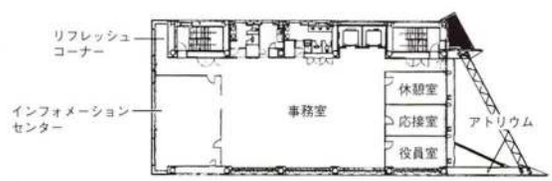
建物は、既設ビルの狭隘化の解消と共に、個性的かつ親しみやすい施設づくり、地域社会とのコミュニケーション、公開性を強調する空間づくり、将来の事業展開に即応するフレキシビリティの高い執務空間づくりがテーマとなって計画された。

愛知労済組織の透明性、公開性を街に向かって積極的にアピールさせ、外部との視覚的コミュニケーションの実現をはかるため、南大津通りに面する建物正面ファサードは、2階から7階までの6層分のアトリウム空間を設け、外装にはMJG構法の透明強化合わせガラスカーテンウォールを採用している。

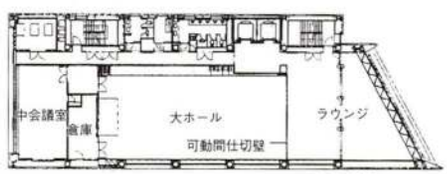
この額縁に縁取られたアトリウム空間には、空中に浮かぶ植物をイメージした風により動きを見せるモニュメントを天井面より吊り下げ、一枚の巨大な絵画をイメージさせる演出とし、道行く人々の目を楽しませると共に、都市景観の形成に寄与できる、建築とアートの融合を目指した。

執務空間は、アトリウムを通して視覚的にオープンとなる構成とし、開かれた街の風景を望むことができる明るく開放的なオフィス空間とした。またアトリウム空間が執務空間に対し二重外皮となる構成とし、外部からの熱負荷の軽減、交通騒音の軽減をはかるものとした。

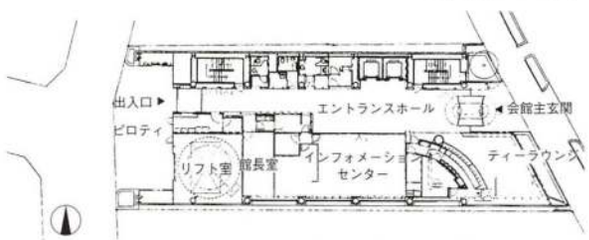
（高山順行、竹内　跡／日建設計）



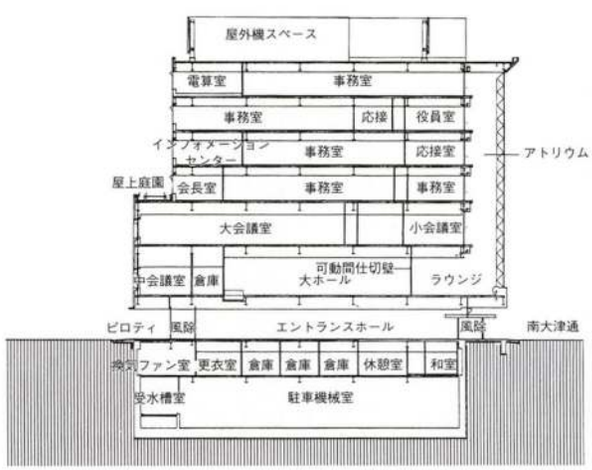
5階平面図　1：800



2階平面図　1：800



配置図・1階平面図　1：800



断面図　1：800


アトリウム　7階から2階ラウンジを望む


3階　大会議室


▲2階　大ホール

1階　ティーラウンジ▼




NISSAY
銘茶・茶道具
レンタ リース
mazda
マツダレンタ・リース
お茶と茶道具
明治屋茶舗
TEL 62-0602・62-2718

ニッセイ岐阜ビル

設計監理　竹中工務店
施　　工　竹中・大日本・西濃・金子共同企業体



北西面ディテール

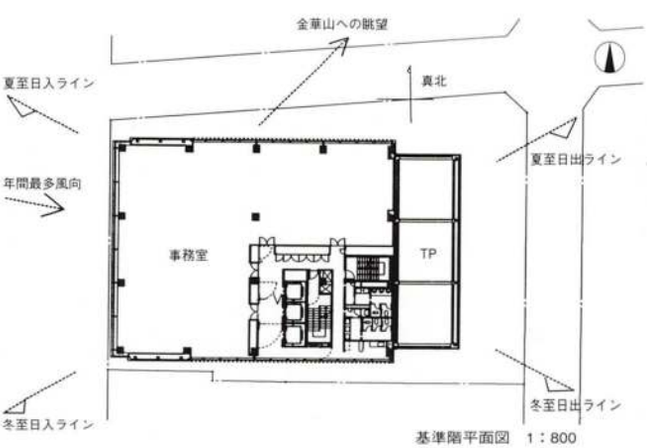
ニッセイ岐阜ビルは、繊維で知られる岐阜のまちに計画されたオフィスビルである。
岐阜の特産に極細のヒゴで作られる岐阜提灯というものがある。この計画では、事務室正面にこの岐阜提灯を想起させる繊細なフィンを持ったファサードを試みた。アルミでつくられたこのフィンはファサードに奥行きを与え、日射を軽減する役割を果たしている。
建物を構成する素材にも注意を払った。開口部には、自動車の窓ガラスにも使われる可視光透過率に優れたグリーンの熱線吸収ガラスを用い、ガラスらしい透明感を得ている。外壁には、工場塗装された平滑仕上げのPCa版を用い、1.8×3.6mという大版でありながらアルミパネルの様なシャープさを獲得している。
構造計画の特徴として、地震時の強度を法規制値の1.25倍に設定するとともに、オフィスと駐車場棟の間に構造緩衝装置を設け、地震時の挙動を制御している。これにより敷地の有効利用をはかるとともに、EXP.Jをデザイン的に両棟間のスリットの役割を果たすための適切なサイズとしている。　　（中屋隆史／竹中工務店設計部）



エントランス▼

▲西面見上げ

所 在 地　岐阜市金町6-6
敷地面積　1,312.33㎡
建築面積　1,019.26㎡
延床面積　9,460.16㎡
構造規模　S、B1F、11F、P1F
工　　期　1998年１月～1998年12月
最 寄 駅　JR東海道線岐阜駅
撮　　影　加藤敏明

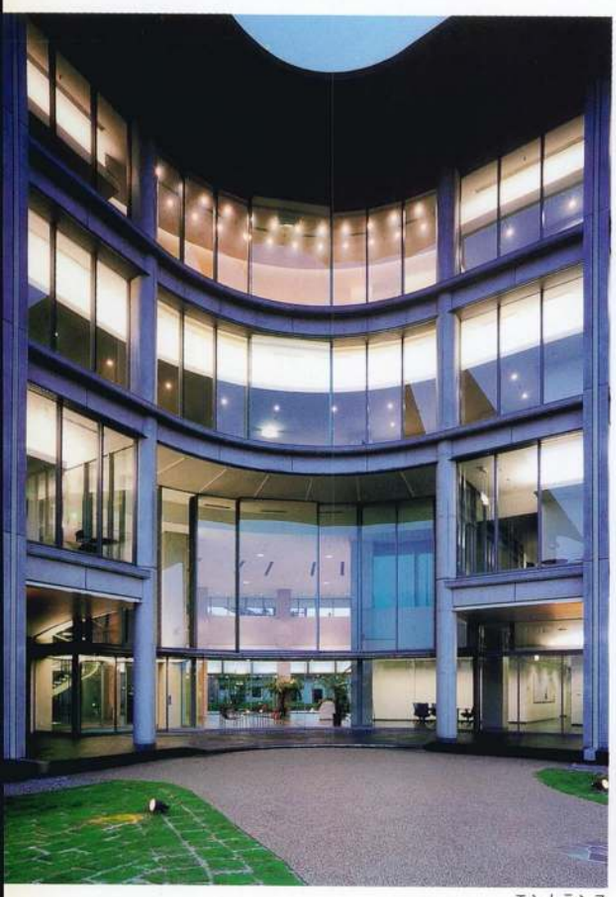


基準階平面図　1：800



◀南西面外観

外観全景



エントランス



外観ディテール研究居室

ファイザー製薬中央研究所 第４研究棟

設計監理　日建設計
施　　工　鹿島 名古屋支店

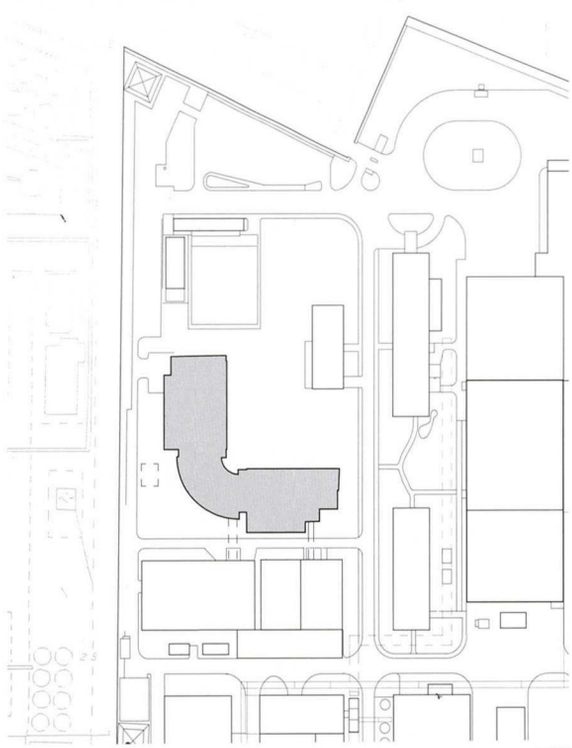
ニューヨークに本社を置くファイザー社は、新薬の発見研究をアメリカ、イギリス、日本（愛知県武豊町）の３つの中央研究所で行っている。この施設は、ファイザー社の日本における研究部門拡大に伴う増築施設で、既存の研究施設に隣接して建設された。周囲の環境は工場を主とした地域であるが、建物上階からは、北東方向に衣浦港を間近に望む良い景観を得る事が出来る。

建物は、L型の内側に研究居室を配置した平面とし、建物で囲まれた部分を日本庭園として、全ての研究者が日本庭園越しに港の景観を得られるようにした。

異分野の研究者同士の自然なコミュニケーションが、新たな発見を生み出すという考えのもとに、視覚的にも研究者の一体感と連帯感を生み出すよう、研究居室はグループ毎にローパーティションで仕切った大部屋方式とし、研究者の通路は、日本庭園側に全面ガラスカーテンウォールに面して設けた。

最も良い景観の得られるL型の中央部分には、２層吹き抜けの玄関ホール、所長・部長ゾーン、図書室を設け、研究者が自然に集まる環境とした。

（野崎庸之、高野勝也／日建設計）



配置図　1：800

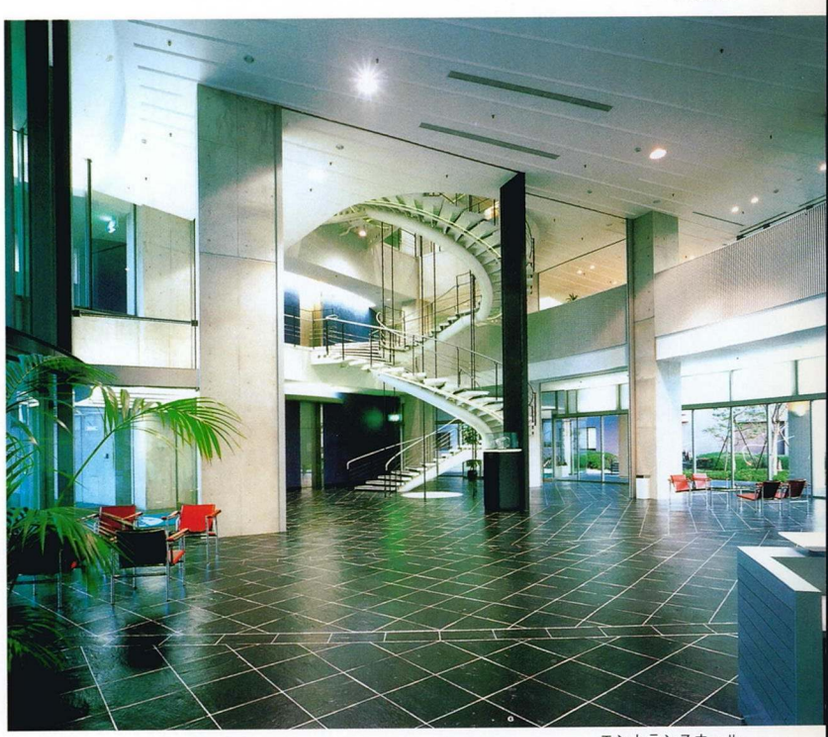
所 在 地　愛知県知多郡武豊町
敷地面積　248,381㎡
建築面積　　3,688㎡
延床面積　13,836㎡
構　　造　RC、免震構造、5F
工　　期　1998年１月～1999年５月
最 寄 駅　名鉄河和線知多武豊駅
撮　　影　篠澤建築写真事務所



図書室



研究居室



エントランスホール

三菱倉庫名古屋ダイヤビルディング３号館

設計監理　KAJIMA DESIGN
施　　工　鹿島 名古屋支店



鳥瞰

外観夕景

所 在 地　名古屋市中村区名駅３丁目13-5
敷地面積　1,349.96㎡
建築面積　1,105.34㎡
延床面積　9,548.29㎡
構造規模　SRC、B1F～8F、P1F
工　　期　1998年11月～1999年11月
最 寄 駅　JR名古屋駅
撮　　影　SS名古屋

中部地方最大の大型ビルJRセントラルタワーズの開業によって大きく変貌を遂げつつある名古屋駅前の一画に、レンガタイル貼りのオフィス群が街区を形成している。１階は御影石張りの店舗を構え、その上階にタイル貼りのオフィスをのせたビル群がそれである。

当地区は、昭和47年から賃貸ビル開発が始められ、その後新築と増改築を重ね、この3号館の完成によって、平成11年晩秋にようやく一街区完成の運びとなった。

この３号館の建築的な特徴としては、賃貸ビルとしては珍しい免震構造を採用した点があげられる。床面積を最大限確保するために地下１階の柱頭に中間階免震装置を設け、また工期短縮のために逆打工法を採用する必要があった。そこで、設計施工の利点を最大限発揮することによって、新たなディテールが数多く開発され、実現へ漕ぎ着けられた。

『市街地型逆打免震構造』の誕生である。（一部特許申請中）

その結果として、通常工期の25%短縮に成功することができた。

また、ISO14000対応として、夜間蓄熱型空調システムや自動調光システム付き天井灯の採用等によって、環境に対する新しい時代の要請にも応えたものとなっている。

これらの差別化の結果として、竣工時にはコンピューター関連等の優良企業数社がテナントとして入居し、ビル事業としても近来の経済情勢の中では優等の結果を生んでいることを付け加えておきたい。

（中山克己、松原基樹、伊東辰彦、鹿田尚幸／KAJIMA　DESIGN）



街区構成


外観


エントランスホール


柱頭に設置された免震装置



外観ディテール



南東外観

朝日新聞西春工場

設計施工　竹中工務店

所 在 地　愛知県西春日井郡西春町大字中之郷字池田6-1
敷地面積　11,908.56㎡
建築面積　4,119.29㎡
延床面積　9,645.16㎡
構造規模　SRC、RC、S、4F
工　　期　1998年5月～1999年7月
最 寄 駅　名鉄犬山線西春駅
撮　　影　滝田良彦（SS名古屋）

この建物は中部地域における朝日新聞社の新聞印刷工場である。最新のオフセット型輪転機が設置され、印刷発行部数は最大で60万部、カラー印刷などの紙面構成が可能である。

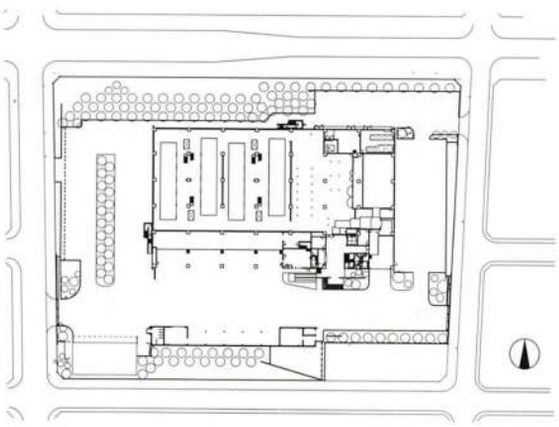
工場本体は本社機能から完全独立したサテライト型を採用し、利便性のよい都市近郊が選ばれた。敷地は名古屋市から10kmほどの郊外に位置し、田園風景の中に幹線道路沿いに大型配送センターなどの建物が建ち並ぶ郊外的な景観が広がっている場所である。

外観は交通量が多いこの地域の特色を意識して、通過する視点（自動車）からの表情をポイントにした。壁面に落ちる陰のライン（庇）、連続する陰影のボーダー（リブ型外壁）、自立する白い壁（外部階段）、点在するドット（ガラスブロック）等は、できるだけ工場のもつ言葉を排除して、短時間で見る人の印象に残る抽象表現をイメージした。このことにより、希薄な風景のなかに鮮やかな対比の創造を可能としている。

外構計画では四季折々の変化（花・紅葉）が楽しめるような樹木を選定、特に北側バイパス道路沿いには高木を並木状に植えることで周辺環境への配慮を行っている。

輪転機基礎の防振ゴムと炭化コルクは、建物の基礎と絶縁し、防振・防音効果を高めている。空調熱源は冷房からの排熱を利用して温水をつくる排熱回収型氷蓄熱システムを採用、エネルギーの効率的な運用をはかるとともに環境への取り組みも行っている。

（西崎徳房・井上博明／竹中工務店設計部）



配置図　1：1000



北側バイパス道路より見る



植栽と呼応する外壁



▲夜景



▲エントランス

▼食堂



▼エントランスホール





正面北東

ホリディ·スクエア　アミューズメントビル

設計監理　大成建設一級建築士事務所
施　　工　大成建設名古屋支店

所 在 地　愛知県豊橋市藤沢町141番地
敷地面積　71,360.70㎡
建築面積　 4,025.96㎡
延床面積　17,372.96㎡
構造規模　柱/SRC、梁/S、6F、P1F
工　　期　1998年10月～1999年７月
最 寄 駅　JR東海道線豊橋駅
撮　　影　SS名古屋

当施設は、豊橋駅より南へ車で15分、ホテル、物販店舗等の集積した当地最大の商業コンプレックス「ホリディ・スクエア」内にある。
旧ゲームセンターエリアを有効利用する事業として、
１階／大型アミューズメント　1000坪
２階／ボウリング場　30レーン
３階～６階／シネマ　18スクリーン3400席
国内最大規模のアミューズメントコンプレックスとした。与えられたエリアの中に最大のスペースを得るために効率の高いシネマレイアウトやボウリング場の構造計画とした。
外観は、建物センターをガラス貼りとし、その部分にエスカレータを配し、人の動きを察知出来る開放性の高いファサードとした。
外壁の色は、敷地内建物色３色にテーマ色１色を加えた横ラインとし、階層の判りやすいヒューマンなスケールに分節した。
また、商業ビルとして夜のライトアップは、サイン等も含めて充分に検討し、視認性の高いものとした。
当アミューズメントビルが、ホテル、物販に次ぐ３番目の核として当地の発展に寄与することを望んでいます。

（泰　誠／大成建設設計部）

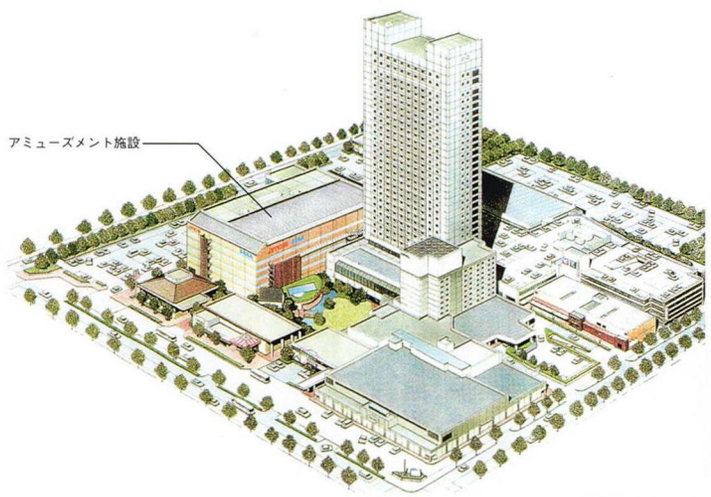
アミューズメント（ゲームセンター）



ボウリング場（レーン）



正面夜景



鳥瞰図（パース）

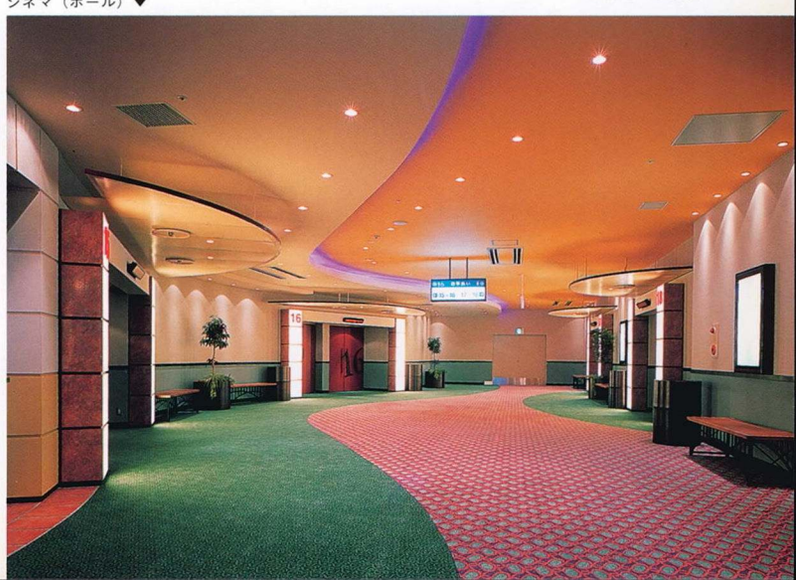


▲ホワイエ売店

シネマ（スクリーン）▼



シネマ（ホール）▼

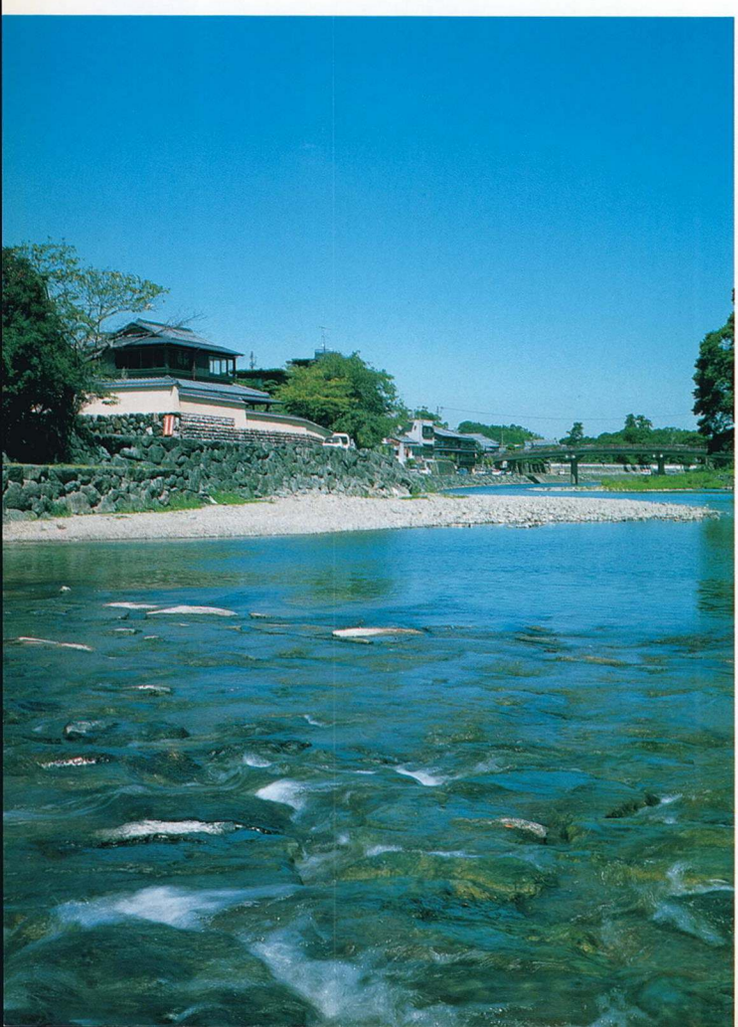




杉風荘
さん ぷう そう

設計施工　竹中工務店

所 在 地　伊勢市宇治今在家町字東賀集落
敷地面積　932.77㎡
建築面積　261.45㎡
延床面積　337.57㎡
構造規模　W、2F
工　　期　1998年１月～1999年３月
最 寄 駅　近鉄線五十鈴川駅
撮　　影　滝田良彦（SS名古屋）



敷地は、伊勢神宮・内宮の森と五十鈴川に面した眺めの良い場所にあり、川に沿った杉林から風がわたって来ることから「杉風荘」と名付けられた、オーナーの公私にわたる来客をもてなす為の建物である。
計画は、この恵まれた環境を最大限に生かして、「日本の古き良き環境の再現」をテーマに、遊びごころに溢れた「もてなし空間」の創出に努めている。
古い石積みを利用して造られた、軒の低い長屋門を潜り抜けた訪問者は忘れかけていた日本建築のスケールに出会う。玄関脇の土間と一体になった板の間では、囲炉裏の前に座り太格子の間から庭の草花を見ながら、湯茶の接待を受ける。大座敷は、墨塗りの造作と柿色の砂壁で宴席に似つかわしい華やかさを表現した。座敷の外にめぐらせた土庇は、借景としての神宮の森と室内をつなぐ役割をはたし、川風や季節の移ろいを肌で感じられる空間となっている。全てが、もてなしの空間でありながら、消えつつある古き良き「日本家屋の文化」を再現したいとのオーナーの高い見識により創りだされた。外観の計画では伊勢地方で「世古（せこ）みち」と呼ばれる狭い路地の風情や伊勢の町屋建築としての特徴を待ちながら、軒先や入母屋周辺を銅葺き屋根とした「さらし軒造り」で日本建築の美しさを表現した。

（宮野　裕／竹中工務店設計部）

大座敷



▲配置図・1階平面図　1：600



▲2階書斎



▼1階土庇

1階囲炉裏の間▼





三重県科学技術振興センター保健環境研究所

設　　計　三重県総務局管財営繕課、浦野設計
施　　工　鴻池・角田・服部特定建設工事共同企業体
所 在 地　四日市市桜町3690-1（鈴鹿山麓リサーチパーク内）
敷地面積　8,113㎡
建築面積　4,638㎡
延床面積　9,734㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1997年11月～1999年４月
最 寄 駅　近鉄湯の山駅、桜駅



大曽根社会保険事務所

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　ヒメノ
所 在 地　名古屋市東区東大曽根町28-1
敷地面積　1,575.30㎡
建築面積　676.65㎡
延床面積　1,892.77㎡
構造規模　RC、3F、P1F
工　　期　1998年12月～1999年10月
最 寄 駅　地下鉄名城線大曽根駅、JR中央線大曽根駅、名鉄瀬戸線森下駅、大曽根駅



東浦町歴史資料館（うのはな館）

設　　計　篠田川口建築事務所
施　　工　五洋建設名古屋支店
所 在 地　愛知県知多郡東浦町大字石浜字藤塚地内
敷地面積　2,366.00㎡
建築面積　736.49㎡
延床面積　999.72㎡
構造規模　S、一部耐火構造、2F
工　　期　1997年11月～1999年８月
最 寄 駅　JR武豊線緒川駅下車於大公園前



メニコン本山社宅

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　安藤建設名古屋支店
所 在 地　名古屋市千種区日和町２丁目10番１，２
敷地面積　471.36㎡
建築面積　141.35㎡
延床面積　499.98㎡
構造規模　RC、3F、B1F
工　　期　1998年２月～1999年１月
最 寄 駅　地下鉄東山線本山駅



ウッドフレンズ八事展示場

設　　計　ウッドフレンズ設計室
施　　工　ウッドフレンズ
所 在 地　名古屋市昭和区八事本町16
敷地面積　9,696.33㎡
建築面積　197.26㎡
延床面積　276.72㎡
構造規模　W、2F
工　　期　1999年３月～1999年７月
最 寄 駅　地下鉄八事駅



帝国データバンク名古屋支店ビル

設　　計　鴻池組名古屋支店一級建築士事務所
施　　工　鴻池組名古屋支店
所 在 地　名古屋市中村名駅５丁目1703-2
敷地面積　528.93㎡
建築面積　463.94㎡
延床面積　2,160.64㎡
構造規模　RC、5F
工　　期　1998年10月～1999年８月
最 寄 駅　地下鉄桜通線国際センター駅

特集　越中・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ―

東海特集の地方シリーズもこれで7回目となります。今回は、「まちのかお」プロジェクトや、活発な文化的施設づくりで注目を集めている富山県を取り上げます。これらの事業は、海外の建築家による施設づくりを通じて、地域にある種の国際化を意識させる。また各地の固有の風土・文化の伝統を新たに育む、文化の拠点づくりを行おうとする。富山県は種々の“住みよさ”ランキングでも常に全国の上位で、夢のある地域というイメージも広がる。果たしてその背景は？施設づくりの面からその一端に触れられればと思う。富山県は富山湾と北アルプスの立山連峰の間に開ける富山平野を中心に、四方へ広がりを有する。西部には散居村で名高い砺波地方、能登半島のつけ根の氷見・新湊、北東部のホタルイカで有名な滑川や黒部等、西と東では随分とその風土・文化や気風も異なるといわれる。そうした地域性が、公共の施設づくりの中でどう生かされてくるのか、検証出来ればと思う。

取材で訪れた12月中旬の富山には、雪の白さがない。運転手の話では、“最近は積雪も少なく、屋根の雪下ろしなどは今の子供は殆ど経験がない”と。こうした気候の変化に倣うという訳ではないが、富山県は建造物文化財の数（69件）では全国有数とか、歴史と伝統の厚みを感じるお国柄ですが、そこに海外や中央の設計者による施設づくりがどう反映していくのか、地域の独自性を保ちながら上手に変化していかれるものか、興味がわくのです。

この特集には、お忙しい中、御執筆をいただきました皆様をはじめ、多くの方々の御支援・御協力を頂きました。深く感謝申し上げます。

（東海支部特別編集委員会）

【序文】
富山の伝統的な生活文化／奥野達夫

【地域文化振興のための施設づくり】
受け継がれるものと新しい施設づくりの流れ／柏樹正樹
小杉町文化ホール「ラポール」／寺岡伸清
氷見市海浜植物園／船場健治
富山市のまちづくり／佐野仁郎

【施設づくりと海外の建築家】
まれびと―外国人建築家―がもたらしたもの／坂林根則
協力設計者から見た海外建築家／松元親司

【施設利用と地域文化・経済の発展】
地域の文化の発展向上に―大島町絵本館／絵本館エンジェルス会員
鱒すし「源」／北野俊二

【地域の作品紹介と施設の運営・管理】
新湊市博物館／内井昭蔵
変化と開放感のある、個性派博物館―新湊市博物館／竹内伸一
・
季節観光から通年観光へ―ほたるいかミュージアム／小森　忠
ほたるいかミュージアム／トム・ヘネガン
・
大沢野健康福祉センター／ワークステーション
健康づくりの拠点として―大沢野町健康福祉センター／山本貴英
・
人と出会う街、チューリップと出会う街―チューリップ四季彩館／野村　猛
チューリップ四季彩館／栗生　明
・
大島町絵本館＋ふれあいパーク／長谷川逸子
感じる、つくる、伝える―大島絵本館／岡本昭彦

富山の伝統的な生活文化

奥野達夫

知られざる富山の風土

各種の全国アンケート調査の結果で、富山の住みやすさがいつもトップになる。自然の豊かさでも本州一、世帯別収入でも東京についで2位。何よりも家の立派なことでよく知られているが、そのわりに存在感が薄い県である。「経済」のことを指すエコノミー：Economyのecoは、ギリシャ語で家のこと。つまり家を管理する意味である。越中・富山の風土を理解するには、家へのこだわりを考えることで、かなりその姿が見えてくる。

富山はコンパクトにまとまった、小さな県である。そして何でもありという不思議さがあって、訪れた人を魅了する。特に地勢からくる自然環境の特徴から来ている。

例えていえば、富山県の形は、とんでもない巨人が日本列島のまんなかに、日本海に面してどんと「腰掛けた跡」に似ている。左に能登半島、ちょっと右手に佐渡島、膝から下にあたるところがいきなり1000メートルの深い富山湾になる。右のお尻の跡が富山平野、そして右後が3000メートル級の立山連峰になる。左のお尻の部分が砺波平野と射水平野に相当する。その中央に細く呉羽山丘陵が走り、県東部を呉東、県西部を呉西と呼んできた。西と東とではずいぶんと気質が異なる。

北東に向けて開かれた富山湾は起伏に富んでいて、暮れには脂の乗ったブリ、夏にはマグロが回遊してくる。急に深くなっている300メートルの深層水には神秘的なホタルイカ、宝石と呼ばれるシロエビ、そしてベニズワイガニ、バイ貝などのまさに味覚の宝庫である。

その一方で、大陸から日本海を越えて吹きつける季節風は、屏風のような立山連峰に遮られて、年間3000ミリを超す雨と雪をもたらす。そのため黒部川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川など名だたる急流と七大河川が、狭い富山平野と砺波平野に集中して、氾濫をくりかえしてきた。湿った重い雪がふりつもる長い冬。そして春先のフェーン現象による乾燥した南風で、大火が町をひとなめにする。住むにはなんとも条件の良くない環境である。そんな風土から、富山ならではの生活観が醸成されたのであろう。

植生度の豊かさと、四季のメリハリがはっきりしているために、動植物や人間にとっては、多彩で緊張感のある自然環境である。

小矢部市の桜町遺跡で出土した、4000年前の縄文時代の食文化と建築部材の数々は、各方面に衝撃を与えた。食材の多彩なことや加工技術から、縄文人の食卓の豊かさが証明された。また、建造物の仕口に、1000年前が最古と思われていたワタリアゴの技法が使用されていて、建築史を塗り替えさせることになった。縄文期にはすでに高度な生活文化が存在していた。

奈良時代の天平18年（746年）に、大伴家持が越中国守として高岡市伏木に5年間赴任し、歌宴を催しながら越の風土を愛でて、万葉集最大の223首を詠んでいる。太刀山（立山）の雄大さや、可憐なカタカゴの花を、井戸水を汲む乙女たちの姿にかけた秀歌がある。越の国は大和朝廷から見て、政治・経済面から北方経営の重要な拠点であり、対岸の渤海国より大陸の情報・文化を吸収する交流の窓口でもあった。（**写真1**）

戦国動乱の時代、越中富山はまさに戦場と化した。農民は苦しい生活のなかで、来世の極楽浄土に希望を託して真宗王国を築く。一向一揆の激しい抵抗を経て、戦国武将の佐々成政が支配した。さらに前田利家を初代藩主とする加賀藩の治世が300年続く。

寛永16年（1639年）に加賀100万石の支藩として、前田利常の2男利次が独立し、神通川を中心とした10万石の富山藩が生まれる。加賀藩は外様の雄藩であるが、それを支えた越中は二重構造の支配を受けることとなった。生活のつつましさと、自己表現を抑えた県民性はこの影響が大きい。（**写真2**）

「越中国立山に地獄あり」とすでに平安期には都でも知られていたが、その立山信仰の布教のために、立山曼荼羅絵巻が描かれて、全国に旦那場を決めて農閑期に出開帳された。開山縁起や山中地獄、女人救済などを絵解きし立山参詣を勧めた。守り札や経帷子をくばり翌年代金を回収するというシステムを作り上げ、越中売薬商法にも受け継がれたともいわれる。中世から近世にかけて、語りを通じて日本人に地獄思想啓蒙や娯楽の場をつくるという、生涯学習と観光キャンペーン活動を組織してきたことになる。

さらに、よく知られているように、越中売薬は300年以上の歴史がある。八尾の蚕の種紙の行商や、氷見の鏡研ぎ職人などとともに農閑期の出稼ぎとして発展してきた。単に薬を商うだけでなく、歩くメディアとして、情報の提供と収集を組織的に行ない、北前船などを利用して、全国に流通ネットワークを広げた。明治に入りその情報と資金力で、銀行をつくり、電力会社を興した。（**写真3**）

あの厄介者で富山の貧しさの源であった豪雪と暴れ川はエネルギー資源に姿を変えて、一気に日本海側随一の工業集積地となる。膨大な電力を使うアルミ産業が立地したのもこのときである。

民家のミュージアム・富山

民家でもっとも目立つのは屋根の形である。近年ほとんどが瓦葺きに変えられてしまったが、それでも茅葺き屋根があちこちに残されている。（**写真4**）

日本の民家の屋根型は、大別すると入母屋、寄せ棟、切り妻の3種類があり、それらの中間型として片入り母屋、半切り妻がある。それらのすべてが富山県内に渦を巻いたように分布している。（富山県史民俗編・佐伯安一氏執筆）

一カ所には集められていないが、さながら日本の民家のミュージアムとも呼べそうな地域である。不思議なことに、その屋根のデザインと、その土地に住む人たちの気質に、なぜか共通した相関関係があることに気がついた。こんな狭い県なのにである。以下、地域ごとの特徴を見てみたい。

富山・射水平野の入母屋

県内で一番多い形で、棟の線が水平。破風の煙抜き穴も小さく、寄せ棟に近い。屋根の角度も60度で正三角形という急傾斜なのは湿って重い雪を落とすためである。茅は湿気が大敵である。

富山県のほぼ中央部で、住民の気質は「控えめであっさり」している。加賀藩の分家ということで、万事派手を嫌い官尊民卑の傾向が強い。言語学者の山田孝雄や、金融業の安田善次郎のような、刻苦勉励を絵にかいたような努力の人が育っている。

富山市は戦災で97%が焼失したこともあって、人間関係にしがらみが薄く、伝統や古いものにこだわらず、新しい事業などにすぐ反応するところがある。

下新川の入母屋（写真５）

県の東部、新潟寄りで立山連峰と富山湾が近い地域である。民家の屋根は棟がピンと反り、直線的な美しさがある。廃村になったが上市町の奥地、伊折は剱岳のふもとの集落で、小ぶりながら茅葺き民家が密集しており、日本の民家を描きつづけた洋画家の向井潤吉さんが好んで題材にしていた。

黒部川扇状地など水害の多かった地帯で、早くから北海道や北方領土などへ移住した。50年前からファスナーで世界へ進出したYKKのふるさとでもある。少々「粗削りで、行動的」な気風が強い。

実質を優先するところがあり、いわゆる「越中の混ぜ葺き屋根」も散見する地帯である。家の骨組みがしっかりしているので、主屋根の茅葺きを残したまま下屋を広げる。そのとき次々と別の材料で葺くので、瓦、石置き屋根、トタンが混在しても平然としている。まさに家とは暮らしの容れ物というのが実感できる。以前に、新聞の企画でこの混ぜ葺き屋根の写真を、黒川紀章氏に見せたところ「私の美学です。書きましょう。」と原稿依頼を快諾されたことがあった。（写真６）

氷見の入母屋（写真７）

能登半島の付け根に位置する氷見の民家は、能登式といわれるゆるやかな45度の傾斜の屋根を持っている。そのため棟も短くなり、きゅっと引き締まった形が、背景の竹林とあいまってやさしい。京都から滋賀県、福井県に見られるデザインであるが、なぜか加賀を飛び越えて伝わった。

風俗、習慣に加えて、言葉遣いなども能登に共通するやさしさを感じる。忍者ハットリくんの作者、藤子不二雄Ⓐ氏の出身地。

砺波平野の寄せ棟（写真８）

散居村で知られた地帯の民家である。杉を主とする独特の屋敷林に抱かれたような家が、約100メートルの間隔を置いて散在する。棟全体が、丸みを帯びた柔らかい線でまとまっている。県内ではここだけが寄せ棟である。

加賀100万石を支える穀倉地帯であったことから、金沢文化の影響が強い。「人当たりが柔らかく、本音がわからない。」と評される。芸術文化に対する感性を大事にする風土で、戦後の農地解放や日中国交回復に生涯をかけた松村謙三を育んだ地である。

砺波平野とアズマダチ（写真９）

県内全般に見られ、特に砺波平野に現在最も多いのがアズマダチと呼ばれる、瓦葺きの大きな切妻妻入りの屋根である。明治以降に茅葺き屋根を瓦に切り替えるとき「屋根をおろす」と言って、間取りと骨格をそのままに葺いた。

妻側の桁、束を格子に組み、白壁と調和させた。すべて東の方向を向いていて、東の山腹から眺めると、散居の緑に対して、白い大


写真１　万葉の花　カタカゴ

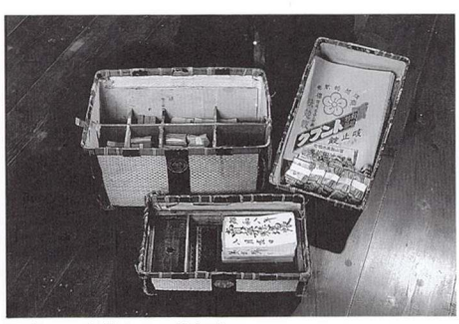

写真３　売薬さんの柳行李＊


写真５　上市町・伊折の民家


写真２　富山城


写真４　保存された砺波の民家


写真６　新川地方のまぜ葺き屋根＊

きな破風が朝日に輝いて美しい。名称に諸説があるが、東(アズマ)に向けて建つから、アズマダチのように思える。

東のYKKに対して、この県西部は高岡市を中心に、三協アルミをトップにアルミ建材メーカーが集積している。砺波地方や新川地方の季節風は強烈である。その防風林として立派な屋敷林が生まれたが、日当たりがよろしくない。枝降ろしとともに歓迎されたのがアルミサッシである。新興の地場産業が真っ先に、地元でテストをしたようなものである。**(写真10)**

世界遺産の五箇山・切妻合掌造り(写真11)

庄川上流の五箇3村は、平、上平、利賀であり、合掌造り集落が隣の岐阜県白川村とともに、世界遺産に登録されたことで一躍注目を浴びることになる。

天に向かって合掌するかのような巨大な茅葺き屋根と、三角形の妻側へ3段に入れられた、五箇山和紙による白い障子の幾何学的な構成の美しさが、ここを訪れた人に強烈な印象を与える。

一年の約半分を雪に閉ざされ、かっては加賀藩の煙硝(火薬の原料、塩硝と称していた)の隠れ生産地であり、和紙、養蚕などの仕事場をすべて取り込むため、このような大屋根と明り取りの窓が必要だったのだろう。大家族が住むためとも言われてきたが、飛騨白川と違ってそのような事実は無いようだ。

中心になっているのは囲炉裏で、煮炊きや家族のだんらんのほか、養蚕のための暖房、濡れた桑の葉の乾燥、そしてなによりも茅葺き屋根の保存である。北陸は梅雨が二度ある。もう一つは冬の湿気であり年中いろりの火を焚くことで、茅や藁縄の乾燥と虫を防ぐ生活の知恵が込められている。**(写真12)**

屋根雪を降ろすのは並大抵のことではない。3～4メートルの積雪は珍しくないが、この急傾斜の大屋根のこと、夫婦で一日がかりでも六分の一がやっと。一巡したら、前に除雪したところに前と同じ量の雪がたまっている。

屋根材料の茅の確保、屋根葺きの人手や技術の伝承など、合掌の家の維持管理は、地域の共同体(結い)でなんとか継承されてきたが、個人の力ではもう困難な時代になった。

厳しい自然環境では村民どうしが助け合う、よき共同体意識と結束から、「思いやりとたくましさ」が自然に育まれる。都会へ出てもよく働き、人柄が評価されて大成する人が多い。合掌の大屋根のようなおおらかな性格といえようか。

また、家の大きさに負けず劣らず立派なのは仏壇である。富山県全域に共通しているが、殊に五箇山地方のはひとまわり大きい。五箇山全域が浄土真宗で、心のよりどころとして、この地の信仰心の厚さを象徴している。財産としても高価で、家が没落したときなど仏壇を売りに出して、当面の危機をしのいだ。

以上、駆け足で多様な富山県の茅葺き民家(農家)の屋根と、その地域に住む人の特性を紹介してきた。

毎日眺める険しい3000メートルの立山連峰の姿と、屋根のかたちが呉東の人たちのストレートな性格に投影され、また1000メートルに満たないゆるやかな山並みと、やわらかいデザインの屋根の呉西ではソフトタッチの性格が培われるような気がする。そこに長年住んでみないと分からない、微妙な違いである。地域の数だけそんな文脈がある。

データに見る、富山の住まいへのこだわり

平成11年版の新国民生活指標(経済企画庁)よると、“住む”とい

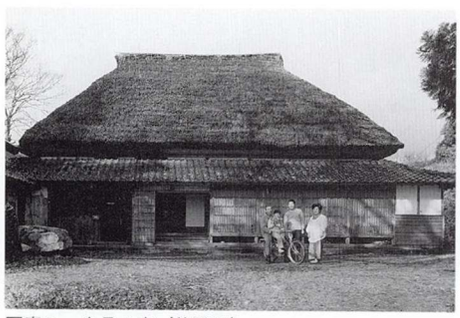
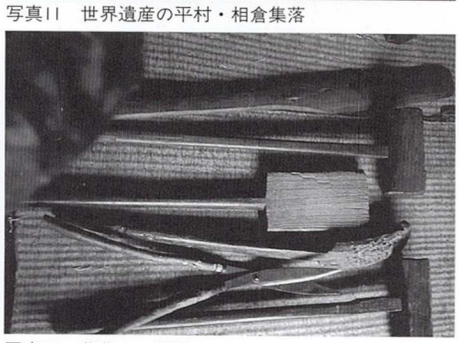

写真7　氷見の家(能登型)＊


写真9　アズマダチ＊


写真11　世界遺産の平村・相倉集落


写真8　砺波平野・福光の民家


写真10　アルミサッシの取付け(昭45頃)＊


写真12　芽葺きの道具

＊撮影　風間耕司氏

う23指標は昨年に引き続いて全国１位となった。内容を項目別に見ると、１人当たり畳数（１位）、持ち家比率（１位）、誘導居住水準以上住宅比率（１位）、１住宅当たり敷地面積（３位）、最低居住水準以上住宅比率（３位）等が上位となっている。

大伴家持ゆかりの地だから、「大きさを伴う家を持つ」と富山の特徴をたとえることもあるが、本来、富山の家は昔から大きかったわけではない。米作と兼業で、付加価値の高い越中・富山の薬売りの行商や、80年前ころからの工業化がもたらした、豊かさの結果である。（富山県統計課『富山がわかる本』ほか）

また、一代でとにかく住める家を建てて独立し、二代目は白壁で仕上げ、仏壇、欄間と揃える。三代目には蔵を持つ。その頃には屋敷林も体裁が整うことになる。三世代同居が普通で、家族ぐるみで働き続け、100年かけて家を完成させるのが、みんなの共通する夢であった。そして、つい近年まで町では、結婚する前に家を建てなければお嫁さんの来手がなかったのである。

普段はつつましく暮らしながら、冠婚葬祭には大金を使う。それも自宅で大勢のお客さんをもてなす必要もあった。持ち家率の高さは、米の単作地帯のため土地への執着心が強く、大都市からも遠いので、人の流動性が少なかったこともあろう。

そのためか、今住んでいる住居の敷地を所有している世帯の比率が最も高いのも富山である。（１位、76.1%国土庁）

バリアフリー化の指標では、家が大きいので、廊下などが車椅子で通行可能な幅の住宅割合（２位）はわかるが、道路から玄関まで車椅子で通行可能な住宅割合（47位）は極端である。これは、敷地に接している道路から玄関口までのスロープの有無の指標で、全国の最下位という不名誉なデータである。その理由は、積雪、梅雨、高温多湿の夏などからの湿気対策が、住宅の耐久性を保つために基礎を高くした（１位、40センチ以上率94.5%、）ことと、例年繰り返されてきた洪水への備えから来たものである。

そのほか湿った大量の雪対策として、住宅の柱や梁は太く、管柱12センチ角以上使用率（３位、68.1%）、雪の圧力にも割れにくく、耐凍結性にすぐれた黒い釉薬を塗った粘土瓦屋根率（２位、80.2%）や、雪囲いや雪止め瓦を使うなどの生活の知恵が、至るところに見られる。

富山の景観デザインのこと

世界遺産は、自然遺産と文化遺産とに大別されている。その両方を兼ねそなえ、しかも実際に人が生活しているケースは極めて稀である。それだけに、平村の相倉集落、上平村菅沼集落の合掌造り民家群の保存は、登録前もその後も、住民の苦労は大変である。

町並みでも、高岡市の鋳物の金屋町や土蔵造りの町並み、越中おわらの八尾町、瑞泉寺と木彫りの井波町など、富山らしい景観保全のために、地域住民の熱意で息の長い取り組みが続けられている。

その土地の環境に溶け込み、それこそ「まちのかお」ともいうべき民家のデザインを決定したのは、名も無き住民であり、施主である。たとえば、能登型民家の氷見からやってきた技術者集団の大窪大工が、五箇山では合掌造りの家を建てている。

近年では、住民主導でコーポラティブ・タウンが富山市呉羽の梨園のなかに誕生した。春の花盛りのころ、富山にもこんな等身大で気持ちのいい住宅地があったのかと意外に感じる。

また、ＪＲ富山駅前の再開発に際して、都市景観会議が持たれたことがある。施主と設計責任者、県と富山市の都市計画担当者、都市計画アドバイザーが同じテーブルを囲み、それぞれサイン計画の提示とそれに対する改善案が述べられ、議論が重ねられた。結果、３つの大型テナントビルが同時に建設され、個性を主張しながらも、駅前の新しい調和のとれた公共空間が誕生した。敷地内と公道の路面タイルのデザイン調整にまで気配りされた。

その一方で、公共建築やモニュメント的な建造物の中に、どの角度から眺めても、そこに住む人や利用者が不快感を持ったり、さらにはそこに勤務する人に同情したくなるような“作品”が多いように感じる。もっと甚だしいのは規制緩和による、最近の郊外の大型量販店の進出ラッシュによる都市景観破壊である。周囲の環境とは無縁の、不気味な原色のサインと壁面は、毎日それを避けて通れない住民にとって、耐えがたい苦痛である。

設計デザインにかかわる人は、確とした信念をもって取り組んでいるのはよく理解できる。しかし、問題なのは、そのデザインがどのようなプロセスを経て決定されたかである。発注者の側、住民の意識に、かっての民家のデザインを選択したような、風土と環境へのこだわりと、美意識も含めた感性のパワーが失われつつあるように思えてならない。

今から40年前、東京から一人の写真家が富山へやってきて、この風土に魅せられて永住を決意した。コマーシャルフォトを本業としていた風間耕司氏である。（'99富山広告協会クリエーター大賞を受賞）平成３年10月、岡田順一氏らとともに「富山写真語り・万華鏡」を創刊、多くの支援者を得て、2000年１月まで97号の誌齢を重ねた。私も71号より岡田氏からバトンタッチして編集に協力しているが、内容は、富山の風土で次世代に残したい、写真による記録である。特に民家や、近代化遺産の建造物、民俗文化に関するものがテーマとして大半を占める。

その中で、万華鏡がとりあげて保存運動がおこり、決定したものも幾つもある。たとえば、戦後福光町に疎開をしていた、版画家の棟方志功の旧屋や、鏝絵の名人竹内源造のなまこ壁などである。

一地域の小さなメディアではあるが、地域から発言することの大切さを痛感する。そして現在を切り取り、記録する写真の力は大きい。その土地の記憶している証しを次世代へ残す作業が、新たな風土づくりと、創造の源泉になって欲しいと願うものである。

（おくの　たつお／富山民俗の会会員）

受け継がれるものと新しい施設づくりの流れ

柏樹正樹

昭和38年４月、組織改正により営繕課が建築課より分離独立して現在に至る。県有施設の設計、監理、調査等が主な業務である。この間、約40年近い歳月の中で富山県における県有施設の内容も確実に変化しており、まさに時代の一端を伺うことが出来る。

その建設にあたり、公共建築はあらゆる事態に対処すべく市民の生命、財産を守る宿命を持っており、併せて地域の人たちや通りすがりの人々に文化とうるおいを与えるものでなければならないと思っている。

各時期の主な特徴を挙げると学校、教育施設等は別として、昭和40年代には、各種の試験場、総合庁舎、青少年の家等が建設された。50年代はスポーツ公園や県民公園の整備、産業振興の面から工業試験場等、新設高校の建設、60年代は職業訓練関係施設や福祉関係、平成に入り植物園類、福祉関連施設、情報関連施設、国体向け体育施設、美術館、女性センター等も整備され又、古い時代の公共施設の改修計画が生じている。これら公共建築物はその地域の文化的、先導的な役割をも担っており今もその流れは受け継がれている。ここで最近完成したものを紹介し、タイトルの意図するところを知って頂ければ幸いです。

「富山県立山博物館」は展示館と遙望館の２棟と屋外施設まんだら遊園で構成されている。展示館は富山県のシンボルである立山の自然と歴史や文化を総合的に調査研究し、紹介する施設である。遙望館は立山祭事の中心行事であった布橋潅頂会を映像体験し、その最後に遠く立山そのものを一幅の絵のように望むことが出来る施設である。この２棟の設計は磯崎新アトリエを中心に行われた。屋外施設まんだら遊園は立山曼荼羅等を具象化した実にユニークなものである。これらは昔、僧坊（修行僧の宿泊施設）のあった所で建設され、今や立派な観光スポットになっている。

「富山県総合運動公園陸上競技場」は2000年とやま国体の主会場として建設された。国際競技の流れを先取りし１周400ｍの９レーントラックを採用。あるいは大型表示盤の映像装置の設置など最新の施設整備となっている。収容人員は３万人で、建設場所は富山空港近く、設計は曽根幸一・環境設計研究所である。今年度は同所で膜構造の屋内グランドを建設した。

「こどもみらい館」は児童、幼児向けに年齢等に応じた適切な遊びを体験させたり、あるいは簡単な工作などの実践を通し、情操教育を行う施設です。設計は環境デザイン研究所で県民公園太閤山ランド内に建設された。

「立山カルデラ砂防博物館」はアルペンルート（弥陀ケ原）に隣接する常願寺川水源部の立山カルデラでは、80余年も前から今日まで、わが国を代表する治山・砂防事業が行われてきた。この営々と続く事業は、富山平野に生きる人々の安全を確保し、土砂災害等から富山平野を守り続けて行くであろう。この立山の大自然の営みと人間の努力・英知たる治山・砂防事業、いわば「知られざるもう一つの立山」を紹介している。設計はプロポーザルにより建築研究所アーキヴィジョンである。

「富山県工業技術センター生活工学研究所」は時代の変化と要請のなかで生活者を中心にしている新しい産業群を捉え、かつ既存の歴史ある繊維産業を基礎としながら新しい生活関連産業を育成、技術支援することを目的とした施設です。人間工学、生活科学等の新しい技術を取り込み、いち早く企業に根付かせるなど、生活者の視点に立った製品の開発等を推進する拠点にとの発想で計画されたものです。設計は日本設計である。



富山県水墨美術館

「富山県西部体育センター」は先に富山市に富山県総合体育センターが完成しており、国体に向け西の地域でも体育振興の拠点施設が必要との要請により建設されたものである。東畑建築事務所の担当である。大アリーナ、中アリーナ、トレーニング施設は県が施工し、室内プールは砺波市が分担して建設した。

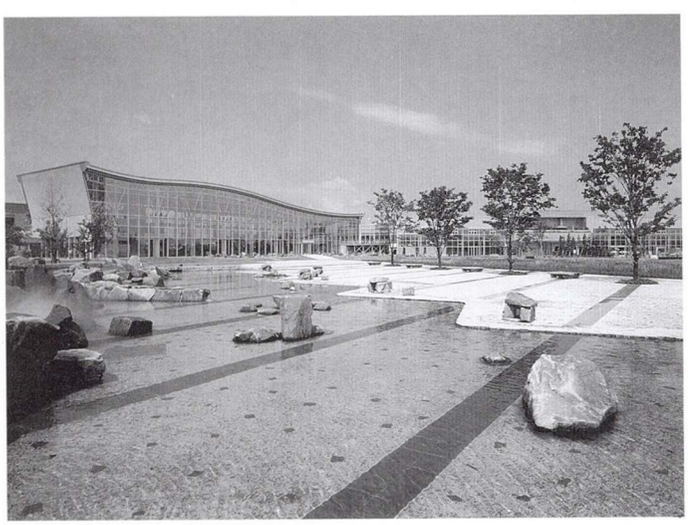
「富山県水墨美術館」は、その名のとおり水墨画など日本文化特有の美を鑑賞できる和風美術館である。茶室が併設されており日本庭園のしつらえで静謐な環境を創出している。和風ということで屋根の瓦にこだわり、寄せ棟で若干のむくりとか越屋根を付けること等、外観についても充分に検討されている。県では先に富山県近代美術館を建設しているが、日本画を鑑賞する雰囲気に相応しい施設が欲しい等、ニーズに答えるべく建設されたものである。より質の高い暮らしの実現を図ることも行政のなす施策となってきたようである。建設場所は富山市五福地内、設計は富山県設計監理協同組合である。

「富山県国際健康プラザ」は健康づくりを支援する施設です。他県でも健康づくりに取り組んでいるが、本県は家庭配置薬(和漢薬)で300年に及ぶ歴史と伝統があり、これらを生かし、他では真似のできない特色のあるものにしようとの発想で計画されている。すなわち和漢薬と東洋医学を組み入れ、健康増進に役立てることを研究し、情報発信するための施設である「国際伝統医学センター」、健康づくりの学習と情報提供の場としての「生命科学館」そして身近な健康づくりの体験、実践の場の「健康スタジアム」の3つの建物と屋外施設で構成された総合的に健康づくりを考えている施設です。設計は指名コンペにより久米設計が担当した。

「富山県総合福祉会館」は高齢者対応の施策の必要性をきっかけに従来からの福祉関係施設の建て替え需要もあって計画された施設です。地下2階地上7階の建物である。先ず、ホールを組み込んだ建物は普通であれば主に構造上の理由から最上階に設けますが、ここでは1階に設けられている。利用面、避難面からは最良の位置と言えます。3階までの低層部と5階から7階までの高層部を分け4階は屋上庭園にしています。また、低層部と高層部の平面的軸線を約13度ねじっており、そのねじることにより低層部のホールにも光が入り込むよう大掛かりなトップライトを設けています。建設地は昔、舟を連結して橋としていたため地名を船橋と言いますが、そのことを思い起こすようにと建物の外観は船に帆をかけたようなフォルムになっていて、新しい福祉の船出をとも意味付けています。設計は指名コンペにより池原義郎・建築設計事務所が担当した。

上記が近年、完成した大型施設です。昨今の財政事情の停滞に伴い新規事業は伸び悩んでいるなか、新しい課題として昭和の経済成長期に建設された施設の老朽化に伴う既存施設の見直しも大きな課題です。また、阪神淡路大震災の教訓を受け、耐震補強工事が重要となっている。あの時、公共建築物の多くが災害救急拠点として立派にその役割を果たした姿は、これまで建設に携わってきた我々にとって大きな誇りでもあり、また、これからの支えともなったことは確かである。もうひとつは文化性導入事業である。昭和57年以降、県下56施設において整備を進めて来たが、既存施設の一部に文化的なファクターを加えることで、周辺環境等の整備を行い、公共建築物を地域の人たちの交流拠点とし、周辺地域に積極的に開放することで地域づくりに何とか貢献できるものと考えている。以上3つの事業が当面の仕事と思われる。

(かしわぎ　まさき／富山県土木部営繕課)


富山県国際健康プラザ


富山県総合福祉会館

小杉町文化ホール「ラポール」

寺岡伸清

私が小杉町文化ホール事業に携わったのは、平成二年四月からで、ホールオープンが、平成五年九月だったので、供用前に三年間仕事をしたこととなる。今から考えれば幸いだったと言えるのかもしれないが、五里霧中で随分辛かった思い出があります。

当時を思い起こしながら、小杉町文化ホールを検証してみようと思います。

当時の私にまず与えられたのが、設計者が芦原義信氏であるということ、東京の文化施設に研修に行くことになっているということ、用地買収がまもなく終わりそうなところまで来ていること等でした。

いずれにせよ、町がかつて経験したことのないスケールの仕事として既に動き出しているという緊張感だけは十分に伝わってきたという覚えがあります。

芦原義信先生に設計をしていただこうと考えたのは、文化施設に対する期待が、町のシンボルとして二十一世紀の小杉町の誇りとなるようなシンボリックな公共施設でありたいという考えのもと、町内の専門家や関係機関の助言をいただいて決定したところです。

ある種小杉ランドマーク的な要素を併せ持つ文化ホールへの期待は、当時の町長だけでなく、幅広い町民の共有したものであったと思っています。

一方で、私たちの文化施設は「町民の文化活動の拠点」として町制施行百年という記念すべき年に着工することを目指してきた経緯がありました。総じて行政ニーズとしては当然こちらのほうが大きく、町芸術文化活動者とも数多くの打ち合わせをする機会がありましたが、彼らの多くは決して施設のシンボリックな面ではなく、活動の舞台としての使い勝手への期待から数多くの意見を述べました。

建物としてのシンボル性とホール機能としての使い勝手は、いろんな局面において相対立するところがあり、当時の私の仕事は、いわばそれら「二つの価値観の折り合いをつけること」が最も大切な仕事であったと思っています。

そのような問題を抱えながら、舞台の実際を見るために、東京にある中野サンプラザに研修に行ったことは随分有益でした。

まずなによりも、舞台関係の日本の草分け的な職員に私たちの計画設計図を見ていただき、各種コメントをいただけたことがありがたかったと思っています。

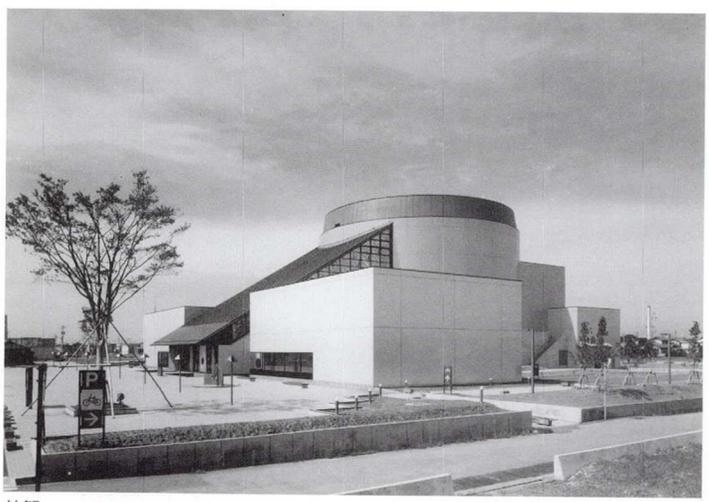
私たちも、各種参考文献の学習、先進他市町村施設の視察等町の一大プロジェクト計画実施に相応しい検討を続けてきたつもりでしたが、あくまで机上の検討であって、実際に舞台を何十年経験した方の指摘は当時素人であった私などにも随分分かり易く、数多くの利用者側からの視点を導入できてよかったと思っています。

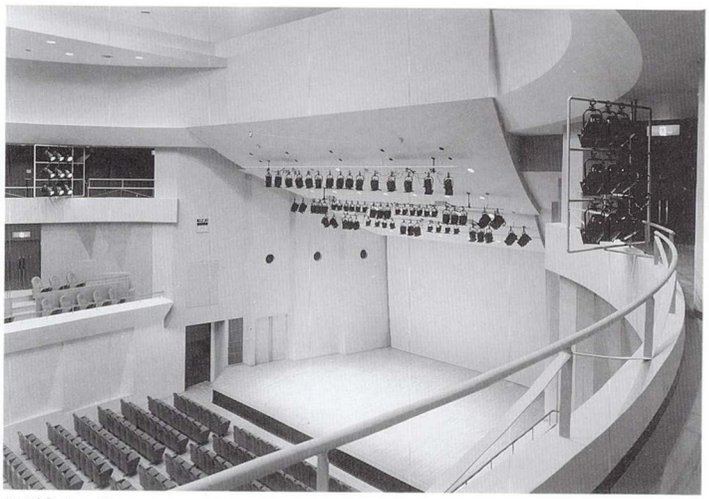
町内芸術文化活動者の使い勝手を求める声に専門性が付加され、設計事務所と協議をするうえで極めて有益な意見を伺うことができ、ありがたかったと思っています。

その意見を基に同じ東京にある芦原設計事務所に頻繁に通い、意見交換をしながら使い勝手の要素を本町計画に加味してきた過程は私たちの文化ホールのために極めて有益であったと思っています。

小杉町文化ホールの平成十年度の稼働率は約80%で富山県内でも一、二を争う位置をキープしています。稼働率だけではなく当然稼働質も問われる文化ホール運営ではありますが、町民に鑑賞していただくためだけの施設ではなく、積極的に活用していただくための施設であるという認識が活かされていることに関係者の一人として大変嬉しく思っています。

小杉町文化ホールの特徴は県内唯一の音楽専用ホールにあり、そこではこれまででも「イムジチ合奏団」のような世界的な室内楽コンサート等一流のコンサートが数多く開催され、そのすぐれた残響効果等から「生音を聴く最適のホール」として絶大な評価をいただいており、その重厚な外観ともあいまって、小杉町のシンボル的な


外観


ひびきホール

ものとして広く県内外にまで認知されるようになっています。

一方で、地域芸術文化活動の拠点としての評価においては、創作町民オペラの開催等のビッグプロジェクトだけでなく、既存の芸術文化団体だけでなく、童謡を歌う会、児童コーラス、劇団等もホール建設を機に活動を開始し、数多くの町民参加で活気にあふれたホール運営がなされています。

小杉町文化ホールは、オープンから六年程度であり、まだまだ評価する段階までには来ていないとは思いますが、生活者の視点を大切にした文化施設づくりという点においては評価してもよいのではないかと思っています。

町に文化協会という芸術文化活動者による団体があります。彼らの活動は、舞台芸術、美術、茶道、華道などの生活文化にいたるまでの幅広い間口を持っていますが、それらの活動の拠点をこの施設に置き、事務局職員とともに切磋琢磨しています。

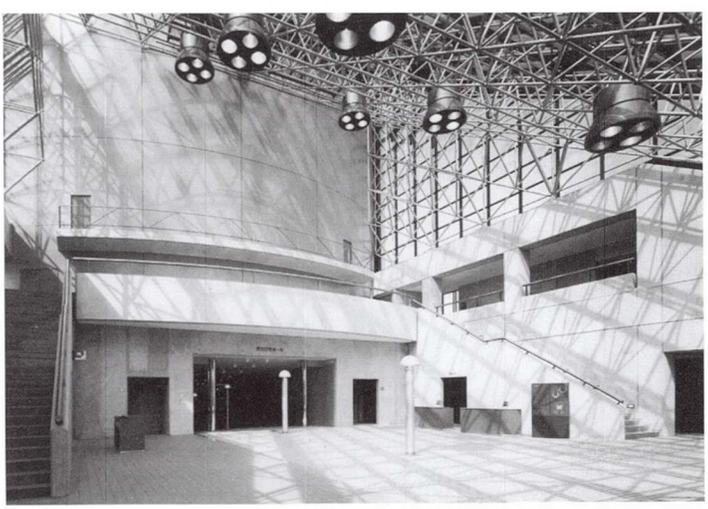
いろいろ問題はありますが、全て前向きに協議できる場としての文化ホールがあります。大切なのはここだと思います。

対話を活かしての施設整備、対話の価値を認めるホール運営が地方文化施設にとって最も大切なものであると認識しています。

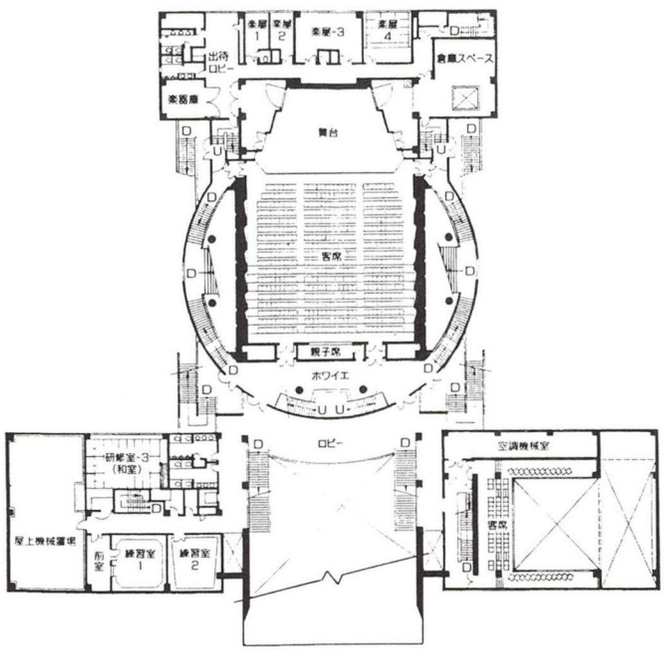
小杉町文化ホール施設整備においても、ともすれば行政と設計者だけの価値観で計画しがちな公共施設を利用者（今回の場合芸術文化活動者）専門家（サンプラザの職員）との対話の上で計画できたことがよかったと思っています。

小杉町には新たに図書館が建設されます。町民が誇りに思える施設であることと使い勝手に気を配ったものであることの要素は文化ホールの場合とほぼ同じだろうと思います。情報化、高齢化等時代の要請する価値観にも十分に配慮した「町民に愛される図書館」の完成を待ち望んでいます。

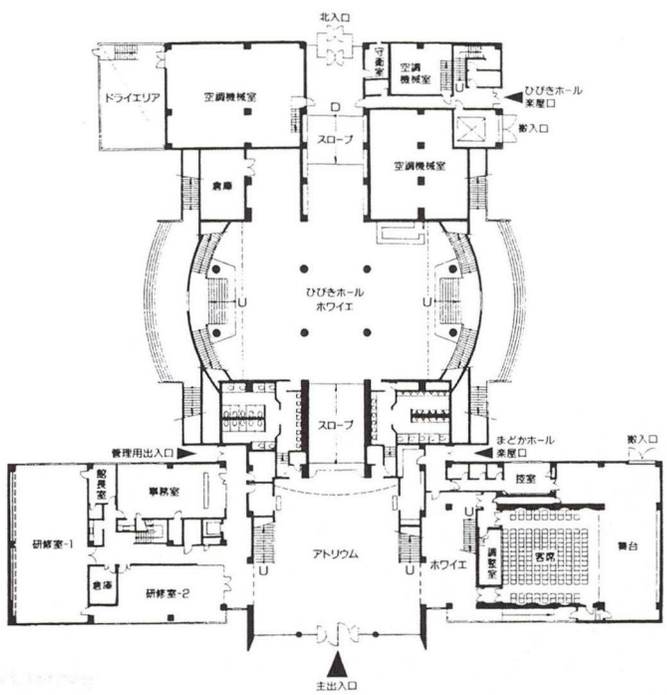
（てらおか　のぶきよ／小杉町企画課）



アトリウム



2 階平面図



1 階平面図

氷見市海浜植物園

船場健治

氷見市海浜植物園は、「富山県植物園構想」に基づき、海浜植物専門園として、また、氷見市の観光拠点として、万葉集にも歌われた風光明媚な自然海岸「松田江の長浜」で建設しました。

本園は、自然環境と周囲の景観に配意しながら、衰退の著しい当地の海浜植物の復元と育成に努めるとともに、全国各地の海浜植物を可能な限り収集展示し、海浜植物についての幅広い学習の場となるよう計画しました。

建物は緩やかな楕円形で一部4階建てとなっています。

設計監理は長谷川逸子・建築計画工房㈱によるもので、設計のコンセプトは次のような思いから始まっています。

『海は全ての命の源であり、地球上の生物はその起源を海に求めることができる。そのため、海に接する自然のままの海岸線はすべての生物にとって密接な関わりをもっている。その関わり方はさまざまであるが、海・海岸を介して生態系はすべてひとつにつながり、そして循環している。

つまり、人間と自然、人が生きることと植生との循環を本園に取り入れた緩やかな環状の空間を歩くことにより感じ取ってもらいたい。』

また、本園の展示施設は次のように構成されています。

温室園

水の干満装置を備えた約100平方メートルの水槽には、マングローブ類を代表するヤエヤマヒルギ、オヒルギ、メヒルギ等を植栽しており、環境に適応するため異常に発達した珍しい根の姿が観察できます。

また、熱帯・亜熱帯植物のヤシ類、ハイビスカス、ブーゲンビリア等の低高木やハマユウ、グンバイヒルギ等海浜下草も目を楽しませてくれます。

展示庭園

建物の中庭は、砂浜、砂礫、塩湿地、岩石の海岸を造形し、ツママ、トベラ等海浜の樹木や、ウンラン、ハマニンニク等の海浜植物を全国から収集し展示しています。

海浜散策園

海岸線の保安林の中には、ユリのエリア、キクのエリア、富山湾最大の島「虻が島」のエリア等7つのエリアあり、遊歩道や木道で結ばれています。このエリアを散策しながら、自生する海浜植物の観察や砂防林の機能や成り立ちが学習できます。

また、天気の良い日は、富山湾越しに立山連峰の素晴らしい景観が堪能できます。

メインホール・展示ホール

大型の壁画により植物の誕生や生態が学習できるほか、昆虫館では植物と深い関わりを持つ世界各地から集められた昆虫の標本、当市に生息する珍しいトンボの標本なども観察できます。

その他、2階のワークショップでは、ライブラリースペースで植物や昆虫の学習ができるほか、講習会や絵画展・写真展ができるギャラリー機能も備えられています。そして、4階のスカイレストランは、3面がすべてガラス張りとなっており、素晴らしい自然景観を満喫しながら食事ができます。

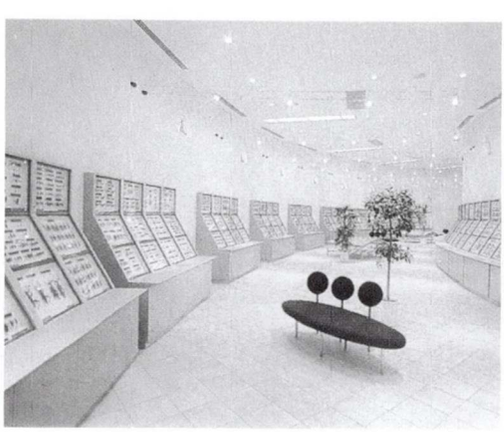
本園は「海浜植物」を中心とする専門植物園です。

海岸周辺の悪条件下で生き延びてきた海浜植物は生命力の強さ・不思議さの象徴であり、その適応能力をじっくり観察していただくことにより、植物ひいては自然や生命への認識や考察に、きっと新たな視点をあたえてくれるものと信じています。

（ふなば　けんじ／氷見市商工観光課）



外観


展示ホール


展示庭園

富山市のまちづくり

―芸術文化の薫り高い都市を目指して―

佐野仁郎

芸術文化のまちづくり

近年、大都市への都市機能の集中や地方の画一化が進み、次第に地方の個性が失われつつある中で、「地方の時代」にふさわしい、「顔」や「色」が感得できる個性的で魅力ある地域社会を創造することが重要な課題となっています。

また、経済の発展により、生活水準の向上や余暇時間の増大など、私たちの社会構造や生活環境の変化に伴い、人々の価値観は大きく変化し、「物の豊かさ」よりも、ゆとりや潤い、安らぎといった「心の豊かさ」を重要視するようになっています。

このような状況に対応して、本市では市民一人ひとりが「心の豊かさ」を実感できる富山市を創造するため、質の高い芸術文化に触れ、親しみ、さらには学び、創り、発表できる「芸術文化のまちづくり」を重要な施策の一つとして推進しています。

舞台芸術のまちとやま

本市では、「舞台芸術の振興」をテーマとし、特色ある文化施設の整備を通してまちづくりに取り組んでおり、その中核を担う施設として「富山市舞台芸術パーク」の整備と「富山市芸術文化ホール」（**写真１**）（愛称オーバード・ホール）を設置しています。

創作の場…富山市舞台芸術パーク

舞台芸術パークは、11万㎡の広大な紡績工場の跡地に、本市の新たな芸術文化の創造を目的とした公園として整備を進めているもので、音楽・演劇・舞踊・美術などに関する創作練習専用施設である「富山市民芸術創造センター」、高度な音楽文化を集積する「桐朋学園富山キャンパス」と「市民の憩いの空間としての公園緑地」を設置しています。

●富山市民芸術創造センター（**写真２**）

舞台芸術パークの中核を担うものとして平成７年９月に、旧紡績工場を市民芸術の創造の場として再生したもので、約8,000㎡に及ぶ工場の空間と鋸屋根の美しい景観をそのまま残し、リフォームしました。

富山市芸術文化ホールの主舞台と同等の規模と機能を持ちゲネプロを可能とする舞台稽古場を始め、リハーサル室、大練習室など合計41室を設け、いずれも十分な音響を施し、質の高い環境で創作練習ができるよう配慮しています。

今では、利用者が毎月15,000人以上にのぼり、「大きな音が出せる」、「仕事を終えてからゆっくり練習できる」と好評をいただいています。

創造センターは、芸術文化活動に情熱を傾ける多くの市民の創意と感性が集い・触発し・交流する「舞台」であり、「とやま」の新たな芸術文化を創造する拠点となることが期待されています。

●桐朋学園富山キャンパス

本市では、芸術文化の質的向上と市民芸術活動の振興、さらには専門的な芸術教育を受けることができる機会を拡充するため、芸術系高等教育機関の整備促進を図ることとし、国内外で評価の高い桐朋学園が持つ音楽教育環境に着目し、大学等の誘致を進め、平成７年９月に、オーケストラの奏者を養成する「桐朋オーケストラ・アカデミー」が、平成11年４月には、わが国で初めての音楽系大学院として「桐朋学園大学院大学」が開学しております。

発信の場…富山市芸術文化ホール

「舞台芸術とやま」を象徴する施設として平成８年９月に設置したもので、新たな芸術文化の発信場として期待されるものです。

現代技術の粋を集め、舞台や客席に可変機能を備え、フルサイズの奥舞台や側舞台をもつ三面半の舞台機構により大がかりな舞台芸術の表現を可能とするものです。

オープン以来、これまで鑑賞する機会が少なかったオペラやミュージカル、演劇などが上演され、市民の舞台芸術に対する関心が一層高まっています。

今後、それぞれの施設が、「舞台芸術のまちとやま」を創造する原動力として大きな役割を果たすものと期待しています。

（さの　よしろう／富山市建設部営繕課）



写真１　富山市芸術文化ホール



写真２　富山市民芸術創造センター（後方は桐朋オーケストラアカデミー校舎）

まれびと-外国人建築家-がもたらしたもの

坂林根則

――― ご担当されていた当時を振り返って、まちのかおづくり事業の狙いと、その事業の概要について簡単にご説明下さい。

まちのかおづくり事業は、平成4年の第1回ジャパンエキスポ富山を契機として生まれました。私は、計画課にいました平成6年から2年間、この事業を担当していました。

この事業は、住民自らが自分たちの住んでいるまちに対する認識を新たにし、地域の個性を生かした地域づくりを行うための取り組みを推進していくという考えから始まったものです。市町村が事業主体となり、海外の建築家が基本設計を、地元の建築家が実施設計を担当し、地域の1つのアイデンティティを建物やモニュメントといった形に表そうとするものです。この事業は、単に建築物をつくることだけが目的なのではなくそれをつくるプロセスにおいて、住民が外国人建築家とともに議論しながら、自分たちのまちの個性を新たに発見したり、再認識してもらおうというのが狙いです。

今でも、議論の的になっていますが、なぜ外国人建築家でなければいけないと言うことですが、この事業のコミッショナーとして事業全体に対する助言、指導をお願いしていました磯崎新氏は、この外国人建築家を「まれびと」という言葉にたとえています。「まれびと」とは、日本の古くからの言葉で、「むら」に外からやって来る見知らぬ人であると同時に、日常的な生活のリズムの中に、外から別種の人・ものを持ち込むことによって、同質なものの中で沈滞しがちな「むら」を活性化させるというものです。

住民は地域を初めて訪れる外国人建築家の目を通して、自らの地域の個性を建築という刺激を通じて再認識することができるのです。

また、併せて、外国人建築家と住民と議論をすることで草の根的な国際交流を図るという狙いもありました。

県の役割は、コミッショナーと市町村との仲介です。事業主体は市町村ですが、基本計画の策定に対して4,000千円、整備に対しては30,000千円を限度に、市町村に補助金を交付し、事業を支援してきました。

――― この事業に対して、住民の人達の反応はいかがでしたか。

正直言って賛否両論があります。外国人建築家の大胆な発想にためらう声もありますし、さすが日本人にはできない発想だという声もあります。しかし、こうした様々な反応があること自体が、この事業にとって重要な意味をもつことなのです。なぜなら、それは住民自身がまちづくりに興味を示し、自ら考えた結果だからです。新しいものというのは、いつの時代でも賛否両論があるものです。しかし、世の中を変えるのはこうした前衛的なものであり、この事業は、まさにこれまでの富山県をさらに飛躍させるための試金石であると思っています。そうした意味において、担当者個人としては賛否両論があるのは覚悟の上でした。

――― 事業を推進する上でのご苦労話しをご披露下さい。

私どもより、事業主体となった市町村には色々と大変だったようです。

外国人の建築家は、富山の気候、風土や日本の法律を十分理解していない面もあり、実際に実施設計をするときに、うまくいかない場合もあったようです。例えば、雪に耐え得るものにするために、最初の計画より柱を太くするなどというような話しをききました。

でも、得るものも大きかったようです。いい意味でも妥協を許さない外国人建築家との熱のこもった議論は、以心伝心という日本的な意志疎通のやり方では得られない本当の意味での国際交流にもつながると思います。また議論の中で、住民が日頃あたりまえに思ったり、気づかなかった個性が再発見されたりすることによって、住民が、地域の有する価値に対する認識を新たにすることができました。

建築行政という観点からも、とかく機能一辺倒で、デザインというソフトの部分を軽視しがちな建築に対する行政や住民自身の考え方の改革にもなったのではないでしょうか。

単に、建築物を一つの単体として整備するのではなく、周辺も含めた面的な広がりとして整備することの重要性を、行政は学ぶことができています。外国人建築家は、その建築が、周囲の中でどういう位置づけのもとに整備されるのかを考えた上で、計画を立てます。こうした手法は、田んぼの真ん中に忽然と立派な建物が出現するというこれまでの行政のやり方を変えるきっかけになるのではないでしょうか。

――― 事業の成果と今後の展開についてのお考えをお聞かせ下さい。

この事業は、建築家の間で非常に高く評価されていると聞きます。国内外の数々の建築専門誌等にも取り上げられましたし、平成7年には、日本建築学会文化賞を受賞しました。

このように、まちのかおをきっかけとして、事業に取り組んだ市町村の国際交流が推進されたばかりでなく、いろいろな方面からまちのかおに対する評価が寄せられることによって、国内外に向けてのイメージアップにもなりました。

こうしたことは、「市町村に外から人を呼び込むという形での交流に乏しく、また、勤労・生産重視でいささかゆとりや文化に対する関心や評価が低いともいわれる富山県にとって、これまでにないカンフル剤となる」と言われる方もみえます。

この事業が住民参加を大きな柱としているにも関わらず、必ずしもなされていない点もあります。住民自らが考える地域づくりを行うためには、住民が参加し、十分な議論を展開する場の確保が重要と考えます。

（さかばやし　もとのり／富山県高齢福祉課）

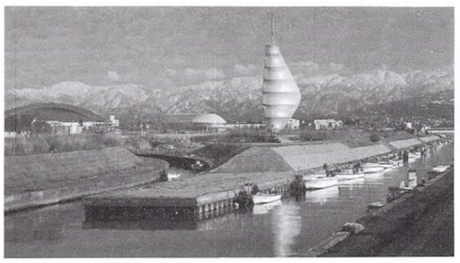
（この原稿は編集委員会からの質問に答えるかたちで、DeRu Kui JULY 1996創刊準備号に掲載の原稿を再編集して頂きました。東海支部特別編集委員会）

machi no kao TOYAMA

「まちのかおづくり」とは、そこに住む人々が地域を代表する場所を見いだし、「まちのかお」となる建物を建設するプロジェクトです。その場所にふさわしい機能やデザインで、さまざまなバリエーションが登場しました。

「まちのかお」の設計には、世界中の才能ある建築家が招待されています。外からの視点に触れることで、これまで気付かなかったまちの表情が発見できるかもしれません。

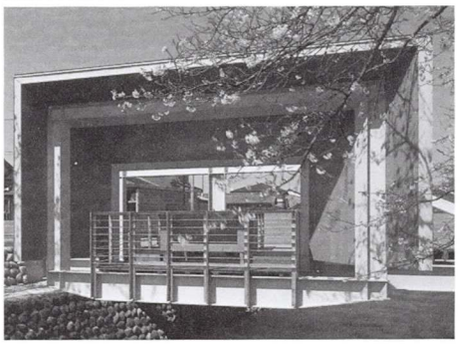
「まちのかお」は、あなたと世界の出会いから始まる、新しい地域文化の象徴です。



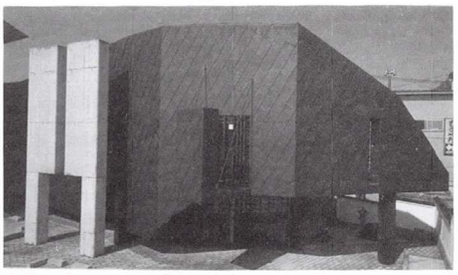
黒部市／風の塔



利賀村／利賀「道の資料館」



大山町／ささやき橋



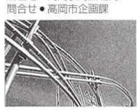
城端町／城端町史館「蔵回廊」

高岡市 | シンボルモニュメント

レールの軌跡を空に掲げたファサード。駅へ向かう道が列車のように滑りこむ。

デザイン●
エンリック・ミラーレス
富山県建築設計監理協同組合

所在地●高岡駅南広場内
問合せ●高岡市企画課



氷見市 | 十二町潟横断橋



仕掛網「アド」を蘇らせた橋。遠方の山並と呼応して自然と向き合う舞台になる。

デザイン●
カルロス・ヴィラヌエヴァ
マエダ

所在地●氷見市十二町
問合せ●氷見市都市開発課

大島町 | 時の館



真北をしめす壁に分割された空間で人は過去と現在が表裏一体であることを知る。

デザイン●
ゴードン・ベンソン&
アラン・フォーサイス
GA開発研究所

所在地●大島中央公園内
問合せ●大島町企画財政課

新湊市 | 東橋



日々の営みを映して流れる内川で東橋にたたずむ人々はひととき幻想へと旅立つ。

デザイン●
セザール・ボルテラ
創建築事務所

所在地●新湊市立町／八幡町
問合せ●新湊市企画広報課

滑川市 | ほたるいか展望台



海を隔てて立ちはだかる壁。やがて人はスロープの上で遥かに広がる海を発見する。

デザイン●
トム・ヘネガン
三四五建築研究所

所在地●はまなす公園内
問合せ●滑川市商工水産課

黒部市 | 風の塔

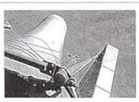


大海原を走るヨットの帆のようなタワー。風をとらえる翼の自由さで進路を示す。

デザイン●
ロン・ヘロン
富山建築研究所

所在地●黒部市総合公園内
問合せ●黒部市都市計画課

大門町 | 錦町バス待合所



空を舞う凧をイメージした赤い屋根。おだやかな日々に祭りの日の夢を演出する。

デザイン●
ロン・ヘロン
吉田建築事務所

所在地●大門字長割
問合せ●大門町企画財政課

宇奈月町 | 想影展望台



渓谷を飛ぶ鳥のようなフレーム。雄大な自然を無垢な心で受け止めるための存在する。

デザイン●
エンリック・ミラーレス
小林設計事務所

所在地●宇奈月温泉内
問合せ●宇奈月町企画観光課

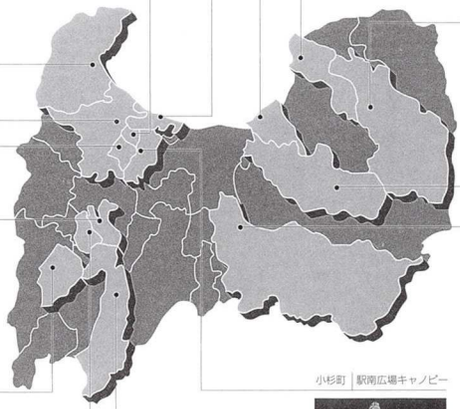
庄川町 | 舟戸公園ゲートと展望休憩所



山と川、公園。庄川の美を凝縮して立ちあがる建物は風景を切りとる現代の鳥居。

デザイン●
カルロス・ヴィラヌエヴァ
山本建築設計事務所

所在地●水記念公園向かい
問合せ●庄川町企画室



富山県まちのかおづくり事業 | 位置図

machi no kao map

城端町 | 城端町史館「蔵回廊」

現在が過去を語り過去が現在を刺激するような空間が町の新しい側面を描きだす。

デザイン●
ゴードン・ベンソン&
アラン・フォーサイス
鈴木一級建築士事務所

所在地●城端曳山会館隣
問合せ●城端町史館



井波町 | 井波彫刻総合会館



自然光がつくる光と影のハーモニーが、伝統的な寺院建築のしずけさを醸しだす。

デザイン●
ピーター・ソルター
東畑建築事務所

所在地●木彫りの里内
問合せ●井波彫刻総合会館

利賀村 | 利賀「道の資料館」



開かれた夏と閉ざされた冬。村の生活を背景に人と自然の新しい関係を語りかける。

デザイン●
セザール・ボルテラ
創建築事務所

所在地●利賀字東山
問合せ●利賀「道の資料館」

小杉町 | 駅南広場キャノピー



夕焼けを描いたキャノピー。宙に浮くテントの雲が人々の心を解放感でつつみこむ。

デザイン●
ロン・ヘロン
福見建築設計事務所

所在地●小杉駅南口
問合せ●小杉町企画調整課

大山町 | ささやき橋



滝のように駆ける水がふれあう音。水のささやきに耳を澄ますために渡る橋。

デザイン●
トム・ヘネガン
大日本コンサルタント北陸支社

所在地●常西合口用水
問合せ●大山町企画広報課

上市町 | ピーター・ハウス



季節を重ねる銅の壁と時を刻む木の手摺。この建物は時間によって完成される。

デザイン●
ピーター・ソルター
タムラ建築設計事務所

所在地●馬場島
問合せ●上市町企画調整課



氷見市／十二町潟横断橋



小杉町／駅南広場キャノピー

協力設計者から見た海外建築家

松元親司

井波町は、散居村で名高い富山県・礪波平野の南端に位置し、浄土真宗本願寺五代目法主「綽如上人」の建立による「瑞泉寺」の門前町です。町の背後には八乙女山が控え、時に２ｍ程積もる雪も降ります。また、春先には通称「井波風」と呼ばれる富山県でも有名な、瞬間風速25～50ｍ程の特殊な風の吹くところでもあります。瑞泉寺は幾度かの焼失・再建を経ていますが、そこから発達したといわれる「井波彫刻」は、京都の社寺建築の技法から始まったと言われ、その優れた技術と伝統は現在も300人程の彫刻士達に受け継がれています。井波町ではそういう歴史を背景にして、「木と彫刻」をテーマとした「地域（まち）づくり」が進められていました。「井波芸術の森」と言う名称のもと、隣接する「木彫りの里」とともに、木彫刻美術館、野外展示場、広場、アトリエ村などを一体的に整備する事業の計画策定が行われているそのさなかに「富山県・まちのかおづくり事業」の指定をうけました。「まちのかおづくり事業」は、富山県内の14の市町村が行うそれぞれの事業に磯崎新氏の言う「まれびと」たる７組の海外建築家が基本設計を行い、それをもとに地元設計事務所が実施設計を受け持つというものです。14市町村の中でも井波町のプロジェクトは、特に規模の大きなもので町の伝統である木彫刻展示の為の美術館です。

井波町のプロジェクトは、イギリスの建築家、ピーター・ソルター氏が基本設計を受け持ち、そのスケールと配置は「瑞泉寺」をモデルにデザインされました。最初に提示された基本プランは、町の条件を越える大きなもので寺院風・回廊形式の木造主体のものでしたが、それはプロジェクトに対するソルター氏の熱意と意気込みの感じられる、ＡＯサイズ程の大きな、かなり描き込んだ平面図でした。スケッチも独特な個性的なもので「一枚の絵」として、生き生きとその想いを伝えてくれるものでした。



散居村集落の眺め

さて、実現する上での問題は、面積にとどまらず法規制や構造、雪、井波風といった地域特性などにも及びました。コストについては、当初予算を５割程上回り、規模縮小や２期に分けて建てる方法も議論されたのですが特別委員会や町議会の理解と、町当局の熱意により解決できました。主体構造は、最終的にＲＣ造となるわけですが柱に梁が直接取り付かない所があったり、北陸独特の重くて粘りのある雪質の事や、特殊な井波風については、なかなか理解して貰えませんでした。

その様な色々な問題を、ソルター氏は一旦持ち帰るわけですが、日程はどんどん過ぎて行き、町の望む修正案はなかなか届きません。待ちくたびれて予定より４ケ月程遅れて修正案が届くわけですが、複雑な形に対する構造計算や設備方法について各担当者と急ピッチで内容を詰めていく事となりました。

ソルター氏を交えたある時の打ち合わせでは、真夏の役場で夜中の12時過ぎ迄、町の担当の方、コーデイネーターの方と、皆汗だくだくで詰めたこともありました。我々なら、へばる前にある程度妥協してしまいそうですが、ソルター氏は、トレードマークの雄ライオンの鬣みたいなロングヘアーをさらに振り乱して、なかなか譲りません。なんと忍耐力のある人である事かと感じました。またある時は、ソルター氏の平面図をトレースして屋内消火栓の包含ラインや配管ルートを描きいれて、隠す方法を問うと「わたしの図面に勝手な事をするな」ということで、これには困りましたがプロジェクトに対するソルター氏の思い入れと日本の法規制に対する戸惑いがあった様に思います。

ソルター氏のスケッチの中に、全体のシンボルとなる塔状の部分がありますが、これは北陸地方の、樹木を布で包み込んだ様な雪除けがデザインされたものらしく、関係者の中では、井波彫刻でよく彫られる天神様にも見て取れる事から「スーパー天神」とも呼んでいます。スーパー天神の背後に大きな木格子の衝立が「立て」られていますが、ソルター氏は「格子を通して、観る者の心で様々に見える事だろう。」と述べています。実際、芋虫であったり、けものの様であったり、誰彼となく「これは何だ」とよく聞かれましたが一定の物に決めてしまわないと気のすまない我々日本人との発想の違いを感じました。中庭から見上げる常設展示室の大屋根は、瑞泉寺から導き出されたもので、屋根の反りを一つのラインで表すのではなく、二つの違う勾配の屋根で表現し、さらに棟方向にも僅かにむくりをつけることで大きな屋根がさらに大きく豊かに見える事となりました。これにはさすがに感服しました。

内部のプランは、中庭を中心に大小の部屋が配置され、その空間

を狭めたり広げたりする事により観る者に次への期待の高まりを予感させるものです。結果として施設の管理運営を行う木彫刻組合から承認されなかったのですが、空調された部屋も小さな数室のみと提案されました。お寺の本堂のひんやりとした荘厳な空間がイメージとしてあり、そこには空調など不要であると考えられたのかもしれません。

建物を構成する材料についても素材を大切にしたい事から、木材、石材、コンクリートの地肌などが要求されました。雪国ですので当然結露対策上、断熱材が必要となりますがそれを隠すモルタルもプラスター系の白ではなく、できるだけコンクリートの地肌に近い樹脂モルタルで「OK」となりました。ところが欄間や彫刻パネルは住宅に設置するのを基本とされている為、コンクリート地の壁ばかりでも困るという組合の意向もあり、一部明るい土壁状の仕上げで承認となりました。また、床の一部には小石をちりばめた仕上げを施していますが、これは、ソルター氏が八乙女山に案内されて、上から見下ろした「散居村集落」をイメージしたもので、ヒントとして修学院離宮・隣雲亭の土間の一二三石がありました。展示室の所々には、木舞竹表しの壁がありますがソルター氏デザインの「大阪花博・フオリー」、「上市町・ピーターハウス」の木舞かきの手法とは異なり、向こうが透けて見えるのではなく「土塀の仕上げの土がはがれ落ちた状態」として木舞竹の間から土がはみ出した形になっています。裏に部屋がある為、打ち合わせの過程でこうなった様な気がしますがソルター氏の意識としてはまだきれいすぎるだろうとおもいます。

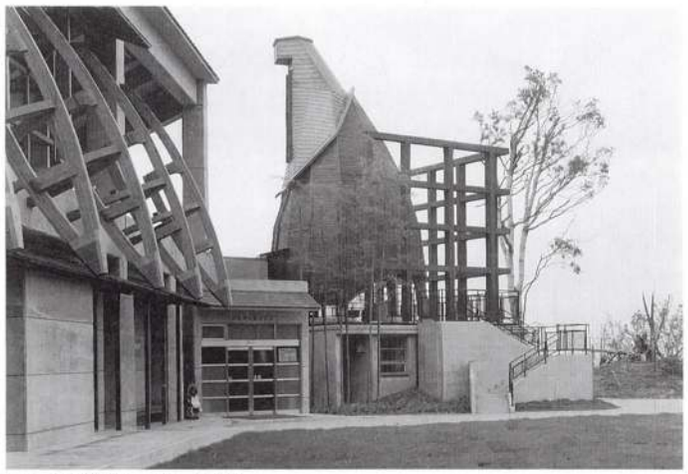
ソルター氏が他の本の中で「時間の経過と共に土地が形成されていくこと、物が朽ち、剝がれ、少しずつ動くこと」と語っていましたが、今の日本人が、急激な繁栄と情報化の陰ですっかり忘れ去ってしまった大事なことを言っている様な気がします。

井波彫刻の基本は欄間にあるとされています。欄間は光と陰で観るものです。ソルター氏は、自然光による空間の見え方に細心の注意を払い「陰の持つちから」を彫刻士と同じ視点で建物全体を彫刻と見立てたのかもしれません。

節のない板壁はつまらないし、色変化のない銅板も軽々しくて落ち着きません。年寄りの皺に味わいと物語りが有るように、建物も陽に焼かれ、風に吹かれ、雪に埋まり、ゆったりと時と共に変化していきます。この事が、(汚れていくのではなく) 物に重みを与え、愛着を持たせ、周囲の空気と土地の中にぴったりと納まっていくのだろうと考えます。ともすれば日々の忙しさの中で忘れてしまいそうな周囲の素朴な風景を、彼ら海外建築家達は、優れた感性と直感とでイメージしデザインしてくれました。

井波彫刻総合会館の場合、大きいが故の厳しい条件のもと、結果としては、ソルター氏自身の想いの半分も実現出来ていないかもしれません。しかし、振り返ってみますと井波町のデザインは、「ピーター・ソルター」氏その人でなくてはならなかったのだと、今更ながら想います。

(まつもと　ちかし／東畑建築事務所)


シンボル塔「スーパー天神」


全景（航空写真）


常設展示室


中庭


展示廊下

地域の文化の発展向上に
―大島町絵本館―

絵本館エンジェルス会員

絵本館ではボランティア会員（絵本館エンジェルスの会）が現在100名余り登録されている。会員は、個人で登録されている方、グループで登録されている方がそれぞれ自分のやりたい活動に進んで参加している。

この会はボランティアとして大島町絵本館の活動事業に、側面的に参加することによって、絵本事業の推進、地域の文化の発展向上に資している。

平成５年に発足した「こでまりの会」は、会員11名で紙芝居創作活動をしながら、エンジェルスの会にも参加。「大島町史」に載っている民話・昔話を参考に、紙芝居づくりから、上演まですべて自分たちの手づくりとアイディアで、おこなわれている。

このことは郷土を知る上で絵本館から地域の方々にしずかに浸透している。次の作品ができる事を楽しみにしている。

また、開館以来読み聞かせを中心に活動をしている「読み聞かせの会」の方々は、絵本館にある一万冊以上の中から絵本を選び読み聞かせをしている。月に１度研修会を持ち、読み方や、発音のし方、メリハリの付け方等々、いろいろな角度から意見交換しながらそれぞれ自己を高めるためるよう努めている。

また読み聞かせのもつ味を逸脱しない程度に舞台のうえでも読み聞かせを効果的にする工夫をしている。絵本館に来るお客さんは、年齢が定まっていません。赤ちゃんから、大人の方まで一緒に読み聞かせのコーナーに集まり聞きます。

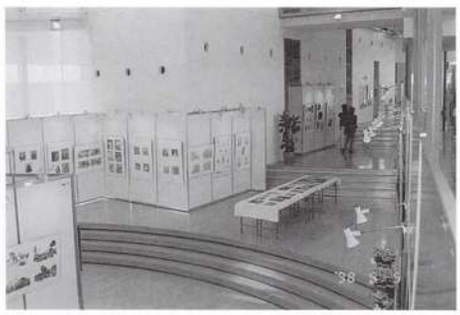
目を輝かせて見入るお客様、また、絵本の世界に入り込んで聞いてくれるお客様の表情を見ていると読み聞かせをしている私たちにパワーをもらう事ができるような充実した気持ちになれてとてもうれしい。

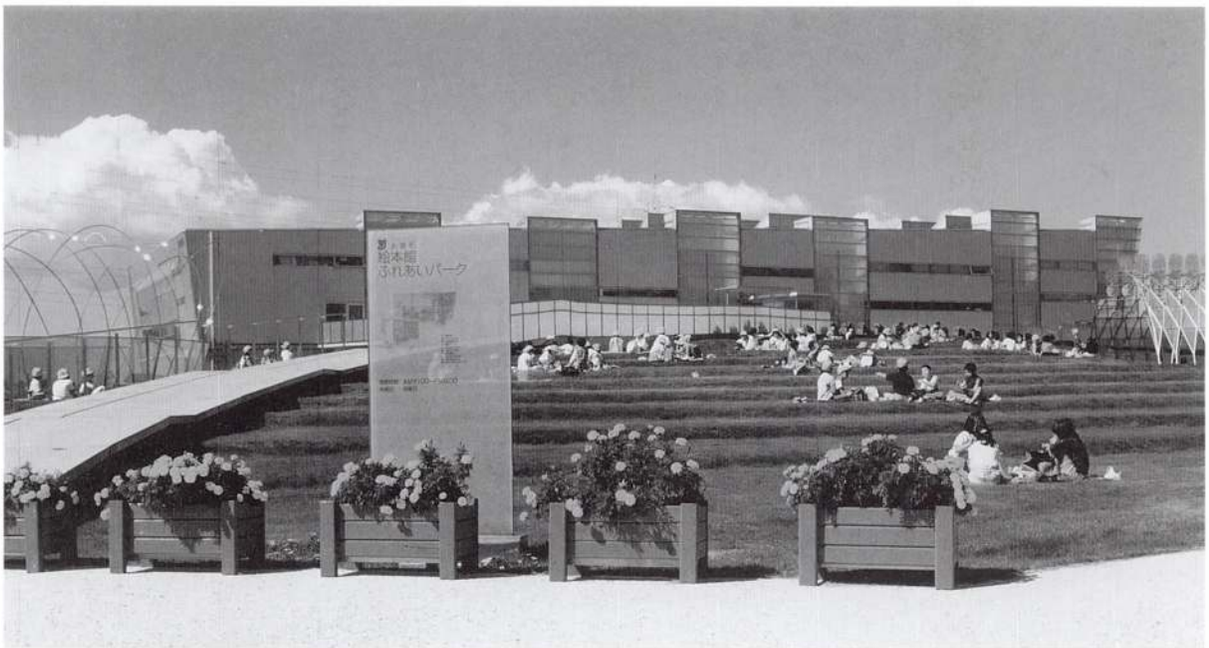
絵本館では、演劇や、ミュージカルなど上演するシアターもあり、200余りの座席がある。外国の絵本作家の絵本原画展との出会い、ここを訪れる皆さんと絵本との出会い、空想から創造へと心豊かに育んでいただけるようエンジェルスの全員が願っています。



ボランティア


ワークショップ（老人クラブ）


世界絵本原画展



絵本館ふれあいパーク

鱒すし「源」

北野俊二

この計画は富山テクノポリス開発事業のひとつである新保企業団地におしずしの製造から出発した食品会社「源」が業務の拡大に伴い、管理、生産、厚生、展示部分を含む本社工場を移転、新設することであった。中沖前富山県知事は工場団地ではあるが人々の観光に役立つようにと望まれた１人であったが、その望みは周辺の環境整備に伴い現実のものとなっている。21世紀を指向する工場という基本コンセプトに基づき、生産システム、管理システムが綿密に検討され決定されていったが特にこの計画では当初から「地域振興への貢献が明確に意図されたことがこの建物を大きく特色づける要因となっている。

このことを具現化するために設けられたのが展示ホールである。道路に面してアーチの架構で出来た大空間では古来のマス漁や、ますずしの製法、歴史、食の文化史から富山の文化まで、また、「源」の古くからのコレクション（石黒宗麿や中川一政の作品）も含めて幅広く紹介されている。さらに、1996年にはますずしの伝統的な製法を継承し、後々に伝えていくための「源伝統継承館」を増築した。

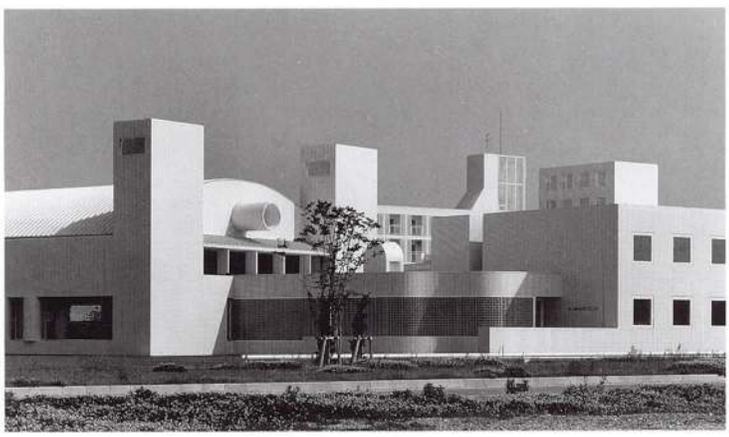
この内部には高山の古い民家の木軸組を移築しその中で古来のますずしの製法を実演、販売するという演出を行い、その展示内容をより充実させている。

全体の構成は４つの異った機能をもつ棟を独立させ、リニアーな展示スペースや庭や植栽を介して連結させていく形をとっている。

われわれはこの建物では出来るだけ〝かたち〟を求めることを心掛けてきた。そのあるべき状態によって導き出される建物の部分部分に向か原形となるような適正なかたちを見つけ出し、その〝かたち〟を出来るだけ正確に表現しながら全体像に近づきたいということであった。この建物に白を選んだのも、ここで生産されているますのすしの真白い米にちなんだわけでもなく，食品会社としての衛生感を表現したわけでもない。白い色は建物のかたちをまっすぐに現わしてくれるからである。

アルペン観光のルートになっている国道41号線に面し、北陸自動車道富山インターや富山空港に近く、今年国体のメイン会場になる県の総合運動場も近くにあるという恵まれた立地ではあるが今では年間25万人もの人々がこの建物を訪れるのは常に新しい企画を立案し実践されている「源」の企業精神があればこそである。一企業の地域振興へのひとつの関わり方として大いに評価されるものと考える。

（きたの　しゅんじ／永田・北野建築研究所）







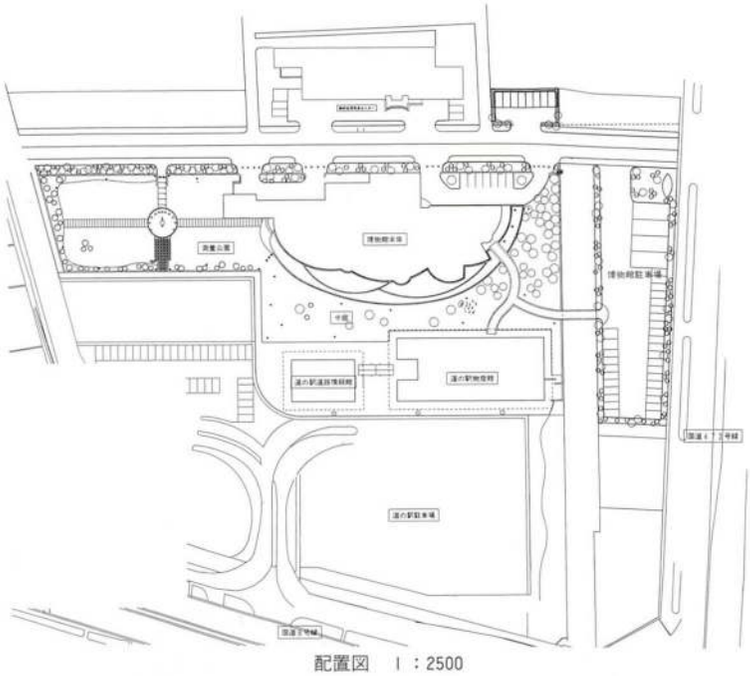
撮影　村井　修

新湊市博物館

内井昭蔵



南側外側部分



配置図　1：2500

新湊市博物館は新湊市出身、江戸中期に活躍した測量家・石黒信由氏を顕彰し、彼の測量図1200点余りを収蔵展示する博物館として建設されたものである。

この測量図は富山大学・楠瀬教授を中心とする調査団が研究整理したもので、1984年にに国の重要文化財に指定された。

石黒信由は1760年この地に生まれ、和算、天文暦学、航海術、絵図作製などの多彩な才能を発揮したが、特に測量図は同時代の伊能忠敬に比較しても正確さ、美しさは勝るとも劣らないといえるものである。

敷地は国道線沿いの農地を造成した平坦な土地で、前面には国道の高架橋が設置されている。全般的には特徴のない敷地であるが、敷地に隣接した場所に計画された道の駅「カモンパーク新湊」と一体的に設計することで、この場所に特徴と新しい性格をつけることができた。一方は国道に開かれた運転者の休憩と交通情報センター並びにショッピングといった賑わいと広域に亘る一般市民サービス施設であるのに対し、一方は博物館といった高度な文化施設であって全く異なる性格の施設の並立は如何なものかといった考え方もあったが、私はむしろ異質の施設の混在並立の方が両方の施設にとって有利であると思った。このような考え方は完成後の状況をみると予想通りの相乗効果があったといえる。

敷地の形状は東西に細長く、駐車場を考慮しても南面が長くなり、平面が納まりにくいという欠点があった。そのために長い南の外壁を曲面で構成し、全体に陰影を付けて変化のある立面を構成することを試みた。この曲面は地図の等高線をモチーフとしている。

外壁の仕上げ材は耐震性の強いセメント系左官材料を用い、乾く前に庄川産の紅石を特殊ガン吹きの上、表面を掻き落とした。

色彩は土地の土の色とか枯れ草色をイメージして周囲の自然とゆるやかに連続させることを意図した。

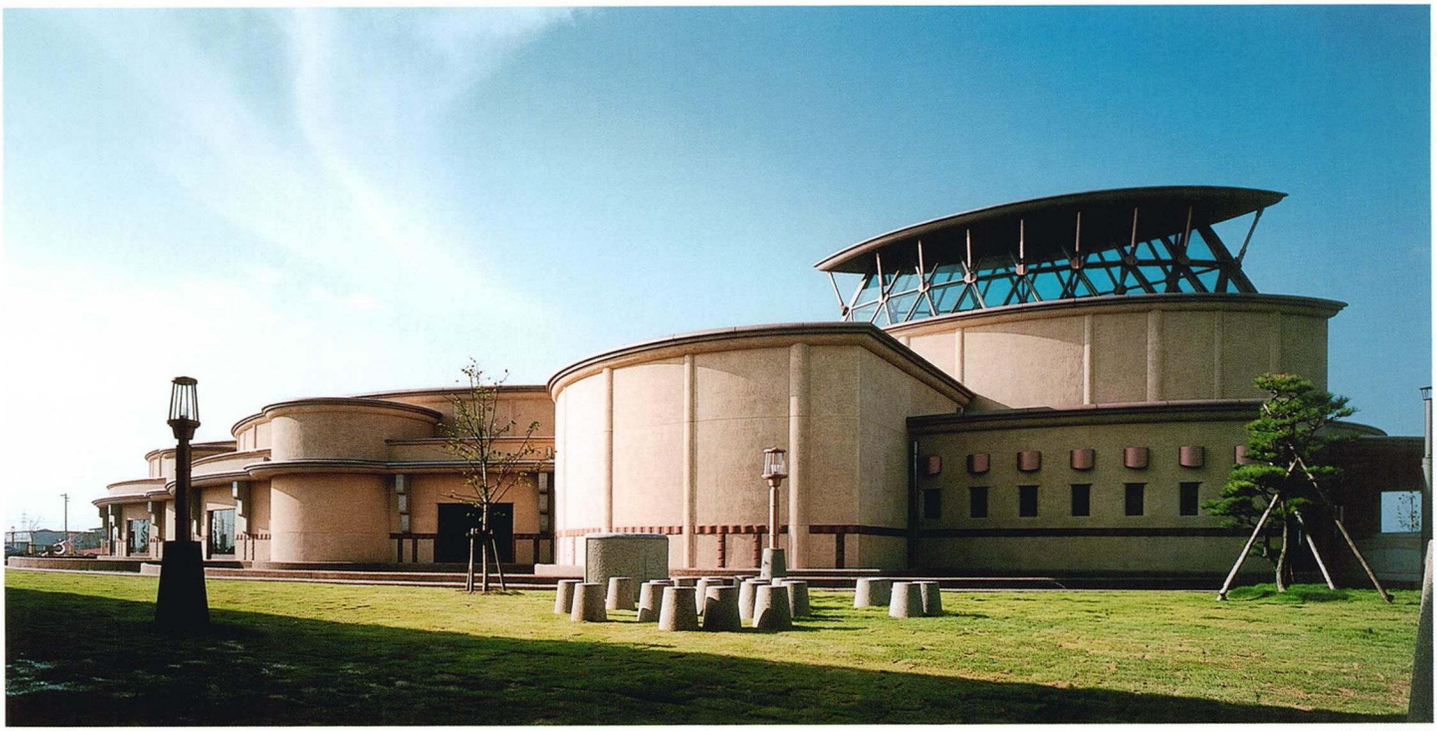
エントランスホールはランドマークとなるように透明ガラスによる塔状の造形とした。又、夜間の照明効果を考え、周囲にめぐらして外灯の造形と塔を連動させ、光環境の設計をしている。

内部の平面構成は南側に来館者動線をとり、展示室前には紫外線除けのブースをとっている。このシリンダー状のブースの天井には地元を代表するステンドグラス作家・大伴二三弥氏の作品を設置した。

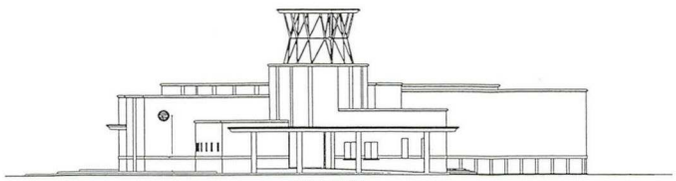
展示エリアは建物中央部に配置し、外光の遮断を図り、北側には博物館をサポートする諸室を配置した。

収蔵庫の一部は展示収蔵庫とし、希望する一般来館者に開放している。

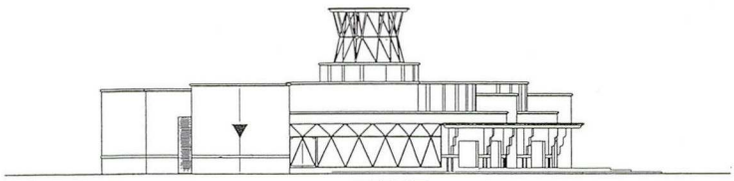
（うちい　しょうぞう／建築家・滋賀県立大学教授）



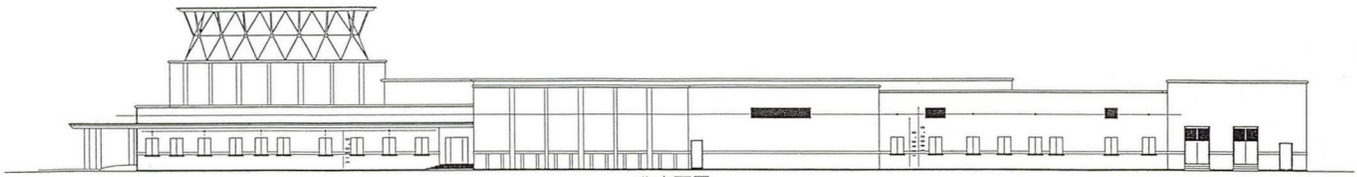
南側外館　　撮影　奥村浩司



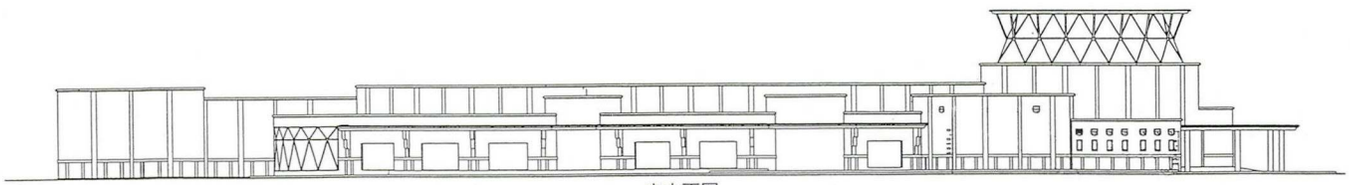
東立面図



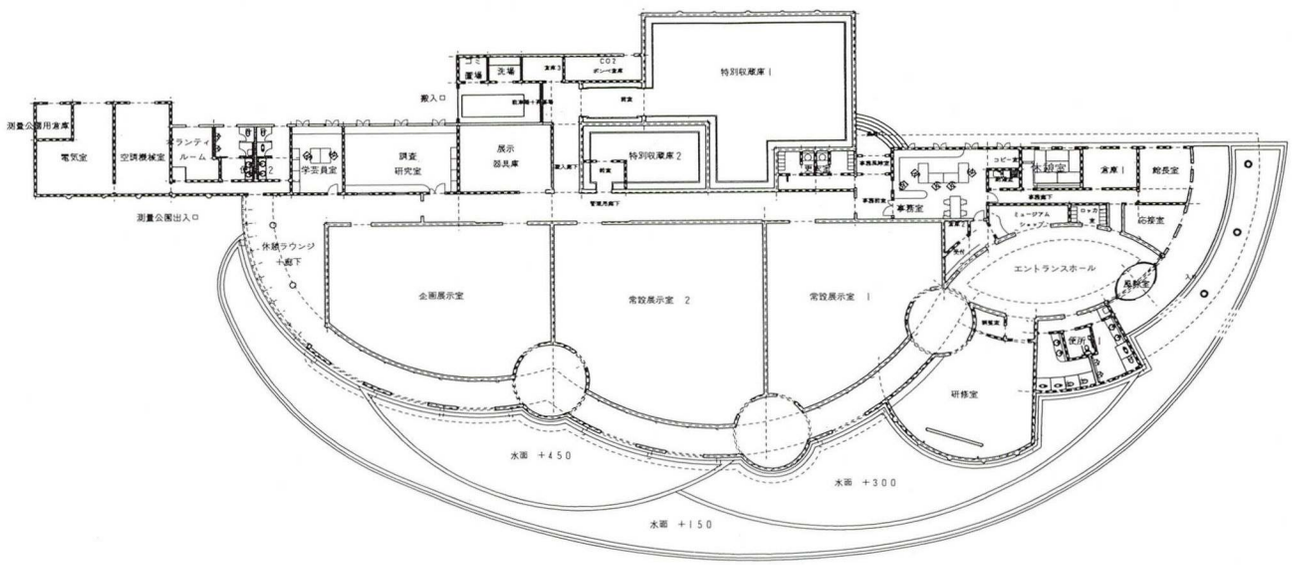
西立面図



北立面図



南立面図



平面図　1：600

変化と開放感のある、個性派博物館

―新湊市博物館―

竹内伸一

新湊市博物館は、隣り合う「道の駅・新湊」とほぼ同時にオープンして一年半が経過した。位置は、富山県の中枢地域を東西に貫く国道８号線と北陸自動車道小杉インターから北へ直進する国道472号線が直交する交差点に隣接している。

館を主体に「道の駅」とあわせて、平成11年度富山県建築賞協議会の最優秀賞、並びに県の「うるおい環境とやま賞」を受賞した。また、照明学会北陸支部より夜の光のアンサンブル等が評価されて照明普及賞もいただくことになった。

両施設の建築、環境造形や規模、グレードについては、市勢の力にみあうささやかなものであるが、同一設計者による一体構想ですすめられた結果、両施設の利用者にも館の管理運営者にとってもじゅうぶん満足のゆくものになったと思っている。

県内で最大の自動車交通量を有する国道８号線沿いには、率直にいってこれまで見るべき景観やうるおい建築空間がほとんどない状況であった。しかし新湊市博物館がオープンして一年余、入館者に感想を聴取してみると、予想外に好評であり、両施設の駐車場の利用量をみても、24時間、年間を通して県内既存の12のどの「道の駅」よりも多くなっているのである。

新湊市は、富山湾に面する人口４万弱の地方小都市であるが、中世にはすでに漁業、港町として史実に登場する。近世に入って渡海船による日本海交易が進展するが、新湊（古名は放生津（ほうじょうづ））はその有力な根拠地となっていた。

大正期前半、富山県の山岳地帯で大規模な電源開発が進行し、これに呼応して臨海部の新湊に中央大資本による近代工業が多数立地した。さらに戦後の高度成長始期には、海岸沿いの放生津潟を掘り込んで日本海沿岸最大の富山新港が造成され、工業的色彩の強いまちとして現在にいたっている。

博物館は市街の南郊、海抜０メートル地帯の低平な水田のただ中に立地している。

博物館の展示の中心は、江戸時代後期の人物石黒信由以下４代にわたる子孫が伝存してきた歴史資料一万二千点、内容は和算、測量、絵図類等の国指定重要文化財と陶芸部門・人間国宝第１号認定の石黒宗麿の陶芸品の二つの柱からなっている。個性派博物館といえよう。このふたりの石黒はともに新湊の出身で、それぞれその時代その分野におけるわが国の最高水準に達した学問の成果と芸術作品である。

以上のような諸背景と設計者の確固たる建築思想に裏付けられて実施設計がすすんでいった。この間毎週一回、設計監理者、施工者、市の三者によって可能な限りの時間をさいて、一つひとつの材料、部分、色などに徹底した議論が重ねられた。当地域の水郷的景観になじませながら（池の配置）建築としての必要な自己主張をいかに盛り込むか、また貴重な展示資料に照応する百年王国の堅牢でかついつまでも新鮮な感動を呼ぶ建築とは、と……。

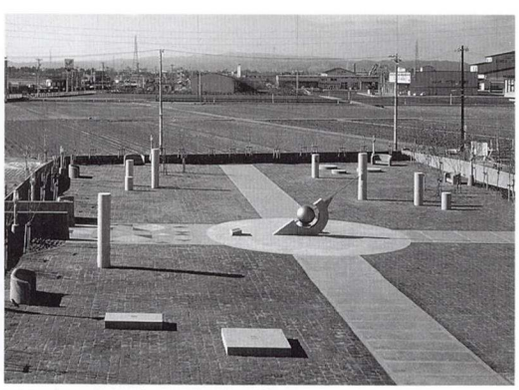
「うるおい環境とやま賞」の受賞に際し、すぐれたデザインとコンセプトを持ち、地域性、独創性にあふれている。地域のシンボルとしても住民にも親しまれている、と評され、また先に記した建築賞の評で金沢工大の竺覚暁教授は「概して閉鎖的になりがちな博物館という建築空間を、変化と開放感のある空間としていることが評価される。高低差をもち円柱状の柱型をつけた円弧状の壁面がぶつかり合い重なりあっている外観の構成は、庄川産の紅石の粉の吹き付けによるサーモン・ピンクの色彩および表面を掻き落としたソフトなテクスチユアとが相まって、親しみ深く快い感覚を醸し出している……エントランス・ホールの空間であり、吹き抜け上部の望楼状のトップライトは、作品にシンボル性を与えると同時に周辺環境に対するランドマーク性をあたえることに成功している」と。

いずれにしても、館としてはいささか困惑気味なのだが、入館者は展示ソフトよりも、先ず環境デザインに目をみはり、どっしりと重厚な建築、表情豊かな建築素材、そしてやさしさ、暖かさ、ゆったりした気分にさせてくれる建築空間に、目と心がゆくようである。

（たけうち　しんいち／新湊市博物館長）



パーゴラを経て左に「道の駅」に通ずる



測量庭園（博物館の西方に隣接）

所在地　富山県新湊市鏡宮299番地
設計監理　内井昭蔵建築設計事務所
　乃村工藝社
　感覚都市研究所
施工　佐藤工業・塩谷建設 JV
　森商事・山田住設 JV
　篠川電設工業・電協舎 JV
　乃村工藝社
敷地面積　9,396,73㎡
延床面積　1,980.26㎡
構造規模　RC　1階
工期　1996年６月～1998年７月
撮影　奥村浩司　他

季節観光から通年観光へ
―ほたるいかミュージアム―

小森　忠

青白く神秘的な光を放つ「ほたるいか」。
学名はワタセニア・シティランス。

彼らが光るのは、腕や皮膚の発光器を使って、敵を威嚇したりするためや、深海200～600mに生きる仲間とコミュニケーションをとるためだともいわれ、多くの謎につつまれた神秘的な生き物です。

春に生まれ1年でその一生を終えます。

滑川市と「ほたるいか」の関わりは、天正13年（1585年）頃にはすでに漁獲された記録が残されています。

明治45年に、観光事業を行うよう、当時の浜田富山県知事より勧められ、滑川市における「ほたるいか」観光事業がスタートした。定置網による「ほたるいか」漁の模様を屋形船による見学であり、天候にかなり左右され、欠航も多く、全国各地からの観光客も「ほたるいか」の光を見ずに帰る事もしばしばあった。

平成元年には陸上観光が試験的に行われる様になり、平成4年、まちのかおづくり事業により「ほたるいか」展望台の建設がはじまり、それを機会に「ほたるいかミュージアム」構想が持ち上がり、「ほたるいか」の陸上観光施設の指名コンペが行われた。

コンペの結果、トム・ヘネガン＋アーキテクチャー・ファクトリーの案が最優秀となり実施設計の運びとなったがハード面とソフト面（展示関係）との意見の食い違い等があり、かみ合わないまま工事の着工となった。

工事の進行と相まって、道の駅計画や、深層水体験施設の計画も実施の運びとなったが、それぞれ別々の設計者となったため当初の計画案とは多少異なってきた。

発光ライブショウを始め、映像、パネル展示等を通じて、幻想的な「ほたるいか」の魅力を立体的に引き出すとともに、「ほたるいか」、イカ類や光るさかなの生態学習の場として、市民に定着しつつある。

毎年3月～6月が「ほたるいか」シーズンとなる。

ミュージアム内やイベント広場において、食べるコーナ（大漁鍋、珍しいほたるいか料理）、参加コーナー（作品展示、ほたるいかのつかみどり、フリーマーケット等）、学ぶコーナー、その他「ほたるいか」の朝市や特産品販売等いろんな形での市民参加を主体として企画が実施される。

「ほたるいかミュージアム」は、短いシーズンのみ、海面を光りの渦にする「ほたるいか」の発光の神秘性と生態を一年を通じて来館者に見学してもらう、世界で唯一の専門の博物館であり、明治以来今日に至るまで、「ほたるいか」観光を展開してきたが、漁期に限定された季節観光から通年観光への脱皮をめざし、市民に定着し、愛される施設として地道に進みたい。

（こもり　ただし／滑川市教育委員会）



北川冬彦 詩



ほたるいかミュージアム

トム・ヘネガン

プロジェクトは「はまなす公園展望台」が建設された1992年に始まった。将来計画として隣接する敷地に、市の特産物である「ほたるいか」の博物館建設があったことから、展望台を海を眺める本来の機能の他に施設へのアプローチとしても考えた。また、当時の計画に沿って博物館のスケッチ・デザインを提案した.(計画案は1993年GAJapan05号に掲載された。)その後、市は電通の助言を受け入れてマーケットを併せ持つものへ規模を拡大する。1996年には六角鬼丈氏を審査委員長とした指名設計競技が行われ、私達が一等に選ばれた。

その案は、基本的には初期のスケッチ・デザインと同じ考えに則っている。海岸に細長く位置する、展望台の敷地と博物館の敷地を注意深く繋げて、統一された印象を持つ公園となるようにした。建物は、その連続性を遮らないように敷地に対して斜めに軸を持つ細長い円状の平面が中心となっている。外観は、展示されるほたるいかの一風変わった性質を表すように、窓が少なく静かで抽象的なものとした。

プログラムに新たに追加されたマーケット棟は、町のグリッド・パターンに追従して配置している。ミュージアム棟の軸が漁港を指し、外壁をカーブする海岸線に沿わせることで博物館が海の生態に関係していることを示すのに対して、マーケット棟は、毎日の買い物や、日常的な憩いの場となるべきであるという表明だった。展望台からボードデッキへ架かる太鼓橋は博物館の上階へアプローチするが、主入口は一階の広場からである。好天の日や祭事には広場へ向けてマーケットのガラス扉を開放する計画だった。広場に可動の露店を出して町の活気ある催しを行ったり、海岸への自由な行き来が可能になると思われた。残念だがこれは実現せず、部屋には自動販売機が置かれて、売店は窓際に固定された。

メインアプローチの変更も残念に思っている。池を迂回して施設への期待を高めるように設計したが、竣工後に池に橋が架けられた。多分ここを訪れる団体客は皆急いでいるのだろう。内部の展示計画や家具の選択は委任されず、広場北側に建つ深層水体験施設は他の建築家が選定された。

施設は、春先にここを訪れる観光客だけに提供されるのでなく、人々の日常に関わるべきでもある。旧い市街からはまなす公園、展望台、ブリッジを渡り博物館を抜けて、漁港へと海沿いを散策できるよう整備することもその一端と考えた。具体的にはミュージアム棟上階の情報ギャラリーを無料にするように働きかけて、公園を散歩してきた人がブリッジを渡って気軽に博物館へ入れるように配慮した。博物館を貫通するこの散策路は、一階のマーケットや広場へと続く。博物館の中心で市民の催しが行われれば、コミュニティの一部として機能するだろう。情報ギャラリーはそれが可能な場所である。今後そのようなプログラムがマーケットや深層水体験施設を含めて企画され成功されることを切に願っている。

竣工後すでに二年近く経った現在、博物館外壁の硬木は当初の茶色から、最終的になるべく予定された灰茶色へと変化し始めている。コンクリート、鉄、石、木は同系色に調和して、より微妙にそれぞれの素材の存在感を主張するようになるだろう。そして外観はより抽象的になる。一見すると現代的に、未来的にすら見える外観だが、素材の変化が「寂び」を訴えて過去から未来へ変わらず続いていく滑川の歴史を表せばと思う。

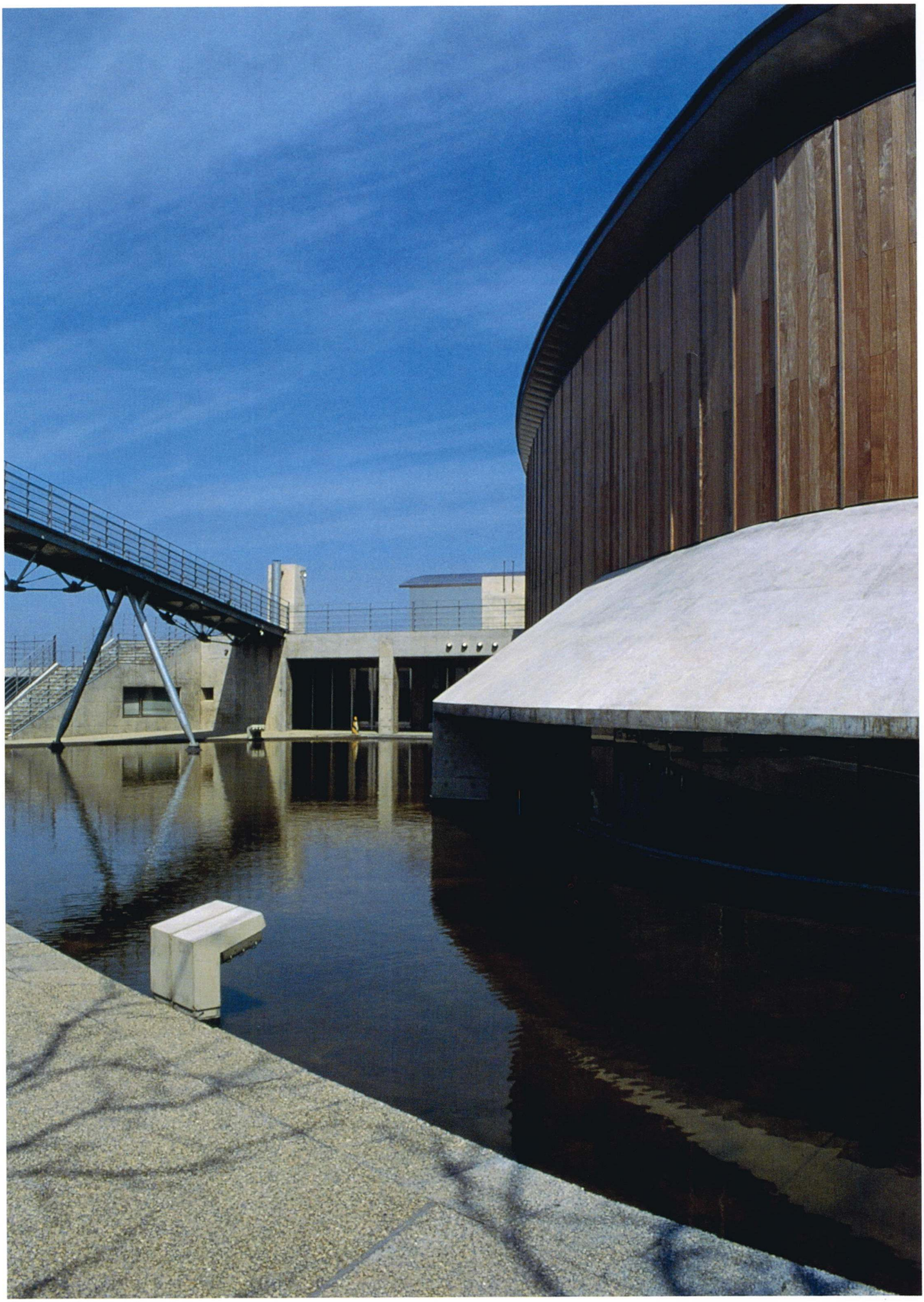
(Tom Heneghan／アーキテクチュアー・ファクトリー)



海沿いの公園に建つ、博物館の全景



メインエントランス



南外観　アプローチのブリッジ

大沢野町健康福祉センター

ワークステーション



北側外観

この建物は神通川沿いの古くからの温泉施設である春日温泉郷にほど近い、富山県の畜産試験場跡地に計画された。健康増進施設、具体的にはプール、バーデ、裸浴場、トレーニングジム等と、古くからこの地区にあった老人福祉施設の移設という、２つの施設によりこの建物内部は構成されている。老人福祉施設は地元の元気老人に利用されるデイケアの施設として、健康増進施設はより広い地域のさまざまな人々に利用されることで、地元の活性化につながるものとして期待されており、また、高齢者がリハビリの一環としてプール等を利用するなど、両施設の利用者相互の交流も考えられている。周辺の健康ふれあい広場は、広々としたウネのある芝生のマウンドやグラウンドのなかに散策路や遊技、バーベキュー、水遊び等の場所が小さなスケールで散りばめられており、施設と一体となった活用が計られている。

私たちはまず敷地、および周辺環境と建物の建ち方についてのスタディを重ねた。同時に北陸地方の長く暗い冬の期間を考え、室内をなるべく明るくし、周辺の豊かな自然環境を楽しむことができるように、複層ガラスのカーテンウォールで壁面をつくることを考えた。S字型を神通川の流れに沿って長さ150mに展開した平面は、自己完結性の強い建築ではなく、周辺の環境に対して多くの接点を持ちながら開かれたものにするために採用した。リニアーに連続する平面の中央部に主入口を設け、その左右で２つの施設を分けているが、両者は空間的に連続した一つの流れの中に統合されてもいる。

構造は下部がコンクリート壁式のラーメン構造、上部が鉄骨のフレーム構造になっている。比較的閉鎖的な性格のホールや機械室、福祉関係の諸室とメインのエントランスホールを下部構造内に納め、大きく開放的なプールやバーデゾーン、レストラン等を上部構造内に複層ガラスのカーテンウォールの壁を建ち上げることで納めた。

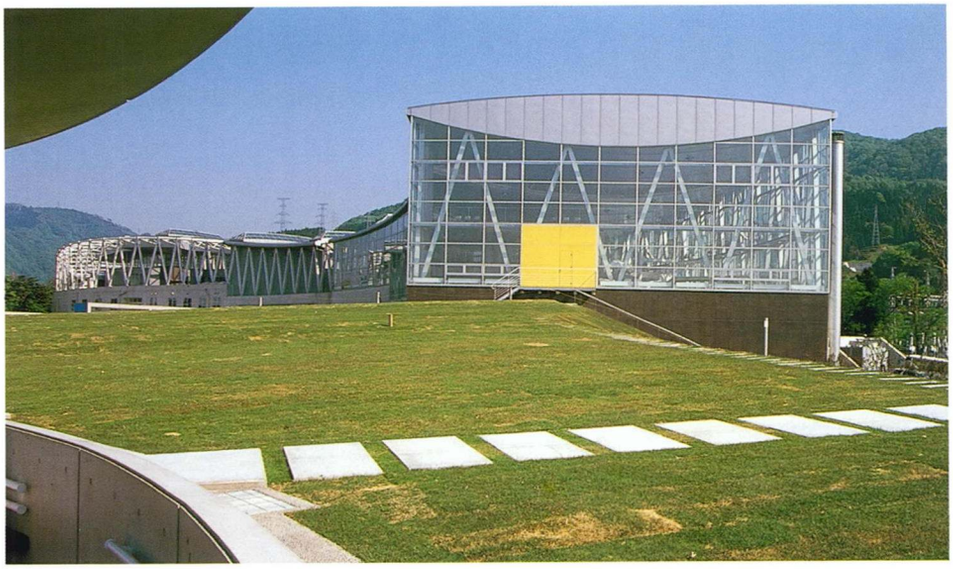
上部構造のフレームを通して内部の様子が表出されたり、反対側の景色を見通せることで、建物のボリューム感を軽減し、さらにランドスケープでは土地をマウンド状に盛り上げることで、周辺環境にはないスケール感の建物を、なるべく土地になじませるよう心がけた。

（高橋　寛）

所 在 地　富山県大沢野町
設計監理　建築　ワークステーション
　　構造　KSP＋構造空間設計室(KKS)
　　設備　環境エンジニアリング
　　ランドスケープ　ササキ・エンバイロメント・
　　デザイン・オフィス
施　　工　建築　前田建設工業北陸支店
　　空調・衛生　大氣社
　　電気　でんそく
敷地面積　約53,000㎡
延床面積　8,700㎡
構造規模　ＲＣ＋Ｓ造　地下１階、地上３階
竣　　工　1997年



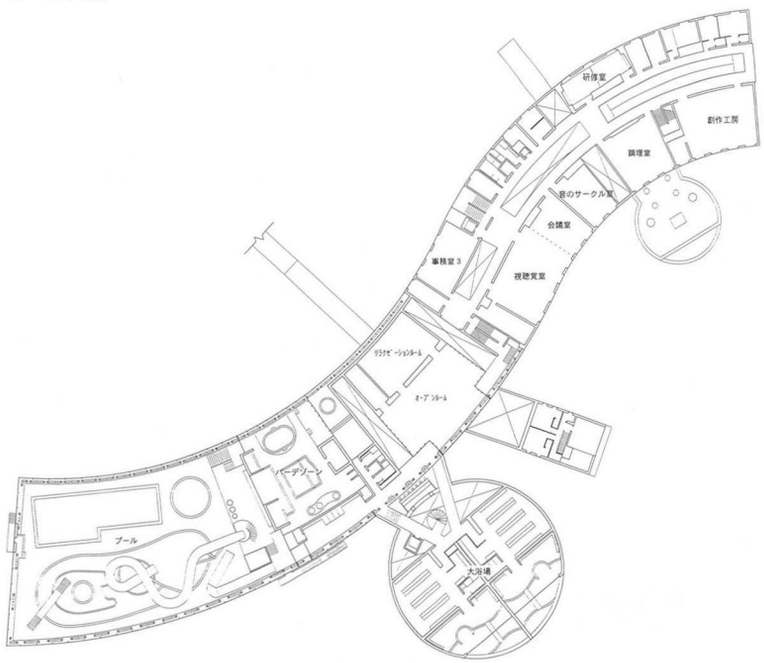
断面図　1：1200


西側外側

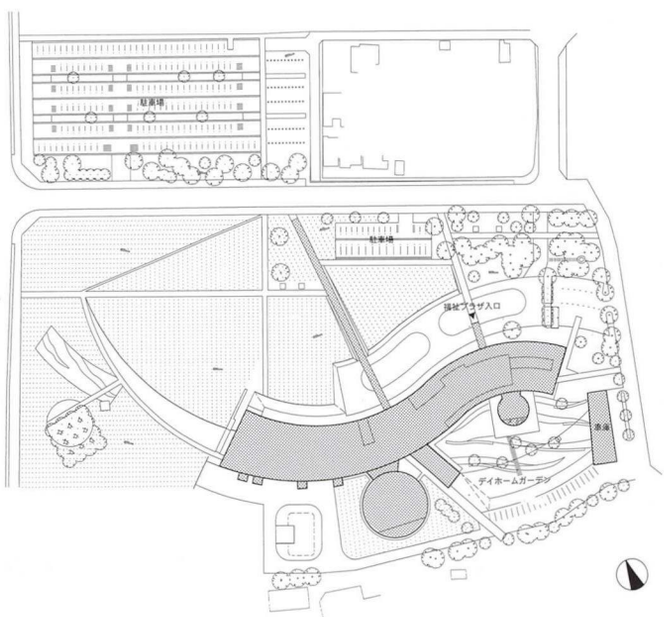

エントランスホール吹抜


プール内観


バーデゾーン内観



2階平面図　1：1200



配置図　1：3600

健康づくりの拠点として
―大沢野町健康福祉センター―

山本貴英

大沢野町は、富山県の中南部に位置し、北は富山市に接し南は岐阜県に接している東西７km、南北21kmの細長い形状の町であり、富山平野の扇状地の起点で風が年中吹く所です。

大沢野町健康福祉センターは、高齢者社会の到来を控えますます増大、多様化する町民ニーズや長寿社会に対応するため、平成５年に策定された大沢野町地域福祉計画に基づき健康づくりの拠点施設として、平成９年７月に大沢野町の春日地区に建設したものです。

春日地区は大正の始めに鉱泉が湧出しており、胃腸・神経系の病気に効くことから県内外から、多くの湯治客が訪れました。昭和36年に温泉を掘り現在４号までに増えております。温泉と周辺の神通峡県定公園、そして猿倉山森林公園など恵まれた自然環境の中でスポーツ、温泉保養等を通してあらゆる町民が心身のリフレッシュと健康づくりを行うことのできる場として、健康スポーツ機能、温泉保養機能、生きがい機能等を持った複合施設です。

具体的には、大きく分けて福祉プラザと健康プラザがあり、福祉プラザでは、地域と連携した福祉の拠点を目指すため、社会福祉協議会の事務所をはじめ地域福祉、在宅福祉、老人センターの機能を持ち、高齢者、障害者に配慮した施設として自らの健康づくりや生きがい活動等を通じ、子供から大人まで集える施設です。

健康プラザは、町民を中心とした多くの人々が、主体的にからだとこころの健康づくりに取り組むことができるように、トレーニングゾーン、プールゾーン、バーデゾーン等を備えた施設です。また、周辺整備については、青空のもと健康福祉センターの機能を補完する約35,000m²の健康ふれあい広場を整備しました。

施設概要

この健康福祉センターは、「大沢野町地域福祉計画」を基本として、「第３次大沢野町総合計画」で掲げた健康づくりの拠点整備として、平成５年に自治省のリーディング・プロジェクトに指定され、平成６年に温泉掘削し平成７年に建設工事が始まり平成９年に完成しました。建築計画の基本的な考え方については、大沢野町特有の神通川に沿った風の流れ・水の流れのイメージを表現しています。内装については、利用者にとって気持ち良さを感じさせるよう素足での歩行を考え随所に床暖房を設置し、床材には自然素材（木・麻等）を多用しています。

健康プラザ「通称　ウィンディ」は、４つにゾーニングされており、トレーニングゾーンでは、機械器具を利用して健康増進を行ったり、健康測定と体力診断などのデータを基に専任のインストラクターが個人に適したトレーニングメニューを作成し、体力づくり、健康管理を行っています。

プールゾーンでは、流水プールやウォータースライダー、20mプールを整備し子供から大人までが利用しています。

バーデゾーンでは、水着着用で全身浴、部分浴、ジャグジー、サウナ等12種類の浴槽があり、明るく開放的な空間で水がもたらすリラクゼーション効果を満喫することができます。

リラクゼーションゾーンでは、シアタールームやオープンルームを配置し広く明るい室内で読書や語らいの場としてリッラクスでき、アロマテラピー効果が体感できます。他に露天風呂が付いた大浴場も完備しており、夜になればたくさんの方々に利用されています。

また、福祉プラザ「通称　さるびあ」は、毎日多くの高齢者が入浴を楽しみに訪れ、高齢者同士のコミュニケーションの広がりを作っています。また、随所にスロープや主な通路には、点字サインを設置するなど高齢者等が利用しやすいようバリアフリー化をしています。主な施設として、技の伝習室、創作工房、調理室等が整備されており、多くの高齢者が生きがいづくりの場として、大きな効果を上げています。

運営と今後の課題

今後は、これまでの春日温泉郷の保養施設３館と周辺の神通峡・猿倉山森林公園そして、温泉をこれまで以上に生かした、大沢野町の観光の拠点整備や健康福祉センターを拠点とした、健康づくり、からだづくりを積極的に推進し町民のみならず県民や隣県を対象とした運営・ＰＲを行う必要があります。

（やまもと　たかひで／富山県大沢野町企画情報課情報係長）







人と出会う街、チューリップと出会う街
―チューリップ四季彩館―

野村　猛

砺波平野は世界でも珍しい散居村

砺波市は富山県の西部に広がる砺波平野のほぼ中央に位置し、ＪＲ北陸本線高岡駅からＪＲ城端線で南へ20分、また、北陸自動車道砺波ＩＣがあり、一部共用されている能越及び東海北陸自動車道が交差し、小矢部砺波ＪＣが隣接しています。

この地方の地勢は、日本海側屈指の大河である庄川によって形成された大扇状地であり、豊富な水量を背景とした穀倉地帯が広がり、ここに、全国的にも珍しい家々が散在する形態を持つ『散居村』と呼ばれる景観が広がっています。

平野部のほとんどは、水利の便に恵まれた良質米を産する地であり、また、砂質土壌を生かしたチューリップ栽培が行われ、チューリップの球根について出荷量は全国のトップです。

毎年ゴールデンウィークを挟んだ約２週間に花のイベントとして、『チューリップフェア』を開催しています。チューリップ公園を中心に350品種100万本のチューリップが咲き、全国から約40万人の観光客が訪れ、今年が第49回目となります。

チューリップ四季彩館の建設

砺波市の球根栽培は大正時代に始まり、チューリップフェアは富山県の春を代表するイベントとなっており、「チューリップのまちづくり」の拠点施設の設置が、行政や生産者はもとより砺波市市民全体から求められました。

そこで、第一に四季を通じて美しいチューリップの花を楽しめる施設として、第二としてチューリップの歴史やチューリップに関する世界中の情報が得られる施設を目約として、平成６年度から平成８年度までの３ヶ年の継続事業として総事業費23億５千万円で建設を行ったものです。

建物の形態は、水田に浮かぶ大きなお屋敷として構想されました。大きなガラス屋根のアナトリウムの中に赤土色のイスラム調の街並を配置したユニークな建物となっています。

チューリップ四季彩館の案内

チューリップ四季彩館には、次のような様々なスペースが設けられています。まずは「チューリップ・ミュージアム」。チューリップの歴史展示場で、ヨーロッパや日本での栽培の推移が伺われます。またここには、球根の仕組みがわかる拡大模型、伝説のチューリップや幻のチューリップを見るコーナー、オリジナルチューリップをコンピューターで作るコーナーもあります。

次に「フラワーガーデン」。四季を彩るたくさんの花が咲き乱れるアトリウムで、いろいろな花の表情が楽しめる花の広場です。


チューリップフェア

「チューリップ・ドーム」はメインのスペースであり、適温に設定された空調設備の中で１年を通してチューリップが楽しめる花空間です。

「ミュージアム・ショップ」は、チューリップをモチーフにしたグッズや書籍などを揃えています。フラワーガーデンを眺められる、「カフェ」もあります。そして「ホール」。フラワーショーをはじめ各種のイベントが開かれると共に、パーテイーなどに利用できます。

「ガイダンス・ルーム」ではフラワー教室が開かれたり、花の小さな展示会などに利用出来るという利点から、市民参加のイベント会場として使用されています。

チューリップ四季彩館利用状況

チューリップ四季彩館には年間約23万人の人々が訪れます。

その中でチューリップフェア期間に全国各地より13万人の方が訪れ、最近では、中部地方や、大阪府、そして北陸３県の方が多いようです。

チューリップフェア期間外の利用客は約10万人となりますが、当館では、四季折々にホールにおいてイベントを行っており、年間約80％の利用率です。

特に、10月、11月には、春の花チーリップを咲かせているという事でたいへん視察に来られる方が多い現状です。

また、地域としては、チューリップを核とした文化の香り高い都市づくり、地域の活性化を目指しており、チューリップ染めを初めとして、チューリップ関連の商品の開発を行い全国に販売しています。

最後に『一年中チューリップが咲いている』そして『人と出会う街　チューリップと出会う街』、チューリップ四季彩館へ足を運んでいただきますようお待ちしております。

（のむら　たけし／チューリップ四季彩館次長）

チューリップ四季彩館

栗生　明

富山県砺波市は、特徴的集落形態で知られている。

散居村と呼ばれるこれらの集落形態はこの地方独特のもので、小学校の教科書にものっている。常緑の屋敷林で囲まれた住居が、冬、真っ白な雪原に黒々と点在するさまや、初夏、水をはった水田に反転して写るさまは、色彩が失われ、水墨画を見るようで美しい。稲作によってなりたつ日本の農村の原風景のひとつと言ってよいだろう。



こうしたモノトーンの世界が春先には一変する。雪の多いこの大地がカラフルな絨毯で敷きつめられる。一面に咲き誇るチューリップ畑の色彩が、人々に春の訪れの喜びを伝える。この地は日本を代表するチューリップの産地としても知られているのだ。

「チューリップ四季彩館」の名称もこの花の鮮やかな色彩に由来している。

毎年、ゴールデンウイークの前後2週間にわたって開催されるチューリップフェアには、このチューリップの畑を見るために、全国から40万人を越える人々がこの地にやってくる。

「チューリップ四季彩館」はこのメインの会場であるチューリップ公園の中心施設として、また、シーズンを問わず、一年を通してチューリップに親しむ施設として計画された。

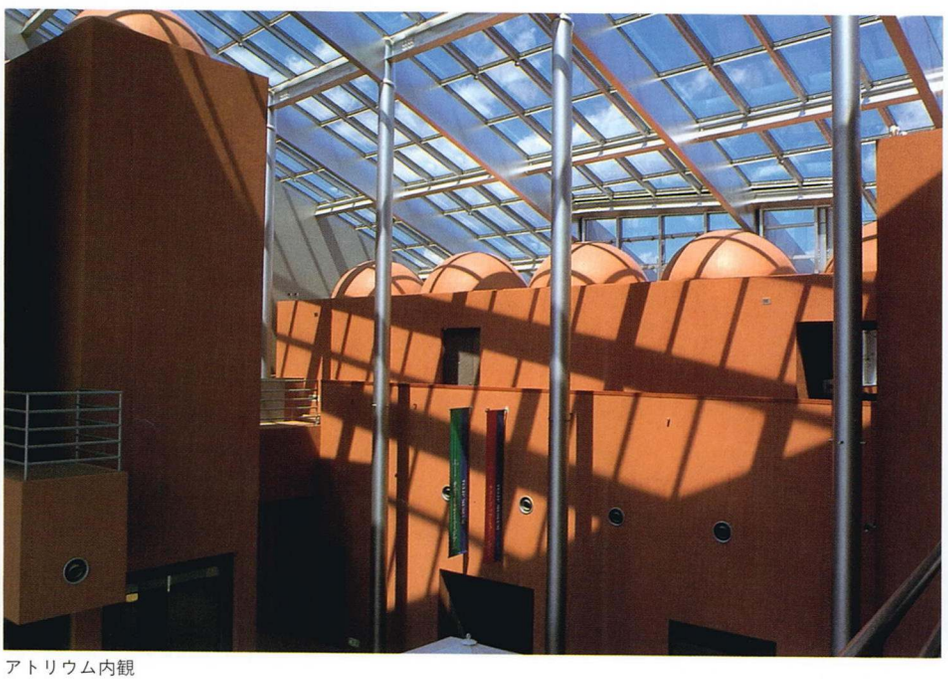
中央アジアを原産地とするチューリップは近代になってオランダで商品として世界的人気を博し、ついで日本に移入された。各国で品種の改良が重ねられ、遠く日本へとやって来たこの花は、原産地の乾燥した地域とはまったく異なる雪深い砺波の大地に定着した。そうした意味では、まったく異なる風土と文化をつなぐ植物だと言ってよい。

建築もこのふたつの風土と文化をつなぐものとして構想された。

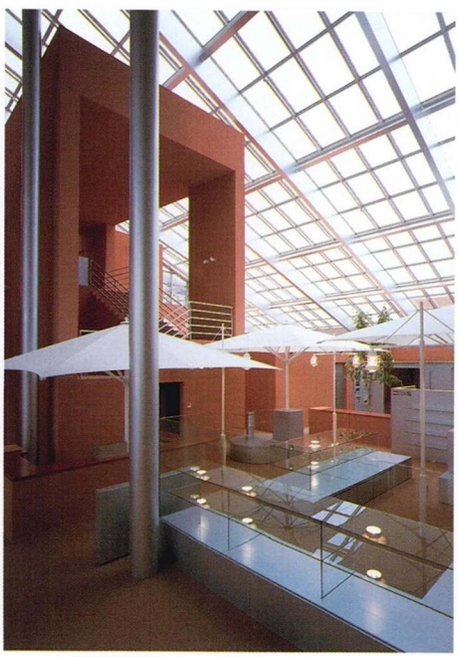
中央アジアの大地に花開いたイスラムのイメージと砺波平野の散居村のイメージ。このふたつのイメージを重ね合わせることが意図された。水田に点在する屋敷林のイメージは水盤に浮かぶアトリウムへと翻案され、その「屋敷林によって守られるお屋敷」という関係が、「アトリウムに包み込まれたイスラミックな内部空間」という関係に変換された。

イスラムの空間を構成する幾何学的なヴォキャブラリーとして、ドームや林立する列柱、傘状テントが抽出され、また壁面には中央アジアの風土を最も端的に表現する「土」のイメージが与えられた。こうして構成された諸施設（資料展示室、植物展示室、喫茶室、販売スペース、事務スペース）は、イスラムの街並、路地、広場へと展開され、バザールのもつ猥雑さや賑わいを再現する。

（くりゅう　あきら／千葉大学教授）



アトリウム内観



ショップ＋階段室

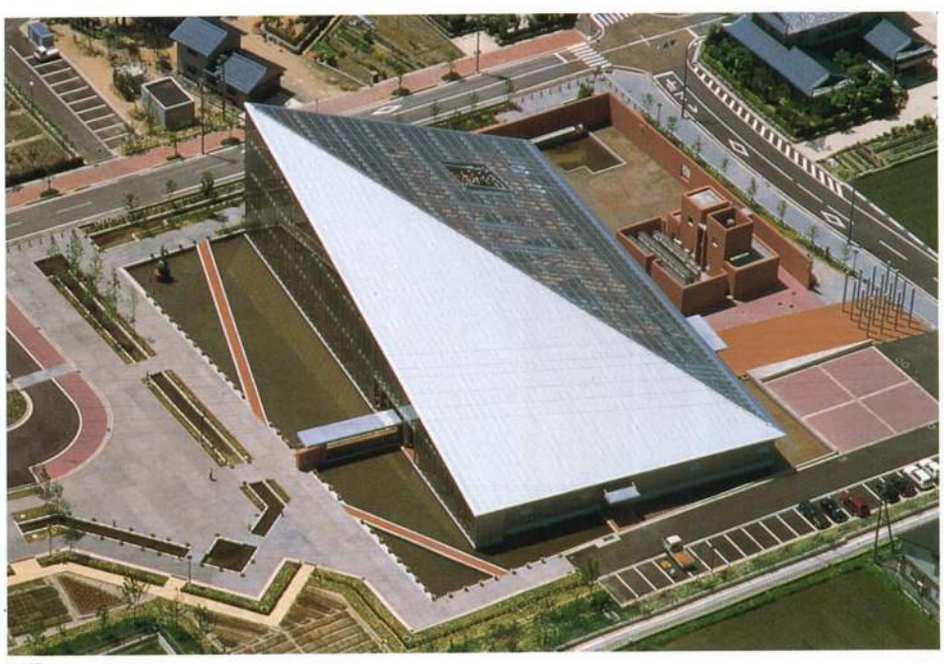
所 在 地　富山県砺波市中村
プロデュース　エー・エー・ピー
設計監理　栗生　明＋栗生総合計画事務所
施　　工　砺波工業・鷹栖 JV
敷地面積　19,639.41㎡
延床面積　2,921.76㎡
竣　　工　1996年
撮　　影　古館克明



外観夜景



カフェ

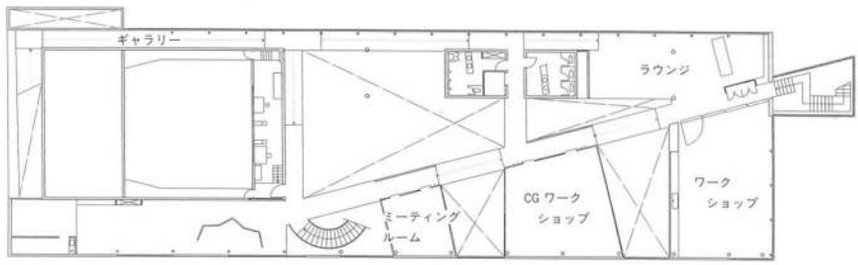


空撮

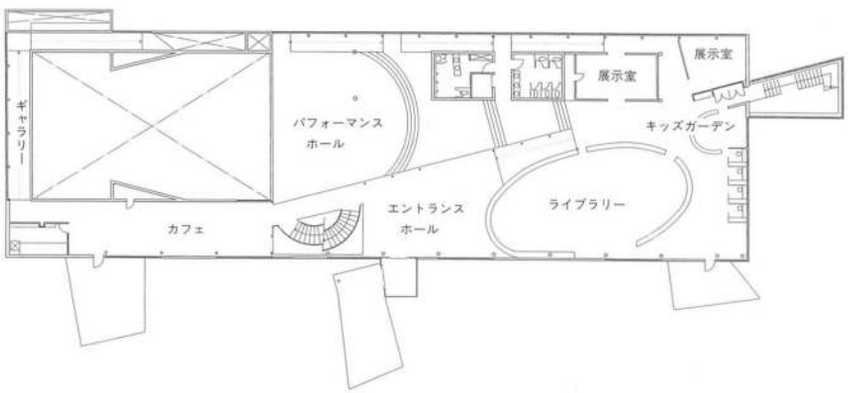
大島町絵本館＋ふれあいパーク

長谷川　逸子



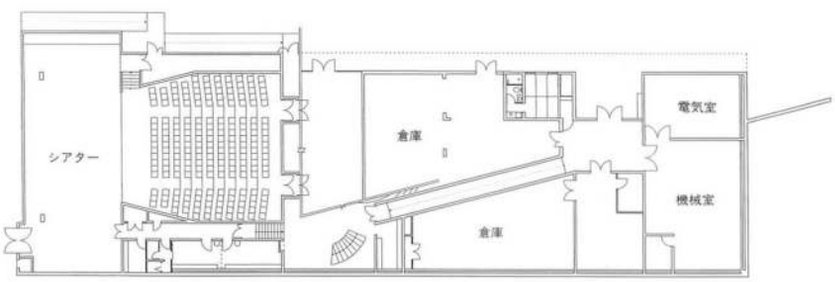


2 階平面図

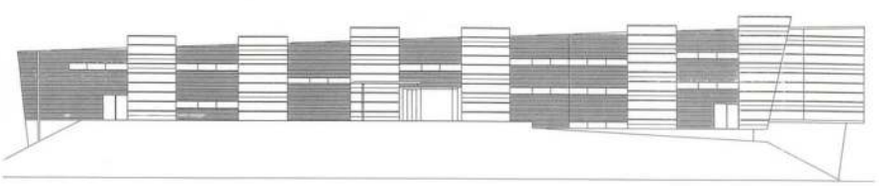


1 階平面図

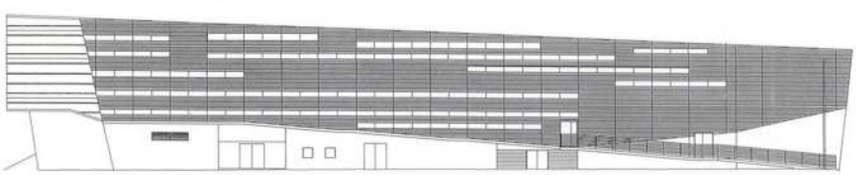




地下 1 階平面図　1：600



南立面図



北立面図　1：600

大島町（富山県）で今まで続けられてきた絵本文化事業をさらに発展させるべく求められた建物で、運営計画を含めたソフトの検討から特定の絵本作家の展示スペースというより、町民の自主的な絵本づくりの場として計画されている。

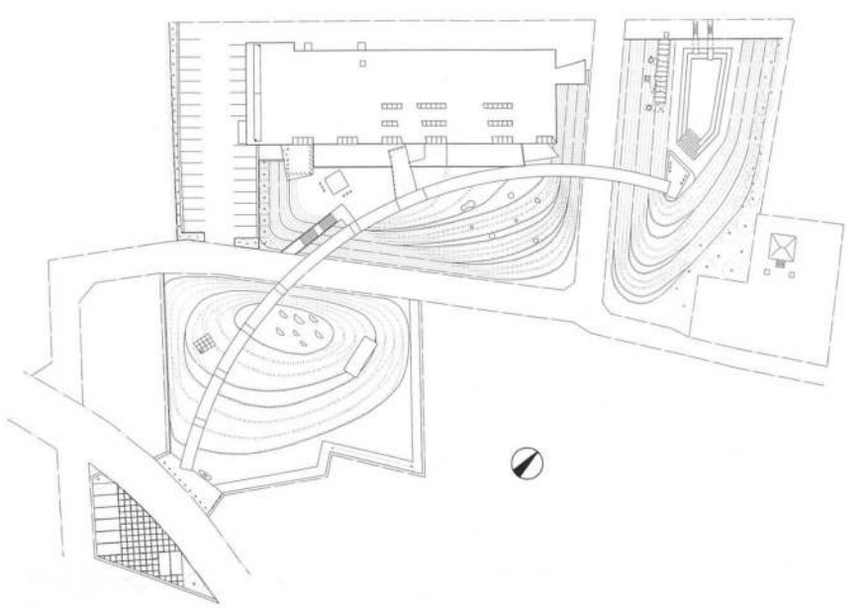
冬季の雪や寒さといった気候条件から、空気（外部）を内包するシンプルなシェルターを配置することにした。外部の延長としてのこの空間に、大きな楕円形のライブラリー、パースのきいた段床状のパフォーマンスホール、そしてこれに連続する固定席段床型のホール、二階には台形のＣＧワークショップ等が浮かぶように配置され、それぞれが特異な「場」を提供し、これらを回遊するようにスロープが配される。

このプロジェクトでは、プログラムを加速させ人々の行動の方向づけをすることより、むしろプログラム（使用目的や機能）から離れた建築的な「場」を提示することにより、子供から大人まで、あらゆる人々の創造性を励起し、思いがけないことが起こるような方向を目指している。ソフトの検討時に得た絵本の構造の特徴であるシークエンシャルな展開を建築の空間におとしこむ作業として、これらの「場」の連続的体験を壁の透明化処理によりＣＧの３次元パースで確認しつつ設計は進められた。従来の手でディテールをつめ、模型でエスキースするという手法も並行させ、基本設計および実施設計の内キープラン、リスト的図面はコンピュータで作成した。

また、このプロジェクトは周辺をパークとして整備するという環境づくりも視野に入れたものである。全体で高低差５ｍという平坦なこの町に文化の拠点として建築的な丘を立ち上げ、埋立地のように新しい地形を提示することにより、フィクショナルな力の作用する「場」として人々をひきつけ、様々な活動を誘発するように計画されている。さらにこのパークには、建築の内部に配置したものと連続するように様々な「場」がばらまかれた。水琴窟の音を増幅する場、風の動きを視覚化する金属の丘、丘の頂上部にうがたれた屋外劇場、などなど。これらの場は体験した人がその人なりに「場」を立ち上げるよう緩やかに設定してある。建築の内部、外部で様々な「場」が立ち上がり、絵本の新しい展開がここから始まることを期待している。

（はせがわ　いつこ／長谷川逸子・建築計画工房）





配置図　1：1500

感じる、つくる、伝える。
—大島町絵本館—

岡本昭彦

古事記の白鳥伝説ゆかりの地、鳥取の里にわが大島町絵本館が建っている。

地域ごとに古くから言い伝えられている民話を描いた一冊の絵本がきっかけで、絵本というソフトの豊かさに触発されたかのように町全体で「絵本文化推進事業」の取り組みが開始されたのが平成3年3月であった。

取り組みを開始した当初は「絵本会議の開催」「絵本セミナーの開催」「ワークショップの開催」「季刊誌の発刊」等、試行錯誤を繰り返しながらいろいろな企画を行い、この絵本文化推進事業の明確な目論見を広く理解してもらえるよう、3年余り努力が続けられた。

やがて平成6年8月にこの間に蓄積された絵本ソフトを基礎に、いつでもどこでも気軽に参加し楽しむことのできる文化事業のキーワードを「絵本」とし、絵本を通して未来を築く子供たちへの文化継承と地域の人たちすべての心のふれあう磁場となる絵本館が絵本文化推進事業の拠点としてオープンし、今年の8月で開館6周年を迎える。

なだらかな緑の芝で覆われた丘に架かったレインボーブリッジを渡ると空に浮かぶ船をイメージした絵本館がジャンピングウォーターと共に迎えてくれる。

絵本館には基本コンセプトが3つある。「感じる」「つくる」「伝える」であり日々の事業展開はこれらをもとに行われている。

まず**「感じる」**は見て、感じて、豊かな心へ

内外の絵本　約1万3千冊を集めたライブラリィー。ユニークな椅子とテーブルがより楽しい空間を演出している。ギャラリィーでは国内外の著名な絵本作家の原画展を毎月開催しています。

次に**「つくる」**は見て、つくって、新たな発見へ

ワークショップでは絵本作りが楽しめ、月毎に変わる絵本作りの材料が楽しみである。C.Gワークショップではコンピュータで自分だけの絵本が作れ、操作はスッタフがやさしくアドバイスいたします。

最後に**「伝える」**で心から心へ、そして世界へ

パフォーマンスホールでは吹き抜けの開放的な空間を生かして、華道展など様々な表現活動が楽しめます。また約200席のシアターは絵本ビデオの上映をはじめ絵本ミュージカル、オペラ、合唱、講演会、ピアノ発表会等々に広く活用されています。

これら日々の活動展開のほかに絵本文化事業を推進していく中で情報発信を忘れてはならない。開館以前より発刊されている情報誌「絵本通信」である。町内全戸に配布すると共に広く世界中に購読者がおり、国内だけでなく絵本に関する世界中の情報がこれから発信されている。このほかに絵本をテーマにしたシンポジウム「絵本会議」、「絵本セミナー」「絵本学会」などの研究活動も併せて行われている。また出版活動として毎年開催されている「全国手づくり絵本コンクール」も中心的事業のひとつです。入賞作品の中からこれまで数作品が大手出版社並びに大島町絵本館から出版され、最近は絵本作家の登竜門として位置付けられてきたように思われ、絵本作家の発掘育成といったことにもその役割をこの絵本館が果たそうとしてきているのではないかと思われる。

このような活動を繰り広げていく中で絵本というソフトが持つ多様性が表現の豊かさというものだけでなく、ときには自然環境に対する感性、生命に対する感性などにも影響を与え、「絵本ソフト」が人を育て、結局は地域全体の感性が素晴らしいものになっていくのではないでしょうか。例えば絵本館の運営に、ボランティアとして積極的に関わろうとする人たちは少なくなく、現在100名を超える方々に関わっていただいている。

絵本館も開館6年目にしてようやく基礎が固まり県内外に「大島町に絵本館あり」と知られるようになってきた。そして絵本館の存在が町民の誇りとなり、町民の心の活性化に一定の役割を果たすようになったのではないかと密かに自負している。スッタフ一同、来館者へ精一杯のおもてなしをしようと日々心を砕いているしだいである。

（おかもと　あきひこ／大島町絵本館）



ライブラリー


ワークショップ



絵本学会

「建築と社会」誌

特集一覧●1978〜1999

大正６年３月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正６年９月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正８年に「日本建築協会雑誌」、さらに１年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1978 Vol. 59	●デザインの動向―新旧のコントラスト	●水*	●医療施設―病院建築と情報システム	●外壁塗装材料*	●電波障害と建築*	●組合方式による集合住宅計画*	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD―設計とコンピュータ	●一般号*	●第25回青年技術者*	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発*	●大阪南港ポートタウン*	●商業空間*	●コンクリートのひびわれ	●日影規制*	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌*	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり*	●80年代のインテリア*	●第26回青年技術者*	●建設業の労務事情*
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性*	●建築行政と法規*	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ*	●屋内体育施設の設備*	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材*	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法*
1981 Vol. 62	●職能論*	●中国の論文―北京の都市計画*	●ポートピア'81*	●台所まわりの計画と設備*	●シーリング材の知識*	●災害と法―安全な環境をめざして*	●都市住宅―住まい手からの発想*	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集*	●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割*	●間仕切壁の性能評価*	●第28回青年技術者*	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開*	●省エネルギーと開口部*	●医療施設―地域医療と設備計画*	●近畿の地盤と地質*	●都市景観―まちなみ美観への誘い*	●大阪市庁舎（第一期）*	●ホール建築と音*	●大スパン構造*	●昭和設計作品集*	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル 日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築*	●風土・空気と人間*
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設*	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール*	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル*	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展―*	●建設産業とロボット開発*	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル*	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品*	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明*	●制振*	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館*	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観*	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり―Ⅰ― ●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり―Ⅱ― ●建築の風景	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●東海支部復活30周年記念*	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号*	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる―	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台―仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割―	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと観	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品*	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界*	●音―騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点*	●建築構造と社会の接点 ●日建設計*	●ライフラインと建築設備*	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ*	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念*	●遠江―その地域振興と文化	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり*	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築	●創立80周年記念／建築と私と社会―80人の眼―	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA*	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法 ―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 Vol. 79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98―21世紀に向けて	●ゆれをとめるーたえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 Vol. 80	●"らしさ"のデザイン ●建築を綾どる小枠なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバン・インテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者

*は欠号

50 総括

being

beingとは～

このシリーズは、人と、そのひとが為す、さまざまな活動をビジュアルに紹介して、会誌「建築と社会」が、より多くの方に、より親しみをもって接していただけるように企画されました。

編集に際して、できる限り建築にとらわれないように紹介しようと考えました。この試みも、振り返れば建築が太陽であったことを再認識せざるを得ません。それでも、内容は徐々に、建築、もしくは作品というものから、次第にbeing本来の意味、すなわち社会的な活動やソフトの世界の紹介に変わってきたように思われます。

過去、掲載期間13年のなかで、このシリーズもまた、はからずも時代の大きなうねりの中にいたことになります。

being

破竹の勢いのバブル経済がはじまる1987年、beingシリーズは産声をあげた。建築をとりまく環境も、まるで過去の常識をくつがえしたような晴れやかさで、うっかりすると自己を見失ってしまいそうな勢いの中にある。そのような状況にあって、beingでは建築だけではなく、より広範な活動に目を向けるなかで、紹介者の豊かな心の機微に触れることを期待した。

しかし、記事はなきに等しい年もあり、内容も一貫性を欠いたものになっていったことも否めない。それでも見直してみると、紹介した方々はひとつの個をはっきりと持っていて、私どもの心の中にほんのりと温かい心の広がりを置いていってくれたような気がする。そして、楽しさは結果だけではなく、プロセスであったり、あるいは、関わり方であったりしていることを叙実に示してくれていることに気がつく。

この厳しい不況を乗り越えるためにも、心の豊かさがますます大切になることはいまさら言うまでもない。シリーズはそのヒントを提示してくれたように思う。

明日も、そして21世紀もbeing

（加藤俊明／安井建築設計事務所）

建築の設計をやっていて有り難いことの一つに、多彩な人に会えると言うことがある。一期一会、出会いを大切にしたいと思うが、良い人に出会えたときの嬉しさは格別で、自分が大きくなれたような気がする。「建築と社会」の編集に関わって30年、同業他社の友人が出来たのも嬉しかったが、「大先輩に聞く」と、「being」とは、会いたい人のところに押し掛けて話が聞けるのだから楽しかった。大先輩のお話は別にして、beingはなんと言っても今をときめくスターの話、こぼれ話でさえ、生き生きとエネルギーにあふれている。時代も建築も、結局すべては人に帰着する。ご登場いただいた49名の方々はそれぞれに素敵だった。総じて、好奇心が強く、失敗を重ねており、信念に支えられ、言葉にごまかしがなく分かり易い、明るく恬淡としている。さあ、二つでも三つでも見習おう。

バブル崩壊や大震災、色々あった13年だったが、お会い下さって元気を分けていただいた諸氏諸嬢、有り難うございました、末永いご活躍を祈ります。

（北村恭一／大建設計）

図らずも、企画は照準のずれたところで的を射たようだ。

この企画の発端には、建築を取り巻く周辺の世界が、如何に豊かに広がっているかを描き出したいという気分が支配していた。ヴィジュアルなページ構成によって、本誌の華となることも思い描いていた。しかも時代の本質に迫る登場人物を捜し求めるために、編集陣には多彩な人材が集められた。その結果、時の人々や多くのアーティストが、作品をはじめとしたそれぞれの主張と共に登場し、時代の方向が示唆されてきた。そこには周辺の大きな広がりが、究極には建築に還元されるものとしての、暗黙の了解があった。

しかし振り返ると、ヴィジュアルな表現だけが、必ずしも適切なものとは言えなくなり、代わって社会との関わり方を問う登場人物によって占められるようになっていった。

そのラインナップが示すものは、建築を中心と見なし、その周辺を語ろうとする主客関係の交代であった。それは当初、建築の概念を拡張しようという意識にたいし、実は時代の方がはるかに先行してしまったことを、ミレニアム前夜の建築を巡る断層として、的確にキャッチしてしまったとも言える。

役割を終えたほろ苦さは、次の時代の薬味として覚えておくことにしよう。

（本多　友常／和歌山大学システム工学部環境システム学科教授）

being頁は50回総括をもって終了いたします。13年間を通し、登場者及び執筆者の方々にはお礼を申し上げます。

（being編集幹事会一同）



1　吉田保夫



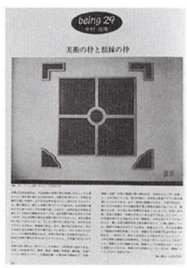
8　安原盛彦



15　齋藤宏美



22　竹村楊子



29　今村悦美


36　中平兄弟



43　君が代



2 大島哲蔵



3 ジョナサン・ボロフスキー



4 伊豆蔵明彦



5 梶川亮治



6 堤 展子



7 藤森照信



9 安部兼章



10 川端嘉人



11 川俣 正



12 黒崎輝男



13 織田憲嗣



14 総 括



16 リカちゃん（木下直之）



17 長谷川晶一



18 吉兆（湯木敏夫）



19 近鉄劇場（宮川龍太郎）



20 加藤木俊策



21 ルイ・ルルー



23 木村幾次郎



24 山崎佑次



25 森田啓介



26 石沢賢二



27 吉川 浩



28 グレッグ・ホール



30 ユベール・デュルト



31 岡田実成



32 近田玲子



33 大島勝寛



34 柳々堂（書店）



35 山口勝弘



37 がんこ一徹長屋



38 下山名月



39 明松政二



40 白澤初男



41 石東直子



42 河崎晃一



44 小林政一



45 木下直之



46 田中晴美



47 近藤隆二郎

48 芳野大樹

49 多田道夫

Welcoming

福祉関係者に聞く－施設編－
－老後も住み慣れたまちで暮らせる社会をめざして－

――自己紹介からお願いします。

平野　現在は異病院老人保健施設で介護部のマネージャーをしています。もともとは平成５年から市の委託を受けてホームヘルパーの仕事をしていましたが、数年のうちに、決められた範囲の市の仕事に限界を感じるようになったのです。その後、特別養護老人ホームで働いてみて、施設には在宅にはない良さがあるもんだなーということに気が付きはじめました。それまでは在宅介護にこだわっていたんですが、家庭で見るのとは違った高齢者のよそいきの顔を見て、失礼かも知れませんが、場所をわきまえてまだこんな顔ができるんだなーと思ったのです。それで、施設介護に関心を持ち老人保健施設で仕事をすることになりました。ここは1999年５月にオープンしたばかりですので、入所者の自立支援に向けての職員の指導や新しいプログラムの作成が主な仕事です。

堀本　もともと、長い間、幼稚園と保育所という児童福祉の分野で仕事をしていましたが、平成５年、特別養護老人ホームの開設時から３年間は在宅部門のデイサービスで働き、現在は施設の寮母主任として勤務しています。

――施設介護の現状について。（在宅介護と比較して）

平野　在宅の高齢者は、まだ元気で看られる、まだ一人で暮らせるということで施設に入っている人にくらべると、まだまだ元気な場合が多いですね。

堀本　特別養護老人ホームに入っておられる方は、おおむね65歳以上のお年寄りが生活するうえで、身のまわりのことができない、家庭でのお世話が難しい方がこられます。平均年齢は86歳ぐらいではないでしょうか。特別養護老人ホームの場合は、そこが終の住処になりますので徐々に高齢化し重度化されていく方が増えますね。年間１割くらいの方が、亡くなられます。車椅子の使用率も、当初５割ぐらいだったのが、７～８割くらいに増えています。介護保険が始まると、入所者が入院するとその間ベッドをあけておかなければなりません。また、その間は介護保険料をいただけません。100%の運営でやっと採算がとれる状態なので、これは頭の痛い問題です。

――個室が良いか、４人部屋が良いか。

堀本　今の施設は、制度、補助金の関係で４人部屋の方が多い状況です。要介護度の高い方が個室にはいると、ナースコールを押せない等、介護をする上で問題がでてきます。また、食事の時以外他の人と合う機会がない等、刺激が少なくなるのも問題ではないでしょうか。そんなことを考えると、個室はある程度生活自立度の高い方に適していると言えます。４人部屋は、やはりプライバシーには問題がありますのである程度妥協していただいているところもあります。また、何といっても４人の息が合わないとストレスになり、トラブルの種にもなるので部屋替えが発生します。入所者が亡くなられたときに、新しく入る人をADL（日常生活動作）の違いがあるために前の方の部屋を利用出来ない時等、大幅な部屋替えとなることもあります。とは言うものの、女性にとっては賑やかな４人部屋のいいところもあるようです。

平野　老人保健施設でも、部屋を変えてほしいと訴える人もたまにいますが、ずーっと住むわけでもありませんので、我慢してもらっています。

――痴ほう性について。

堀本　特別養護老人ホームの場合は、当初は徘徊のあった人も今では体力低下によって徘徊する元気が無くなって来ています。失語状態の方もいらっしゃって、そういう場合は、コミュニケーションをとるのが難しくなってきます。また痴ほう性の方の場合は、いかに現状を維持するかを考えます。例えば、排泄の自立、自分で食べられることの維持のために、言葉掛けをします。また、夜間の徘徊は、本人の健康にもよくないので、日中できるだけ刺激のある生活を送ってもらってます。

平野　痴ほう性老人は特別養護老人ホームに比べると軽症の人が多いですね。入所者の６～７割の人は何らかの痴ほうがあります。痴ほう性老人は、良くなることはありませんがケアによって落ちつきを取り戻し、問題行動が無くなることもあります。

――人員について、食事介助。

堀本　今３：１の介護でやっていますが、夜勤に４名必要ですので、まだまだ人員的には足りないですね。１ヶ月の人員のやりくりに困っています。食事介助も半数の方が介助が必要です。自分で食べられる方もほとんどの方は見守りが必要です。

平野　私のところは、3.6：１介護ですが、当施設は自分で食事できる方に入所していただいているため、食事介助はほとんどありません。入所者全員が食堂に集まり食事をします。食堂は５階にあり移動するのは大変ですが現在６～７人の介助者で実施しています。食堂への移動時間も苦情がでないよう順番を決め行っています。

――便所について。

堀本　私のところは、それぞれの部屋の廊下に出たところにトイレがあります。トイレ介助の方がほとんどです。夜のトイレ介助は、多くの方が、ポータブルを使用しています。

平野　こちらは、集中型でフロアーに一カ所です。ほとんどの方にトイレ誘導、トイレ介助を行っています。特別養護老人ホームに比べると自立度は高いでしょうが、それでも夜間はポータブルを使われる方もいます。

――入浴について。

堀本　湯舟につかられる方は３割ぐらいしかいません。そのため、機械浴が多くなります。入浴介助としては、中に２人、脱衣室に２





平野享子

巽病院老人保健施設　介護部マネージャー

平成５年よりヘルパーを始め、去年までヘルパーをしていたが、在宅しか見ていない私には施設がどういうものか分からず、手さぐり状態で現在に至る。施設に入所された高齢者がひとつでも自分で出来ることを見つけて退所してほしいとの思いを常に持ちつつ、毎日の業務に励んでいる。

堀本登美子

豊中グリーンヒル（特養）

学校卒業後は幼稚園、保育所と勤務し、平成５年４月に開設した豊中グリーンヒルに就職。３年のデイサービス勤務後、現在、特別養護老人ホームで寮母として勤務している。

企画／会員企画小委員会
Director/AKIHIRO TSUKAGUCHI
1999年12月10日　於本会会議室

～３人、誘導に２人が携わっています。

平野　方針としては、全員一般浴を考えています、そのために、寝たきりの方も、まず座位をとる訓練をします。そうすれば一般浴が可能になります。現在、機械浴は脊椎損傷の２人だけです。一般浴にはいることで表情が出てきます。浴室は別棟にあるため、一度テラスに出なければなりません。「今日は雨やってんなあ」と入所者の方が言われるのを聞いて、自然を感じるのも大切なのかなと思いました。

――生活を維持するための決め手は何でしょうか。

堀本　食事、排泄、入浴ですね。その中でも、やっぱり、排泄ですね。おむつをはずすことが一番です。そのためには、自分にあったトイレというものが重要です。今のお年寄りの方は背が低いので、高い便器は足がつかないため非常に使いにくい。便座の高さは、38cm～42cmでその人の高さにあったものがいいようです。暖房便器をつけると42cm～43cmになり足がつきません。また、車椅子用の便器も高い。

平野　車椅子も座面の低いものが必要ですね。車椅子も便器も椅子もその人の体型にあった高さのものが必要です。老人保健施設では、はくパンツを使用して、トイレ利用をはかっているためおむつ利用者はごくわずかです。

――生活を豊かにするためのプログラムについて。

堀本　食事、排泄、入浴という三大介護に時間をとられているため、特別なことはしておりません。行事としては、１月新年会、２月豆まき、３月おひなさん、４月花見というようなところです。その他、ボランティアの方がこられて、カラオケ、書道、陶芸、俳句、体操等をしていただいています。

平野　最近思うのですが、行事を催すと、当日だけでなく行事に向かって準備する段階に張り合いを持てるようです。今、心掛けている事は、こちらから押しつけるのはやめようということです。そのため、まず相談会から始めます。例えば、クリスマス会の場合は、手芸の先生を中心に、入所者の意見を聞いてもらい、靴下をたくさん作りました。痴ほう性の方も私たちとは違う発想で作られます。熱中されると徘徊もなくなります。

――その他の施設内の生活について。

堀本　買い物に出かけることもしています。職員２人で４人の方を連れて出かけます。最近は、ボランティアを養成してお願いしています。

平野　一生懸命自分の仕事を見つけ、知らない間に朝、手すりを拭く、カウンターを拭く等、日課としてやっておられます。テレビはできるだけ置かないようにしています。それで気がついたのは、テレビをご覧になる方は限られていることです。むしろ、ラジオやテープを聞かれる方が多い。また、施設内の好きなところで、おしゃべりしているのがいいみたいです。

――どのような施設が良いのでしょうか。

堀本　職員にとっては使い勝手のいいのが良いですが、実際お年寄りにとっては快適さでしょうね。お部屋が北向きと南向きで温度差が全く違います。日ざしの中で、朝、“おはよう”と言うのが気持ちいい。また北側は高校しか見えないが、南側は山が見え、鳥のさえずりが聞こえて気持ちがいい…と。ちょっとした窓の位置とか、景色でも気分が違うみたいです。

平野　生活感のある空間かなあ。施設というんじゃなくて家庭と似た環境がいいんじゃないですか。個室があって好きなときに好きなことができる自分の自由な空間があり、今よく言われている、個室が８～９室集まってその中央に調理場付きのデイルームがあるような施設で介護してみたいと思います。介護の人員面で、今の人数では無理だと思います。実際にこのような施設で運営されているところでは、コスト面で苦しいので不足分は、住民の方の寄付とか物品販売でカバーしているそうです。

――在宅と施設　在宅復帰について。

堀本　施設で何年か過ごせば、ここがいいと言って下さる方がいらっしゃいます。また、スタッフが若いから若返る方がいらっしゃいます。私たちのエネルギーを吸収しているのねと言っています。家にいるときよりも元気になった、と言われる家族の方もいらっしゃいます。家では何もしなくていいのが、施設ではできることは自分でやるというところもあるのかも知れませんが。

平野　在宅復帰ができるかどうかは身体面だけでなく、精神的に自立出来ているかが大きく左右すると思われます。

BOOK STATION
ブックステーション

新・町並み時代
まちづくりへの提案

全国町並み保存連盟 編著

学芸出版社
1999.10.20刊
A5変判　208頁　本体2,000円



本書は、1974年に名古屋市で旗揚げされた「全国町並み保存連盟」が発足から25年を迎えたのを記念し、4世紀半の町並み運動の成果をまとめたものである。歴史的町並みを機軸とした、まちづくり運動の現段階での多様なひろがりを一望できる見取図となっている。特徴的な点としては、町並みをめぐる視点の深まりや合意形成のあり方など、ひとや仕組み、制度に関する側面への関心が高いことにある。すなわち、町並みをめぐる問題の運動としての側面に力点がおかれている。事例としては、住民主体のまちづくりが多く、住民参画のまちづくり、さらには住民が主体となって主導していくまちづくりに役に立つかと思う。

(Y.I)

檜皮葺と柿葺
原田多加司 著

学芸出版社
1999.11.10刊
四六判　272頁　本体2,500円



著者の原田多加司氏は、大学卒業後10年間銀行員生活を送った後、檜皮葺と柿葺の家業を継いだ。もともと家業を継ぎたかったわけではなく、代々受け継いできた伝統の技を絶やしてはならぬという熱意だけが、転身の動機だったらしい。そして、この檜皮葺と柿葺の伝統技術を守るには、材料になる檜皮や柿の作り方から葺き方、そこに注がれる職人の工夫や努力などを広く一般の人に知ってもらい、その中から支える力を得ることがもっとも必要だと考えたそうである。そのような意図で生まれた本書は、檜皮葺と柿葺の歴史から、素材や加工、技術、屋根の仕組み、職人たちの生の声が網羅された構成となっている。確かに社寺建築や数寄屋造りでしか見ない葺き方ではあり、新しいものに目が行きがちな建築技術者にとっては関心の薄い分野かもしれない。しかし、全国の国宝、重要文化財の約三分の一が檜皮葺と柿葺であり、その修理のサイクルが数十年単位でやってくるとすれば、だれかがこの技術を伝承していかなければならない。そのためにも、貴重な一冊である。　(Y.I)

日本の川を甦らせた技師 デ・レイケ
上林好之 著

草思社
1999.11.22刊
四六判　352頁　本体2,500円



この本は、明治6年に来日し、日本の「治水」に携わったオランダ人デ・レイケの生涯について書かれたものです。明治6年の日本は、富国強兵に力を入れたが、まだまだ道路や港湾の公共施設は近代化にはほど遠い時代でした。デ・レイケはそんな日本に30年間住み、砂防という技術ではげ山を緑豊かな山々に変え、水理学という技術で、川の土砂を押しながし、河川や港湾の整備をすすめました。中でも、今も残っている「淀川改修」では、オランダの粗だ工法を用いて、蛇行した低水路を作り、船の通航と共に、「ワンド」と呼ばれる静水域を作り、多くの魚介類が生息する川を甦らせたのです。

オランダ人のエッシャーへの手紙を通して明らかにされたデ・レイケの生涯は、「技術」というものが、多くの人々の生活改善につながる幸せな時代を現代に甦らせてくれる参考になるでしょう。

(A.T)

角川選書307
愛の空間
井上章一 著

角川書店
1999. 8 . 5 刊
四六判　421頁　本体2,000円



キワモノ？　と思われた方も多いかもしれない。本書は、正にタイトルそのもの、男女がどこで愛し合ってきたのか、その「どこで」＝「場所」にのみスポットをあてた、画期的な性愛空間の変遷を辿る歴史の書である。屋外から待合、そば屋、円宿、ラブホテル…その「場所」は屋外からやがて屋内へ移行し、空間を演出する意匠も、時代のニーズに応え様々な変化を遂げていく。文献、各種記録などの調査と同時に、文学作品中の描写からの分析は、著者のオリジナリティが溢れ、なかなか説得力もある。それにしても、終戦直後は皇居前広場が男女のスポットだったとか、つい最近まで野外がノーマルな空間であったとか…我々世代（30代）には何ともオドロキ、うっそぉ〜、なのである。

とにかく、おもしろい。ご一読を。　(Y.O)

担当：会員企画小委員会／稲木裕子・大谷由紀子・塚口明洋

神戸市近隣住環境計画制度
－向こう三軒両隣からのすまい・まちづくり－

竹田衝吾
神戸市住宅局建築部指導課

神戸市では、神戸市住環境審議会答申「地域特性を踏まえたすまい・まちづくりのあり方と当面の施策展開について」（平成11年2月）での提案を受けて、平成11年11月に近隣住環境計画制度を創設した。これは、向こう三軒両隣などの小さな単位、いわば街区レベルのすまい・まちづくり手法である。

制度の創設

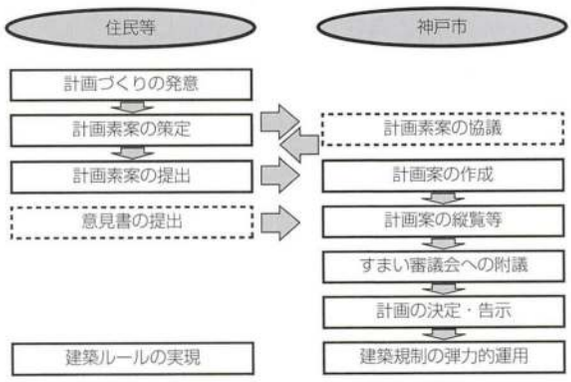
神戸市は平成5年に、密集市街地の住環境整備に対する支援策として「インナー長屋制度（神戸市インナーシティ長屋街区改善誘導制度）」を創設した。震災後、狭小敷地の再建を支援するために、一定の条件の下に建蔽率の緩和などを行っている。密集市街地の住環境整備という目的の下に、建築基準法の弾力的運用を体系化したものがこのインナー長屋制度であるが、これを密集市街地だけでなく多様な地域特性に応じて、より柔軟に活用できるよう拡充するものが、近隣住環境計画制度である。

まず、向こう三軒両隣など、地域住民にとってより身近な範囲で、住民の発意と主体的な取り組みによって、その地域の特性や課題に応じた建築ルール、すなわち“近隣住環境計画”を策定する。そして、この計画を実現させるため、計画内容に基づいて、建築基準法の弾力的運用や事業の適用などを行うものである。

制度を支える仕組み

①計画内容の担保や計画策定手続の条例による位置付け

制度創設にあたり「神戸市民の住環境等をまもりそだてる条例」を改正し、近隣住環境計画制度に関する規定を創設した。これは、“近隣住環境計画”の定義、住民の発意・計画検討から計画決定までの計画策定プロセス、そして計画に基づく指導・勧告や建築行為の届出義務などによる計画内容の担保規定を定めるものである。



近隣住環境計画の策定プロセス

②建築基準法の弾力的運用や事業などによる計画実現の支援

市は、近隣住環境計画の実現を図る手法として法を弾力的に運用し、また必要に応じて事業を併せて適用する。法の緩和規定を活用することで、規制手法だけでは解決できない住環境上の課題や地域特性に柔軟に対応することができる。また、事業中心の手法に比べて効率的かつ広範囲な住環境整備の展開が可能となる。

③地域特性に応じた運用基準となる“タイプ”の設定

適用地域や計画内容に地域特性などを反映させるため、その運用基準をそれぞれ設ける。例えば、密集市街地において、防災上有効な一定の空地をまとめて設ける代わりに形態制限を緩和する、などである。枠組みとなる制度のシステムに加えてこの運用基準を設けることにより、多様な地域で活用できるよう整備する。

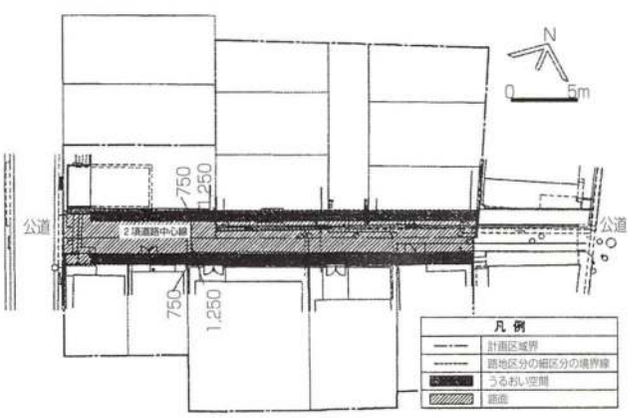
制度のねらい

この制度は、敷地単位の最低基準から複数敷地のまとまりとしての住環境評価へと、建築ルールの捉え方を転換させるものである。一敷地では解決困難な課題への対処という技術的側面だけでなく、自己の敷地で完結している市民の住環境への関心を地域へ広げていく、そういう発想を誘発するような展開が考えられる。

そこで市民自らが、地域の特性や課題について考えながら建築ルールを定めることは、与えられた画一的な建築基準以上にそのルールを守り、育てていくという認識をより深めることになるだろう。

このような地域特性を踏まえた小単位の取り組みを、縦覧手続などによって周辺を巻き込みながら積み重ねていくことで、その地域の住環境像が共有され、確立されていく。そしてそれがまた新たな小単位の取り組みにも反映されていく。はじめに具体のビジョンを提示して誘導するのではなく、ボトムアップによる住環境像の確立のプロセスを想定しているのが、このシステムである。

今後の展開



近隣住環境計画の例

本市で住環境整備を進めている地域内でのニーズに応え、まず運用基準の一つとして“うるおいのある路地づくりタイプ”を設けた。これは、グリッド型街区形態の整った密集市街地内にある細街路整備に際して、建物セットバック部分に花壇や芝生などの緑化を促進して、うるおいのある路地の魅力づくりを進めるものである。

この運用基準に基づいて、神戸市灘区内で計画が策定され、適用第一号として先日決定したところである。

現在新たな運用基準として、連担建築物設計制度を活用した密集市街地の住環境改善などの検討を進めている。また、必要に応じて新たな運用基準を追加して多様な住環境上の課題に柔軟に対応するほか、まちづくりの動きなどとも連携して活用するなど、よりよい住環境の実現に向けて積極的に展開していきたいと考えている。

（たけだ　しょうご）

建築からみた地盤

本田周二
㈱日建ソイルリサーチ技術部部長

建築に限らず構造物は、“土”の上に建てられることから地盤と密接に関係している。しかしながら、橋・護岸・擁壁などの土木構造物が地形と深く結びついているのに対して、建築物は山地から平野さらには埋立地にまで、様々な地盤に実に数多く建設されているが、これらは一般に地形などの地盤条件よりも利便性や意匠的な配慮により建築計画がなされることが特筆されよう。

本稿では、まず基本計画の段階あるいはそれ以前の用地選定において、“地形”が物語る地盤のポテンシャルを手軽に捉えることが以後のプロジェクトの進捗に役立つことを申し上げたい。

地盤のポテンシャル：地形図の活用

先の兵庫県南部地震以後、プロジェクトに先立ち『活断層』の有無や位置などの問い合わせが随分と多くなった。神経質になりすぎる向きもあるが、地形に目を向け出した現れであろう。

しかしながら、断層以外の重要な地形情報にまで目が配られていないことが多い。問題が起こってから計画地の古地理図を調べると、昔は大きな谷筋が入り込んでいたり、溜め池が存在していたことが後で分かることも多い。古地理図などは市販されており、また、土質のコンサルタントは時代別に古地理図を収集している。古地理図にも明治のものから、大正さらには昭和初期に作成されたものなどがある。この中で、大正期の地形図は軍事目的に作られたことから、日本の平野の多くを占める低地を、①乾田（戦車が通れる）、②湿田（歩兵が通れる）、③沼田（歩兵も通れない）のように区分している[1]。計画地を選定する上では、非常に有用な情報となる。

表1　地形から地質を表す地名の例[2]

阿久津	……川沿いの低湿地
池　尻	……池から川が流れ出る所（尻）
浮　島	……低湿地や沼沢地で葦の生えた浅州のように浮いた島
落　合	……川と川が合流する地点
軽井沢	……河川の上流のかれた沢，水の少ない所
窪	……窪地
吹　上	……風で砂が吹き上げられた場所
八　重	……台地や山地の緩い斜面

表2　軟弱地盤に多く見られる地名[3]

ニタ・ムタ・ヌタ…	仁田，似田，二位田，新田，牟田，無田，怒田，野田
イケ・エ・ツ	……池，江(荏)，津
トロ・ドロ	……登呂，瀞
ヤチ	……谷地，菟，谷津
アクツ	……圷，阿久津
フケ	……泔沢

表3　地すべり地を示すことがある地名[3]

すべり，なめり，滑	おち，おとし，落
おし，押	ぬけ，ぬげ，抜
ひき，引	まき，牧，巻
くずれ，崩	たち，たて，立
かけ，欠，掛	いり，にろ，入
きり，きれ，せつ，切	あれ，あら，荒
わり，われ，割	ふか，ふけ，深
おり，おれ，折	にごり，濁
で，だし，いで，出	ひら，へい，平
ひ，とび，飛	た，田，たな，棚

また、地名も土地条件を表すことがある。一例を**表1**に掲げる[2]。特に注意すべきは、軟弱地盤に多い地名[3]（**表2**）と地すべり地に多い地名[3]（**表3**）である。このような資料（古地理図・地形図・地質図・土地条件図など）については土質コンサルタントが詳しいので、プロジェクトの初期の段階で相談されることをお勧めする。

地盤の実像：地盤調査

古地理図などで大局的な地盤条件は把握できるが、実施設計では地層の構成あるいは地層の性質といった詳細な土質データが必要となるため、ボーリング調査が行われる。建築主や施主側からすれば、建物そのものではなく地盤に資金を費やすわけであるから、地盤調査はできる限り少なく済ませたい気持ちは無理からぬことである。そこで地盤調査を計画する側は無駄のない、しかし設計に必要で十分なデータが得られる計画を練ることとなる。

日本建築学会『建築基礎設計のための地盤調査計画指針』は、建築面積に対して必要なボーリング本数を提示しており、使いやすい指針となっている。一般にはこのような各種の基準・指針類を参考に調査を計画することとなる。

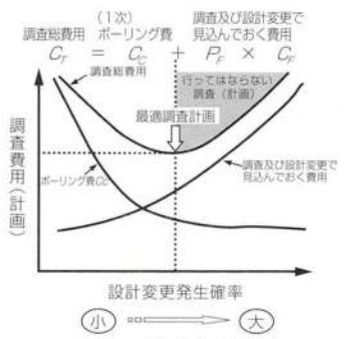


図1　最適調査計画

図1は、信頼性設計における最適な意思決定の方法を、地盤調査に応用したものである。縦軸は費用、横軸は地盤調査の不備により設計変更が発生する確率である。交差する2本の実線は、初めのボーリングに掛ける費用と設計変更確率（左上がり）の関係および二次調査と設計変更のために見込んでおく費用（右上がり）の関係である。この両者を足し合わせた下に凸の実線で、最も費用の少ない計画が最適案ということになる。すべての与条件を数量化し、最適案を見つけ出すことは難しく、加えてイニシャルコストは我慢し（地盤調査に費用を掛け）、ランニングコストは抑えたい（設計変更を避ける）施主、あるいはその逆もあり得ることから、誰でもが気に入る唯一の最適案を提示することは難しいが、われわれが注意すべきは、図中の最適調査計画の右側に位置する計画は絶対に避けることである。ここでは投資（調査費）を上げても効果が現れない計画となっている。例えば埋立地の比較的規模の大きい敷地において、建物配置が未定の段階で地盤を概略的に把握する目的で一次調査を計画する。この段階で、埋立地であることから液状化検討のために振動三軸試験―地盤の液状化抵抗を調べるための高度な調査―を計画した場合、建物配置も決定せず、加えて地盤の全体像も分からない段階でこのような高度な―すなわち高価な―地盤調査が、投資に見合った効果を与えてくれようか。われわれが常に認識しておかなければならないことは、まさにこの“投資効果”であろう。

この点について言えば、現状の調査・設計法は地盤調査の質と量が十分に生かされる体系には至っていない。調査を数多く綿密に実施したとしても、例えばそれなりに安全率を下げることができるものではない。現在各方面で精力的に体系化が行われている性能設計は、この意味においてこれからの設計法であり、これを具体化するものとして限界状態設計法の確立が望まれるところである。と言いつつも、地震の最大外力すら確定できない現状で、地盤・土の限界状態をいかに定義するかは至難の技と考えられ、今後とも地盤技術者の経験がものを言うことであろう。

1）鈴木隆介：建設技術者のための地形図読図入門（第1巻読図の基礎）古今書院　1997．11
2）畑　　定：地名の由来　地盤工学会　土と基礎　1992．3
3）日本道路公団：土質地質調査要領

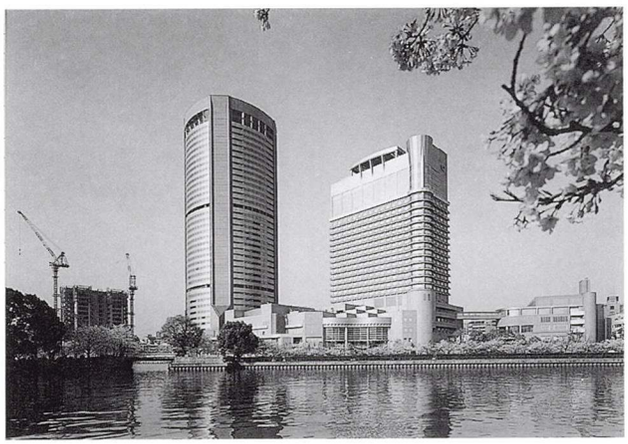
（ほんだ　しゅうじ）

河川水を利用した地域冷暖房
－OAPタワーズでの実績－

堀　俊博
三菱地所㈱環境設備部

大阪市北区天満橋１丁目地区（通称OAPタワーズ、**写真**）では、旧淀川のウォーターフロントという立地条件を生かして、河川水を利用する地域冷暖房システムを採用し、平成８年１月から熱供給を開始している。

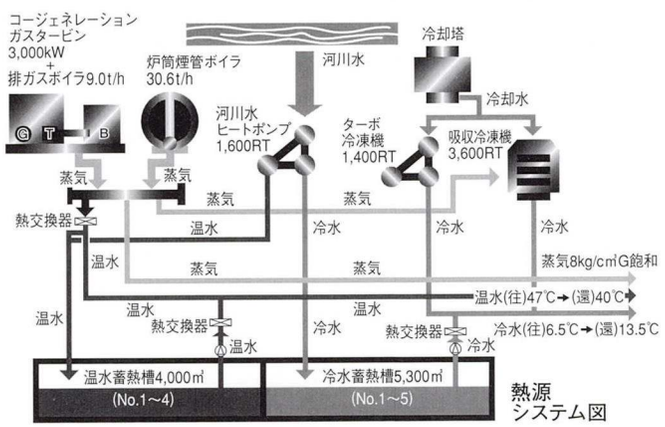
河川水は、夏期は大気温より水温が低く、冬期は暖かいためにヒートポンプの熱源として有効であり、省エネルギーが図れるとともに、都市部のヒートアイランド化の抑制にもつながる。OAPタワーズでは全供給供熱量の約20%を河川水に依存し、従来システムと比較して約12%の省エネルギーを目指した。



熱源システムの特徴

当地域冷暖房計画では、供給の安定性、低公害性、エネルギーの有効活用、経済性などを総合的に判断し、以下の特徴を備えた熱源システムとした。

①エネルギー源として電力、ガス併用方式
②河川水利用ヒートポンプシステムの採用
③3,000kWガスタービンコージェネレーションシステムの採用
④5,300m³の温度成層型水蓄熱槽による夜間電力利用（**下図**）



熱源システム図

河川水利用システム

事前の調査から、当計画地近傍の河川の状況としては海水の影響もほとんどなく、若干汚れは見られるものの水質的には比較的良好であることが判明し、直接ヒートポンプの熱源水として利用することとした。夏期は河川に温排熱を出すために取水温より5℃高い温度で川に排水し、冬期は冷排熱として約3℃低い水温で川に排水される。熱のみを利用するので、河川の水温が排水口付近で変化することが予想され、その変化領域をコンピューターにより予測したが、全体の河川水量が多いために水温の変化はわずかであり、河川の環境への影響もほとんどないことが確認できた。

河川水ヒートポンプは主に夜間に運転し、夜間電力による蓄熱を行っている。蓄熱槽は水深約10mの温度成層型蓄熱槽とし、蓄熱槽の有効利用率を高めている。

運転実績

河川水利用システムを含め全体的に順調に運転を行っているが、平成９年１月から平成９年12月までの1年間河川水利用システムを中心とする運転実績の調査を実施したので、その概要を報告する。

(1) 河川水利用ヒートポンプの運転効率

夏期冷房運転時の河川水温は、おおむね23℃～30℃で推移しており、クーリングタワーでの冷却水温より低いことによるヒートポンプのCOPの向上と、補機動力を含めたシステム全体の消費電力の削減効果により、冷却塔と比較して最大で約18%の省エネルギー効果があることが確認できた。

(2) 運転上の留意点

これまでの運転実績から、下記の留意点が確認できた。

①ヒートポンプ内に熱源水として直接河川の水を通しており、チューブの汚れ対策としてボールクリーニングシステム（ピンポン球サイズのスポンジボールを定期的にチューブ内に通し管内を清掃する装置）を設置しているが、正常に機能しているかのチェックが必要。

②河川水の取排水設備にはゴミの侵入防止のためにバースクリーンとオートストレーナーを設置しているが、それらにゴミのほかに淡水性のカワヒバリガイの付着が認められ、放置するとストレーナーの詰まりの原因ともなるので、定期的な除去が必要である。

(3) 河川環境への影響

河川水利用にかかわる水利使用の許可申請に先立ち、平成４年に河川水域環境影響調査を実施した。河川への温排水、冷排水による水温変化の予測を行った結果、河川への影響は極めて少ないとしたものであったが、実際の運転状況下における水温の変化の実測を行った結果では、シミュレーションによる予測とほぼ同様の結果が得られ、温度差1℃以上の範囲が排水口の下流10m以内の範囲内に限定されることが確認できた。

おわりに

地域冷暖房における河川水熱利用は、立地条件による制約が大きいことから、国内での実施事例はまだ３例と少ない。平成７年に「河川水熱エネルギー利用に係る河川環境影響検討指針（案）」、平成９年に「ヒートポンプを用いた河川水熱利用のための水利使用の取扱いについて」が共に建設省河川局より地方設局及び各都道府県の河川管理者あてに通達として出され、水利使用許可の基準がある程度明確化したことで、今後は採用事例も増加するものと期待している。

OAPタワーズでの実績が、今後に役立てられれば幸いである。

（ほり　としひろ）

楽しいアイデアを出そう

山田　修
修　建築事務所

1）「やさしい建築の構造力学」を点検する

写1は，わたしのノートを清書した原稿を元にして編集された本（やさしい建築の構造力学：オーム社1996年刊）の事例である．

本になった記述はノートと比べれば，かんたんに読みやすい．読みやすいは編集者の腕による．が，筆者のアイデアが先行する．それと推敲の効果も出ている．

「ラーメンをバラせ」は，どの本にも書かれていない．「食べるラーメンでもバラした方がおいしいです．当ラーメンもしかり！」と駄じゃれを入れてみた．これは遊び心である．楽しさを出すためのアイデアである．

前頁には，イラストいりで「分解図を描いてラーメンをバラバラにしよう」と記述していたから，初心者に「ラーメンをバラせ」は分かってもらえよう．初心者用に長ながと説明するより，簡潔さ・新鮮さのイラストと式の記述を心がけた．頁の余白は，写真・イラストとのバランスも考えている．

あまり読みやすくすると忘れ去る恐れもある．とも思ったが，ラーメン（Rahmen：骨組）を中華料理のラーメンにひっかけたので，忘れ去られることはあるまい．

2）イラストにも推敲がいる

*N*図・*Q*図・*M*図の真中に描いた女性の顔は，ラーメンの＋・－の符号を反復学習するためだ．当本の前頁には同じ顔を描き「ラーメンの真中に顔をもってきて，顔に対し一対の＋・－の向きを判断する」と具体例を示している．

男性よりも女性の方が柔らかく感じるだろう，と考えた．同頁には，スカートをはいた女性がメガホンで呼びかける姿を描いている．

ほんとうは，*N*図よりむずかしい*Q*図・*M*図の関連を示すため，*Q*図・*M*図の顔の表情は「ちょっと困ったなァ」という目つきを示したほうがよかった．「目の表情」一つにも厳しいイラストの推敲が必要だった，と反省している．　（やまだ　おさむ）

3・11　単純梁系の静定ラーメンを解く

例題として図3・28（a）に示す単純梁系ラーメンを解いてみよう．

分解図を描き，応力図を描く．分解図では，軸方向力・せん断力は簡単に書けるが，曲げモーメント図は要注意だ．せん断力と，せん断力作用点から主要点までの距離を掛ける計算を間違わないようにしたい．

最後に，いま一度，*N*図・*Q*図・*M*図の相互関係のチェックを忘れずにしてほしい．

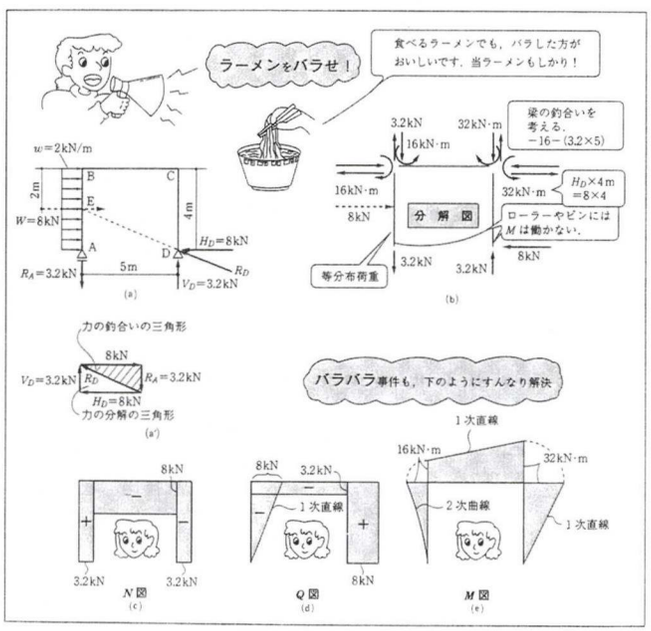


図 3・28

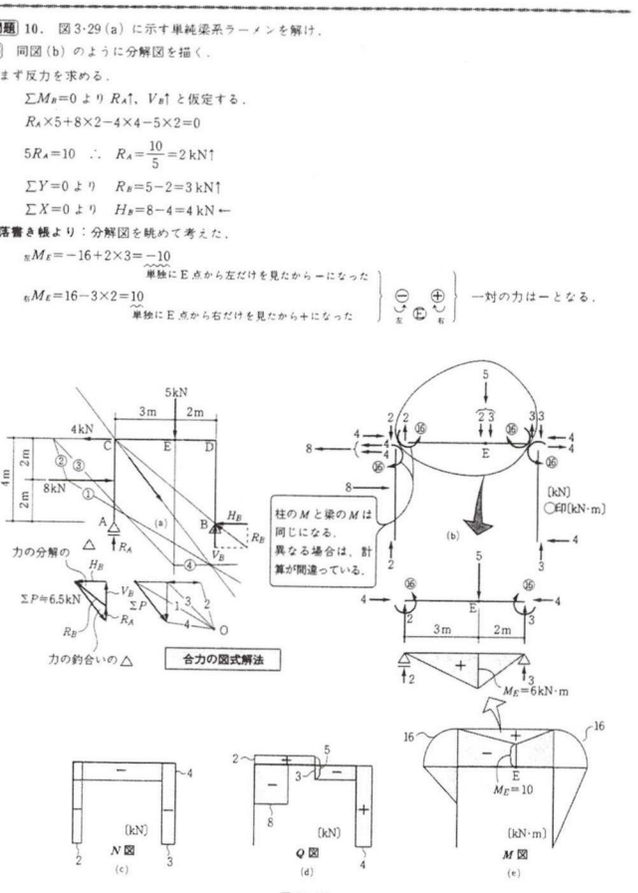


図 3・29

写1

環境問題とこれからの消火設備

由上雅章
ヤマトプロテック㈱

地球環境問題が21世紀にかけてのグローバル・テーマとしてクローズアップされ、関心が高まっていることは改めて言うまでもありません。二酸化炭素の増加による温暖化、オゾン層や熱帯雨林の破壊、大気汚染による酸性雨など多くの要因がリストアップされ、日常生活に隣接する問題としては、ゴミ処理に伴うダイオキシン問題、水質汚濁等を様々なメディアが伝え、そうしたことへの速やかな対応が求められています。

RECYCLE（再利用）・REUSE（再使用）・REDUCE（不必要なものの廃棄減少）・REJECT（環境汚染物質の使用拒否）、こうしたことを製品開発に反映させる展開をしていくことで、環境問題をさらに深く認識し、省資源、省エネルギーに努めることが必要です。

環境にやさしい「環境対応消火器」（図1）

ヤマト粉末（ABC）消火器YA-10NR/10型

- 加圧源に、窒素（N_2）ガスを採用したYA-10NR
- 窒素（N_2）ガスを放射圧力源にした10NRは、加圧式でも−30°Cの使用OK
- ダイオキシン対応の天然ゴムをベースにしたゴムをホースに使用
- ダイオキシン対応の一環として、銘板に脱塩ビ素材を採用
- 放射を止めるストップ付き。適量放射ができる。（一度放射したときは、必ず再充てんすること）
- 消火器の状態が一目でわかるロックマーク付き（とれているものは使用済み）



ヤマト粉末（ABC）消火器YA-10ES/10型

- ダイオキシン対応の一環として、銘板に脱塩ビ素材を採用
- ホースの取り外しが簡単になって、より素早い消火活動
- ダイオキシン対応の天然ゴムをベースにしたゴムをホースに使用
- 高齢化社会を見据えた、軽くて使いやすい消火器



図1　環境対応消火器

ウォーターミスト消火システム「マイクロフォグ」

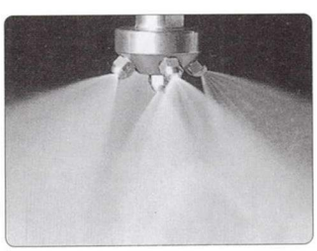
スプリンクラー設備の高い冷却性能とガス系消火設備の消火能力を併せ持ち、水を微粒子化した噴霧によって消火する消火システム（図2）で、水は微粒子化することで表面積が増大し、蒸発しやすくなります。このことは冷却効果を高めると同時に、水蒸気が窒息効果を生みだし、消火効果が大きくなります。また、従来消火困難とされていた消火対象物（油火災、電気火災等）にも適応できます。

- 適応設置場所としては発電機室／変電設備／電気室／ボイラー室／オイルタンク室／塗装ブース／機械式駐車場／ホテル／船の客室／機械室／ケーブル洞道（共同溝）等が挙げられます。
- 現行消防法義務設置物件については、消防法施行令第32条申請によります。

光ファイバで火災を監視する自動火災報知設備

光ファイバの一端から入射したレーザパルス光がファイバ内を通過する際、温度に応じた後方散乱光を発生させ、この後方散乱光が入り口に戻ったときの強度から温度情報を得、戻ってくる時間から距離を計算して火災発生場所をキャッチします。（図3）

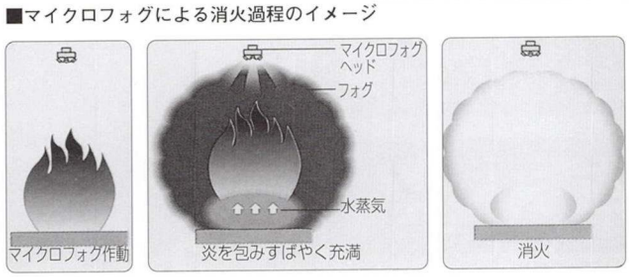
- 光ファイバを感知器（定温式感知線型）として使用し、アナログR型受信機で火災を判断する自動火災報知設備です。
- 温度監視が必要な機器の全面に光ファイバを敷設し、測定した温度分布をパソコンのグラフィック画面に表示し、機器の微妙な温度変化も捉えることができ、異常温度監視が可能です。



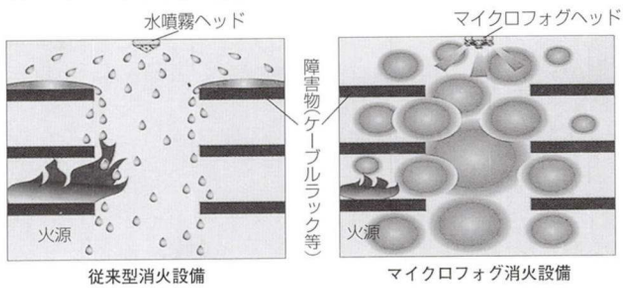
■マイクロフォグの消火・抑制効果

- 窒息効果（酸素稀釈効果）…水蒸気が炎周辺に拡散し、炎周りの酸素を稀釈
- 冷却効果…フォグが水蒸気化するとき熱を奪い、同時に水滴で冷却
- 可燃物稀釈効果…可燃性ガスを稀釈して燃えにくくする
- 輻射熱の吸収・遮断効果…浮遊するフォグが熱放射を遮断して延焼防止。また有毒ガスの除去が期待できる

■マイクロフォグによる消火過程のイメージ



■マイクロフォグと水噴霧消火設備の消火イメージ



■ポンプ方式・システム系統図例

水貯蔵容器、ポンプユニット、起動装置、制御部を備えているシステムから、水配管を防護区画まで敷設し、配管を一流体ヘッドに接続

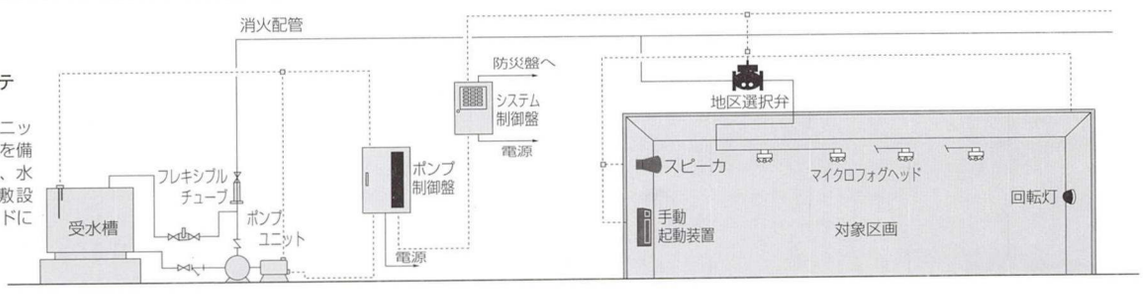


図2　ウォーターミスト消火システム「マイクロフォグ」

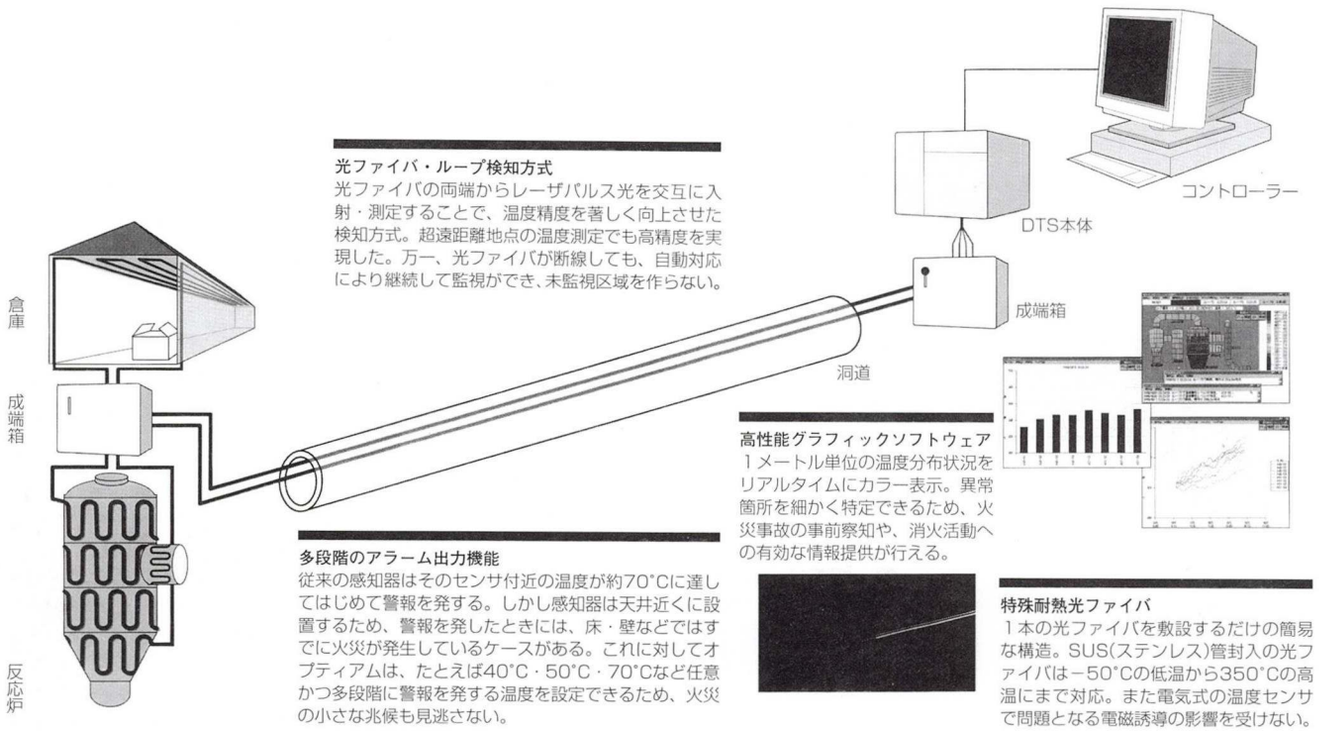


図3　光ファイバで火災を監視

編集部　注）本講座では、4月号から12月号まで9回にわたって電気系の防災設備を解説します。

（ゆかみ　まさあき）

1997年

●衛生設備編ー意匠設計者のための設備図の見方ー

給排水・通気設備図の概要……1
設計図書の構成とその概要……2
設計図書の理解……3
給排水・衛生設備図……4
設計図の理解－1－……5
設計図の理解－2－……6
設計図の理解－3－……7
設計図の理解－4－……8

以上　河津隆之

●空気調和設備編ー意匠設計者のための設備図の見方ー

空気調和設備の概念……9
空気調和設備の概念……10
設計図書の種類と構成……11
設計図書の理解－1－……12

以上　出崎　進

1998年

設計図書の理解－2－……1
設計図書の理解－3－……2
設計図書の理解－4－……3
設計図の理解……4

以上　出崎　進

●建築電気設備編ー建築技術者のための建築電気設備の要点ー

電力系統構成と構内電気方式……5
受変電設備……6
予備電源・発電設備……7
中央監視制御・幹線・動力設備……8
照明設備……9
電灯・コンセント設備……10
建築現場の電気安全の向上……11
電気施設管理と建築電気設備関連法規……12

以上　谷本敏和

1999年

●防災編ー意匠設計者のための防災設備の要点ー

消火器の設置……1
屋内消火栓の設置－1－……2
屋内消火栓の設置－2－……3
屋内消火栓の設置－3－……4
連結送水管……5
スプリンクラー設備－1－……6
スプリンクラー設備－2－……7
スプリンクラー設備－3－……8
泡消火設備－1－……9
泡消火設備－2－……10
二酸化炭素消火設備……11
新ガス消火設備……12

以上　由上雅章

2000年

屋外消火栓・消防用水・連結散水設備……1
厨房用自動消火装置……2
環境問題とこれからの消火設備……3

以上　由上雅章

基礎講座B 1997~2000

ニウヨークの街を引き廻し

福田泰造
㈳日本建築協会東海支部事業委員長

ル・コルビュジエはこう言った。

「ルイ・アームストロングは数学であり、綱わたりの平衡である。彼はシェークスピア的である！どうしてそうでないことがあろうか。彼はただ夜中の2時、大詰めの舞踏会をとじるときだけ姿を現す。……トランペットの音は人間の会話の真っ只中で流れる美しいタービンと対比的な合符である。ジャズは摩天楼とおなじくひとつの事象で、建築よりもっと進歩している。……」

憧れのニウヨーク

ニウヨークで私たちを最初に出迎えてくれたのは、朝日に輝く摩天楼だった。それは12時間のフライト疲れの日覚ましにはあまりにも贅沢で、ブロードウェイが特別に演出してくれたのだと思う。

日本建築協会東海支部の海外見学会は、最初の香港、次のクアラルンプールで一応の成果をあげ、記念すべき節目の年に向けて憧れのニウヨーク・マンハッタンの地を踏むことになった。定刻2分遅れの12月2日午前9時17分、JFK国際空港到着は日本とドイツの航空会社以外には出来ない芸当だ。スムーズな入国審査がスマートな印象を与える。ニウヨークはスマートで輝く都市だ。

空港に隣接するP．ジョンソンのニウヨーク世界博ニウヨーク州立館を横目に、バスは一路マンハッタン島へ向かう。ニウヨーク州立館は学生時代、美術出版の建築作品集を開き、P・ジョンソンの創意的なエスキス画がそのまま実現したような作品に恋い焦がれていたころを思い出させてくれる。

マンハッタン島に渡る前、ロウアーマンハッタン対岸のブルックリン橋の袂にある桟橋に立ち寄り、イースト河、ブルックリン橋、ロウアーマンハッタンを背景に記念撮影をする。今から65年ほど前ル・コルビュジエが同じ場所を訪れたのは11月の小春日和で、ちょうど同じような気候だった。ローブリングの手によるこの巨大なブルックリン橋の2本の柱塔とそれを繋ぐケーブルは、美しくそして力強く横に広がるゴシック建築のようで、まさにアメリカを象徴している。

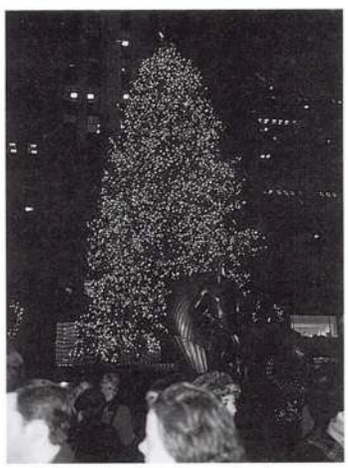
ロウアーマンハッタン・バッテリーパークはニウヨーク発祥の地としてツーリストが最初に訪れる場所で、スタントン・エクスタット設計の海岸の遊歩道から自由の女神が望まれる。19世紀にアメリカンドリームを夢見た多くの移民が最初に目にしたこの光景は、映画のセットのようである。



ロウアーマンハッタンを背景に記念撮影

コルビュジエやニーマイヤーのコミッティによる国連本部はミッドタウン・イースト河沿いに十分な広さのある広場を持つが、写真や映画でイメージしていた私の国連本部ビルとは違う。コルビュジエは「ニウヨークの摩天楼は小さすぎる」と言った。私には「ニウヨークの摩天楼は巨大な墓碑」に見える。

リンカーンセンターはミュージカル「ウエストサイド物語」の舞台となったアッパーウエストに3つの異なった劇場が広場に相対して建ち、あのジュリアード音楽院も隣接している。P．ジョンソンのニウヨーク州立劇場やウォレス・K・ハリソンのメトロポリタンオペラハウスはルネッサンス様式をデザインコンセプトとしているが、オペラハウスとジュリアード音楽院に挟まれてひっそりと佇むエーロ・サーリネンによるヴィヴィアン・ボーモント劇場の方が私は好きだ。テラス屋根の張り出しは、サーリネンならではの独創的な意匠である。



本家の威厳を示すロックフェラーセンターのクリスマスツリー

初日最後はライザ・ミネリの「ニウヨーク・ニウヨーク」を思わず口ずさみ、ロックフェラーセンターからホテルまで5番街のクリスマスイルミネーションのトンネルの散策としゃれ込む。昨日点灯式を終えたロックフェラーセンターのクリスマスツリーは、過去最高の高さを誇る。青森県にこの年末に出現した30mのツリーに本家の威厳を示すため35mにしたとの評判だ。いかにもニウヨーカーの気質が現れ、クリントン大統領の強いアメリカ政策の影響かもしれない。上品なカクテル、「マンハッタン」の刺激が5番街にはよく似合う。

美術館の散策は精神の探索

早朝のセントラルパークは、モネの自然主義的なコンセプトに重なる。印象派の精神は光のグラデーションの追求だと思う。

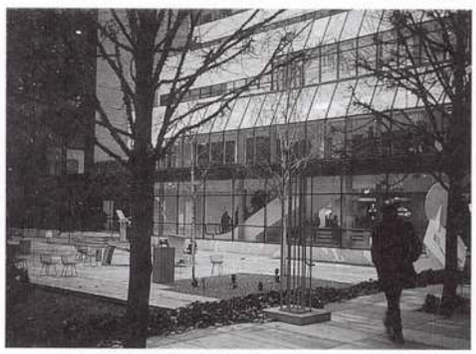
メトロポリタン美術館からグッゲンハイム美術館への散策は、ニウヨークで最も高貴な精神をかもしだす。フランク・ロイド・ライトのグッゲンハイム美術館はセントラルパークに面した5番街沿いに、少し遠慮がちで控えめに現れる。展示空間のテーマはスパイラルで、中央の吹き抜けを囲むように1／7の勾配の斜路に展示してある絵を最上階から鑑賞しながら下りて来る演出はユニークで興味深いが、絵の鑑賞には難があり、建築家のごり押しとも思われる。

メトロポリタン美術館のアメリカンウイングはゲヴィン・ローチ＆J・ディンケルーが既存建築にガラス屋根を架けた空間で、建築の保存方法を示唆した手本である。

マルセル・ブロイヤーのホイットニー美術館は独特の雰囲気をマジソン街アッパーイーストの高級ブティック街に威厳を持って存在価値を示している。そしてホイットニー美術館の南に位置するザ・フリック・コレクションはトーマス・ヘイスティングスの設計によ



5番街沿いに少し控えめ。グッゲンハイム美術館



増改築を繰り返すニウヨーク近代美術館



タイタニック号の舳先を彷彿とさせるフラットアイアンビル



椰子のあるウインターガーデンのアトリウム
（シザー・ペリ＆アソシエイツ）



コロンビア大学法律図書館と建築学科棟

る、私邸を美術館にしたニウヨークで唯一の素晴らしい時間を過ごせる穴場で、都会の雑踏をしばし忘れさせてくれる。

19世紀創業のデパート、ブルーミングデールズのテディベアサンタが散策疲れの気持ちを和ませ、本日最終目的のニウヨーク近代美術館まで5番街を一気に下る。

通称MOMAと呼ばれるニウヨーク近代美術館は増改築を繰り返し、携わった建築家もエドワード・ダレル・ストーン、P．ジョンソン、シーザー・ペリと時代を代表する名前が連なる。現在も増築中で、こちらの方は谷口吉生氏の設計である。谷口氏はプレゼンテーションで、P．ジョンソンらのお歴々の前でニウヨーカーよろしく流暢なべらんめえ英語でまくしたてたそうだ。いずれにしろ、直ぐ解体新築を提唱するわれわれにとって見習う点が多い。ただしこのように保存を繰り返す文化を継承すればするほどアメリカは独自の文化を見失い、いずれはヨーロッパになりすましてしまうのではないだろうか。

いよいよニウヨークの街を引き廻し

見学会最終日はニウヨークにアトリエを構えコロンビア大学でも教鞭を執る西本圭敦氏と一緒に、近代から現代のニウヨーク歴史建築をたどり（街を引き廻し）、文化の移り変わりを肌で体験する勉強会とする。

8時30分にホテルを出発した私たちはブロードウェイと5番街が交差する三角の敷地に聳えるフラットアイアンビルを目指す。設計者ダニエル・バーナムによるファサードは、あのタイタニック号の舳先を彷彿とさせる。ただ、フラットアイアンビルの竣工10年後（1912年）にあの悲劇が起きたのは、何かの因縁だと思う。

建築家の個性と思われる垂直線がテラッコッタに存在感を現すルイス・サリバンのベイヤード・コンディクトビルは、来るべき摩天楼時代の前哨であり、ボザール様式を逸脱した当時としては画期的なものであり、壁画アートで有名なハウストンリートとブロードウェイの交差点にほど近い。ルイス・サリバンと言えばライトのボスであるが、私には辰野金吾に逆らって渡米した建築家・下田菊太郎を世に出した大親分として映る。

ソーホーに建つエルンスト・フラッグの手によるシンガービルのキャストアイアンのカーテンウォールの美しさに酔い、キャス・ギルバート設計のカテドラル・オブ・コマース（「商売の寺院」）と呼ばれるウールワースビルの、摩天楼に最初に設置されたオーチスエレベータの技術に感動する。

ワールド・ファイナンシャル・センターのウインター・ガーデンの椰子のあるアトリウムは日本でも多く引用され、シーザー・ペリの最も魅力的な空間である。

ウォール街の散策は西本先生の弁舌も手伝って大変興味深く、ワシントンの銅像が見下ろすジョージ・B・ポスト設計の証券取引所のクリスマスイルミネーションがボザール流の威厳をからかい、有機的に見える。

最後はコロンビア大学で、バーナード・チュミ率いる建築学科を訪ねる。キャンパス計画はマッキム・ミード&ホワイトによるもので、すべての建物の同じ高さを廻るコーニスは圧巻である。そんな中で、チュミの手によるヴォイドをコンセプトとした学生会館のガラスの被膜が、ニウヨークの現代建築を私たちに意識させる。

ミースのシーグラムビルは、ニウヨークの最後を飾るのに最も相応しい。技術に裏付けされた究極のデザインというより、神がかりと言うべきか。黄昏のシーグラムビルとジョン・コルトレーンのバラードは、ニウヨークで合符となる……。

*

最後に、このツアーでお世話になった西本先生、そして日旅サービスの服部さんに感謝をこめて、5番街に建つC・D・ポルザンパルク設計のC・ディオールビルの変化するイルミネーションを贈る。

（ふくた　たいぞう）

ル・コルビュジエ　ペサックの住宅群：標準／反復／量産

角砂糖工場を経営するアンリ・フリュジェがフランスの西部ボルドー近郊の街ペサックに、設計をル・コルビュジエに依頼して試みた「標準化と量産化」による労働者の住宅は、名前をとってシテ・フリュジェとも呼ばれる。5mモデュールによる単純な立方体を組み合わせた四角いカラフルな住宅が50棟も立ち並ぶペサックの住宅群も改修、増築で原型をとどめる住宅が少なくなってしまったが、築75年を経て、現在ではかなりの住宅が修復されている。

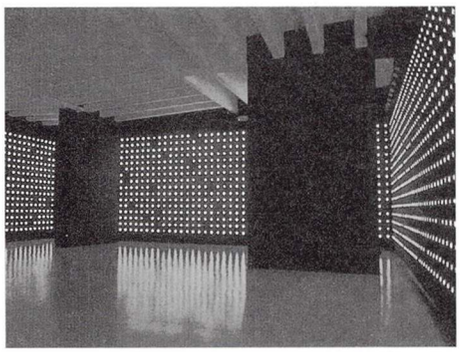
本展では単体の建築と集合とに対するル・コルビュジエの構想の骨格を具体的に示すため、フィリップ・ルオー氏撮り下ろしの現況写真30点に加え、3つの住戸型の模型、図面20点、ペサックの売り出し広告などが展観される。入場無料。



ペサックの住宅

会期　2000年3月13日(月)～6月2日(金)
10：00～17：00　土日祝は休み
会場　ギャルリー・タイセイ　TEL03-5381-5510
東京都新宿区西新宿1　新宿センタービル17F

宮島達男展「MEGA DEATH:shout!shout!count!」



〈MEGA DEATH〉1999
ー青い光の美しさと瞬時に起こる暗闇の恐怖ー

暗闇で静かに明滅するL.E.D.（発光ダイオード）のデジタルカウンターに代表される作品を発表してきた現代美術家・宮島達男氏の、最初の展覧会から20年目そして「第43回ヴェネチア・ビエンナーレアペルト'88」で国際デビューして12年目の現在を、L.E.D.によるインスタレーション、パフォーマンス・ヴィデオなど最近作品4点で、6mの天井高を生かして展示される。

会　期　2000年3月3日(金)～5月14日(日)
12：00～20：00（金・土曜～21：00）
月曜日休館（祝日の場合は翌火曜日）
会　場　東京オペラシティアートギャラリー
東京都新宿区西新宿3-20-2（京王新線初台駅東口直結）TEL03-5353-0447
入場料　一般900円、大・高生700円、中・小生500円

友田多恵子「紙の軌跡」展～大阪府立現代美術センター～

造形作家・友田多恵子さんの個展が開かれる。

「都市や社会が効率よく整理され、すべてが表層的な今、人間の生の疼きは拡大しています。
視覚がより優先されてしまい、忘れられてしまった感覚、安らぎを、あるいは深い感情を呼び起こす『触覚』をテーマに、新たな秩序と切り捨てられている生命感を表現しました。
ざらざら、ぶつぶつ
ぐにゃぐにゃ、ふわふわ、さらー
そんな感覚、感情が呼び起こせたら…
パルプを原料に溜め漉きの技法を用いています。無機質な空間にその存在を大きく主張したいと考えています」（友田多恵子）

日時　2000年3月27日(月)～4月1日(土)
10：00～18：00（土曜日は16：00まで）
会場　大阪府立現代美術センター（大阪府新別館北館）
大阪市中央区大手前3-1-43　TEL06-4790-8520
地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」A出口



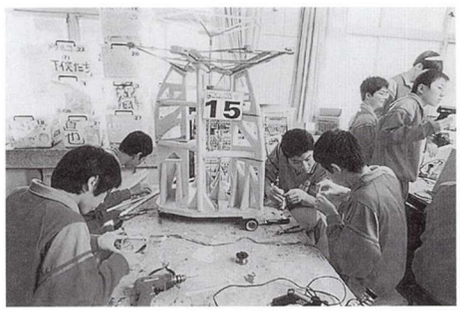
溜め漉きによる「紙の軌跡」

ロボコン・スーパー中学校

八戸市立第三中学校の生徒たちは、年1回の「技術・家庭科卒業記念八戸三中ロボット・コンテスト」に向けて、4人一組で一体のロボットを作り上げる。人体型ではなく、競技で得点を競うこのロボットは発泡スチロールや厚紙、紙管などを使った手作り品だ。

3月からのINAXギャラリー大阪では八戸市立第三中学校のロボコンへの取り組みを紹介する。会場に展示された今回のコンテスト優勝ロボット、ユーモア賞や審査員特別賞を受賞したロボットなどが、誰もが潜在的に持つものづくりの力と可能性への夢を抱かせる。

会期　2000年3月6日(月)～5月20日(土)
10：00～18：00
会場　INAX大阪ショールーム2階
大阪市西区新町1-7-1　TEL06-6539-3518
毎週水曜日休館、入場無料



八戸市立第三中学校ロボコン制作風景

吹田市で中間検査制度実施

昨年5月1日施行の建築基準法改正に伴い、大阪府吹田市全域で、本年4月1日から平成15年3月31日までの3年間、中間検査制度が実施されることになった。

4月1日より建築確認申請を受ける建築物については、新たに中間検査を受けることが義務づけられる。

(1)　中間検査を行う建築物の用途
新築で一戸建ての住宅

(2)　中間検査を行う建築物の構造、規模、特定工程及び特定工程後の工程（新築に係る部分が次に掲げる構造及び規模のものとする）

構造	木造	木造と非木造の混構造
規模	階数3以上(地階を除く)	階数3以上(地階を除く)
特定工程	屋根の小屋組みの工事が完了したとき	2階の床(非木造部分の床が、コンクリートの打設工事を伴う場合は配筋工事)が完了したとき
特定工程後の工程	壁の外装工事又は内装工事	木造部分の建て方工事(非木造部分の床等が、鉄筋コンクリート造等の場合は2階の床及び梁等のコンクリート打設工事)

(3)　適用の除外
法第18条、38条及び法85条の規定による建築物及び特に市長が認めたものについては、この告示の規定は適用しない。

SDコース5月開講

広い視野で物事をとらえる力と豊かなパーソナリティを育てるため、第一線で活躍中の実務家やアーティストを講師に迎えて全45回のSDコースが5月24日から開講される。大阪ガスインテリアデザインスクールのこのコースは、労働省教育訓練給付制度の指定講座で、受講料は8割（最高20万円）支給される。

受講日　5月24日（水）開講。1年間毎週水曜日
18：45～21：05
定　員　30名（先着順）
受講費　入学金3万円、受講料29万円（いずれも税込）
通算5年以上雇用保険の被保険者であれば、全受講費32万円に対して20万円支給される。
申込先　大阪ガスインテリアデザインスクール（〒541-0051大阪市中央区備後町3-6-14、TEL06-6262-4089）へパンフレットを請求後、同封の受講申込書に写真2枚を添えて送付。
講　師　東孝光／池上俊郎／石井修／遠藤剛生／大石達巳／岡幸男／沖健次／柏木浩一／加藤力／喜多俊之／木村博昭／佐々木恵子／佐々木葉二／島村美由紀／津端修一／富安秀雄／中西元男／中東達男／長瀬信博／藤田邦昭／本多友常／増田昇／三浦啓子／三宗司郎／安原秀／安原盛彦／吉村篤一ほか

本コースの説明会が、4月5日（水）19：00～20：00、4月19日（水）19：00～20：00に予定されている。

JDFフォーラム「21世紀のデザインを考える」

国際デザイン交流協会（会長／田代　和・大阪商工会議所会頭）は、2001年開催の国際デザイン・コンペティションを視野に入れて、下記フォーラムを開催する。

テーマ　「21世紀のデザインを考える」
日　時　2000年3月29日（水）14：00～17：00
会　場　東京国際フォーラム　G610会議室
東京都千代田区丸の内3-5-1
定　員　60名（先着順）ー入場無料ー
参加希望者は事前に、（財）国際デザイン交流協会広報部（〒530-0001大阪市北区梅田1-3-1-800、TEL 06-6346-2612、FAX 06-6346-2615）へ。
対談者　豊口　協氏（長岡造形大学学長）
鷲田清一氏（大阪大学大学院教授・哲学者）

シンポジウム「住宅における生活スケジュールとエネルギー消費」

日本の住宅用エネルギー消費は、全エネルギー消費の約1/8を占めており、さらに増加の傾向にある。

㈱空気調和・衛生工学会は約3年間、住宅における生活行為に伴うエネルギー消費スケジュールの作成方法をテーマに活動し、成果を得たのでこれを公表する。なお、部屋構成や家族構成を入力するとスケジュールを自動生成するプログラムが当日会場で配布される。

日　時　2000年3月27日（月）13：30～17：20
会　場　工学院大学・高層棟3階0312教室
東京都新宿区西新宿1-24-2
定　員　90名
参加費　4000円（テキスト代等）ー当日支払いー
申込み　シンポジウム名・氏名・勤務先・住所・電話番号を記入し、FAXまたは郵送で下記へ。
（社）空気調和・衛生工学会住宅設備委員会シンポジウム係（〒169-0074新宿区北新宿1-8-1、FAX 03-3363-8266）

●住宅における生活スケジュールとエネルギー消費
（1）生活スケジュールの作成とソフトウェア／石田健一氏（積水ハウス）
（2）給湯スケジュールの作成／村田太一氏（システック環境研究所）
（3）アンケート調査によるエネルギー消費実態／岩田利枝氏（東海大学）
（4）標準スケジュールと使用例／須永修通氏（東京都立大学）
（5）住宅の総合的エネルギー消費量の試算／佐藤　誠氏（システック環境研究所）

セミナー「木と住まい～木が育む文化の魅力～」

住まいのトラブルを予防し、悩みを解決するため「住まいのなるほどセミナー」を毎月開催している大阪市立住まい情報センターでは、自然素材への関心が高まっているこの機をとらえて、優れた自然素材“木”を生かした建築の普及に取り組む建築士によるセミナー「木と住まい～木が育む文化の魅力～」を開催する。

日　時　2000年3月25日（土）13：30～16：00
場　所　大阪市立住まい情報センター5F研修室
大阪市北区天神橋6-4-20
（地下鉄「天神橋六丁目」駅3号出口）
講　師　大阪府建築士会女性委員会「木の文化と建築を考える会」メンバー
参加費　1000円（テキスト代実費）
定　員　50名（先着順）
申込み　住所・氏名・年齢・電話番号・講座名・希望する場合は手話通訳を明記して、FAXかハガキで3月17日（消印有効）までに下記へ。
住情報プラザ「木と住まい講座」係
大阪市北区天神橋6-4-20 〒530-0041
FAX 006-6354-8601、TEL 06-6242-1160

展覧会とフォーラム～東京デザインセンター～

■展覧会「20世紀のモダンハウス」
20世紀の巨匠が世に送り出したモダン・ハウスを、撮り下ろしの貴重な写真で紹介。20世紀のモダン・ハウスがもつ空間の多様性と豊かさを表出できれば…。
会期　2000年3月30日（木）～4月10日（月）
11：00～19：00　会期中無休　入場無料
会場　東京デザインセンター・ガレリアホールB1F
構成　ロビー邸（アメリカ）／F.L.ライト
シュレーダー邸（オランダ）／リートフェルト
トゥーゲントハット邸／ミース・V・ローエ

■「20世紀100のチェアーヴィトラ・デザイン・ミュージアム　ミニチュアコレクション」
建築家やデザイナーの椅子のコレクターとして知られるヴィトラ・デザイン・ミュージアムがオリジナル図面から再現した1/6のミニチュアの椅子100点の展示を中心に、オリジナルドローイングや写真、年表パネルにより1800～1990年の家具デザインの流れを追う。
会期　2000年3月30日（木）～4月10日（月）
11：00～19：00　会期中無休　入場無料
会場　東京デザインセンター・ガレリアホールB2F

■シリーズ・フォーラム〈住むこと〉の夢と発明
①「着ること・住むこと」伊東豊雄（建築家）×吉岡徳仁（クリエイティブディレクター）
②「インテリア・アーキテクチュア」古谷誠章（建築家）×内田繁（インテリアデザイナー）
日時　①2000年3月31日（金）18：30～20：00
②2000年4月5日（水）18：30～20：00
会場　東京デザインセンター・ガレリアホールB2F
東京都品川区東五反田5-25-19
定員　各180名（入場無料）
申込　希望フォーラム名・氏名・学校or勤務先・住所・電話＋FAX番号・e-mailを記入し、FAXまたはメールで東京デザインセンター「フォーラム係」（FAX 03-3445-1125、TEL 03-3445-1121
e-mail：mailnews@design-center.co.jp）へ。

耐震に関する公開講演会

関西建築構造設計事務所協会主催の第28回公開講演会が開催される。入場無料。資料代1000円程度。

日時　2000年3月29日（水）14：30～17：00
会場　建設交流館8階グリーンホール
大阪市西区立売堀2-1-2
定員　300名（定員になり次第締め切り）
申込　FAXで、関西建築構造設計事務所協会（FAX 06-6763-8206、TEL 06-6763-8205）へ。

●「芯鉄骨で補強したRC柱（S.P.RC.柱）の耐震性」
講師／南　宏一氏（福山大学教授）
堺　純一氏（九州大学大学院助手）
ー提案者：平田定男氏（平田建築構造研究所）

●特別講演「構造雑感」
講師／横尾義貫氏（京都大学名誉教授）

西日本トータルリビングショー

昭和56年から毎年開催を重ねてきた「西日本トータルリビングショー」（主催：(財)西日本産業貿易見本市協会）は、今回で第19回となる。入場料200円。

会期　2000年 3 月17日(金)～20日(祝)
10：00～17：00

会場　西日本総合展示場・新館
北九州市小倉北区浅野3-8-1

出展　住宅行政PRから設計用CADシステムまで。
今回は「夢の建築つみきハウス」「ノルウェー製薪ストーブ」「グランドコンクリート」「アイシネン断熱システム」なども初登場。



ワールドアートブックバザール



800㎡の会場に２万タイトル、10万冊を超える世界のアートブックを集め、展示即売会が開かれる。
この催しは丸善㈱と㈱東急文化村の主催で行われ、今年で10回目を数える。ファインアート、建築、インテリア、写真から絵本までを網羅し、出版社のブースでは一部書籍が特価で提供される（例：中央公論美術出版「パラディオ図面集」￥100,000→￥70,000）。

会場　Bunkamuraザ・ミュージアム　―入場無料―
東京都渋谷区道玄坂2-24-1　TEL 03-3477-9111

会期　2000年 3 月18日(土)～ 3 月26日(日)
11：00～19：00（金・土曜～20：00）

河合止揚写真展

建築写真を志す新進のカメラマン・河合止揚さんが中国・福建省に留学していた日々に撮った何気ない街の風景、人々の生活…。写真を集めての初めての個展。

テーマ　華僑の故郷―福建省留学日記'96―'97

日　時　2000年 3 月 6 日(月)～ 3 月18日(土)
10：00～20：00（3月18日は2：00まで）
日曜休み、3月11日休み

会　場　ホリウチカラー本町　TEL 06-6448-2351
大阪市西区靭本町1-6-10　西井ビル内
地下鉄御堂筋線「本町」２番出口または四ツ橋線「本町」25番出口。



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

日本建築協会

月間の動き

【平成11年12月分】

正・副会長会議

8日　12時～2時・於本会会議室
出席者　市川会長ほか4名
議　事（1）平成12年度の役員人事について
（2）協会の今後の運営について

理事会

14日　4時30分～5時・於太閤園
出席者　市川会長ほか20名
議　事（1）入・退会者承認の件
（2）協賛名義の使用承認の件
（3）「読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』」実施について
（4）事業報告

編集委員会

第9回編集委員会
13日　6時～7時30分・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか7名
議　事（1）1月号「21世紀のデザインの動向」「安井建築設計事務所創業75周年」特集経過報告
（2）2月号「中国支部ーしまなみ海道と中国地方の街づくり」特集・特別企画「九州作品集」経過報告
（3）3月号「東海支部会員作品」「東海支部ー富山・地域文化の形成と施設づくり」特集経過報告
（4）4月号「こころを癒す環境デザイン」特集経過報告
（5）1月号～12月号表紙デザイン案検討
（6）「読者と選ぶ『建築と社会賞』」について
（7）収支状況報告
第8回広告企画小委員会
13日　5時～6時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか7名
議　事（1）1月号「安井建築設計事務所」特集広告経過報告
（2）2月号「中国支部」特集「九州作品集」広告経過報告
（3）3月号「東海支部会員作品」「東海支部ー富山・地域文化の形成と施設づくり」特集広告経過報告
（4）作品作風関係報告
（5）独自特集経過報告
（6）収支状況報告
第8回設備分科会
9日　6時30分～8時45分・於本会会議室
出席者　谷津幹事ほか5名、ゲスト／西尾　勇氏
議　事（1）編集委員会の報告
（2）基礎講座シリーズの企画
（3）「設備の頁」の企画
（4）来年度の設備特集の企画
W-座談会・Welcomingー福祉関係者に聞くー
10日　5時～6時・於本会会議室
出席者　平野享子氏、堀本登美子氏、塚口副委員長
第9回施工材料分科会
16日　2時～6時・於日本建築総合試験所
出席者　小椎八重幹事ほか4名
議　事（1）5月号施工材料特集について
（2）「施工材料の頁」の企画
第9回作品作風小委員会
16日　7時～8時15分・於本会会議室
出席者　前川副委員長ほか5名
議　事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）「Sketch Book 欄」の掲載予定
（5）前回編集委員会の報告
第6回計画系ーインテリア・住宅ー分科会
21日　7時～9時・於本会会議室
出席者　石川幹事ほか5名
議　事　6月号「スケルトン＆インフィル」の企画

事業委員会

第8回若い会員の集い小委員会
1日　7時～8時20分・於本会会議室
出席者　樋上幹事ほか3名　オブザーバー／北村　仁氏
議　事（1）今後の予定について
（2）「30's EYE出版」について

出版委員会

16日　5時30分～7時・於大巳会議室
出席者　山田委員長ほか9名
議　事（1）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（2）今後のテーマと執筆者選定
（3）第22回〈プロのノウハウ〉講座の企画
第10回「〈仮称〉汚れにくい建物を目指して」小委員会
21日　6時～8時30分・於本会会議室
出席者　上原副委員長ほか5名
議　事（1）原稿の検討及び確認
（2）今後のスケジュール

教育委員会

第2回工高生教育小委員会
15日　6時～6時45分・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか10名
議　事（1）第45回工高生デザインコンクール実施報告
（2）第46回工高生デザインコンクール募集規定の件（設計課題、原案担当、その他）

見学会

第8回見学会　ホテルモントレ大阪見学会
15日　2時～4時30分・参加者58名

日本建築協会賞審査委員会

21日　3時～5時・於本会会議室
出席者　薬袋委員長ほか4名
議　事　第5回日本建築協会賞の選考

建築クラブ

第332回朝食会
7日　8時30分～10時・於大阪全日空ホテル
演題　「経営雑感」
講師　村井勉氏（西日本旅客鉄道㈱顧問名誉会長）
参加者　46名

建築関係団体合同忘年懇親会

14日　6時～7時30分・於太閤園
参加者　306名

入会者（敬称略）

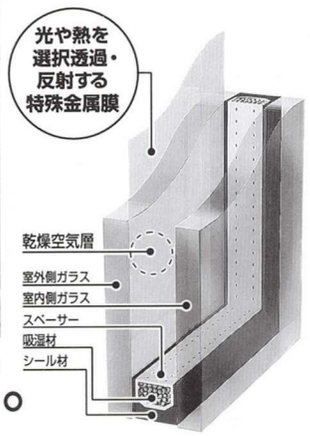
［団体会員1社］
中部電力㈱名古屋支店
［個人会員2名］
田原　賢（田原建築設計事務所）　上岡　裕和（GA建築設計事務所）

◀会員の訃報
正会員　岩崎　弘行氏（安井建築設計事務所）
平成12年1月24日逝去

AGC
ASAHI GLASS COMPANY



物件名：東京ガス・アースポート
所在地：横浜市
設　計：日建設計
施　工：(株)熊谷組



採光と遮熱、同時にできるペヤグラスです。

旭硝子の高遮熱Low-Eペヤグラス《サンバランス》は、2枚のガラスのうち、室外側ガラスの内面に特殊金属膜をコーティングしたペヤグラスです。夏は日射熱の侵入を、冬は暖房熱の流失を抑え、ビル内を快適に保つとともに冷暖房効率をアップ、地球温暖化防止のための二酸化炭素（CO_2）排出量削減にも大きく貢献します。しかも可視光線の透過率が高いので、明るさや眺望は損ねません。人にも地球にも負担をかけない調和のとれた建築のための開口部には《サンバランス》です。

次世代省エネ基準をクリアする
高遮熱Low-Eペヤグラス
サンバランス®

旭硝子株式会社
本社〒100-8305東京都千代田区丸の内2-1-2／札幌支店☎011(212)3876／仙台支店☎022(215)6611／東京支店☎03(3283)9413／名古屋支店☎052(583)2806／大阪支店☎06(6373)5814／福岡支店☎092(441)4122／広島営業所☎082(248)3737／ガラスプラザ(ショールーム)☎03(5322)6530

INAX



健・康・建・材
エコカラット
インテリアセラミックス

呼吸する壁材「エコカラット」、誕生。

呼吸する壁材

エコカラットには、珪藻土壁の2〜3倍もの調湿機能があります。土のもつ自然の力で室内湿度をコントロールするので、カビ・ダニ結露を抑えて、快適な環境を保ちます。

優れた耐久性

セラミックならではの、高耐久安定品質。
強度・耐震性能はもちろん、施工後のひび割れや直射日光・熱などによる褪色劣化もなく、カビ・コケの発生もありません。

簡易施工

目地なし突き付け施工。優れた切断性の実現で、施工能力が大幅にアップします。

人にやさしい環境素材

ホルムアルデヒトやVOC、環境ホルモンを一切含まない自然素材。使用時にも廃棄時にも、人や地球に有害な環境汚染物質を出さない素材です。

温もりある自然な表情

これまでにないオリジナルな質感で、新感覚のインテリア空間が実現します。

株式会社INAX　中部統括支社　〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目16-20
TEL 052-201-1717
INAXホームページ　http://www.inax.co.jp/



時代が求める建材を。

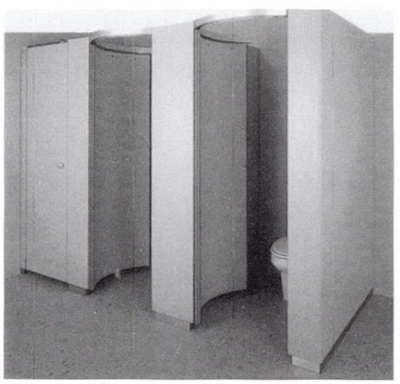
1999年エービーシー商会は、厳重な品質管理、高齢化社会への配慮、
ニーズを満たす新商品開発の3つのテーマにチャレンジし、
より大きな安心とご満足をお届けしてまいります。

ABC shokai SHOWROOM

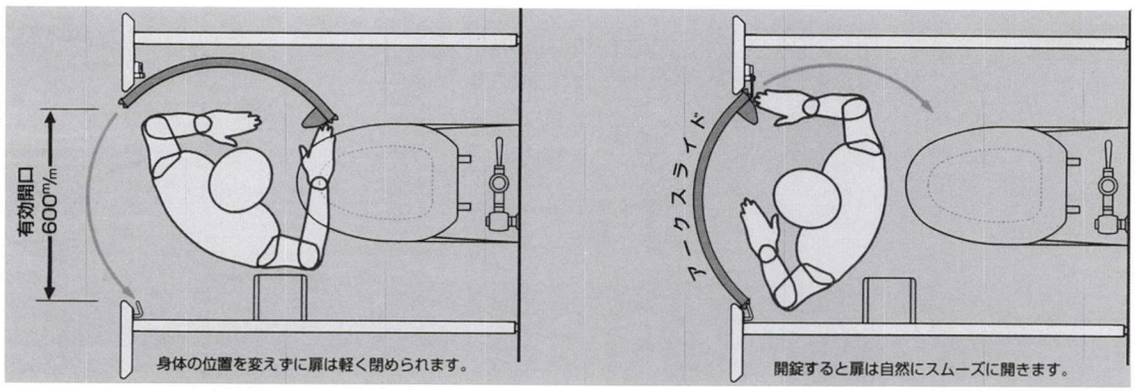
㈱エービーシー商会
本　　社 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-12-14
TEL 03(3507)7132
名古屋営業所 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26昭和ビル4F
TEL 052(251)4411
ショールームへどうぞ 東京 03(3507)7117 大阪 06(6944)4903
※AM10:00～PM6:00（土曜・日曜・祭日・年末年始・夏休み休館）
ホームページアドレス　http://www.abc-t.co.jp

画期的な扉の開閉（アークスライド）方式を採用した

トイレブース　ウェイブレット



スペースの限られたトイレブースでは、扉の間口寸法が小さい内開き扉が主流ですが、扉の開閉の為に、どうしても使う人の動作が大きくなりますし、外開き扉では、急に扉を開けると通路にいる人と接触する危険があります。そのような問題を解決するために、扉のあるべきカタチと、動きを追及して生まれた（アークスライド）の扉開閉方式。扉は使う人のまわりをとり巻くように動きますので、開け閉めが大変ラクでスムーズに行えます。
操作性と安全性に優れたウェイブレット。やさしく、快適なトイレ空間が構成できます。



よい品は結局おトクです
オカムラ　株式会社 岡村製作所　〒460-0008 名古屋市中区栄2-11-30 セントラルビル1F　TEL 052(221)6291

お問い合わせ・ご相談は◎お客様サービスセンターへ
フリーダイヤル0120-81-9060 月曜～金曜（祝祭日を除く）9：00AM～6：00PM

最高水準

KIMUKOH

少水量/超コンパクト形空調機

Δt10℃
入口水温7℃
出口水温17℃

ファンコイルユニット
エアハンドリングユニット

大温度差／少数量／省エネへの対応

エコデルタ仕様

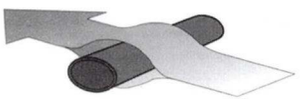
省水量50%以上、省風量25%以上

超小型化／大能力／省スペースへの対応

エコノパクト仕様

小型化40%以上／能力ほぼ一定！

「世界初」
楕円管熱交換器
“ゼロコイル”



低圧損で熱効率に優れた新型コイルを搭載し、最大の効力を発揮します。

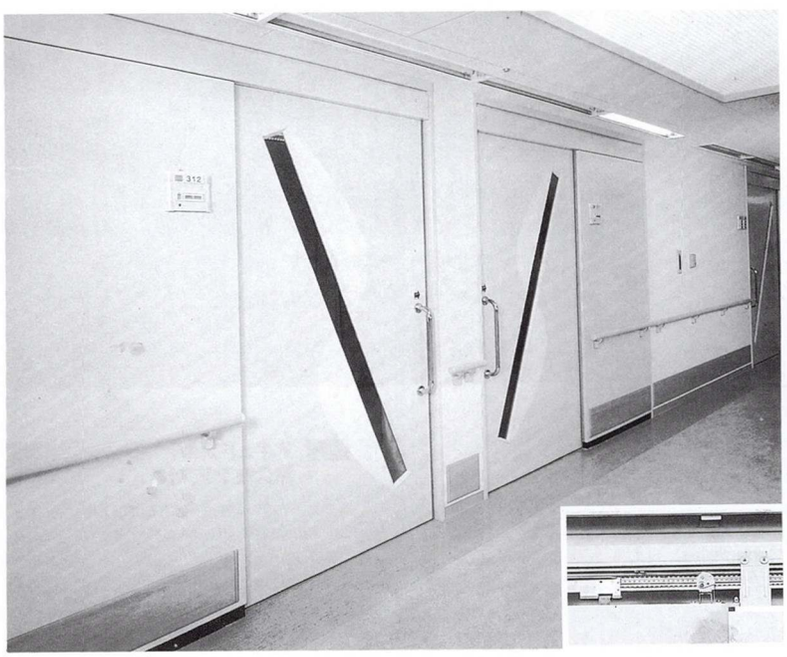
木村工機株式会社

本社/〒541-0059 大阪市中央区博労町4丁目2番15号ヨドコウ第2ビル
TEL 06 (6243) 1200(代)・FAX 06 (6243) 1202
htt://www.kimukoh.co.jp/

東京営業本部 03 (3273) 8821 (代)
本社営業部 06 (6243) 1201 (代)
名古屋支店 052 (211) 5048 (代)
福岡支店 092 (441) 4357 (代)
札幌営業所 011 (207) 3535 (代)
仙台営業所 022 (261) 1561 (代)
新潟営業所 025 (244) 7771 (代)
長野営業所 026 (222) 6467 (代)
金沢営業所 076 (233) 5230 (代)
広島営業所 082 (262) 5039 (代)
八尾事業本部 0729 (23) 0621 (代)
八尾工場 0729 (23) 0621 (代)
河芸工場 059 (245) 6500 (代)
企画センター 06 (6764) 6161 (代)

いつまでも静かで滑らか、抜群の耐久性を誇る

アキュドアユニット



くろがねのアキュドアユニットはヘルスケア施設専用の吊り下げ式引戸のパイオニア、床にレールなどの障害物がなく、高精度のリニアボールベアリング式の独自のレール機構は施設の耐用年数に匹敵する300万回の開閉テストをクリア、いつまでも軽くて静か、その耐久性を実証しています。
昭和52年に発売以来、医療施設や高齢者施設に最適な多くのメリットをもつ横引戸として、数多くの施設でご採用いただいていることがその信頼性を物語っています。

くろがね

株式会社くろがね工作所

●東　京／〒108-0014 東京都港区芝5丁目29-20（三田全日空ビル） ☎03(3455)2171
●大　阪／〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-26（四つ橋中央ビル） ☎06(6538)1060
●名古屋／〒460-0008 名古屋市中区栄5丁目27-14（朝日生命栄ビル） ☎052(251)6221

2000|2001|2002 総合壁装材

いいインテリアがある場所には、いい生活がある。

サンゲツ「総合壁装材」新発売!!

●約2,500点収録しています。

コントラクト向けの商品も多数収録しており、3年間皆様に十分お使いいただける見本帳となっております。

●エコロジー商品を約350点収録。

注目の不織布壁紙「エコセラール」や「パピウォール」をはじめとして、約120点にも及ぶオレフィン壁紙や、人気の高い珪藻土壁紙など･･･環境対応商品をバリエーション豊富に展開いたしております。

●「総合見本帳」の有効期限が2年→3年になりました。

有効期限を延長することで、長期計画の物件やメンテナンス面でも安心してご使用いただけます。



SANGETSU 株式会社サンゲツ

●本社／名古屋店 TEL.052-564-3111
●名古屋ショールーム TEL.052-564-3225
●東京店 TEL.03-3474-1181
●東京ショールーム･クレリア TEL.03-3505-3300
●大阪店 TEL.06-6414-3311
●大阪ショールーム TEL.06-6440-5011
●岡山店／ショールーム TEL.086-292-3300
●福岡店／ショールーム TEL.092-441-5181

三和シャッター



都市アート計画

ビルの表情を個性ゆたかに彩る、
三和のステンレス建材です。

どこまで個性を主張できるか。どれだけ都市に美しく調和できるか。それが、これからの建材に求められる大きなテーマです。三和のステンレス建材なら、建物のイメージにあわせてデザインは自由自在。その高級感あふれる質感と、耐蝕性にすぐれた特性を活かし、ビルのフロントはもちろん、インテリアからエクステリアまでを個性ゆたかに彩ります。ビルに、都市に、アート感覚をプラスする、先進のマテリアルです。

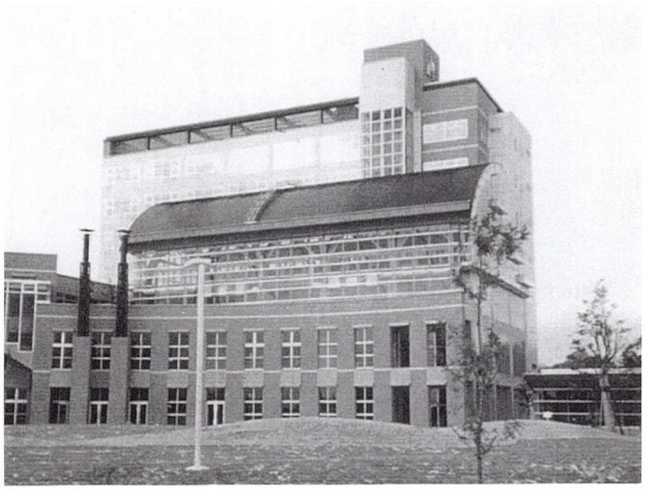
STAINLESS
CONSTRUCTION MATERIAL

三和シヤッター工業株式会社

本社　〒163-0490 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル52階 ☎03(3346)3011(代表)
中部ビル建材事業部　〒450-0003 名古屋市中村区名駅南3-6-13 ☎052(582)3030

自然の恵みを可能な限り利用して、屋根自体が発電する新システム

屋根材一体型太陽光発電システムルーフ



■50年にわたって長尺金属屋根施工に携わってきた屋根メーカーの視点から、アモルファス太陽電池を屋根材にしました。

■太陽光発電機能を持った屋根材とご理解ください。
従って屋根機能（水密性、耐風強度、耐候性）も万全です。

■表面はフッ素樹脂フィルムを採用し、保護ガラスを使用していないので、反射公害もなく周辺の景観にも調和します。

■防火・耐火認定も取得済です。

■太陽光発電システムも理解している屋根メーカーです。
太陽電池の周辺屋根工事もご遠慮なくご相談下さい。

三晃金属工業株式会社

名古屋支店　〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-25-9　堀内ビル4F　TEL 052(582)0311(代)・FAX 052(582)3282
本　　社　〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23　MS芝浦ビル11F　TEL 03(5446)5608・FAX 03(5446)5631

住友ゴムの **塗り床・弾性舗装材**

産業廃棄物処理場 …… 土木用シート
コンクリート防食 …… 下水道用ライニング
ウォーターフロントに浮桟橋システム …… ポンツーン
美しい海を次世代へ …… 汚濁防止膜
船舶の安全な接岸　岸壁用 …… 防舷材
オフセット印刷用 …… ブランケット

各種工場・倉庫・クリーンルーム・一般建築の床 …… ***グリップコート***
学校・公共体育館・多目的ホールの床 …… ***ラザーコート***
ゴルフ場歩径路・テニスコート・バレーコート・走路 …… ***マスターズコート***
テニスコート・ゲートボールコート …… ***オムニコート***
野球場・サッカー場・校庭・陸上競技場 …… ***オムニターフ***
“もしも”の地震に揺るがぬ自信 …… ***免震支承***（LRB．NR）

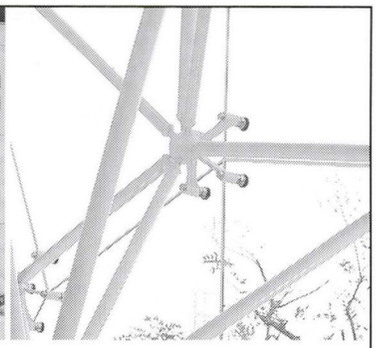
住友ゴム工業(株)中部地区総販売元

株式会社 住ゴム産業中部

本　社　〒465 名古屋市名東区藤森二丁目18番地　電話〈052〉774－2122
営業所　静岡・浜松・富山・金沢







写真：南関東自転車競技会ビル　設計／松田平田

MakMax

眺めのよい空間づくりに。

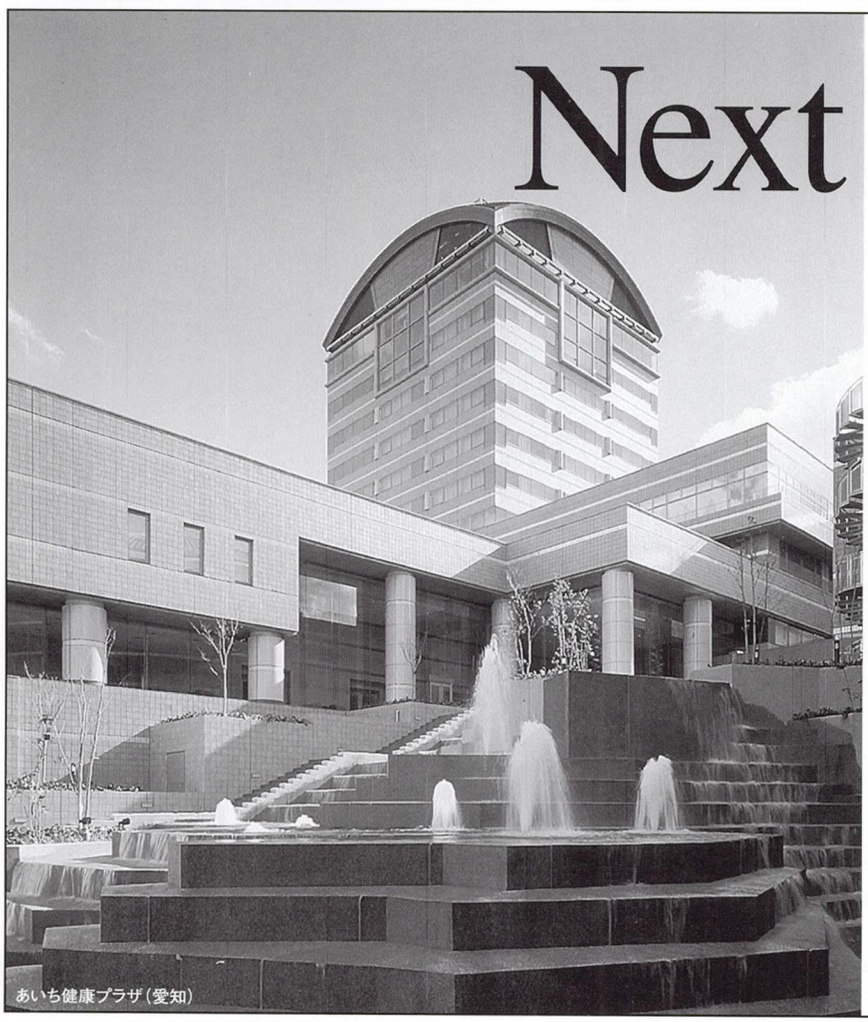
TMトラス一体型DPGシステム タイヨウ・ビューシステム

TVS（タイヨウ・ビューシステム）は
「眺めのよい空間づくり」を製品コンセプトに、
太陽工業のTMトラス技術の応用から生まれた
TMトラス一体型DPG（Dot Point Glazing）システムによる
カーテンウォール、および屋根の最新モデルです。

太陽工業株式会社

名古屋市中村区名駅南2-8-11　〒450-0003　TEL(052)541-5120
大阪市淀川区木川東4-8-4　〒532-0012　TEL(06)6306-3065
東京都目黒区東山3-22-1　〒153-0043　TEL(03)3714-3461

● 札幌 TEL(011)822-2111 ● 仙台 TEL(022)227-1364 ● 広島 TEL(082)261-1251
● 福岡 TEL(092)411-8003 ● 大宮 TEL(048)667-7651 ● 千葉 TEL(043)243-4770
● 横浜 TEL(045)316-1915 ● 新潟 TEL(025)233-3211
● シカゴ・ニューヨーク・コンスタン（ドイツ）・台北
● 一級建築士事務所　特定建設業者大臣許可(特-8)第381号
● (社)日本膜構造協会正会員　(財)日本体育施設協会特別会員



あいち健康プラザ(愛知)

Next Scene

未来を見つめる技術も
未知の分野への挑戦も
人と環境の間に通いあう
快適な関係を築きたいから。
どこでも、どこまでも
いつでも、いつまでも
快適シーンを創造していく
立山アルミです。

人間（ひと）にやさしい快適空間をめざして

立山アルミ

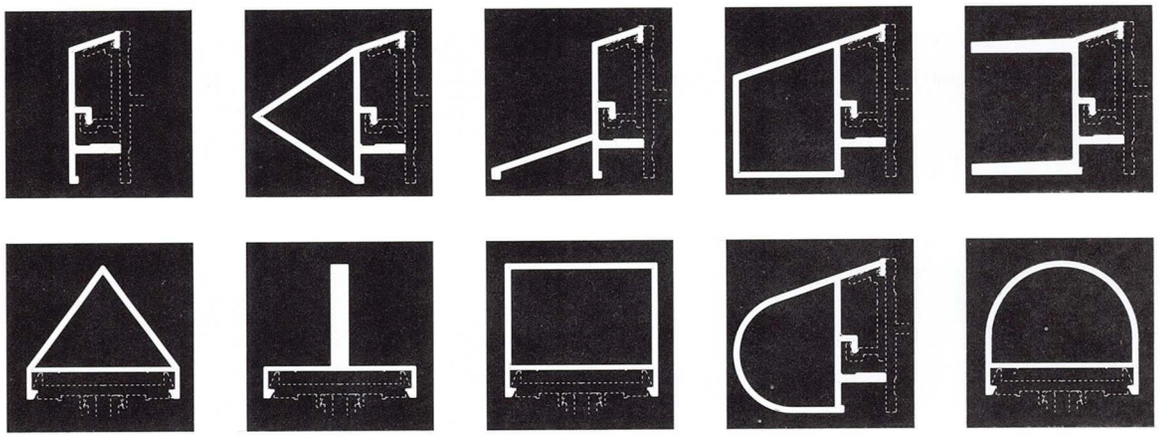
立山アルミニウム工業株式会社
〒933-8602 富山県高岡市早川550番地
総務部TEL.0766-20-3121

ホームページ http://www.tateyama.co.jp/

156種類ものバリエーション

EXカーテンウォールII

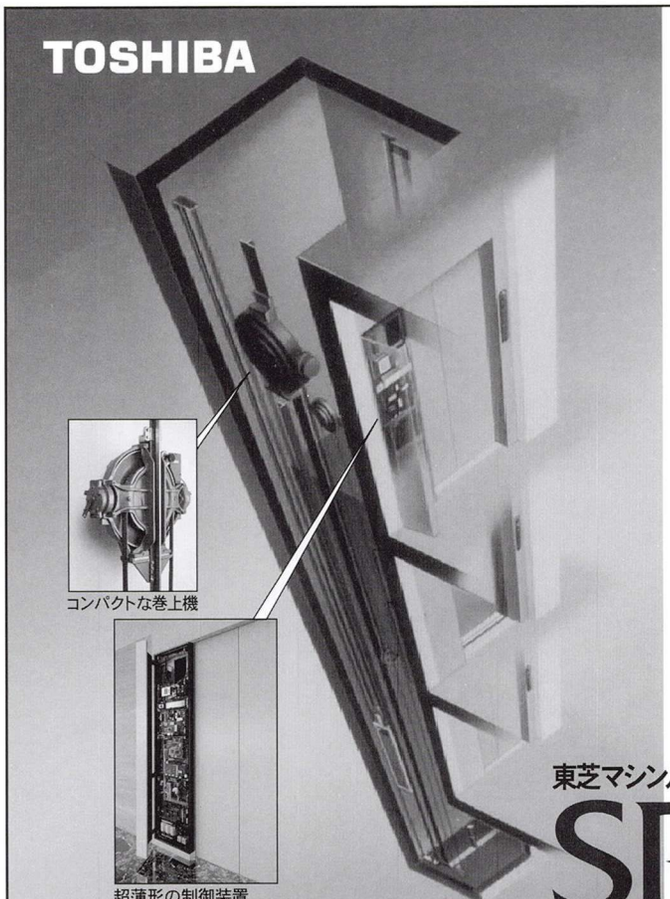
見付幅45mmと60mm、化粧カバーは方立用6種類、無目用7種類。EXカーテンウォールIIなら、自由な組み合わせで多彩な意匠への対応が可能です。



あらゆる意匠表現に対応したい、そんな意図から開発されたのがEXカーテンウォールIIです。方立、無目ともに見付幅45mmと60mmを用意。さらに方立用6種類、無目用7種類の化粧カバーを組み合わせることで、なんと156種類もの幅広い意匠表現を可能にしました。もちろん耐震性能は見付け45mmでも層間変位1／100に対応、またスリム60PGに出幅200mmのフィンを付ければ空調負荷を低減して省エネが図れるなど機能面も十分に考慮ずみです。トステムの開発体制を駆使して従来のオーダーメイドに比べコストを抑え、工期短縮も可能になりました。

TOSTEM トステム株式会社 ビル建材本部

TOSHIBA



コンパクトな巻上機

超薄形の制御装置

エレベーターから機械室が消えた！

「エレベーターから機械室をなくした」
画期的なエレベーター
東芝マシンルームレスエレベーター〈スペーセル〉。
マシンルームレス以外にも、
数々の優れた特長があります。
まず、その豊富なバリエーション。
〈スペーセル〉は、マンションなどの住宅用だけでなく、
オフィスやテナントビルなどの乗用、
病院など医療施設の寝台用と充実しています。
さらに、最大昇降行程は60m。
20階建ての建築物にも対応するなど、
設計・デザインの可能性をいちだんと拡大。
まさに時代が求めた新世紀のエレベーターです。

東芝マシンルームレスエレベーター スペーセル

SPACEL誕生



●お問い合わせは —— 東芝エレベータ株式会社 中部支社 〒450-8607 名古屋市中村区名駅南1-24-30(名古屋三井ビル本館)
TEL (052)564-8517(代) FAX (052)565-9949

雨が降るたび汚れを洗い流すタイル。
TOTOハイドロテクトタイル。

TOTO HYDROTECT

〈信頼の証拠。全国各地で続々ご採用。第2弾〉



「実践女子学園創立100周年記念教育施設建設・整備事業（実践女子大学・大阪上キャンパス）」でもご採用。

意匠設計のJFEL文教施設計画研究所　長倉康彦先生のコンセプトに沿った形で本館との調和を図りながら女子学園としての穏やかさも実現できたと思っています。デザイン上、パラペット部をセットバックさせた壁面に特にハイドロテクトタイルのセルフクリーニング効果を期待しています。教育施設ではこの商品のメンテナンス削減もそうですが、省エネ、環境への配慮というのは、今後ますます決定要素のひとつになってくると思います。――株式会社 NUK建築計画事務所 代表 中村 宏氏

◎ハイドロテクトタイルとは？

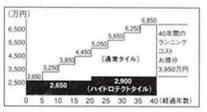
ハイドロテクトタイルは、話題の〈光触媒〉をベースに、TOTO独自の発想が生んだ新しいタイルです。光を受けることで汚れを分解し、同時に非常に水になじみやすいタイル表面をつくりだし、汚れを落とし易くします。これが、雨が汚れを洗い流すセルフクリーニング効果を生み出します。

◎光の量はどの位必要か？

非常に水が馴染みやすい表面状態“超親水性”に必要な光（紫外線）の量は0.1mW／cm²これは、冬場の日影での紫外線量の約1／3。ビルとビルの隙間でも十分効果を発揮します。しかも一度光を受けると効果は持続しますので、どんな環境の外壁でも安心して使用できます。

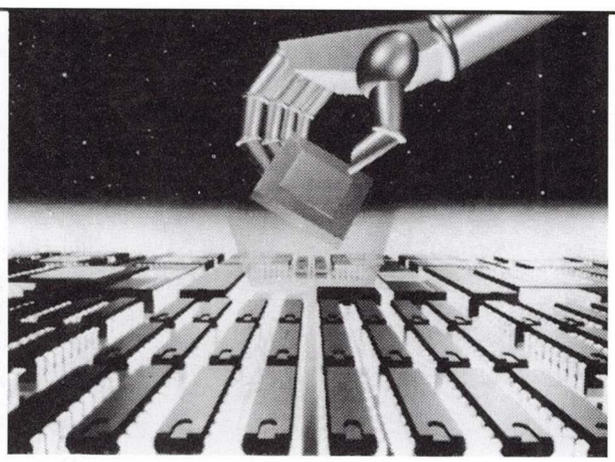
◎時が経つほどお得なタイル。

通常、ビル外壁の洗いは、5年に一度、洗剤での洗浄が必要と言われています。5000m²のビルなら、1回当たり、600万円のコストが発生。ハイドロテクトタイルなら、20年に一度、水洗いをするだけで十分。財布にも環境にもやさしいタイルです。



お問い合せ、カタログのご請求は東陶機器㈱ 名古屋支社、タイル販売課
〒460-0003　名古屋市中区錦2-19-25
TEL.(052) 201-0214　FAX.(052) 201-0251

汚れを防ぎ、汚れを流す。
TOTOハイドロテクトタイル



業務内容

- 工場設備・ビル設備の販売及び据付
- 産業用電機・電子機器の販売
- 家電製品及び住宅用設備機器の販売
- 情報通信機器、制御システムの開発・製造
- 洗浄装置、検査装置の開発・製造
- 空調設備、クリーンルーム等の設計施工・保守
- 電気工事、通信工事の設計施工・保守

東朋テクノロジー株式会社

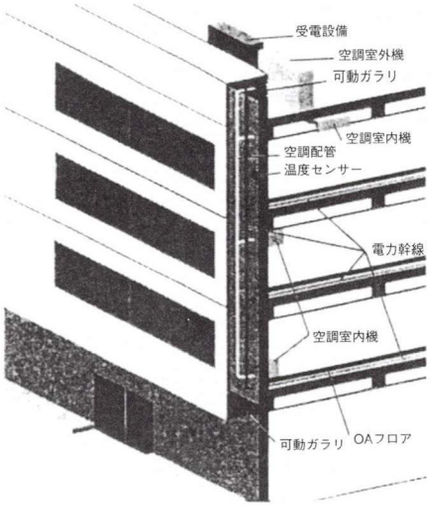
取締役社長　富 田 和 夫

本　社／〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目10番22号　TEL(052)251-7211(代)
工　場／〒492-8074 稲沢市下津下町東五丁目1番地　TEL(0587)24-1211(代)
事業所／豊田・名古屋南・大垣・江南・上海駐在員事務所/上海東朋電子技術有限公司

自然との共生に挑む

TOYO Shutter

ビルが呼吸を始めた……



ビルの省エネ対策、インテリジェント化を実現するビルファイン。

耐震補強・省エネ外装改修システム

BUILFINE®

ビルファインは、温度センサーの働きで、可動ガラリが開閉し、快適なビル環境を維持する省エネビル外装改修システム。春夏秋冬の気温にあわせ、内壁と新壁との空気の流れを調節し、ビル全体の省エネルギー化を実現します。また、電信電話や光ファイバー、電力幹線等の新設や増設に対応。インテリジェントビル化にも適応した次代のリファインシステムです。

■シャッター ■ドア ■カーテンウォール ■扉用ハンドル

東洋シヤッター株式会社

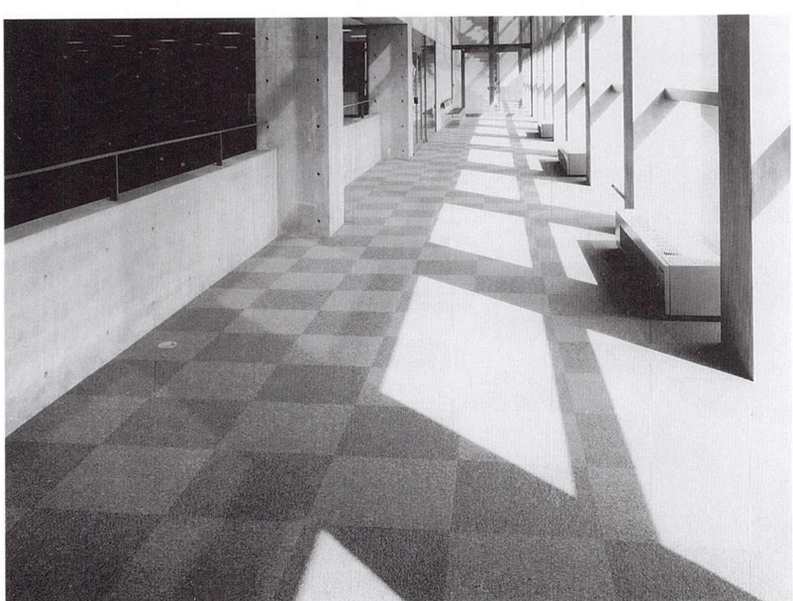
名古屋支店　名古屋市中川区北江町2丁目12番地　TEL 052（352）8061

本　　社　大阪市中央区南新町1-2-10 TSビル　TEL 06（6943）6571

東京本社　東京都港区六本木6-3-18 第一地所麻布ビル TEL 03（3479）2911

信頼と実績の東リ タイルカーペット

オフィスから公共施設まで汎用性に優れたタイルカーペットシリーズ。
表面材には優れた耐久性と多彩なカラーバリエーションをご用意しました。



GA 100



GA 7000

東リタイルカーペットGAシリーズは15タイプ。
プリントタイルのGFシリーズもあります。

東リ タイル カーペット GAシリーズ

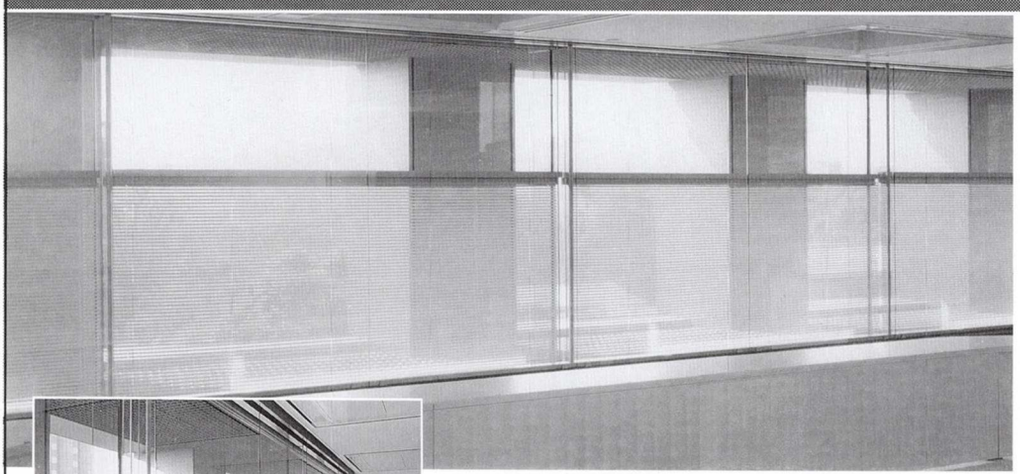
おかげさまで80周年

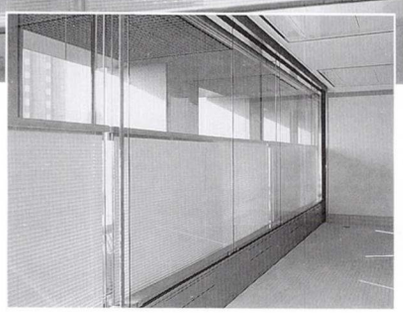
東リ株式会社

【URL】http://www.toli.co.jp

名古屋第1営業所 TEL.052（733）3471　名古屋第2営業所 TEL.052（733）3472　東日本営業開発部 TEL.03（5403）2067　西日本営業開発部 TEL.06（6943）1645　名古屋ショールーム TEL.052（202）1691
静岡営業所 TEL.054（237）4471　浜松営業所 TEL.053（460）7638　金沢営業所 TEL.076（262）3100

上昇します。オフィスの快適指数。
クライマー式電動ブラインド（特殊仕様）





逆転の発想で、
効果的な光のコントロール。

通常のブラインドとは逆に、下から上へ閉じる特殊仕様ブラインドです。窓の下部を遮蔽することによって、時間で日射角度が変化する自然光を効果的にコントロール。上部は開放的な空間をつくる眺望スペースとして、また照明負担を軽減し省エネルギー効果を高める採光スペースとして、効果を発揮。オフィス環境の快適を確実にアップいたします。

- 下から上へ昇るクライマー式
- スラットの昇降・開閉が自在
- 上部の開放で楽しめる眺望
- 上部からの採光で省エネ効果

クライマー式電動ブラインド

株式会社ニチベイ

本社/〒103-0027東京都中央区日本橋3-15-4
名古屋営業所/〒454-0022 名古屋市中川区露橋1-16-19　TEL.052-354-7611
ニチベイホームページ・アドレスhttp://www.nichi-bei.co.jp

Fire And Safety Rated Glass
パイロクリア®

耐熱強化ガラス（乙種・甲種防火戸用）



特許出願中

高強度で安全なワイヤレス防火ガラス

特　長

●高強度で安全
超強化処理を施した耐熱強化ガラス

●多彩なカラーバリエーション
28色のカラーで建物に豊かな表情をつくりだします。

●ワイヤレス
網のないクリアな視界が得られます。

●ワイドなサイズ
最大寸法は2700×2000㎜（透明タイプ8ミリ）とワイドです。

用　途

■乙種防火戸用ガラス
通則認定サッシとの組み合わせまたは個別認定の取得

■甲種防火戸用ガラス
個別認定の取得（8ミリ厚使用）

日本板硝子株式会社

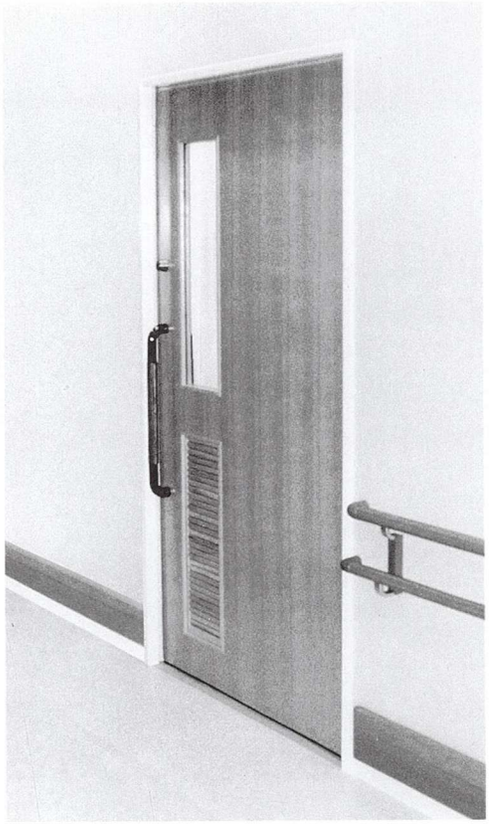
札 幌 011-241-7171/仙 台 022-712-5871/東 京 03-5443-0132/名古屋 052-962-7089/大 阪 06-6222-7534/広 島 082-263-3571
福 岡 092-451-5592/高 松 087-879-1641
ホームページ　URL:http://www.nsg.co.jp/archi/index.html

文化シヤッター

夢を動かす技術がある。

新発売

軽い引き力で、
引戸は壁のなかへ
スッキリと収納



カームスライダー

自動閉鎖装置付引戸 [壁収納タイプ]

納まりの意匠性を高めた[壁収納タイプ]新発売。引戸はスッキリと壁のなかへ——。見た目も美しく、格調の高さを演出します。

- ●軽い引き力で開き、手を放すと自動的に静かに閉じ、人にやさしく、つかみやすい大型把手を採用し、操作性をさらに向上させています。
- ●上吊方式で床面にレールがなく車椅子やストレッチャーの通過もスムーズです。
- ●引戸には手詰防止ゴムを付け、安全性を高めています。
- ●抗菌仕様の把手も用意しています。
- ●表面材はスチール製4色、木製3柄のほか、オーダー色にも対応します。

文化シヤッター株式会社 / 中部営業推進部
〒464-0074 名古屋市千種区仲田二丁目1番24号 ☎052-733-1254
URL http://www.bunka-s.co.jp/

National/Panasonic

業界初
ノンフロン発泡剤+省エネ+省資源
時代のニーズ＝〈環境〉を徹底的に視野に入れたエアハンです。



エコパネルエアハン
〈EPシリーズ〉

●松下電器産業株式会社 公共システム営業本部 中部支店
名古屋市東区泉1-23-30 〒460-0001 TEL (052)962-5345

●松下電器産業株式会社 建設システム営業本部 中部支店
名古屋市東区泉1-23-30 〒460-0001 TEL (052)951-6010

National 松下電工

'99 電設工業展 製品コンクール 受賞 建設大臣賞

高効率インバータにタイマーを内蔵。初期の余分な明るさを自動で抑えて、オフィス・工場・店舗など、ベース照明を省エネします。

35%省エネ※

累積点灯時間に応じて照度補正。余分な明るさをカットします。

一般に照明器具では、ランプ交換後約12,000時間（ランプ寿命）で照度が約30%低下した際に、設計照度となるように設計されるので、交換直後は、設計照度よりも過剰な明るさとなっています。タイマーセルコンは、余分な初期照度を自動補正するタイマーを内蔵。電気代を節約しながら、快適な設計照度が保てます。さらに、高効率インバータ採用で、いっそう省エネできます。



タイマーセルコンFHS42580PF2
標準価格29,900円（税別）

センサ機能付照明器具 タイマーセルコン

◎資料の請求、お問い合わせは――― 〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番11号 松下電工 名古屋エンジニアリングセンター TEL.(052)586-1061まで。

※1.試算条件 当社ラピッドタイプ（85W×162台×3000時間×23円/kWh÷1000）とタイマーセルコン（98W×108台×0.85×3000時間×23円/kWh÷1000）との比較。24m×24m H=3m、床上1m平均照度800lx、年間点灯時間:3000時間、電気代:23円/kWh、初期照度による省エネ15%。

島耕作「タイマーセルコンで、たちまち省エネ」の巻

ランプを交換したての、あの明るさは、余分な明るさだったのか!!



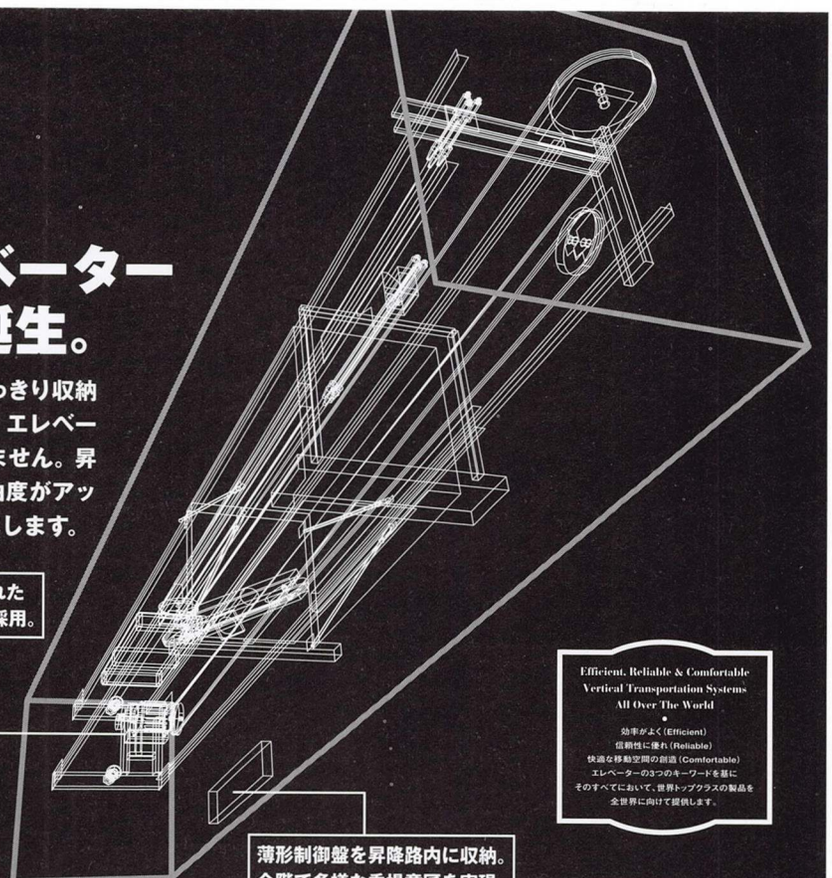
© 弘兼憲史／講談社

A&i 快適を科学します

MITSUBISHI 三菱電機

昇降路だけのエレベーター 三菱〈エレパック〉誕生。

機械室にあったすべての機器を昇降路内にすっきり収納しました。もちろん制御盤も昇降路内に設置。エレベーター乗場の出入口わきなどに置く必要はありません。昇降路だけのエレベーターですから、設計の自由度がアップ、すべての階で多様な乗場デザインを可能にします。



エネルギー効率に優れたPMギヤレス巻上機を採用。

新登場 エレパック

ELEPAQ

三菱エレベーター

機械室レスタイプ／乗用・住宅用・寝台用

薄形制御盤を昇降路内に収納。全階で多様な乗場意匠を実現。

Efficient, Reliable & Comfortable Vertical Transportation Systems All Over The World

効率がよく（Efficient）
信頼性に優れ（Reliable）
快適な移動空間の創造（Comfortable）
エレベーターの3つのキーワードを基に
そのすべてにおいて、世界トップクラスの製品を
全世界に向けて提供します。

三菱電機株式会社

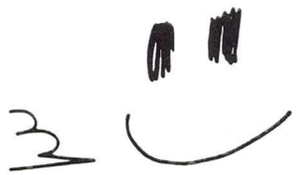
お問合せ・資料のご請求は…三菱電機株式会社 中部支社ビルシステム部 〒450-8522 名古屋市中村区名駅3-28-12（大名古屋ビル） TEL.(052)565-3160

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見２丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06—6466—2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９—３ 電 0720—49—2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市中央区北浜２—２—21　電話 06(6202)7554
本　　社　東京都千代田区有楽町１—４—１　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津６丁目８番４号　電話大阪(6458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・南九州・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

Digital Pri-Press

AOBA PRINTING CO.,LTD.

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社

〒534-0027　大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪 (06) 6768—５０３１代表
メンテナンス　電話　大阪（０６）６７６８—１６５１代表
東京支社　東京都文京区小石川１丁目12番14号(日本生命小石川ビル７階)
〒112-0002　電話 (03) ５６８９—２３５１代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本 社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代) FAX 06(6385)1050

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本 社 大阪市中央区北浜3－6－13（日土地淀屋橋ビル）
電 話 06（6205）3671（代）
支 店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電 話 03（3666）1478（代）
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

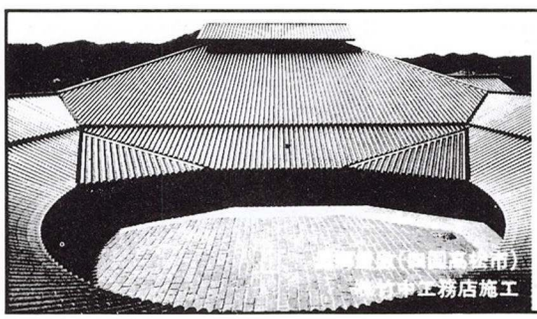
電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長 伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(6202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
あらゆる場にあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858 FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本 社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本 社 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-10 TEL.06-6352-7502 FAX.06-6355-2714
制作部 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19 TEL.06-6352-0943 FAX.06-6355-5533
印刷工場 〒530-0043 大阪市北区天満2-5-15 TEL./FAX.06-6352-1551



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
ファックス 六五六一～七四五四
六五六一～七四一六
あらゆる屋根工事の相談は、

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本 社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294
Master Builders Technologies

●世界のロックメーカー

リモコンキーのボタンを押すだけで、楽楽（らくらく）施解錠！

電池式なので配線不要、取付けも簡単です。

らくらく 楽楽Key

■錠の施解錠は扉に近づいて(1m以内)リモコンキーのボタンを押すだけ、音で確認もできます。
■リモコンキーの登録と抹消は錠本体の制御部で簡単に行え、鍵違い数は約2億6千万通りです。
■錠本体に電源・制御部・アンテナを一体化、安価にリモコンキーシステムが利用できます。
■電源配線工事が不要で取付けも簡単です。
■リモコン錠、リモコンキーの電池寿命は約1年、電池交換はドライバー1本で簡単にできます。

＊その他、エントランスの自動ドア、宅配BOX、駐車場ゲートなどリモコンキーとの連動も可能です。



リモコンキー
(RR-TRK)



リモコン錠
(U9RR420-1型)

MIWA

美和ロック株式会社

名古屋支店／名古屋市千種区千種3丁目37番13号 TEL.052(731)0555(代) 〒464-0858
東京本社／東京都港区芝3丁目1番12号 TEL.03(3452)5551(代) 〒105-8510

美和ロックについてはホームページでもご案内しています。http://www.miwa-lock.co.jp/

やさしさの宿る空間

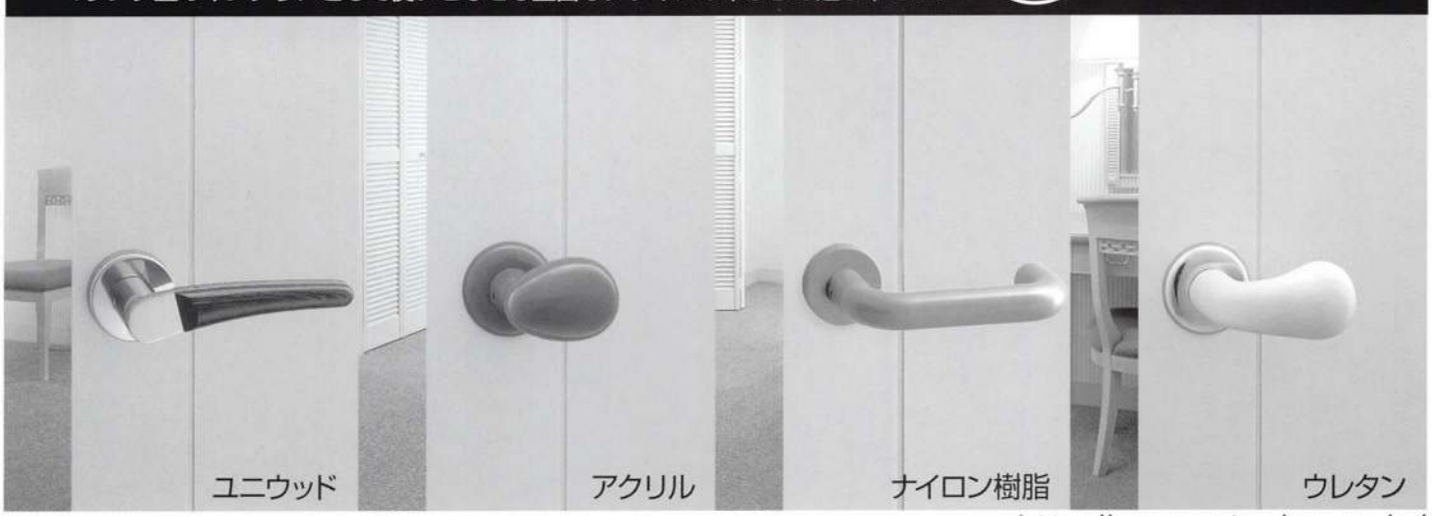
ユニオン レバーハンドル UNION LEVERHANDLE

自分流のレシピでインテリアを楽しむとき、欲しいのは、空間の魅力を素直に生かしてくれるやさしさのアイテム。静電気防止素材に抗菌処理をしたユニオンレバーハンドルは、寒い気候にも負けないあたたかな触感でやすらぎの空間を演出します。1ランク上のインテリアとして使いこなせる豊富なデザインの中からお選び下さい。

抗菌

抗菌処理
菌の繁殖を防ぎ、くらしの衛生を保つ安心の素材です。

静電防止
人体から静電気が、放電しにくい材質を使用しています。



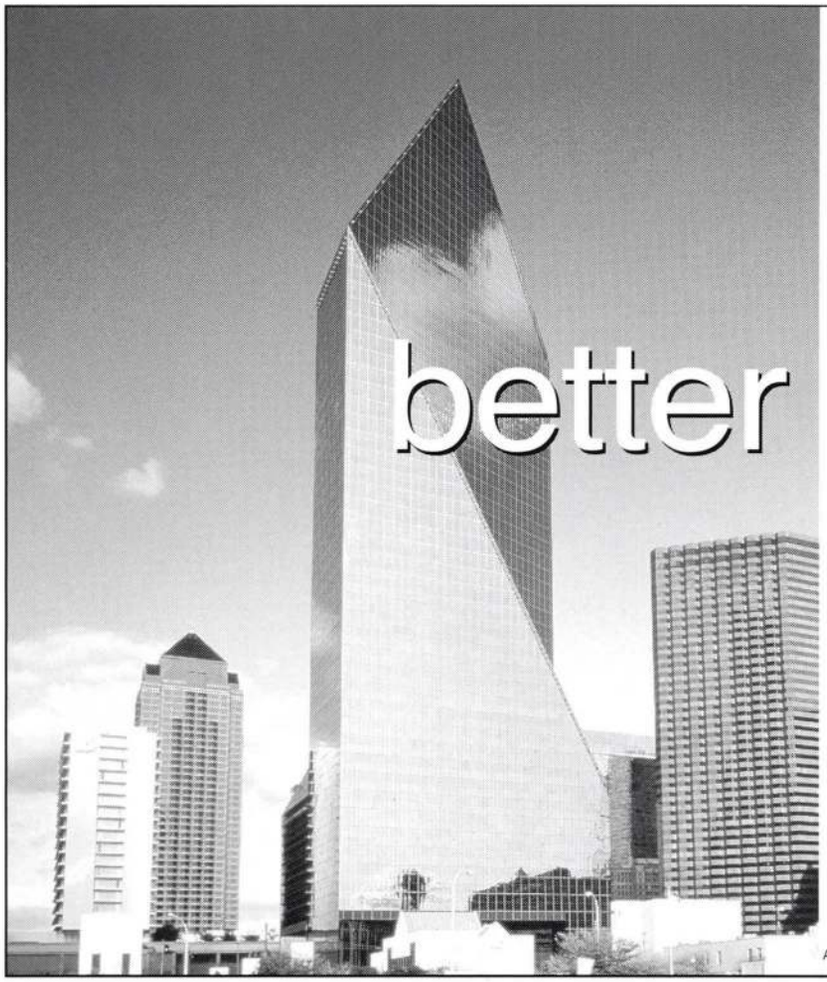
http://www.artunion.co.jp/

UNION 建設環境金属製品の 株式会社ユニオン UNION CORPORATION
ISO 9001

■本社 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015
■大阪支店 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(6532)3731 ㊠06(6532)0568
■大阪ショールーム 大阪市西区南堀江2-13-22 〒550-0015 ☎06(6532)8920 ㊠06(6533)0224
■東京支店 東京都江東区白河2-9-5 〒135-0021 ☎03(3630)2811 ㊠03(3630)2816
■東京ショールーム 東京都港区虎ノ門2-3-22 〒105-0001 ☎03(3506)1717 ㊠03(3506)1718
■名古屋営業所・ショールーム 名古屋市中川区舟戸町3-20 〒454-0805 ☎052(363)5221 ㊠052(363)5255

カタログ no.11 ご請求ください。

ITEMS ●建物用ドアハンドル ●レバーハンドル ●ドアストップ-エッセ ●ケアシステム-ハンドバー ●クロセットドア ●フロアシステム ●消火器収納ケース ●サインシステム-ピクト ●都市景観-ヒューランドスケープ ●キャスタル+メタルアート



三協アルミ

better to BEST

暮らしにいちばんの快適さをお届けしたい。
住宅用建材からビル用建材まで。
三協アルミの技術です。

ALLIED BANK TOWER

三協アルミニウム工業株式会社
〒933-8610 富山県高岡市早川70 広報室 TEL 0766-20-2332
ホームページ http://www.sankyoalumi.co.jp/



ビルの白いキャンバスを
美しく彩る。
それが不二サッシの仕事です。

ビルには独自の個性が有り、都市景観の一部として街を美しく演出する役割もになっています。不二サッシは、外壁材カーテンウォールを通して、この都市を彩る役目のお手伝いをさせていただいています。私たちの技術が新しい建築文化を創造していきます。

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ

名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-2-25
電話 052(582)7511(代)

定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収